

裕イサオブログ
「脳内シンコペーション」



パリで蠢くフリージャズ
ピアニストの第二フリーブ

プロローグ

私の第二ブログ全編です。

10月21日2012年---11月30日2013年。

第一ブログ「筆トーク」と比べると、内容は多岐に渡り、ある意味ブログらしいかも知れません。今回は、特にエピローグを追加致しませんので、プロローグの方に明記致します。

このブログまでBloggerにて執筆。後日、FC2へ引越し。その際に、改行位置の変更、それによる禁則文字の発生、画像サイズの変更と諸々の不備が発生致していると思われます。公開にあたり再読再確認の意向も大変強いのですが、正直、現実的には私の手に余る作業となります。そのままのインポートと致しました。ご容赦頂けますと幸甚です。

表紙写真by Yoshiyuki TAKACHI。

裕イサオ

5月26日2014年。

脳内シンコペーション

惜しまれて去ったつもりが、二日後にあとがき追記。三日後に、もう、新連載。余韻がないというのか、味わいがないというのか、有難味がないというのか。全然、重々しくないのだ、やることが。

そもそも、筒井康隆じゃあるまいし、断筆なんちゅう大袈裟な話ではない。

なんの世界動向に関わりのない、一ジャズメンの戯言ブログ。なんだけど、ちょっと、俺の日本の異母きょーでいの落胆振りが酷く、地球の反対側にいる俺とすれば、やはり、心を痛めた。しかも、たぶん、お姉ちゃん(?)だと思うのだが、そのお姉ちゃんは、人気ブロガーだ。この執筆に悪影響を与えることを恐れたのだ。俺のブログはいいとしても、これは、拙い。で、決心が素早いのだ俺は、すぐ、復帰する。お姉ちゃんの文体まで、生き生きしていて安心した。ほっ。

ところで、新ブログのタイトルは、すぐに決まった。お姉ちゃんの脳内パリから来ている。

で、このシンコペーション。分からんのだが、ミュージシャン以外の方がピンと来るのかしら。俺らには、日常語なんだけど。インターネットで検索すると、結構詳しい説明が出てきます(ブログの紹介文が今一出てこないのですが、まあ、いいか、こんなもんで)。

簡単にご説明すると、「普通の四拍子=普通の思考回路=普通の生活」。これは、強弱強(中)弱(中)です。で、ロックの連中とか、ジャズ屋は、これをぐずぐずに崩して演奏する。強の前に、「微妙な空白」とか「強」の位置が、後ろにずれるとか、要は「普通のリズム」じゃないわけ。どうしてなのかといえ、そのズレこそが、そいつの味わい、ソウル、エモーション、こぶし回しということで、だから、俺らには生命線なのだ。で、これを勉強しようという真面目なお方が、俺のところにいらしたりする。で、教えられない。もともと、本来的に、最初から、俺らはズレとるから、ジャズ屋とかに「ならざるを得なかった」のね。禁治産者、普通の生活から、最初から見放されて居るのだ。教えられないの、そういうわけで。意地悪うー、なんていわれても、これは、無理だ。フランス人の英語力と一緒に。注意地悪をして英語を「話してくれない」。よく見かける。フランス人は、英語を、そもそも話せないのですよ。フランスおよびフランス語が世界一だと思っとるのだ。大国病。だから、意地悪とは違うよ。念のため。

で、はい、もうお分かりの通り、俺の脳細胞のズレ。これを書こうというわけ。

しかも、この新連載は、嫌でも随筆力はアップするのじゃ。なぜか、大ブロガー養成ギブスを外したの、わたくし。動画のプロモートは完了。だから、ブログ自身の終わりが無いし、構成もない。「ミュージシャンのエッセイ」、これも廃業。この脳細胞のズレを日々、活写するのみという無法地帯ブログ=エッセイになるのだ。実は、これこそが、エッセイ、随筆(どう違うのか、相変わらず、分からん)の本道と、俺は理解している。

ところで、ブログのメカニズムが少し分かってきた。書籍と違って、一章から読まない。あと、意外とバックナンバーも読まない。とすると、ずばり、天声人語だ。その日暮らし。朝市の新鮮なお魚。一番新鮮なやつしか読まない傾向があるから、「前号までのあらすじ」系は、分かり難い。ということは、その日暮らしの書き散らし、産地直送。これが、ベスト。要は、なんの制約もないということじゃ、もう、その日その日の俺の馬鹿頭を活写するのみ。すんばらしいの一言。で、なんじゃー、このオヤジいー、という方は、「読まなければいい」というだけで、あまり、迷惑にもならん。よね？

「裕先生のまったくためにならない、シンコペーション(脳欠陥者向け)ブログ講座(マネしない方がいいです)」

- 1) 今日、道を歩いていたらあー、タンポポを見かけましたあー。写真
可愛い。でも、おじさん、おばさんブログだったら読まない
- 2) 今日、道を歩いていたらタンポポを見かけたが、可憐な姿が気に入らず、私は、思わず踏み潰した。タンポポ、可愛そうだけど、これぐらい、溜まってないと、シニアは
- 3) 僕は、タンポポの綿の数を知りたく、一本ずつ抜いてみた。全部で、1128本だった
これはこれで、お宅系で面白いけど、俺は、読まない
- 4) 内の主人は、鮭が大好きです
はなから、読まない
- 5) 内の主人の顔は鮭に似ているのだ
こっちは、読む

今、ダイエット中うー(絵文字が出来ないよおー)。写真。
もう、超眠いにゃ(絵文字)。写真。

なんだかんだいって、この二つは、俺の愛読ブログ。めんごいんだな、これが。

やはり、内のお姉ちゃんの格調高いブログをお読み頂きたい。
タイトル、紹介文、ペンネーム。ブロ画。さすがだ。

追伸
建築家の卵のお姉さんに、超高性能カメラでブログ用の写真を三十枚ぐらい撮ってもらった。イケメンシニアらしく写ったのが、二枚のみ。二十八枚はピンボケだったんじゃないかと、そう思っていたら、単に「実際に写っていた」のだ！この二枚だけ、見合い写真として使えるのは。でも、やはり、役所さんに、ちょっと、似ている。女性読者が、あと、三人ぐらい、増えるかしら？
見合い写真に騙されちゃって！

2012.10.21 Sun

新ブログの紹介文に、「フランスより愛を込めて！」なんて書いてしまった。

考えたら、俺の文章の中に、あまり、フランスについての話は出てこない。

なぜだっ？といえば、もう、あまりに日常化していて、とりわけ、なんか書くという方向に行かないのだ。フランスの風景を見ながら、なにを考えとるといえば、あー、塩辛食いたい、うな重を貪り食いたい。塩鮭、なめこの味噌汁。目白通りのメンチカツを食いたい。目白ピーコックの冷えたコロッケを食いたい。もう、イカの塩辛を風呂桶一杯に入れて、コシヒカリのおにぎりと一緒に、裸で飛び込みたいっ！おえっ！俺も、おでんの具になりたい。なんなんだ！

それで、だ。俺は、日本のお受験地獄の脱落者。自閉症になり、半年間で21kg痩せた。

だめだこりゃ、となり、俺も周りも考えた。で、苦し紛れに、「俺は、ニューヨークへ行って、詩人になる」と、まったく脈略のない提案をした。当時のニューヨークは、暴力都市として有名だった。駄目となり、大体、頭、おかしい、アル中、英語、イエスしか言えない、こんなのが行ったら、すぐ、串刺しのバーベキューだ。とりあえず、知り合いのいるマレーシアのクアラ Lumpur で英語の習得ということになった。四ヶ月で、「四季のない国」、毎日38℃。自閉症が悪化。で、ニューヨークはやばいから、とりあえず、イギリスとなった。結局、ロンドンのアートスクールに行った。知り合い、友達、ゼロ。本当の孤独。荒治療だったけど、逆に自閉症が治っちゃったわけ。で、フレンチレストランで皿洗いのバイト。フランス人のウエイターが、アメリカ人の姉ちゃん連れて、本国に帰るけど、同棲されるとやばいから、一緒に来いっ、となってくっついて来たのが、1983年。当初は、現代美術家として、一旗上げるつもりだった。結果、上がったのは、白旗。と、いうわけ。だから、全然、あこがれの国なんていうものではなかったのに、定住。いつの間にか、ニューヨーク行きはチャラ。面倒になった。

ところで、フランス、とりわけパリに来るお姉さん方が、後を絶たないところを見ると、やはり、憧れの国、一位ないし二位なんだろうね？今でも。コンサートの打ち上げとかで、パリに来たばかりのお姉さんたちと、よく、話をする。

「いつ来たの？」「三ヶ月前、裕さんは」「三十年前」「へえ——、凄いつ！」

「で、oooさんは、なにしに来たの？」「ずっと、来たかったの」「で、なにしに？」

「ずっと、憧れだったの」「だからよおー、で、来た目的なんだよおー、聞いているのは」

「ずっと、憧れ.....」

結局、フランスに「住みに来た」という結論。

これは、目的じゃねんだけど。だから、住んで、なにをするのって聞いてんだけど、答えがない。

「フランスのいいところ」

- 1) フランス人は大変に善良。これは本当。ただし、仕事とか会社とか営利が絡まないという範囲でね。これが絡みだすと、ガラッと、変わる
- 2) ご近所付き合いとか、こういう諸々のお義理がない。清々している。時間を使わないのね、こういうことに
- 3) 他人と競争しない。上昇志向がないので、しないわけ。大きな家、車、息子の学歴等々、分相応でいいやって、てな感じ
- 4) 子供に、過度な期待をしない。あまり、援助もしない。お互い様で、老後はシビアだよ。自力だ。老人も
- 5) 社会保障がきちんとしている。学費がいらぬ。基本、国立大学しかないから、そうなる。貧乏人の子供たちも、頭さえ良ければ、勉学の支障はない。これは、いいことだ。だから、家計簿上も、ここだけは、楽だ。物価は高いよおー
- 6) 個人主義が徹底している。フランス革命の庶民パワーは健在。政治家が好き勝手やろうものなら、二ヶ月ぐらい、ストで交通機関が止まる。で、提案法律は、国民によって却下
- 7) 国民が一丸となってという発想がないから、ちょっと、シビアなことを書いてしまうが、戦争に向かない国民性。享乐的な個人主義者の集団だから、絶対に、まとまらない。ほぼ、毎回、大統領選挙は、大雑把に分析すると、51対49だ。バランスが取れている。満場一致がないのはいいことだ。これは、政治的には、怖いのですよ。日本人はボーとしている、この辺は
- 8) 国際力、世界の中の発言力、外交。日本の比ではない。大国だ

なんだよ、いいとこばっかじゃん。だったら、住むこと自体が目的でも、かめへんやないの？俺は、ラッキーなんだね、そういうことであれば。ビバ フランス！

でも、会社と一緒に仕事するのは、大変だよおー。半端じゃないよおー。このなるべく仕事をしない仕事のやり方。究極の省エネ仕事。仕事をしない努力は、凄いよおー。日系企業で、課長なんてやってみいー、ぼろぼろになるよおー。本当に。

2012.10.22 Mon

秋の美しい日

フランス語で「秋晴れ」のことを、「秋の美しい日」と言う。とても綺麗な言葉、音だ。二週間ぶりぐらいだろう、水色の、快晴の秋空が広がっている。消えかかる飛行機雲が、水色の背景の中で交錯している。

真夏、灼熱の太陽の蜃気楼の中で、不思議な寂寥感に襲われる。一時、自我が消滅する。長大な時間の中にいることを実感する。秋の美しい日に、それは起こらない。私の、年齢、体調、思考のリズムに相似していて、とても、気持ちがいい。

河原温のデイトペインティング。
キャンバスの表面には、その作品が製作された日付以外、なにもない。
そして、その日付が、日毎、どんどん後方へ流れていく。
自己、自我を超えた、もうひとつ違うレベルの美術作品が、そこにあるだけだ。

彼が、日本で活躍していた頃。浴室の中に累々と横たわる切断された人物を描いていた。デイトペインティングのシリーズへ移行したのは、ニューヨークへの移住後だった。晩年は、世界を旅し、自宅に絵葉書を延々と送り続け、その絵葉書の集合を、作品として展示していた。ここにも、ひとりの美術家の「普通のリズム」ではないものがある。そこには、河原温、個人は、既にもいない。大量の絵葉書と、日付印があるだけだ。

少しずつ、枝の先端の葉が、黄色、黄土色、焦げ茶色、赤みがかかったオレンジ色に変色し始めている。黄色い葉が、少しずつ、庭の芝生の上に落ち始めている。

フランス語で「枯葉」のことを、「死んだ葉」と言う。発音するたびに、少し、どきりとする。でも、木々の見えない奥底。冬を待つ準備が順調に進んでいること。脈々と息衝く木々の根の充実感が、私には分かる。死んだ葉は、役目を終えたのだ。

私たちは、花、葉を見て、刹那を感じる。
私たち自身の時間を、そこに投影する。
それは、こちらの幻影に過ぎない。

木々にとって、花も葉も、部分に過ぎない。母体の力が充実した時に、既に、花も葉も必要がなくなっている。

私は、落下した花々、死んだ葉を見て、刹那を感じない。
感じるのは、力だ。

毎年、私は、死んだ葉を掻き集め、「じゃ、また、来年」と呟いて、幹を軽く叩く。

2012.10.23 Tue

インターネットを弄っていたら、

「ブログを、始めても、いつも、三日しか続きません。続ける秘訣は？」

「ネタが、三時間考えても、出てきません」ちょっと寝たらすぐ出る、んなもん(オジギャク)。脳シンコペには、もう、世界中がネタだぜって！自分、肥えたご、うんち、至近距離内だけでも、一杯だ。俺の敬愛する、詩人の吉岡実さんなんて、「下痢」という凄い詩を書いている。

で、俺には、一瞬、このリズムの把握が出来なかった。意味が分からなかったのだ。俺は、ついに、日本語までおかしくなったのか？一瞬、そう思った。確かに、半分は、おかしい。

たまに、日本に行く(帰るではなくなってしまった)。「ちょっとおー、ごめん、なんだっけ、その、ありゃ、(フランス語でなんて、俺は言わない。嫌味に取る人が、大変に多いのだ。その気持ちは、よく分かる。おフランス野郎っ)その、ケツの下にひく綿の入った、ごめん、横文字で、クッションって？」座布団だ。出てこないのだ。「す、すいません、ちょっと、あの(もじもじ)、あの(もじもじ)、黄色い、すっぱい、大根下さい」沢庵だ。出てこない。やばいなあー、昭和の文士が、この様じゃ。

面白いのは、フランスに来て、間もない人の方が、日本語にフランス語の名詞が大量に混ざる。ところで、俺のフランス語は、100%耳学問だから、大したレベルではない。この俺のフランス語、ほとんど、睡眠学習的習得については、後日、書くね。とはいえ、もともとのへらへら坊ちゃん(町田康の小説のタイトル)だから、スラング、下ネタ、ジョークの連発をフランス語でやる。このフレンチエスプリ満載フランス語は、よく、仲間から絶賛される。へたうまなのだね。ピアノと一緒に。

「はい、お見積もりは、グラチュイでございます」

「今、プティショマンをカミヨンが通りました」

「あちらに見えるのは、ミニシパルのバチモンでございます」

なんのことだか、日本からいらした方には分からない。

で、昔、ガイドの仕事をしていたことがあるのだけれど、これがクレームになる。

「気取った嫌なおフランス野郎のガイド」と。で、先輩方に徹底して直される。

「はあーい、今からパスポートコントロールに参りますが、その前にシートアサイメントを始めます」先輩にさんざんばら叱られる。「馬鹿野郎っ！出国審査、席割りと言え、馬鹿」。

で、はい、「三日坊主の解消法は？」。裕先生が、詳しくお答え致します。

1) 三日しか続かないことは、始めない

俺は、非常に憂鬱な学生だったから、酒とタバコは、二十歳から始めた以降、三十三年間、続いている。まず、この意志の強さ

2) いきなり、医学の話ね。人間の脳細胞は、「新しいものを受け付ける期間」があるわけなのね。悪いんだけど、三十五歳が限界なのだ。ただ、もともとの、なんらかのベースがある場合は、別。たとえば、日本語の読み書きは、ガキの頃から、皆、やっている。だから、全員、芥山賞の候補なのね。ピアノも、日本国は、ガキの頃に齧った。一杯いるから、こっちも、安心してくれ玉枝

3) 最初から、三日しかやらないことにしてしまう

新しいことを始めることは、当然、悪いことではない。で、三日だけ、やってみて、返品。いいじゃん、これで。女もなあー。串刺し

と、実は、この後が、凄まじく長かったのだが、削除してしまった。

なぜだっ？

で、たぶん、原稿用紙で5枚ぐらいの量だったんだと思う。

推敲も終えた。明日の朝、もう一度、読み返して、投稿しようと思って、サイトの注目記事の欄を開いた。あれっ、このブロ画、あったけなあー。ブロ画、洒落ている。タイトル、フリーズジャズだ。腰帯って言うのかしら、紹介文。きっぱり、一行。痺れた。で、開いた。

コンサートを終えて、楽屋の入り口で、取り巻きの姉ちゃんと、いちゃいちゃしている。

「裕さんのピアノ、素敵いー」 「まっ、まあね」 「どうしたら、あんな風に弾けるのおー、めっちゃ、格好いいいー」 「まあ、ソウルかなっ」 「えーえー、格好いいいー」 なんて、やっている。なんとなく、後ろの気配。げっ、渡辺貞夫が、俺の後ろに立っていた。

「あっ、すいません、通路、塞いじゃいました、ごっごめんなさいっ」 土下座。でも、ナベサダさんは、にこにこしているだけ。

まったく、同じ状況が出現した。痺れた。俺は、三文芸人だから、こそ、その筋の超プロは、よおーく、分かる。超プロのブロガーさんだ。まさか、俺のブログ、読んでねーだろうな？ そう、願うしかない。超プロ、三文芸人が三文であることを、0.01秒ぐらいで見抜くから、「大物ぶりのこけおどし」は、通用しない。あー、びっくりしたなあー。あんまり、詳しく書かない。たぶん、ピンと来るはずだ。

で、一瞬、すべてのブログを削除、ないし、村からの夜逃げも考えた。マジで。

考えながら、サトイモを買いに行った。考えたら、俺のジャズの師匠、沖至との出会いも、出会

い頭だった。でも.....と、サトイモとお話ししながら、公園を横切った。

ジャズ屋の俺に、非常に引っ掛かった一行があった。

俺が、ジャズピアニストとして、プロ登録をしたのは十三年前。

当初、いい気になって、どこでも弾きまくった。画廊のオープニングとか、畑の真ん中とかで。ジャズの先輩から、こっぴどく怒られた。「イサオ、気持ちは分かる。でも、無料で弾くな。俺らのことも、考えろ」と。以後、俺は、一切、無料ではピアノは弾かない。金額の問題じゃないの。これは誤解されると困る。

それで、とんでもなく気になりだした。

本来、このブログのオチは、「俺は文学的な、なにかに引きずられて、これを書いている」と、格好良く決めようと思っていた。インターネットで、「プロブロガー」というのを検索した。

こっちも、痺れた。月収いくらだ。広告の掲示の仕方だ、興ざめ。本当に。俺は、素朴な馬鹿だった。営利絡みもあることが分かった。興ざめ。

とはいえ、俺も売れないとはいえ芸人の端くれ。俺の中の文学君は、興ざめだ、本当に。でも、それはそれで、いいじゃん。俺だって、無料ではピアノ弾かないから、同じだ。だから、今後、一切、無料では書かないことにする。

馬鹿じゃねえーの、おめえー。スポンサー、いねえだろって！
えっ、こういう風を書けば、お金入らないの？
あっ、そ。

それで、やっと、最初の三日坊主の問いの意味が分かった。
「プロブロガーを目指しているのに」ということだったのね。

なんか、世間様は、もう、すべて、この「お金」の世界なのかあー。
まあ、文学だって、金になんだもんなあー。

俺は、お客さんが、一人でも、一生懸命、ピアノ弾くよ。本当に。
こういうことは、人間の基本だ。

2012.10.24 Wed

チンピラブロガー

昨夜、俺は決心した。

黒いジャージ姿に、黒いタオルで頬被り。

村から、お姉ちゃんに内緒で、夜逃げを試みた。

やっと、村の外れの鎮守の森が見えてきた。足早に、通り過ぎる。

「ちょっと、お待ち！そこの若僧」

呼び止められた。ぎくっ。恐る恐る振り返る。渡辺貞夫そっくりの村の重鎮が立っていた。

「おまえに、ブログの真髓、随筆の真髓を叩き込んでやるっ！チンピラブロガーめっ！」

うわあ——。目が覚めた。

昨日から、俺の脳内シンコペーション機能が停止している。

昨日のブログは、三回も手直した。一度だけ、すべて削除したことがあるが、これは初めてだ。シンコペが故障しているのだ。

とりあえず書き散らす。少し置いて、追記、手直しをする。少し置いて、読み返し推敲する。通常は、この三段階でお仕舞いなのだ。

いくらなんでも、俺のおちゃらけブログが原因とは思えないにしても、村の若僧どものおちゃらけ振りを見るに見兼ねた重鎮が、重い腰を上げた。どうしても、そのイメージが頭から消えない。紅白歌合戦初出場の若手歌手。有名なジャズフェスティバル、たとえば、渡辺貞夫クインテットがトリで、俺が、前座の前座。でも、一応、同じ舞台に上がってしまっている。こういう状況である。オシメしないと、上がれねえーって。

こうなると、チンピラ組みは逃げ出したくなってくるのだ。

で、中学生の作文みたいな疑問、「なぜに、俺は、ブログを続けて居るのだ」という、根源的な疑問を解決しない限り、執筆麻痺。もう一度、この上記の状態を招いた原因を、遡って検証してみる。

1) 俺の職業は、フリージャズピアニスト。(売れない)は省いた

では、なぜに、あんたはピアノを弾くのだ？

これには、きちんと答えられる。生きるためなのだ。お金を稼ぐという意味以前に、俺の存在理由なのだ。ピアノ中毒は、もう、俺の叫び、全存在が掛かっている。とんでもなく、文学的、哲学的、人生論的、諸々の上に、成り立っている。これは、本当だ。これはお笑い

にはならない。超真面目な話にしかならない

2) で、この1)が、ピアノのプロモートのために、YouTubeに動画を27本、アップロードした。これは、矛盾していない

3) この2)のプロモートのために、ブログを始めた。これも矛盾していない

ここまでは、フリージャズピアニスト、裕イサオの自己PR。これは、芸人として、別段、世間様から、とやかく言われる流れではない。

で、問題は、その後から始まる。3)までの流れは、「既に、終了している」。

おわあ——、なのに、相変わらず執筆。しかも、新連載。

もう、人のせいにしてしまうしかない。お姉ちゃんが悪いのだ。応援するから、つい、調子付いてしまったんだよお——、え——んえ——ん(号泣)。

作文「僕は、どうしてブログを書くのか」二年三組、裕イサオ。

自己顕示欲、自己表現。これは、ピアノで消化しているから、ない。

文学的なむらむら。これは、ある。ただし、十三年間のサハラ砂漠(読者皆無)三文文士の、心の傷は、大きい。とはいえ、ほんの一時にしても、書いたものを換金していた時期があるのだ。やはり、お金が絡みだすと、素人ですとは、言い難いし、逆に、失礼だ。読者の方へ。ただし、今は素人だ。このメカニズムの外にいる。ただし、プロとアマの違いは、本質的に、俺は、これではないと思っている。下世話な話だが、バン ゴッホも吉岡実も稲垣タル穂も、そうしてしまうと、皆、アマチュアになってしまう。これは、後日としよう。

ご近所への配り物。俺の馬鹿頭、および、溢れ出るアホネタ。ひとりで消化しきれないので、無理やりご近所に配ってしまう。こういう見方も出来る。たまに、郷里に帰ると、鰹が一本届いたりする。食べ切れないのだ。すいません。ありがとうございます。いつも。深謝。

うーむ、結論が出ない。

そうは言っても、俺は、重鎮に、首根っこを捕まれて、改心するまで村からは出さんと、連れ戻されてしまったのだ。

そうなると、結論は、算数上はひとつ。

要は、俺の自己宣伝ブログ。芸能人のPRブログ。これはおかしくない。よね？

許して下さい。もう、文士なんて言いませえ——ん。あー、怖かった。

追伸

いやあー、凄い超プロのブロガーさんっているんですね。

もう、ブロ画。タイトル。紹介文。内容。痺れた。エッセイ、随筆部門から退散しちゃいたい。恐ろしい、同じ舞台なんて。

きゃー、タンポポ、かわゆうーーい。写真。これが、俺は、ブログの真髓と理解していたのだ。甘かった。脳天に一発食らった。で、脳シンコペが復活っ！

2012.10.25 Thu

俺が、フランスに来たのは、1983年。二十九年前だ。

その時知っていたフランス語は、トレビアン(素晴らしい)。以上なのだ。

確か、当時、岸恵子さんがテレビのコマーシャルに出て居られた。その中に、この単語が出てくるので、覚えていたのだ。そういえば、同時期に、アランドロンのダーバンのコマーシャルもあった。このモノマネは、当時の俺の十八番だった。アランドロンの動作を真似て、「セラゴン スグラマダヤン」と言うのだ。そのように聞こえた、当時は。今では、正確な台詞が何だったのか分からなくなってしまったが、たぶん、「セ エレガン(エレガントだ)」云々と言っていたはずだから、俺の聴音力も、まあまあ。注 四半世紀前、俺は、アランドロンの仕事のアシスタントをしたことがある。テレビで見る通り。イケメンなんていうレベルではない。超ハンサムだった。そして、なんとなく、美形の中にチンピラの臭いが垣間見れて、粹な俳優さん。

で、フランスに「来てから」、コンビアン(いくら)を覚えた。トレビアンに似ていたのだ。それから、当然、メルシー(ありがとう)。

この三つの単語で、生活しようというのだから、この無謀振りも気合が入っていた。

「タバコ屋」

すてゆいベサンと(タバコの名前)。おばさん、しかめっ面(この表情は、フランス全国民、即刻、止めて頂きたい。わたくしは、かように申し上げたい。傷付くのだ)。クワァー(なんだって)? 指差し。あー、ステュイベサントね。こんびいあん(いくら)? UMMMSKKJSMJYATRUフラン。分からない。お金を出す。お釣りが来る。

「別嬪の姉ちゃん」

こんびいあん(いくら)? 引っ叩かれた。トレビアンと間違えたのだ。

「友達の家」

うい、うい。笑顔。トレビアン、うい、うい。笑顔。メルシー、笑顔。

寝る前には、顔が引き攣っていた。そのまま、笑いながら寝たよ、仕方ないから。

ところで、俺は、その前にロンドンに二年間いた。

だから、フランスに来た時は、そこそこ、流暢な英語になっていた。で、やはり、日本人のせいなのか、俺がアホなのか、どうやっても、三つの言語は頭に入らない。二つが限界。フランス語を習得したら、トコロテン。英語は、どっかに行ってしまった。とはいえ、ニューヨークのベーストのところに遊びに行ったら、何日かしたら出てきた。とはいえ、ジャズメン英語ね。

「いやえええええー、めえー——ん」

「おおおおおおー、いええええええ」

拳を上げて、二人でボクシングみたいな動作。

「あつ、ごーいんいんぐ、おん、めえええええええん」(はい、この出だしがシンコペです)

「いえ—————」

で、また、拳合わせ。

ジャズメン。これだけで、すべての会話が成り立つ、超エスペラントエリートだ。

んで、じゃ、英語は、どうやって覚えたの?となる前に、ちみは、なぜに、英語をお話し致したいのだね。という、最初の疑問。はい、お姉ちゃんを口説くためです。以上。

ここで、モチベーション、および、目的とのジャズの逆転が起こる。

お姉ちゃんを口説くためには、一年ぐらい、図書館に籠って、基礎から始める。まず、文法をマスターする。ジェイムズ ジョイスのユリシーズを読破する。TH エリオットの詩を誦んじる。で、シェークスピアの会話をマスターしてから、巷に出る。このやり方は、クラシックピアニストのやり方だ。注 日本人は、通常、このやり方であるが、弊害は、読み書きばかり達者。および、博識。ここで止まりがち。目的達成ができないのだよ。

俺の場合は、まず、姉ちゃんを引っ掛ける。で、口移し(ちょっと、Hだな)で、教えて頂く。

これが、フリージャズ屋のやり方。最初に、まず、目的を始めてしまうのだ。で、三つの単語では足りなくなる。政治、経済、文学、諸々の社会の位相を、「いくら」「すばらしい」「ありがとうさん」。これでは、辛い。で、覚えるわけね。

こちとら、ミュージシャン、プラス、モノマネ狂だ。一年で、政治経済哲学を論じてしまうから、こうなると、最初の姉ちゃんは、ポイ。で、次へ。串刺し。

こういう脳構造で、フランスに来たから、同じだ。先に目的、後から、肉付け。

考えたら、俺のピアノの習得と、まったく同じだ。なんのジャズ理論も知らないのに、もう、最初からステージに上がってしまうのだ。とにかく、まず、弾き捲くる。受ける。調子に乗る。なんなんだろうね、こういうメカニズム。で、自分がしんどくなってくる。たんたんたぬきのたまきん、この一曲のレパートリーで、お客様方を納得させ魅了する。同じようなことをやっていたのだ。ただ、息切れも酷い。なにはともあれ、本人が一番辛いから、二曲目を覚える。

意外と、この裕先生流って、なにか、根源的なやり方のような気もしている。

(この方式は、初期の立ち位置のレベルは、まったく違うのだが、山下洋輔大先輩のエッセイから、学んだ)。

要は、クロマニオン学習だ。

腹減ったあ——。石持って走っていく。

石、重てえ——。やりを作る。

別嬪の姉ちゃん、飛び付く……、お話をする。

注 良い子の皆さんは、真似をしないよう、お願い申し上げる次第である。

2012.10.26 Fri

位相-大地

10月25日2012年。13h00。

今日も、自宅の展望台のようなサロンの窓から、晴れ渡った秋空が見える。
快晴。飛行機雲もない。上の方が水色で、段々、地上に向かって白くなっていく。
光のグラデーション。綺麗だ。

「位相-大地」

関根伸夫の作品名。制作されたのは1968年。2008年に再制作されている。

大地に、ぽっかり、円筒形の穴が開いている。

直径2.2m。深さ、2.7m。

そのぽっかり開いた穴と、まったく同じ形、同じ大きさの円筒形の土が、穴の脇にどんと置いてある。日本現代美術史上の代表作のひとつである。

「金子光春」

金子さんの、晩年の自伝三部作のひとつ、「ねむれ巴里」(中公文庫1976年)より、抜粋。

リオンの宿

あとにも先にも、自殺を考えたのは、生まれてからそのときがはじめてであった。

中略

そのときも僕は、僕のねているベッドの下で地球がうごいているのを感じた。

胸がいっぱいになったが、のどまでつまっているその感情は、悲苦ではなくて羽目を外して、世界中びっくりするような大笑いの発作の前のような気持ちであった。

関根さんの作品は、「地球の表面」という、普段あまり考えないことを、嫌でも、喚起させた。

金子さんの行は、金子光春という詩人にしか感受できないなにかだった。

突然、どうして四季があるのか、思い出せなくなった。

太陽と地球と月の位置関係が、分からなくなった。

太陽系の外になにがあるのか、分からなくなった。

自分が途方もない、時間軸と空間にいることを思い出した。

その感覚は、たぶん、悟りに似ていて、とても、気持ちがいい。

2012.10.27 Sat

コンサート前夜

ハイ、これぞ、ミュージシャンブログだぜえい。じわじわとコンサートが近付いている。セッション、血圧、当然、上がる。上が300。下200。気持ち的に、ね。今日、10月25日は、秋晴れだぜえい。レイディー。で、段々、執筆なんちゅう、辛気臭い世界は嫌になってくるから、書き溜めしている。なんでやねん？お姉ちゃんに、叱られるからだぜえい。辛気臭せえーぜえい、ブログなんてよおー。ステージが最高。別嬪の姉ちゃんに囲まれて、俺は、ハイ、だぜ、レイディー。

と、これは、本当なんだけどね、俺は、もともと辛気臭い「引き籠もり系元文学青年」。だから、ピアノ弾いてんだぜえい。自分のためだ。これを、破壊しないと、社会生活がでけんのだ。だから、ピアノ弾くことは、まあ、「治療」だ。自分で自分を治療できるのだよ。ターミネーターなのだね。お若いの。

今回のライブは、パリの老舗のジャズクラブ、しかも、受けて立つお相手は、パリ屈指のジャズドラマー、佐藤真師匠だぜえい。おまけに、さっきよおー、沖至大師匠からメール。「俺も、極力、行くぜ」って。血圧上がるわな、当然。談志師匠と、たけしさんと、セッションする。まったく、同じ構図なのです。パリジャズ界では。

と、すると、俺の芸人ランキングは、日本だと、どの辺りなのかしらねえー。そりゃ、そこそこのレベルだろって、こういう人たちと、共演だよ？

コンサート前は、あまり、練習をしないことにしている。

体調、それ以上に、炸裂するエネルギーを、本番に備えて蓄える。心のエネルギーと性欲。

高々知れているのだ、本番前の練習なんちゅうもんは、本番では、絶対に出てこない。

日頃の積み重ねの断面以外には、絶対に出てこないのだ。

ねえ、新婚の兄貴。分かるだろう、言いたいことが。なんか、哀川翔だぜえい。

芸ってもんは、そういうもんだよ。

この乞食と芸人は、「一度やったら、止められない」。これは、本当だ。

とはいうものの、俺は、究極の出不精。面倒なのだ。クラブまで行くのが。目の前でも、面倒なのだ。パリまで、行かないといけない。

よく、こんなん、ミュージシャンやってると思うよ。

本来的に、物書き向きなのだろうね。しくしく。辛気臭いよおー。しくしく。

雑草とお話ししたり、筆りながら。

「ごめんねえー、こっちの判断で、雑草なんて言っちゃって、本当、ごめんねえー」
なんて言いながら筆る。

そりゃ、あんた、雑草は、ジャズメンと一緒に繁殖力が、半端じゃねえぜえい。
二週間もすりゃ、ぼうぼう。

「おんどりゃー、今度こそ、芯から抜いとったるわいいー」

で、ジェームスのスカイフォールを、コンサート前に、見に行くのだよ。
影響系の自己管理で、一週間は、心も体も、ダニエル クレイグなのだ。

[Isao+et+Makoto+30Oct12+OK.jpg](#)

2012.10.27 Sat

エトランジェ

「エトランジェ」。このフランス語、とても美しいと思われる方も、多いかも知れない。私なりに直訳してみると、「見知らぬ人」。カミュの同名の小説は、「異邦人」と訳されている。辞書で調べてみると、「外国人、外人」と記されていた。

この名詞が形容詞化された単語が「エトランジュ」。

彼は、エトランジュだ。という言い方になるのだが、不思議、変わり者、変わった人といった意味である。

私は、生まれも、国籍も日本国。フランスに永住したエトランジェとなる。母国に足場がない上に、フランス国でも、永久にエトランジェのままである。宙吊りのままの生活である。

フランス語と日本語のニュアンスの違いがおもしろい。

「見知らぬ人」。この中に「外」という意味合いはあまりない。

日本語だと「外の人」。大陸と島という地形上の感覚の違いなのかもしれない。

「エトランジェ」。もっと巨視的に見てみると、「国」という巨大な組織の外にいる人間とも言える。「東洋人のエトランジェ」。金子光春「ねむれ巴里(中公文庫1976年)」より、再度、抜粋してみる。

---東洋ではともかく、西洋での身の詰まりかたは、さすがに個人主義国だけに凄まじいものがあった。破産者は遠慮なく自殺した。敗者が生き残れる公算がないからである。---

そして、芸人という種族。多分、二重のエトランジェなのだ考える。

「追伸として」

昨日、投稿させて頂いた「投函狂」。再度、読み返し、内容が不適切と判断。削除と致しました。読者の方々、および、ブログサイト運営者様へ、ご迷惑をお掛け致しました事、謹んで、お詫び申し上げます。引き続きの、ご愛読、何卒、よろしくお願い申し上げます。

裕イサオ 10月27日 当地時間17h03

2012.10.28 Sun

トランペッター、沖至(おきいたる)。俺のジャズの師匠である。
で、師匠というのは、その道だけではなく、当然、人生の師匠でもある。

俺の師匠は、大変にダンディー。
絶対に、他のミュージシャンのことを悪く言わない。
これは、恐ろしいぐらい凄い。

チンピラは、すぐ、あいつがどうの、あのギターはどうの、とりわけ、同じ楽器の奴のことは、ぼろくそ。これこそが、チンピラと呼ばれる由縁なのだ。師匠は、そんなことはしない。
ただし、ドラムス、佐藤真師匠に、先日、言われた。「イサオ君、悪口ゆうーとさっ、結局、自分に、跳ね返ってこない?」。どきっ。もっとだな、ぐさっ、だ。師匠連は怖いどおー。

下ネタ話も、一切、しない。もてもてなのに。
チンピラは、一通り、仲間の悪口。その後は、下ネタ。
だから、チンピラなのだ。あれっ、真師匠は、よくするなあー?ぎゃ。書いちゃったよおー。ヤバイな。

で、俺は、酔った勢いで暴れたりする。昔ね。言っとくけど。
師匠は、絶対に、そんなことはしない。いつも、穏やかである。
俺はしないけど、仲間の一部は、お客様と喧嘩したりする。拙い。確かに。
荒くれどもの集団と、思われてしまう。これでは、師匠に申し訳ない。
チンピラは、やはり、この程度なのである。

師匠は、俺のことも、絶対に、悪く言わない。
自己顕示欲の塊、ナルシスト、超絶自己中、嫉妬深い、エエカッコシー、暴力的に熱い、こう言った、天災系のミュージシャンなのに、悪く言わない。良いとこしか、言わない。

これって、非行少年教育に役立つはずだ。本当。

良いとこをふたつ。別れ際に、チクッと、一言。刑事コロポだっ!

「うーん、イサオは、ね、弾いてる姿が、いいなあ」

「えっ、姿だけですか?」

「うーん、姿がいいのは、音もいってことだよ」

「ありがとうございますっ!」

「うーん、イサオの音は、うーん、一言でいうとさあ、重い、ね」

「タッチが、ギンギンだからでしょうね」

「いや、そういう意味じゃ、ないんだけど、重いよ、イサオは、なあー」

と、褒められているような気も、一瞬するのだ。

でも、帰り際に、ぼそっ、

「イサオ、ちょっと、和声、やってみいー、楽だよ、お前自身が、な」

なんてことを、おっしゃるのだ。

やはり、師匠を舐めては、いかんぜえー、お若いの。

でも、踏み台にしないと、一生、弟子だぜって！

師匠に、深謝。

2012.10.28 Sun

マツコさん

今日(10月28日)から、冬時間。正確には、サマータイムが終了。本来の時間に戻った。
これから長い長いヨーロッパの冬が始まる。我々、ミュージシャンは、皆、鬱期に入るのかと
いうと、まったく逆で、ジャズクラブの地下で、熱く蠢くのだ。

今、マツコさん(デラックス)に嵌っている。

YouTubeで、志村けんさんのコント、ほとんど見てしまい、ローラ、栗原類君とかを見て、な
んか、面白いのなかと弄くっていたら、出てきた。

一番最初に見た、女子アナ関係の番組。あまり、いい印象ではなかった。
で、「五時に夢中」という番組が出てきた。

急に、話が飛ぶ。

司会役の方の名前が思い出せない。やや、長髪のすべて平仮名の方。あっ、ふかわりょうさんだ。
失礼致しました。名前がインプットできないのです。指示代名詞病ってやつね。あの、その、
あれ。固有名詞が出ないのだよ、お若いの。もともとこっちは、「いえええええめえーん」
だけで会話しているから、どっちもどっち、だな。シニア全員、ジャズメンエスぺラントに変え
てしまっても、あんまり、支障ないかもな。「かあさん、いえーんーんーい」「おおおー、
いえーんーい」お茶が出てくる。

第一印象。

話のタイミング。腕が長い。手がデカイ。やや、猫背。

この人、「典型的なピアニスト」に見えるなあーと思っていたら、番組のやっつけクッキングの
時に、「本当は、ピアニストになりたかったんですけど.....」。ずばり、だ。

同業者の嗅覚。鋭い。間の取り方とか、ミュージシャン。

マツコさんの、コメントを見捲くった。

日本国の人気コメンテーター、第四位と番組で言っていた。

相当の人気があることが分かった。

マツコさんの、日本国の世界の中の位置付け系の発言は、よく、本国にしながら見ているなあー
と思った。俺、まったく、同感だ。

日本、たとえば、「景気なんて回復しないわあよー、これから、ずっと、厳しいのよ」。もろ、
フランスだ。大体、俺の住んでいるフランス国、「景気が良かった事」なんて、一度もないよ。

慢性的不況。隣の若林さんが、「日本も、ヨーロッパ化した方がいいかも」と、おっしゃっていた。俺も同意見だ。金、会社、成長、で、また、金。お受験、会社、成長。延々と、高度経済成長をやっている。中国、韓国も、そうらしい。お金、ない。会社、帰属しない。成長、しない。お金、ない。お受験、分相応。結局、森にお散歩に行く。お金ないから。高度経済停滞。

で、やはり、日本国は、確実に、世界から取り残されている。
東洋を、世界の中心にすれば、それは、いい。ただし、西洋化を必死にやってきた今からは無理。俺のエッセイと同じで、二番煎じなのだ。

なんか、マツコさんのコメント聞いていたら、
ちょっと、極論なんだけど、フランス国民全員がマツコさんだから、まとまりはしねえー、けど、皆で、一過言。いいんじゃない、これで。口調まで、似てしまいましたって。

フランスに来た当初、ミッテラン大統領と大学生の討論会。

司会者 自分の意見

ありゃ、そういやあー、フランスに女子アナはいない。女性の司会者は多いけど

学生「たち」 自分の意見

大統領 自分の意見

誰一人、譲らない。喧々囂々。年功序列も、立場も、崩壊。

これに較べたら、マツコさんの繊細な「暴言ばい発言」。本当に、この人は優しい人だと思う。大体、「人の話を聞いている」のだ。ピンとこないかも、日本にいと。

ところで、フリージャズミュージシャン。

年功序列、師弟関係、演奏中の遠慮。一切ないのだ。これが、流儀なのだ。

遠慮してると、楽器経由で、どやされる。

これは重要だよ！

「その時、出している音以外、一切の評価はない」。わざわざ、括弧しちゃったけど、本当なのだ。

「その時」。これだけ、ね。

---音は、片っ端から、宙に消えて行く--- エリック ドルフィー

2012.10.29 Mon

時計

私の唯一のこだわりなのかもしれない。

時計は、丸くないといけない。

地球と、地球の自転と呼応していなければならない。

だから、デジタル時計は、嫌いである。

時間は、記号、数値ではない。

昨日、テレビを見ていたら、「不況にもかかわらず、五十万円以上の時計の売り上げが、昨年度の二割り増しに」。

経済の活性化に異論はない。皆、この循環の中で、食べている。または、飢えてはいない。一部の国は。

なんか、急に、可笑しくなった。

「安くたって、高くたって、時間は同じだよねえー」「はっはははははっ」

時計は丸くないといけない。

どうして？

無粋なことを聞かないで。

時計はね、残り時間を計る機械。

丸くないと、分からないでしょ。

2012.10.30 Tue

日本での、なんらかのパーティー。コンサートの打ち上げではない。こっちは、居酒屋なの。時々、俺は、たまたまお隣に座ったおば様の餌食になることがある。俺は、じっとしていると穏やかな紳士のおじ様に見えるので、話し掛け易いのだろう。しかも、おフランス野郎だ。レディーファースト、会食時のマナー等は、当然、血肉化している。でも、なんでフランスに住んでいると、ちょっと、オカマぽくなるのかしら？男らしい感じになり難いのだね。フランス語もそうだ。

フランスに派遣されている刑事さんに、お会いしたことがある。角刈りのごつい感じ。なぜか、フランス語が大変に流暢。日本語で電話をする時は、「はっ、はい、畏まりました。了解致しました」と、はきはき。フランス語になると、まったく同じ男らしい動作のまま、「アッ ボン(あっそ)」「ウイウイ(はいはい)」「セ ブレ?(本当?)」。動作とフランス語の音があまりにミスマッチだった。

で、このおば様たちの、お話。音楽のフレーズのように、良く覚えている。以下、本文は、そのまま。で、()付きの部分のところが、ちょっと小声、早口になっている部分。楽譜でいうと、音符の旗が非常に多いところ。ピアニッシモ=小声、早口、滑らかに。

「うちの馬鹿息子、(OOOに行ってるんですけど)、なんか、ボロ車買って、(OOOなんですけど)、なんていうもんだから、内の主人も、甘いんですよ、ぽおーんと、(OOOなんですけど)、買っちゃったりして、困ったもんだわ、本当に」

「へえー、息子さん、OOOなんですか？優秀ですねえー」

「いや、遊んでばかりでえー、(OOO学部ですけど)、なに考えてんだか」

「へえー、OOO学部っ。半端じゃないですねえー。OOO大入るより大変ですよ」

「いやあー、内のが入れる程度で...(ご近所の奥様方も、そう、おっしゃいますけど)」

「いやあー、大した、息子さんですねえー」

「そうそう、内の娘が、アメリカ人と、(大富豪の)、と一緒にしましてねえー、ニューヨークのマンハッタン？っていうんですか、(一等地ですけど)、アパートを買いましてねえー、(ビルの、ワンフロア全部)、あまり、広いお家も、お掃除大変よっていったら、お母さん、そんなのメイド

がやるから関係ないわよって、ほほほほほ、嫌ですわねえー、貧乏人は。ほほほほほ」

「マンハッタン、ビルのワンフロアー。ひええー、億ションなんてレベルじゃないですよ、それ」

「なあーに、あまり広い、(600m²)、も、寒々してて.....」

なんていうセッションをやる。

周りのおば様方の、やや、不快そうな顔。

俺は、まったく嫌いではない。面白いので、音楽として聞いている節がある。

で、俺のピアノ奏法の特徴のひとつに、装飾音の多用と早弾きがある。

まさに、そっくりなのだ、それに。

もとのメロディーの合間に、ちゃらちゃらとこけおどし装飾音を多用する。しかも、凄い早弾き。

しみじみ、奏法とすると、良く似ている。

まあ、唯一違うところは、俺は、自分の自慢話をしている。

そこだけね。

でも、原点は、同じ、なのだ。

2012.11.01 Thu

鬱病

私のおちゃらけエッセイを、お読み頂いている方々の中には、しかし、五十半ば近いおっさんが、よくまあ一、こんだけ軽く、軽薄、ちゃらちゃら、無内容、ノ一天気、でいられるもんだあーと、感心以上に、呆れている方々がいらっしゃるかもしれない。

しかし、以前にも書いたが、私は慢性的な鬱病なのである。だから、重々しい人間だと言いたい訳ではないけれど、だれしもある二面性を、同じく持っている。

お笑い芸人が、舞台の外では仏頂面。これは良くあること。

たとえば、ヘンリ ミラー。彼の友人連の話を総合すると、明るく快活、よくしゃべる、よく食べて飲んで、セックスして……。実際にこうだったのだと思う。ミラー本人は、「そのころぼくはたえず死を考えていた」(ネクサス)。「自殺も殺人も不可能のとき人は道化師となる」(梯子の下の微笑)、と書いている。注 抜粋 新潮文庫1969年「北回歸線」訳者、大久保康雄、解説より

北守夫さんが亡くなられた時に、初めて知ったことは、北さんが躁鬱病だったこと。諸々の薬を、いつも持ち歩いてきたこと。作家でエッセストで精神科のお医者さん。ユーモアたっぷりの作風、ご存知の通り。そんな人が躁鬱病。

先日、やはり、私も専門家に掛かった方がいいのではと思い、主治医のところに行ってきた。主治医の診断書がないと、精神科医=専門医のところへは行けないシステム。

「先生、一度、鬱病の治療をしたいのですが.....」

「いつから、そうなの？」

「十七歳ぐらいからです」

「ふうーん、今、五十三だから、三十六年間、そうなんだ」

「はい、一度、精神科のお医者さんに見てもらおうかと」

「あなた、ジャズピアニストだよな？ずっと、人前でピアノ弾いてんだよね？」

「はい」

「そんなのは病気と言わない」

一言で、却下された。

「あっ、先生、私はアル中なんです」

「どれぐらい飲むの？」

「ボトル四分の三から一本」

「で、なにを飲んでるの？」

「赤ワイン」

「普通じゃん」

こちらも却下。

まったく、相手にしてもらえず、風邪薬の処方箋をもらって帰ってきた。
なんだか、医者のお墨付きという感じで嬉しかった。

私の鬱病対策。

もう、とにかく、抵抗しない。この方のお話を、すべて、ご拝聴。ご尤もと、すべて同意する。
もう、私は世界で最悪の人間だ、最悪の人生だ、最低だと、とにかく、なにもかも真剣にネガティブシンキングを行う。めそめそする。とにかく、彼に抵抗しない。カ一杯、ネガティブする。

これをやっている、どこからか、「なんだ、この野郎っ」と、力が沸いて来る。「さっきから、好き放題いやがってっ！えっ、何様だ、おまえっ！」。さらに、力が沸いて来る。むらむらとピアノが弾きたくなり、「こんちくしょうっ！退治してやるわい！」。弾き捲くる。

いつの間にか、「俺は、世界一の幸せモンだぁー」となっている。

私のエッセイに、重い主題は一切出てこない。表層的なこと以外は出てこない。
重い主題も、同じ方式で、どんどん重い方へと考えていくと、急に水面に浮上する。
それで、明るく書き捲くる。

さすがに、三十六年も付き合ってくると、自分なりの対処法が生まれてくる。

2012.11.01 Thu

女子アナ1

コンサートが無事に終わった。

久しぶりに、二人の師匠に挟まれて演奏した。

佐藤真、ドラムス。沖至、トランペット。

ダンディーで穏やかな沖師匠に、「イサオ、うーん、いいんだけど、さ。もう少し、リズムな、大きく取れよ。分かる？お前、しゃべり過ぎ(弾き過ぎ)」と、一部終了後に言われてしまった。この俺の饒舌体質。なんとかならんのかいね？

二部、ゆったりと弾いた。

「イサオは、素直だよな。一度言うと、すぐ分かっちゃうところが凄い」と、褒められた。

結局、饒舌、傲慢、なのに、意外と素直なのだ、俺は。

厳しく楽しかった。

ほっとしたので、YouTubeで、マツコデラックス「不幸女子と女子アナ」というのを見た。

この「不幸女子」というネーミングが超面白い。

で、俺が見たやつは、不幸女子と女子アナの環境の違いというやつ。

親の職業、子供時代の習い事、学生時代のアルバイト、現在の趣味、その他の資格etcetc

女子アナ(四名) 親の職業 医者 俳優 商社x2

不幸女子(四名) 無職 もろもろの仕事を転々

以下、アナ、不幸と略。

「習い事」アナ ピアノと水泳(全員) 不幸 そろばん(全員)

「アルバイト」アナ お洒落、高級レストランのウエイトレス(全員) 不幸 シール張り、機械の部品の組み立て、洗い場etc

「現在の趣味」アナ ピアノ(全員) 不幸 諸々

「その他の資格」アナ アロマセラピスト(一名) 不幸 なまはげ伝道(一名)

話の流れを聞いていると、アナ組み、親の仕事で海外に在住=英語が堪能。四名とも、元ミス有名大学。

女子アナの方に、常に、ピアノが出てくる。家にグランドピアノがあった方が四名中二名。

不幸女子の方は、ピアノ自体が、全員なし。

「女子アナ」 温室、化学肥料、美貌、日本国でよしとされている教育の体現

「不幸女子」 野ざらし、肥、馬糞、腐葉土栽培。ご本人自身がブスと言っている。各自、自分の意見

段々、マツコさんの言っていることが分かってきた。

もちろん、表向きは女子アナ、および、女子アナ各人への個人攻撃。

ただし、これは、ひとつの演出。女子アナさんたちも、マツコさんにチクられる程、人気、格が上がるし、マツコさん自体の毒舌も、彼女の商売だから、お互いの利益は守られている。

そうじゃないと、無益ないじめ番組になってしまう。

で、マツコさんの毒舌の最終の矛先が分かった。

「日本国でよしとされている教育」

美貌なのに、謙虚でお淑やか。文化全般、とりわけ西洋文化に精通。高学歴。英語が堪能。親から見て完璧な娘、息子etc

「これを本人がよしとして体現しているひとつの人種が女子アナ」

「それから、優秀な会社員でもあること」

「女の、ではなく、勝ち組の人間のしたたかさ」

この辺りのようだ。

怒られちゃうの承知で、書いちゃうね。女子アナの方、皆さん、素晴らしい美形。

で、女性のクラシックピアニスト(の一部)に非常に感じが似ている。一般的にという意味です、すいません。もちろん、女子アナ、女性のクラシックピアニスト(ただ、こちらは会社員ではない)、皆、違うから、この一括りは無謀であることは、十分承知している。だから、各自個人への攻撃ではなくて、マツコさんの言っているのは「女子アナという単語に集約されているもの=上記」。誤解なきよう。

ところで、俺はピアノ弾きだから、ここだけ取ると、女子アナ組みに入る。家庭環境も、女子アナ組みに該当している。でも、ジャズ屋(不幸男子ミュージック)だ。これは不幸女子の方だ。両方に跨っている。

女子アナの美貌は、素晴らしいが、俺の中枢には入ってこなかった。

ご自身でブス集団とおっしゃっている不幸女子の方々、皆さん、実に味わい深い美女。

意見、目線が、不幸(作家)目線で、素晴らしい。あのね、女子アナさん(おフランス野郎)みたいな話し方、ごめん。不幸女子の方々の美しさは、フランス女性のそれに共通している。なんちゅうのかな、自美(こんな単語ねえーけど)かな。鋳型に入れた美しさじゃないのね。

やはり、自然栽培の方が、俺は好きだ。

あつねんだ、俺。もともとが、女子アナ系なんだよ。

まっ、チャンジー(じいちゃん)になって、美貌がね、衰えたの。しくしく。

あとね、グローバリゼーションって、英語を話すこと(ピアノでショパンを弾くこと、とか)じゃないんだよ、お若いの。分かってないぜって、女子アナ。なまはげの伝道。こっちの方が、確実に、世界目線だっ。肥たご、こそ、世界目線なんだって！ちょっと、極論だけど。

女子アナ2へ、つづく。

2012.11.02 Fri

女子アナ2

女子アナ。まあ、勝ち組っていうやつなんだろう。

俺の見た番組の中の四名の方々。やはり、お淑やか、謙遜の中に「絶対的な自信」を感じた。司会役の方が、「えー、グランドピアノおー、相当、家、広くないと」。女子アナの一名。「いえいえ、単にインテリアの一部として、置いてあっただけです」って。

ところで、好感度最下位らしい、田中みな実さん。

俺は、大好きなんだけど、皆さんは、どうなのかしらね？

田中さん、逆に、がむしゃらに勝ち組している感じが、いいんだけど。

謙遜の方が、気持ち悪い。なんでか、田中さんの方が、なんとなく庶民的な感じがする。

アメリカ生まれ、青山学院大学元準ミス、可愛い子ぶりっこ。本人が、前面に出して、こっちの方が、なんかすっきりしている。陰に籠ってなくていい。自信の逆噴射形の謙遜姿勢。気持ち悪い。みな実ちゃん、自信満々。明るい。それと、俺が一番好きなのは、会社員していないところ。

「勝ち組」って、実は、なんのことなのか、まったく分からない。

勝ち組でない人というのは、皆、負け組になってしまうのかしら？

「勝ち組」

地位、名声、で、当然、お金。で、デカイ車、家、素敵な旦那、素敵な奥様。優秀なお子さん

たぶん、纏めるとこんな感じなんだろう。

まるっきり、俺の興味外。ということは、俺は負け組なわけね。どうでもいいや、そんなこと。

ただ、仕事柄、多少の名声はあるんだけど.....。

俺は、幼少期から、まるっきり「物欲」がない。当然、これがないから、「金銭欲」もない。むしろ、ない方がいいとさえ思っている。なんでも、欲しいものが買ってしまう。これは、地獄だ。今、これを書いているパソコン。近所のスーパーの型遅れ在庫放出299euro。なけなしの財布を叩いて買って来た。喜びもひとしおなのだ。金額じゃなくて、ずっと、がまんして、貯金はしないけど、やっと、買ったわけね。このやっと感は、何物にも代えられない。貧乏人の醍醐味だけ。感謝、感激の度合いが違うね、金持ちとはよおー。高々知れた金額のパソコン買って、その喜びが何ヶ月も続いて居るのだ。俺、幸せモンだあーと、打ちながら、何ヶ月も盛り上がりつつ居るのだよ。

よーく、考えると、俺の興味は、

「美味しいものを食べたい」高級食品じゃないよ。庶民的なうまいもの。コロケとか焼き鳥と

か

「うまい酒」安い二級酒系でうまいやつ。高級系は駄目なのね。美味しく感じないのだ、金額のせいで

「ピアノをうまくなりたい」

これは、もう、三流だから、毎日進歩するのだ。本当に、少しだけ。で、当然、お姉さん方にもてる

なんだか、俺の「野心」。こじんまりしてる。

でも、これを負け組なんて、あんた達には言わせないわあよ(マツコさんの声音で)。

---勝負とは、勝ち負けではない--- 坂田明

なんのこっちゃ！

2012.11.03 Sat

フランス人

「フランス人」と言っても、もちろん、諸々だ。
当然なんだけど。やはり、「一般論として」書くしかない。

大体、「意見をすること」自体が、「一般論」をベースにしないと、出来ない。
男は、とか、女は、とか、一括りにしないと出来ない。ジャズメンは、うーん、辛い。一括りは。
私が、一番、損をしているような気がする(本当)。で、しまいには、日本人は、とか、国単位。
で、最終、人類は、となるのである。

結局、「一般論=一括り」にしないと、話が、先に進まなくなる。
ただし、「人間は、すべて馬鹿である」と書いた時に、「その中に」、「書き手が含まれている
のか」、ここが、重要なのだ。もし、私が、そう書くと、もちろん、含まれている。ある意味、
一番の馬鹿だと思うけれど、この「一番の」ってのも、ちと、気掛かりである。裏自信が見えて
しまう。だから、「そこいら辺の一般馬鹿のひとり」ってな感じである。馬鹿も、気合入ると、
パラドックス現象が起きる。突然、また、女子アナの方々。いいではないか、こういう人たち。
いた方が、人間が活性化する。いつもの、中立立場。いつからか、心のスイス人だ。

そりゃ、鋳型美人も、そりゃ、美人だよ。嫌いじゃ、ないよ、本当。もじもじ。
昨日の言説と矛盾していないの？えっ、裕先生っ！

で、フランス人。
なんていったらいいんだろなあー。
たまに、悪口にするか。

成長、上昇しない(分相応主義だ)。過去の遺産の上にどっしり(観光大国。この収益だけで、食っ
ていけるかも。国自体が、テーマパークだ。維持費は、凄いけど)。努力しない(食料自給率200%
！こんな国、他にない)。自国が世界一(フランス人はフランスの悪口ばかり言うが、内心は逆だ)
。享乐的(飯、酒、女男。仕事する時間なんてない)。実に軽薄だっ、自分にかかわらない事には。
ケチ。まあー、お金を使わない。近所付き合い、手土産、盆暮れの贈答品、年賀状(ちょっと、違
うけど)、こういったものが存在しないから、お金が循環しない。お店は大変だ。当然、慢性経済
停滞。そして、そして、世界に悪名を轟かす、「車の運転」。これは、世界最悪(ないし、イタリ
アの次)。方向指示出す奴、ずっと、勘定していたら(しかし、暇もここまでくると、哲学的)、三人
に一人ないし五人に一人。これを、個人主義と呼ぶ必要は、ないっ！危険だよ、ロータリーで。
恐怖のパリ凱旋門のロータリー。気の小さい奴は、一日出られなくなるので有名。わたくし、サ
ングラス、強面、眉間に皺。の状態で、窓から拳。ないし、「にやろめえー！どこ見て走って
んだ、このカッペ！右が優先だっ、ボケえー！」と、育ちの良さ剥き出しで、さっさと脱出する

。フランス人のトラック野郎にテクを聞いたら、「あっ、それ。前だけ見て、突っ込む。それだけ。あっちもさあー、俺が見てないの見えるでしょ。怖くて止まるよ」。なんなんだっ、フランス人とは！

こっちは、ご存知の通り、右側走るけど、追い越し車線(左側)から、高速道路で、方向指示なしで、「いきなり」、右折。こんなんばっか。

個人主義の行き着くところ。運転に、良く出ている。

後ろのやつが、前の無謀を気を付ける。で、その後ろが同じこと。で、その後ろが.....。

---自分の危険以外のことは、まったく、考えていない---

弱肉強食だ。

自己中。他人、関係ない。もたもたしているレジに文句なんぞ言おうものなら、凄い逆切れ。自己主張。自己保身。自分が一番正しい。絶対に譲らない。謝らない。しかし、良くこんなところで、私は生きて居るなあー。そう、逆発想で、私は、すぐ譲ることにしている。大相撲は、危険なのだ。四つに組んだりしたら、個人主義初心者の私なんぞ、場外に飛ばされてしまう。

はい、これが、フランスの個人主義。だから、金子(光春)さんが、しみじみ、書いた。

---敗者が生き残れる公算はない(ねむれ巴里)---

注 フランス、世界一の座を奪われる(テレビのニュース)。なんのこと？スエーデンに初めて抜かれた。はい、精神安定剤、睡眠薬、効鬱剤の消費量。

2012.11.04 Sun

また、分からなくなってきた。

まず、ブログという、この音に、どうしても馴染めない。
エッセー、エッセイ、随筆。こちらの方がしっくりする。
でも、この三つ(二つ)の音の違いが、やはり、今ひとつ、分からない。

そうして、分からなくなってくると、勢いがなくなる。
ピアノの演奏と同じで、「迷い」、音に出る。

何度も何度も何度も、嫌なぐらいに出てくる問い。

「なぜ、書くの？」
やはり、答えはない。

ブロガーという音も、あまり好きになれない。
濁点多過ぎて、音として好きになれない。

時々、本当に、他のブロガーさん達に、お聞きしてみたい誘惑に駆られる。
どうしてなの？どうして、あなたは、書くのですか？

諸々の理由が、当然、あるだろう。

まず、勢いがなくなると、「俺」という一人称がしんどくなってくる。
私の年齢、体力とのズレが、本人の中に充満してくる。

それから、いつも気になるのは、このインターネット、ウェブにログする。
プロ、アマチュア、セミプロ、全員、公の場にいる。
これは、本当に怖い。読者の数の問題ではなく、公になっている。
膨大な社会的な責任が、すでに、発生している。これは、私には、恐怖である。
公の場で、おちゃらけをしている。これは、大変に怖い。誤解も含めて。

エッセイと書くが、この上記の状況の中で、どこまで書いていいのか？
この線引きが、また、分からない。

たとえば、私のブログを例にとると、
「フリージャズピアニスト、裕イサオ」、この、ある意味、私の一部である架空の人物。

いや、架空ではなく、確かに、存在はしている。ただし、私という人物の一面に過ぎない。その彼の日常以外は、一切、書いていない。理由は、明白で、私という人間は、この立ち位置以外には、公の場にはいないし、責任が取れない。

私は、確かに、芸能人である。ランキングは、相当、低いにしても、立ち位置がそうだ。だから、この芸能人の部分以外は、書けないし、逆に、一切、書かない。

うーーん、やはり、分からない。諸々が。
でも、私のエッセイをお読み頂いて、気持ちが沈む方はいないと願う。

結局、良く分からないので、楽しくやろうぜっ！

こういう結論が算数的には、導かれるのである。

2012.11.05 Mon

今、「男らしい私」という、私の感覚では、「原稿」を書こうとしたら、私の初めてのコメントを発見した。しかも、二つも。発見？ 頂戴致しました。本当に、ありがとうございます。なんだか、一端のブロガーになった気がします。深謝。

私もコメントのご返信に書いた通り、何人かのブロガーさんへ、恐々とコメントを送った。まったく見知らぬ方へのコメント。物凄く、怖い。

まず、本名、知らない。顔、知らない。職業、知らない。家庭環境、子供の出来、ご近所の評判、旦那、カミサンの評判。はい、勝ち組への第一歩、遺伝子の調査。なにも分からない。なにも分からないへコメントする。なんか、怖いし、私のような、「謎の芸能人」へのコメント。やはり、怖い。

まず、わたくしこと、裕先生に関しては、コメント、バンバカ頂いて構いませんよ。

「むしろ、コメントのやり取りだけで、ブログやってしまいたい誘惑に駆られている」。

で、コメントの非公開、公開、返信、という操作も、今、初めて分かりました。

私は、「勇気？」へ、拍手。

だって、私、逆の立場だったら、超怖い。裕イサオなんちゅう、得体の知れない三文芸人へ、コメント。勇気がある。本当。

「コメント」

賞賛、同意、素敵etcetc

バンバン頂いて、もちろん、構いません。

ただ、「ご批判系」。これは、以前にも書きましたが、匿名は、お受け致しませんよ。

ご批判は、真っ向から、ご返信します。だから、素性は必要です。おフランス野郎と、相撲。

これは、半端じゃないので、心してお願いします。そんなに、私は偏屈ではありませんが。

いや、ご批判系。実は、面白くて、一緒に同意して、一緒に批判したりするから、はっきり、無益だわ。私には。でも、欲が出るなあー、欲しい。ちょっと、辛いやつ。贅沢か？

だから、私は、大変に、男らしい人物なのである。

たとえ、趣味が草むしり、家事であっても。

急に、元気付いて、俺になるけど、俺のこと嫌いな奴と、俺は、仲良しになって、一緒に「俺の批判」して、盛り上がったりする。はっきり、ちょっと、アル中かな。でも、結構、楽しいのである。よーし、自分への批判コメント、書いてもいいんだよっ！次回ね。

よし、たまには、「自分のこと」を、書いてみよう。なんていうと、今までのブログってなんだったわけ？となるし、皆、ゲラゲラ。とはいえ、はっはははは、自分のことは、書いてないのだよ、このブログ。気を付けて下さいね。そう、「裕」と言うのは、郷里のお婆ちゃん占い師が付けてくれて、もし、苗字に使うなら、名前は三文字で平仮名かカタカナって言われたわけ。で、イサオってのは、俺の小説に出てくるジャズピアニストの名前なのね。だから、俺が、俺の小説の主人公に、自分でなっちゃったんだよ。だから、俺じゃないんだよ。なんだか分からんけど。この良く当たるお婆ちゃん占い師なんだけど、まったく、俺の素性を知らずに、第三者に「この男は、諸、芸術系。んで、超自己中のメガロマン。んだけんちょも、超男らしい反面、へんなんじゃけんども、なあーんか、女々しい部分が、この男を救って居る」。ずばり、だ。でも、お婆ちゃん、一つだけ、外した。「この男は、シジューの時に、芸術家として大成するっ！」

。

ねえ、お婆ちゃん。これだけ、確実に、外した、よ。

以下、略。

2012.11.07 Wed

必要なもの

よーく、考えると、洗濯機ないと、確かに、不便。

洗濯板で、ごしごしやっていると、ブログを書く時間は、ない。

シーツなんて、大変だった。水に濡れると、物凄く重いから、それをごしごし。重労働。

また、絞るのも一仕事だった。二人でやらないと出来ないのだ。

昔の主婦は、大変だった。

ところで、昔あった、洗濯機のゴムの絞り器。いかしていた。パンツとか、絞られて、にゅーと出て来たり、この、絞られていまあーす、私。みたいな感じは、素敵だった。目に、諸、見え。乾燥機の無機質感とは違う。一度、試しにシーツを絞ってみた。重い、長い、畳むと厚い。難儀だった。

お若いのには、分からんだろ？

昔々、洗濯機の上部横に、ゴムのローラーがふたつ(ちょっと、深緑色掛かったグレー)、および、それを回すハンドルが付いていた。で、濡れたパンツを挟む。で、ローラーを回すと、反対側から、むにゅーと絞られて、出てくる。とんでもなく、単純なテクノロジー！私だって、考えられる、これぐらいは。会社でちょんぼする。巨大なローラー。ちょっと、あいつを絞ってやるっ！課長とかが、反対側から、半ベソかきながら出てくる。嘘。

懐かしいなあー。

全然、関係ないけど、一番最初のウルトラマンの「背中のチャック」と、「膝とか擦り切れていた粗悪なゴム感」。子供心に、暑いだろうな、中にいると、なんて、心配していたよ。それから、初期のウルトラマンは六頭身だった。頭がでかかった。ゴジラの衣装なんて、たぶん何十キロとあったのだろう。見るからに重そうで、暑そうだった。

たけしさんのお弟子さんが、なんかの番組で言っていた。たけしさんの友人のディスコの開店祝いに、たけし軍団全員、仮装してこいと指示。それぞれ、ウルトラマン、ゴジラ、ブースカ等々の衣装を着用。ここまではいい。ただし、全員、車を持っていない。仕方がないので、電車でディスコまで行った。と、おっしゃっていた。本当に、馬鹿馬鹿しいけど、なんだか、山の手線の吊革に掴まっているウルトラマンとか、泣ける。で、たぶん、帰りは、皆、べろべろだった気がする。千鳥足のゴジラとかも、泣ける。

はい、でだ。洗濯機は、許しましょう。文明の利器です。異論なし。

でも、食洗機。こっちは、微妙だ。ちょっと、退化とか墮落系だ。これなくても、ブログは書ける。せんべい食う時間とか、昼メロを見る時間は、確かに、増えるだろうけど。

私の家の食洗機。扉のゴムのパッキンがいかれてしまい、お皿を濯ぐ熱湯が、辺りに飛び散る有様となった。結局、食器を自動で洗ったツケに、その周りのお掃除という便利なのか不便なのか判別が付かなくなってしまったので、廃棄。以後、私が人間食洗機である。

掃除機、これは、便利。トイレ掃除のブラシ。ふむ。便利。

歯ブラシ、コップ、包丁、皮むき器、おろし金、水切り、便利である。

電気、当然、便利以上のもの。暖房、おおー。家、窓、屋根、すいません、必要です。

違うのだよ、必要ないもののことを、書こうとしていたわけ。

でも、結構、文明の利器として、役に立っているものは沢山ある。

冷蔵庫。これも、便利。まあ、なきゃないで、いいけど。それで、もっと真剣に考えると、水洗トイレ。なくても、いいんだけど、あった方が、圧倒的にいい。ウォッシュレットも、あった方が、お尻がすっきり。昔は、バキュームカーが来て、定期的に、家の肥たごを空にしてくれた。

だから、主旨が違うのだ。いらんものが、多過ぎると言いたいのだ、私は。

でも、車。ふむ、ボロだけど、ないと、買い物行けないよ。パソコンないと、このブログ書けない。

違うのだって！

たとえば、あなたっ！形態じゃない、携帯電話、いる？私は、電話、大嫌いだから、いらん。スマホ、論外。いらん、あんなもの。大体、道端で、どうしても話さないといけないこと、そんな重要なことは、まず、ほとんどないし、メールなんて、歩きながら読む必要もない。音楽も歩きながら聴く必要なし。道行く人々を観察したり、鳥の鳴き声聞いたりしている方が面白い。そういや、フランスのコマーシャル(もしかすると、日本の、だったかも)に、夕食時の一家団欒。家族全員、携帯でだれかと話しているというやつがあった。あれはあれで、面白かったけど、ちょっと、現実には怖い。

テレビのリモコン。こんなもん、いるの、本当に？私は、働き者だから、いらん。

テレビ、私は必要ない。見ないのだ。しかも、液晶である必要も、あまりない。

カーナビ、これもいらん。自分の地球上での位置を把握していれば、大体の方向は、我々は分かるように、もともと、出来ている。

インターネット。おおー、いいじゃん、ブログが書ける。泣き泣き。相変わらず、絵文字ができない。これは、恐ろしくも、やはり、なかなかのものだ。ど田舎でもブログが書ける。

結局、なにを言いたかったのか、自分で不明。

お粗末でした。

2012.11.07 Wed

吉岡実1

吉岡実詩集「静物(1955年)」より、詩「静物」抜粋。

夜はいっそう遠巻きにする
魚の中に
仮に置かれた
骨たちが
星のある海をぬけだし
皿のうえで
ひそかに解体する
灯りは
他の皿へ移る
そこに生の飢餓は享けつがれる
その皿のくぼみに
最初はかけを
次に卵を呼び入れる

吉岡さんは、私が師と仰ぐ人物のひとりである。

まず、吉岡さんの顔が好きだ。カフカ的な美男子である。

小柄で細身。厳しさと優しさが共存している。確実に、自分に厳しく、他人に寛容な人の顔である。人格者。ペダントリー、張ったり、こけおどし、こういったものを感じない。表自信も裏自信も感じない。普通にそこにいる。こういう人は、めったにいない。もうひとりの私の師、フランス人、マルセル デュシャンにも、同じ雰囲気を感じる。

余談になるが、吉岡さんとデュシャンのインタビューにいくつかの共通点がある。

回答が、実にシンプル。どちらも、超難解な詩人、および、超絶的に難解な現代美術家と世間では呼ばれている。たとえば、吉岡さん1)「読書量は？」「一月に一冊ぐらいかな」。デュシャン2)「昼間は何をなさっていますか」「何も。せかせか動きまわっています(後略)」。

このふたりの回答は、すべて、こうだ。この途轍もない自然体。

話を戻そう。

この「静物」という詩集の中に、同名の詩が四篇ある。

抜粋させて頂いたのは、二番目のもの。

吉岡さんの詩への、ほとんど代名詞と化した言説。

先記の超難解。暗黒、グロテスク、奇怪、凄惨、苦痛。

諸々の「吉岡実詩論」がある。

私の中の吉岡さん。純真、腕白、子供の目、愛情たっぷりのカメラアイ(矛盾していない)、驚き、きらきらした目etcetc

私には、まったく難解ではない。

視覚的な音楽として、内奥にすっと入って来る。

お化け屋敷に、迷い込んだ子供が、びっくりしたり、笑ったり、ドキドキしたり、それが、そのまま活写されている。

お化け屋敷？

そう、我々が住んでいる「世界」と呼ばれるもの。

この腕白坊主の目には、そう、映った。

しゃらくさくない詩を書く、稀な人だ。

追記

吉岡さんとデュシャンについては、きちんと書きたいと思う。

出展

1)現代詩文庫14「吉岡実詩集」思潮社1968

吉岡実氏に76の質問 高橋睦朗

2)「デュシャンの世界」朝日出版社1978

マルセル デュシャン+ピエール カバンヌ

岩佐鉄男+小林康夫訳

2012.11.08 Thu

ネタ切れ

とうとうネタがなくなった。

さあーて、草むしりに専念するか、と、清々して背伸びをしていたら、吉岡実詩集が目飛び込んできた。また、一挙に執筆欲に点火してしまった。吉岡さんとマルセル デュシャンとヘンリミラー。各自、優に一冊の単行本が書ける。

実は、ネタ切れというのは、まったくの嘘。

私の優秀な腐れ頭にネタ切れという単語はない。

ただ、たとえば、「ピアニストは一日中、頭の中で音が響いている」。これは本当。

その論理で行けば、当然、ブロガーは「一日中、頭の中で言葉が轟いて」いなければならないとなる。轟いて(ひしめいて)、難しい漢字だ。

それで、ここ二ヶ月間、実際にそうだった。それが、ぴたりと停止した。

その理由は明白。昨日から、ピアノの新しい和音の習得を開始したからである。

頭の中は、音に占領されてしまったから、物を書きたいと思わなくなった。

でも、やはり、ちびちびは書こうと思っている。

私のブログ。

Bloggerの閲覧回数。記事によって、まちまちではあるけれど、20---40と表示されている。

この数字が多いのか少ないのか、私には良く分からない。世界人口から分析すると、極小。ただし、私のライブに足を運んでくれるファンの方々の数字に、ほぼ、近い。

そうなると、安易に休筆、断筆は出来ない数字である。

改めて、厚く御礼申し上げます。ご愛読、ありがとうございます。

ふたつのブログランキング経由の読者の方々。それから、Google=Blogger=YouTube検索エンジンからのアクセスの方々。このみつつの方向があることが分かりました。YouTube動画の総再生回数、今、見てみたら1871回でした。

本当に、三文芸人として、ありがたいことです。

深謝致します。

引き続きのご愛顧、何卒、よろしくお願い申し上げます。

2012.11.09 Fri

一日中、ピアノと格闘している。

新しいテンションコードとか、リズムのダイナミクスとか、左手の動きの改善とか.....。
世界情勢に、まったく、100%関わりのないことで、泣いたり笑ったりしている。

だから、芸術は、素晴らしいのである。

何の役にも立たないし、人様の迷惑にもならない。

社会の草食系である。

「草むしりと皿洗い」

とはいえ、ピアノを弾くことは、私の仕事なのである。

弾きたくない、コンサート、面倒、などど、いいながらも、仕事だから、やるしかない。
やることは、きちんとやるしかない。

ありゃ、だから、草むしりと皿洗い。

もう何もない無我の境地なのだ。

本当に、社会との接点はゼロ次元。

だから、芸術以上に、素晴らしいのだ。

ところで、タンポポ。

だんだん、私のシークレットガーデンに、可憐な姿をいいことに、蔓延って来た。

芝生なのか、タンポポなのか、判別が付かなくなって来る。むむむむむっ。

喋る、じゃない、ブルーのシャベルで、「根こそぎ」、抜いちゃったよ。

私が、毎朝、あさすすんぶん(朝日新聞)を読むように読む、ひとつのブログがある。

どうして発見したのか、今となっては記憶が定かではない(たぶん、注目記事の欄だったかも)。ひとつの記事を読んだ。生き生きした「だらだら」(ご本人の弁)ブログだった(で、たぶん、皆さんは、それほど、やらないと思うバックナンバーを貪り読んだ)。

私の「だらだら」とは違い(裏表現)、その方の「だらだら」は、生き生きしていた。この技術は大変に難儀である。

うにゃ、そうでは、ねえーべっ。
ブログの技術なのではなくて、
その方の、生きる様が、そのまま出ている。

私は、この「生き生き」が大好きだ。
感覚系即興ブログである(独断)。これは、ずばり、フリージャズである。

生きて、積み重ねているもの以外は、「本番」では、出てこないことを、私は知っている。
「努力」とは違うんだけど。「練習」は、多少はいるけど。

そうではなくて、その人そのものの「生きてきた、生きている、時間」なのだと思う。
「世界分析力」だ。

これは、老若男女、まったく関係がないインテリジェントなのである。
もう、堂々と、鳥瞰目線で書いてしまう。このインテリジェントを持っている人、あまり、いないのである(なんか、私が持っているといいだけ、だよな。ご判断は、お任せ、ね。るっせー、持ってんだって！俺)。

真面目といい加減。切羽詰まっていながら、どこか、おちゃらけ。泣きながら笑っている。
根性とへなへな。年齢不詳。ふたつのベクトルの振幅が素晴らしい。相反するもののバランス。
これは、大変に難儀なんだけど、自由という言葉と同義である。

読者のハートを、がつつす(がちり)押さえている。

やはり、とんでもなく陳腐な結論が出てくる。

どうせ、生きてんだったら、楽しく、やろうぜっ！

ありゃ、本当に、私たちって、生きているの？

錯覚なんじゃないの？

ありゃ、右腕で左腕触ったら、あったけど、これって、本当に、自分の腕なの？

おわあ——、また、詩神のお出ましだっ！

で、私はジュリエットに一目会いたくて、窓に梯子を掛けた。

ひいひいいいながら、高い梯子を上った。「ジュリエットっ！」と声を掛けた。

割烹着姿でたこ焼きを食べているおばちゃんが立っていた(フィクションです。ご容赦のほど)。

私は、蛙の格好で、梯子を滑り降りた。

追伸

すぐに、復活する執筆欲。

なんだか、一日、ピアノと格闘していると、肩こりが酷いというより、頭こりが酷く、うんだば、ブログでも(この、「でも」。すでに、上から目線)、書くかあー、となる。とはいえ、頭の中の、言葉の犇き(ひしめき)は、すでに、ない。音のみ。

和音の分析を終わり、晩酌。安赤ワイン。

いやあー、辛気臭い、物書きは、などといいながら、これを書いている。

いいじゃん、戯言で。生きてんだから、ね。

でも、言葉の犇きなしの言葉は、やはり、つまらないから、吉岡(実)さんの、「究極の犇きの分析」を、ピアノの合間にやろうと思ってます。で、つまらないから、このブロガーさんのブログをお読み下さい、ね。私は、日課になりました。

2012.11.11 Sun

考えてみたら、私のブログ、もともと大仰な文学的な意図なんてものがあるわけではない。

そして、換金するという意味の営利もない。ただし、芸人の自己PRだから、営利的下心は、当然ある(正直者は、馬鹿を見ないのだ。本当)。けど、高々知れている、私の思惑なんぞは。だってね、売れないのだ、なに、やってもよおー。しくしく。でも、いいのですよ、「熱狂的な」ファンの方々に支えられているのです。吉岡(実)さんと、この部分では、堂々と、同じなのだ。本当に、ありがたい。めそめそ。だれか、絵文字、教えてくれって！

で、今、下書きを整理し、読み返してみたけれど、なんか、面白くない。やはり、脳が音に侵食されているから、言葉がスイングしていない。じゃ、書くの止めればいいんじゃないの？となるが、やはり、「巨人の星」を読みながら育った世代。安易に始めたことを放り出すのは、どこか抵抗がある。そういう世代なんだろうね。根性。俺は、好きだ。ありゃ、「俺」が出たよ。一人称、難しいのだ、日本語。なんとかしてくれっ、て、アメリカ人が言っていた。分かる、その気持ち。日本語も、日本人も、ちょおーと、複雑過ぎかもね。深読みは、健康に良くないです。

でだ、「エッセイと随筆の違い」というのを、インターネットで調べてみた。

やはり、曖昧模糊としているが、ひとつだけ、あるブロガーさんの記事が参考になった。出展は明記しないが、簡単にまとめると、

エッセイ 自分の思ったことを書く

随筆 実際にあったことを書く

と書かれていた。ということは、大抵は、このふたつに跨っているから、どっちと分類するのは難しいということになる。

ついでに、出てきたデータ。

世界のブログ人口。総数は判然としないが、その内、日本語で書かれているものが37%。英語のそれが36%。もの凄いパーセンテージが出てきた。それから、日本語のブログで、月一回以上更新されているものが、推定300万。やはり、日本国、日本人の中に、枕草子の伝統が息衝いている。

物を書いて、自分の立ち位置。自分の中のもやっとしたものを、客観視して整理することは悪いことではない。たぶん、私は、随時、同じ作業を、ピアノでやっているのだろう。ただし、ピアノ、絵画とかは、多少の基礎知識と技術がいる。物を書くこと、当然、こちらも同じではある

けれど、読み書きというベース自体は、すでに、ほぼ全員が持っている。少し、ピアノ、絵画とは事情が違う。でも、逆に考えると、物を書く方が、高等技術がいるとも言える。皆、出来ることで、芸術するのだよ、半端じゃないよって。

あっ、それから大事なことを忘れていた。

エッセイ、随筆ともに、「自由な形式で」と書かれていた。

ということは、本当に、「つれづれ」で構わないということになる。

徒然。つれづれ。意味をきちんと調べてごらんなさいな、お若いの。

超いかした日本語だよ。こんな素晴らしい言葉は、フランス語にはないのである。

本当に、溜息。素晴らしい。日本語。

そうか、やはり、そんなに気張る必要はなかったのである。

たとえ、私のブログが「面白くなく」ても、一向に構わないのだ。

でも、またまた、私の馬鹿頭が作動し始める。

「よおーし、究極的に面白くないブログ。やってみっかあーし！」

これはこれで、大変に難しい気がする。

だって、書き手自身が、まず、面白くない人生を送り、面白くない人物を体現せねばならない。そんな人生、人物は存在しない。でも、なんか、気合入れて、やってみたいのです。馬鹿じゃないの？いやー、五十半ばのおっさんらしい、ウンチクのあるさり気ないブログ。こっちにするかしら。そうなると、ブログのタイトルも、土鍋日記とか、蒲公英の葉についての考察とか、紅葉とは、こんな感じにしないといけない。ちょっと、考える。振りだけ。

でも、脳内シンコペーション停止。そうなると、このつれづれが一番いい。無理がないのだ。

その代わりに、ピアノは、凄いのだよ、本当。数日で、相当、良くなった。

2012.11.12 Mon

つまらない

つまらないブログの作成に、着手した。

で、すべてが、つまらなくなってしまった。

これが、行き着くと、おわあ————、分かるでしょ。

唯一、興味のあることを列記してみる。

ピアノ

仕事とはいえ、そんなに簡単に「飽きる」なんちゅう次元ではない、私の場合は深い深い意味があるのである。まっ、深いって言っても、大した深さじゃないよ地球の、直径ぐらい、ね

草むしりと皿洗い

楽しくてしょうがない

無我の境地で、素晴らしいのだ

スーパーの買い物

もう、うるうるしてしまう。生き甲斐である

人間観察

私も含めて、面白い。本当に、「我々が」、地球を破壊している

馬鹿な動物。そして、やはり、ソクラテスという、私のお友達の言説は、しみじみ、正解。「馬鹿であることを認識している方が、まだ、ましじゃん」と、ありゃ？何年前

？に、買取るじゃない、書いている。三千年、四千年掛かって(いい加減な年記)、なんにも、我々は変わってないわけ。これって、超絶的、カタストロフィー的な馬鹿だ本当に？裕先生「だけ」じゃないの？うーん、分からない。そうかもしれない、すいません。一括りにしてしまっているの、あなたっ！分からない。大体、五十年以上生きてきて、「後退」しているのである、私は

紅葉を見ていると、心が高揚するというオジギャクなんて言わせない。

本当だから。その意味は、バックナンバー、読んで頂戴。タイトル、忘れた、けど。

なんだよー、十分じゃん。これで。

ネタがないなんちゅうやつ、贅沢なんだって！

あらまっ、二日ぐらいの沈滞で、シンコペ、戻ってんじゃん。
しくしく、やっぱ、俺って馬鹿(優秀)だ。裏謙虚、裏謙虚。
その内、検挙。おーーー、怖っ。もう、読者数は、限定にしよう。

2012.11.12 Mon

在庫整理

頭の中が、音だけになってしまっていることは、何度か書いた。

そして、物を書きたい気がしないことも、何度か書いた。

そして、書きたくないから、下書き状態の原稿の整理をしている。

少しずつ在庫整理をして、在庫が後、二篇のみ。

風前の灯(なんか、物凄く実感のこもった日本語)である。

その状態で、我が家の展望台のようなサロンの窓から、紅葉を楽しんでいる。

どうかな？つまらないでしょ？結構、難しいのだ。なんで、こういうことに気合入れているのか？

なんとしてでも、つまらないものを書くとしたのである。やはり、難しいのだ。

どうです、ここまで？つまらないでしょ？つまらないと言ってくれっ！

ところで、他人に厳しい人というのは、やはり、いる。突然、話題が変わるのである。

で、私は、まったくの逆。たとえば、私は、比較的几帳面であるが、私以外の人のズボラだの、ダラシナサとか、まったく気にならないのである。非常にいい性格である。むしろ、周りが、多少ダラシナイぐらいでないと、私の「出番」がなくなってしまうので、逆に、喜んでいる節もある。要は、自分と同じような人ばかりでは、私自身が困るのである。

それと、人の悪いところ。自分の悪いところも含めて、あまり、興味がない。

もしかすると、自分も含めて、人間に興味がないのかもしれない。人間観察が楽しいだのと、嘘八百を書いてしまった。

どうかな？つまらなかったでしょ？

ところで、また、話が変わる。

例によってYouTubeで、ローラの番組を見捲くり、色々弄っていたら、World Orderというダンスユニットが出てきた。あまりに素晴らしく、目がうるうるしてしまった。なんか、久しぶりに世界目線の日本の若い世代を見て、熱くなった。もう、無闇とミュージっちゃんは応援するのみ。彼らの動画を見捲くり(なんと、総再生回数1300万回！だれかさん(えっ、俺?)のとは、格段に違う)、最後にリーダーの須藤元気さんのインタビューが出てきた。もう、あまりに素晴らしい人なので、またまた、うるうる。「モチベーション？そうですね、モテたいんです」「オリジナルなことをやっているのではなくて、すでに、存在しているものを、僕なりのマーケティングで良いとこ取りして、組み合わせた。こんな感じです」。実に、面白い人だ。大変に謙虚でもある。ローラ、須藤さん、彼らのことは、また、改めて書こう。

それで、この「マーケティング」。本来なら、芸人の端くれである私も、多少は、やらなければならないのではあるが、いかんせん、出不精、社会情勢に疎い、モチベーションは須藤さんと同じではあるが、才能とパワーがない。籠り症。金銭欲、名声欲、諸々の欲がない。粗食に強いので、ハングリー精神もない。だめだこりゃ、勝負にならん。やはり、勝ち組にならない、なれない原因は明白である。

で、今、思い付いた。自然体のマーケティングがあったのである。

「イケメン(シニア)なのに、超つまらない人」

これは、栗原類君の、二番煎じを狙っている

「もう、病み付きになるぐらい、つまらないブログ」

これは、駄目かしら？一日、一回、もう、読まないと気が済まない。で、読む。ああ——、つまらない、と、納得する。そして、いつもいつもつまらない内容に、皆で安心する

よお——し、マーケティング、完了。

2012.11.13 Tue

フラフープ

もう、一文字たりとも書けなくなった。下書きの在庫も、後、二篇と迫ってきた。一時期は、無内容とはいえ、週間更新回数11.8回を誇っていた。当時の健筆が、今となっては懐かしい。このまま、伝説の(?!)超無内容ブロガーとして、消え行く運命なのかもしれない。あまりにも、紅葉の葉っぱに入れ込み過ぎた。私自身が、同化してしまったのである。と改行なしで五行も書いている。嘔吐きっ！

「最後のあがき」

もう、一文字たりとも書けなくなったので、つまらないブログ作成の練習を試みる。

「フラフープ」

フラフープは、丸い。(いい感じだ)。私はフラフープを腰にぶら下げて、回してみた。ふらふらした。(いい感じ)。回している内に、私は、ブラジル人のような、サンバ尻がないので、床に落ちた。(いい感じ)。もう一度、試してみる。回している内に、フラフープの動きが止まり、私が、回り出した。

「背広」

須藤元気は、背広が似合う。

背広の似合う日本人男性は、稀である。体躯が貧弱な上に、大体、背広というものは、日本の正装ではないからである。彼のマーケティング。「西欧人が見た日本人(男性)のイメージは、皆、背広姿。同じ格好。画一化したロボットみたいな動き。それを逆手に取りました」「格闘家の音楽。日本では相手にされないと思いました。最初から海外のマーケットで勝負しようと思いました」「今は、YouTubeの動画のようなメディアがあるので、まず、それでプロモートをやってみました」。

一昔前(三十年前ぐらい)。

海外、西欧世界の白人が見た、我々、日本人男性のイメージは、ちび、出っ歯、ニコンのカメラ。そして、鼠色のスーツと画一化した人格。本来は、そうではない。が、そのように映っていた。フランスのコメディ映画にも、しばしば、「この日本人」が出てきた。

皆、同じ服装。へこへこお辞儀。そういえば、私が、日本の新幹線(東京---大阪)の車内にて、見た光景。忘れられない。私は、ワゴンの一番前の席に座っていた。トイレは、ワゴンの後方である。立ち上り、後方を振り返り、少し、ぎょっとした。私以外、皆、鼠色の背広。ネクタイは、多

少の好みが出ていた。白いシャツ。黒縁のメガネ。今から、丁度、二十五年前の光景である。

トイレから、自分の席に戻る間、ワールドオーダーそっくりの男達を読んでいるものを、さり気なく覗いてみた。週刊誌のグラビア。「アイドル水着特集」を、皆、読んでいた。

2012年。もちろん、そんなことはない。随分、変わった。

実際に、そうではあるけれど、須藤さんのお話を聞いていると、西欧人に映るイメージは、今以て同じということになってしまう。こちらの人々の意識は変わっていないということになる。

でも、須藤元気のこの背広姿。この世界元気。彼のような人物が、こちらの人々の意識に風穴を開けるだろう。

2012.11.14 Wed

フリージャズ

下書き在庫(しかも、推敲済みなのだ)が、あと、二篇。「文通妾」「吉岡実2」。
これを、放出してしまうと、私のブログもお仕舞いになってしまう。
だから、万が一、私の馬鹿頭の機能に、なんらかの問題が起きた時用に、とっておく。
などと、勿体ぶっている。突然、馬鹿頭が治ってしまったりしたら、ネタ切れになる。
しかし、毎日、および、定期的に更新なさっているブロガーさんたち、素晴らしいです。
気構え、前向き、やはり、実際に実行するのは、大変に、難しいので、脱帽です。

二日前に、佐藤真(ドラムス)師匠から、先日のライブ録音を送られてきた。真師匠のファンの方の録音。演奏前に、彼は、きちんと、我々の承諾を取りに来たので、二つ返事でOK。

で、バビロという老舗ジャズクラブ。ステージに向かって、左側にピアノがあるのだけれど、ヤマハU1。んで、ステージが、ピアノの向こう側になるから、座っているドラムスの真師匠が見えない。まったくの、座頭市状態となる。もちろん、息遣い、声、音は、聴こえて来るが、動きの間が見えない。やや、やり難い。

で、ステージの上で聴いた音と録音された音。毎回、大分、感じが違う。
弾きながら、自分の音、もちろん、聴いている。当然、パートナーの音も聴いている。ただし、当事者だから、ステージの外で、客観的に聴いている音とは違う。

で、今回、相当、余裕たっぷり、リラックスして弾いた。ほとんど、演奏中に、微笑みまで出ているのである。で、聴いた録音。仰け反った！真師匠の力量、煽りのせいも多分にある。それでも、この気迫、パワー、スピード。自分で自分にお辞儀してしまった。

私は、二重人格としか思えない。

スーパー、草むしり、皿洗いと、大変に地味な暮らしをしているのに、このライブの気迫は、別人としか思えない。ちょっと、自分でも怖い。

フリージャズ、たぶん、お聴かれになられている方は、皆無に近いと思う。

それでも、なんの打ち合わせもなく、楽器を仲介して、長時間、人様の前で、ほざいたり、ののしりあったり、優しくなったり、ムカついてどついたり、また、優しくなったり、褒めたり、罵倒したり、にやろめえー、んちきしょう、シンバルっ、マツハ3、どうだっ、なんのなんのおー、にやろにやろおー、受けて立ってやるうー、バスドラ(バスドラム)、にやろめえー、いえええええー、うぐぐっ、んちきしょうおー.....。卑猥な単語の羅列.....。

もう、ほとんど、人間社会の縮図である。

で、演奏終了。汗びしょびしょ。ビールを飲みながら、「いやぁ————、気持ち、よかったね」。これほど、アホで爽やかな人種はいない。

2012.11.15 Thu

日本とフランス

日本とフランス。単純比較すると、

「面積」 フランス、日本の約1.67倍。平地が非常に多いから、宅地面積の比較は分からない
旧植民地、現在フランス領の国々を含めると、さらに大きくなる

「人口」 フランス、日本の約半分

「GDP」 フランス、日本の約半分

と、ここまで書いて、人口とGDPを見ると、「一人頭の生産量」は、算数上は同じとなる。週三十五時間勤務。残業なし。年間五週間のバカンス。それで、同じとなると、日本の働き蜂の方々には、大変に申し訳ない計算がなりたってしまう。フランス人の方が、効率がいいとなる。

インターネットを見ていたら、「フランス人と日本女性の違い」というのが出てきて、その中に、

「フランス人女性はぶりっこしない」

なんだか、もう、当たり前になっているので気が付かなかった。確かに、田中みな実さんみたいなのはいない。ローラみたいなのもいない。迂闊だった。本当にいない

「フランス人女性は気が強い」

これは人によるけど、ちょっと、ずれるけど、フランスに痴漢はいないのだ、本当に。たぶん、串刺しにされるから、出来ないのだろう。分からんけど、確かに、いない

「フランス人女性は自分の意見をはっきり言う」

これは、別に男女の問題ではなく、フランス人全員がそうだし、そうしないと、生きていけない。パリの超高度な縦列駐車テクニックと同じで、それが出来ないと、敗者になってしまう。生きていけないのである

と、一見、フランス人女性の方が、日本人女性より進んでいるとか偉いみたいな印象。なんのなんの、絶対にそんなことはない。私の独断では、日本人女性の方が、「格段に上」を行っている。私は、フランス人女性と話したりしている方が、ずっと、楽である。はっきりしているし、男女同権が徹底しているから、変な遠慮もいらぬし、レディーファーストは厳守だから、もうなにがなんでも、男性が下になる。分かりやすいのだ。

日本女性。細かく書くと、ちょっと、怖いので、一言。

なにせ、「女子アナを生む土壌」。半端じゃない。

2012.11.16 Fri

もう、思い付くことを、片っ端から書く。いきなり、ちょっと自慢してしまう。私の無内容ブログ。今、見てたら、一つだけ、良いところがある。私にとってだけ。もう、アホなぐらいテンプレートがシンプル。字も大きいから、シニアに超優しい。ちょっと、逆にオリジナルな感じだ。レトロ、手焼きせんべいブログ。下町ブログ。で、ブログ比較というのを見てみたら、FC2だったかな、これが、一番のような記事が複数あった。私のブログも引越しして、もう少し、ミュージシャンらしい派手な感じにしようかしらなど、二秒ぐらい考えたが、用語が分からん。トラックバックだのRSS、なんのことか分からないので、やっぱ、現状維持。それより、そろそろ、YouTubeの動画更新始めようかしら、ね。ワールドオーダーの影響じゃないんだけど、次の動画は、公の場で撮影予定なのです。まあ、ジャズクラブに頼めば、すぐ、作れるのではあるが、なんか、畑の中とか、どっかのお城の中とか、たぶん、ここからは、ワールドオーダーの影響なんだろう、私自身が気に入っているリズムックスシリーズ。この電子音楽を、多少、蔓延させてみたいのである。

今晚は、久しぶりに、旧知の舞踏家、財津暁平(ざいつぎょうへい)のパフォーマンスを見に行く。動画に、この天才舞踏家を登場させる手もあるな。彼に会った経緯は、もう、思い出せない。当時、私はリヨンに住んでいた。財津さんは、私と共演するたびに、パリから出向いてきた。そろそろ来るだろうと、私は3階のアパートの窓から通りを見ていた。つるつる頭、眉毛なしの財津さんが、遠くから歩いて来る。なんと、背中に縄で括り付けた布団を背負っていた。パリから、当然、その姿でいらしたのだ。仰け反った！この天才、夜道でばったりは、超怖い。どうみても、宇宙人にしか見えないし、たぶん、彼は、本当に宇宙人なのだと思っている。そして、リヨンの大きなシアターでの共演。私がアップライトピアノと共に、ステージのど真ん中。スポットライト。財津さん、ステージ、右後方。布団の中で、裸で寝ていた。少しずつ、むくむくと、つるつる頭、眉毛なし、白ふんどし、全身白塗りの財津さんが、起き上がってきた。私は、演奏しながら、うるうるしていたのである。なんとも泣ける。後にも先にも、こんなでかいシアターで演奏したことはないのだけれど、客席が真っ暗で、お客様の顔がまったく見えない。夜の海の砂浜で演奏している感じで、気持ち良かった。

考えてみると、私の住んでいる小さな町。住み始めて、二十年近く経つのに、町並みがほとんど変わっていない。某有名な画家の作品の中に何度も描かれている。百年以上前の風景。通りが舗装されただけで、ほとんど変わっていない。だから、多分、百年後の風景も、容易に想像することができる。新興住宅地も、良く見ると、結構建ってはいるのだけれども、実にうまく、元の町並みに溶け込んでいて、注意していないと分からない。先日も、歯医者さんを探していて、裏庭みたいなところに迷い込んだ。びっくりした。いつの間にか、マンション郡が、本通りの裏側に建っていた。これだけ風景が変わらないと、田村(隆一)さんの以前に書いた詩の中の一行「時が過ぎるのではない。人が過ぎるのだ」。この一行が、日毎、実感として迫ってくる。日本の町

並み、しょっちゅう変わっていて、たまに帰国して、東京のどこどこでなんて待ち合わせ。駅を出る。目印にするつもりビルがなかったり、まったく、別の建物になっていたり、この町のダイナミズム、活力は素晴らしい。どちらが良いのか、私には分からない。ただ、半永久的に建てられる石の建物の中に住んでいる、この安心感は、確かにある。私の小さな家も、堅牢な雨戸を閉めると、ひとつの城塞に変身する。この城塞感。やはり、ヨーロッパに住んでいることの、真相が、この建物の構造の中に、如実に出ている。

2012.11.17 Sat

エビリーヌおば様

エビリーヌおば様。フランス民放テレビTF1の、超人気天気予報キャスター。

おば様なんぞと書くと、本当におばさん臭いが、エビリーヌさん。たぶん、フランスで、もっともセクシーな方。御年は六十歳ないし、もう少し。

もともと、大変な美女で、現在のプロポーション、完璧である。

絶対に、毎日、切磋琢磨しているはずである。

タイトスカートから伸びる御足、大変に美しい。

彼女、下手をすると、私より十歳ぐらい上の方である。

あまりの美女、および、脚線美。

問題は、毎晩、天気予報。天気の方は、それこそノ一気分で、彼女の脚線美ばかりを見てしまう。結局、「ありゃ、明日、雨だっけか？」となり、なにを見るためにテレビを付けているのか、まったく分からない。そういう意味では、ミスキャストではあるが、視聴率はダントツ。

その十歳近く若い私の方は、

これ全身、ぷよぷよ状態である。

一応、人様にお見せできる部分は、顔。輪郭が怪しげだ。

それと、唯一の私のセックスシンボル。肘から下の腕の部分。

これは、ピアノで鍛え抜かれている。ここだけ、筋肉むくむくなのである。

結局、ピアノを選んで良かったよ。

顔と、手、と、腕。これ以外は、意図がない限り、社会には見えない。

やったね。

顔は、隠しようがないけれど、この腕のセクシー。これは、計算外。

たまたま、見える部分を間接的に、私は鍛えていたのです。やはり、ピアノ様様だ。

しかも、指先刺激でボケないのだよ。はっきり、腐れ頭がさらにボケ。ちょっと、アルプスの少女、廃人だよな。

そんなことは、どうでも、いいんだけど、エビリーヌさんの、この超絶美形は素晴らしい。若い娘さん方も、溜息付いているはずである。

で、そうではなくて、わたくしが書きたいことは、ちょっと、ずれる。

「別に、私は、若い頃に戻りたいなんて思わない」ということ。じっちゃん、とっつあん、おっ

さんになると、心が駱駝。

自意識がない、楽チンだよ。人からどう見えるか？見えるようにしか見えない。

社会的な野心がない。あるのは、極私的な向上心のみ。社会とは関係ない。こういうのは、野心とは呼ばない。

もう、すべてに中立。毒舌系のお笑い芸人さん、お疲れ様です。凄まじい体力と心力だ。人の悪口は、200%ぐらいの勢いで、自分に返って来る。しかも、テレビでだ。千倍返しだろう。偉いと思う。本当に。マツコさん始め、ちょっと、うるうるしています。大した人たちだと思う。

あと、一番肝心な性欲減退ね。本人が、一番、楽だ。生殖、繁殖欲がないからエロティシズムという文学的な性欲しかないのだよな。脳とOOOが、優しく直結したわけだ。喧嘩しないんだ、このお二人が。

ところで、例によって、ここまでが前置きなの。

私のお気に入りブロガーさんのひとり。って言うてもお二人の内のひとり。

私より遙か彼方ぐらい若い。私の人生の三分の一強の年齢である。

私と、ほとんど、同時期にブログデビュー。当初はご近所。面白そうなので読んで、病み付き。二ヵ月後、私の目に狂いはなかった。人気ブロガーになってしまった。なんだか、本当に嬉しいのだ。鼻根がどんどん偉くなるのは、取り巻きの醍醐味だよな。

で、晩酌しながら、毎日じゃないけど、時々、コメント。おっさん目線というより、父ちゃん目線。こんな鬱陶しいコメントにも、毎々、律儀にご返信を頂きました。しかも、ブログの中で、私の超無内容ブログを紹介までして頂いちゃった！ありがとなあー。悪いなあー、イメージ、崩れんじゃないの、こんなブログ、紹介して。本当に、深謝。でも、ちょっと、ごめん、ね。「シンコペーション」だよ。

で、私のブログへのコメントに、「辛口(そんなことないよ。でも、ちょっとは、そうかな)。ブログというより、ご本人の声が聞こえるようです(やったね、もともと、このブログのタイトルは、筆トークだから、お話ししているわけね。一応、文体設定は、成功したわけだ)」。

でも、そのブロガーさんのは、エッチで詩的で切羽詰まっていて、真摯で、真面目で、若い。諸々が、轟いている。しかも、とても文学的な轟き。絶対に、大成するはず。ありがとう、本当に。毎日、アホのようにクリックしてんだ、わたくし。

2012.11.18 Sun

ブログの順位

実を言うと、私が読むブログ、ふたつしかない。大変に、気に入っている。
私は、そんなに偏屈な人間ではない。私のブログをお読み頂ければ、諸、分かると思う。
心のスイス人。すべてに中立。

大体、私は、まったく本を読まない人間になってしまった。ブログも含めて、活字を読まない。
唯一、地図見るのは好きだ。後は、風景見ている感じ。音楽も聴かない。静寂も含めて、私の周
りの音を聞いているだけ。

ちょっと、はっきり、若い時に読み過ぎて、若老人、栗原類君だったから、逆噴射で、おっさん
になってから元気、ポジーちゃんになったわけね。

博識博識、ばらしちゃう(大したことないけど)。若い頃=アホになる前の読書遍歴と女(こっちは、
有料です)。

アンリ ピエール ドゥ マンディアアルグ 究極のエロティシズム小説

ガストン バシュラール 哲学者 構造主義

ロラン バルト 哲学者 構造主義

ビイドゲン シュタイン 哲学者 二十世紀哲学の祖

レイモン ルッセル 言語実験をした、たぶん、世界初の作家

アルフレッド ジャリ 現代小説の祖

マルキ ド サド ご存知の通り、サディズムという言葉は彼の名前から

ザッヘル マゾッホ これは意外と知られていない、マゾヒズムというのは彼の名前から

これ以上書くと、インテリばればなので、止めます。

日本人では、

富岡多恵子(大ファン。詩人、観念小説の大家と思う)深沢七郎(虚無の深遠を小説化した、世界唯一
の作家)沼昭三(マゾヒズム小説の世界最高峰)澁澤龍彦(博識というのは、彼のことで、フランス
文学案内は、すべて彼の書物から)三島由紀夫(私には、その生き様が、なんとも切ない。世界最高
峰の小説家のひとり。私の未完の美術作品に「金閣寺のための金閣寺」というのがある)吉岡実(な
んどか書いた通りです)田村隆一(私のエッセイの師匠に当たる。詩人以上に、素晴らしい、スイン
グエッセストです)金子光春(敬愛してやまない大詩人)大岡信(日本文学の良心であり、司令塔)入沢
康夫(日本語での言語実験の先駆者)伊藤比呂美(現代詩に新しい形を構築)井坂洋子(伊藤さんと同
じく、現代詩に新しいスタイルを導入した方です)

すいません、ぱっと、思い付く範囲だと、こんな感じです。

毎日、三冊ぐらい本を読んでいたので、たぶん、何千冊と読んでしまった、若い頃に。
で、十九歳ぐらいで、精神年齢が、百二十歳ぐらいになってしまったわけ。で、なんだっけ、アメリカ映画のブラッドピットの出ているやつ。じーちゃんとして生まれて、段々、若返る映画。

はっきり、そのまんまじゃん。

で、この何千冊の読書。役に立ったのか？

まず、ブログ書くのに役には立っている。

その前に、やはり、この精神の中立国の形成に、大変大変、役に立った。

でも、商売には、全然だったよ、マジで。

ありゃ、タイトルとずれ過ぎ。

んで、このブログの順位ね。

まず、俺のは、ちょっと、行き過ぎだね、村の方は。もうひとつの方ぐらいが、順当。

目標！百位っ！こういう人には、ちょっと、勿体無い。栗原類だ、こういう言い方。

でも、裏不満じゃなくて、本当にいいのだよ、「熱狂的なファン」。俺は、こっちの方が好きなんだよな。数じゃないわけ。商売人としては、まあ、どうしようもないけど、こういう性格。

で、俺の好きな二人のブロガーさん。

意外と、俺は、文章には煩いし、はっきり、超偏屈。大体、先に書いたとおり、活字を読まない。その俺が読んでいる。

で、その俺が気に入っているブログ。人気ブログなのである。

めでたし、めでたし。やはり、なんか、嬉しいの。

なんか人の自慢して、俺は、盛り上がる傾向があるのだ。

応援に向いているのかもしれん。

2012.11.19 Mon

芸術家

なんか、大変に重々しいタイトル。

私のブログの右側のプロフィールをご覧ください、「所謂、芸術家」である。

ただし、三文芸人、三文芸術家である。今更、否定のしようがない。

で、まだ、三文芸人は、味わいという逃げ場があるが、三文芸術家、こっちは、粗大ごみ。

では、芸人はさておき、芸術家とはなんぞや、という話をしよう。

「私にとっての芸術家」

きっぱりと、自由であること。以上。

ありゃ、終わっちゃった、よ。これじゃ、つまんねえーよなって。

で、続けよう。

1) 芸術家は、天才ないし、一流であること

だって、人間の歴史および視点、世界観を変えるのだよ。半端なことじゃないの一番、分かり易いのは、マルセル デュシャンだろう。表史は、ピカソが有名だけど、このデュシャンという超知能は、美術の歴史を根底から変えた。その内、ちゃんと書くけど、ご興味ある方は、各自で嵌って下さい。難解だよー。と、芸術家ってのは、これぐらいの人間を指すちょっと、分かり難いから「遠近法」。これは、ダヴィンチが発明したんだけど、我々の視覚にこれがインプットされてしまったから、風景が、そういう風に見えるようになった。全人類の視覚のメカニズムを変えてしまったのである。こっちの方が、分かり易いはず

2) 芸術家は、自由人である。というより、自由であるがために、芸術しているから、派閥争いだの、嫉妬だの、ぐちゃぐちゃやっている芸術家というのは、存在し過ぎているけれど、だから、芸術家ではない。ふざけているし、本末転倒。芸人の世界と一緒にしないで欲しい。こっちは、いいんだよ、それで。芸人は庶民の代表だ。でも、芸術家は、論外。崇高な人間を指す

3) 分かり難い説明。たとえば、いいですか、ピアノを弾いていることが芸術じゃないのね。分かります？たとえば、ありゃ、また、おフランス、ごめんなさい、エクリバン(作家)とロマンシエール(小説家)、これは、きっぱり分かれています。日本はロマンシエールの巣窟。芸術家とは、前者を指す

因みに、日本の小説家で、じゃ、だれが芸術家なの？ってなる。たとえば、三島由紀夫は、私見では、世界最高峰のロマンシエールのひとり。むしろ、人生自体が芸術になってしまった特異な人物である。

深沢七郎。脱帽である。芸術家だし、一切の後続がない。唯一、富岡多恵子さんが、その知力で迫った。以上なのだ。大体、生きている人間が、人間自体を風景として見る。人間主体の世界観と、真っ向から対立している。これは、もう、上から目線、なんちゅう流行語を越えている。おちゃらけが、あまりに多過ぎる。ぎょ、俺もだ。すいません。自分に謝る。

芸術を舐めてはいけませんよ、取り分け、自称する覚悟は、途轍もなく重い。

自由であるということは、社会的な位置がそうであることではない。そんなものは、ない。気持ち、内面、心、なんでもいいんだけど、こっちが自由であればいいから、安上がりだよ。すべて、否定しない。嫌いなものは、それでいいんだけど、たとえば、ラップは音楽じゃない。何様だって、人間じゃないっていつているのと同じことだ。好き嫌いはいい。ただ、音楽じゃない。そういう定義をする人間は.....。

なんだか、偉そうだよな、俺よおー。

と、昨日、ここまで書いて、今、再読。論理矛盾している。

芸術家=歴史を変える人

芸術家=心の自由人

算数上は、この二つがないと駄目となる。で、前者は、途轍もない作業だし、学問の世界と同じで、生物学的には、二十代で、その芸術論は確立していないといけない。で、まったく新しいものを作り出すには、心の自由人でないと不可能であるから、当然、前者は後者を兼ね備えている。おええー、じゃ、たとえばだ、後者だけだとなんなんだ？前者を、自動的に兼ね備えていない。分からない。けど、これだけでも本人自体の人生は、相当、変わる。

そうか、また、自分に戻ってくる。心の自由な三文芸人。おおー、庶民の代表だっ！

なんだか長くなるけど、たとえば、俺のピアノ。山下洋輔さんを超えてなんかいないから、諸、二番煎じx10みたいな程度である。だから、ピアノ弾きだけど、山下さんみたいな芸術家ではない。でも、それを知ってやっているから、まあ、心は自由だ。その方が、楽しいのである。

なんか良く分からん結論。

2012.11.20 Tue

ピアノの練習

おっさんになると、新しい技術の習得といったものが、超面倒になってくる。

とりあえず、あるものでなんとかお茶を濁したい。もういいや、こんなもんで、と、すぐ、なる。

で、あんまり周りから、進歩がない、マンネリだと言われると、臍を曲げて、自室じゃなく、自庭に引き籠もり、不貞腐れて、草筆りをする。なんだか、スーパーのお惣菜、および、冷凍食品、簡単クッキングに似ている。うん、今日のコンサート、これでいいや。冷凍蟹クリームコロッケ。早めに解凍しとこっと。なんてやっている、お客様にいずれ見放されてしまうのである。

二週間前に、私の師匠、沖至(トランペット)から、愛情溢れるシビアなメールが届いた。イサオのいいところと悪いところ。

「いいところ」

とにかく、指が良く動く。低音の響きが美しい。音の構成が大変に美しい

「悪いところ」

どうして、曲の合間におちゃらけメロディーを入れるのか。いかさない

時々、超マジな演奏中に、なんとなく照れ隠しで、猫踏んじゃったとかを入れてしまうのだ
早弾き、イサオ節シンコペーションが多過ぎる。十六分音符をきちんと弾け
左手、低音の動きが貧しい

最後に、せっかくの芸術を、自分で壊そうとする。これは理解に苦しむ

お前の本来の持ち味は、実に芸術的な演奏をすること。おちゃらけピアニストではない
初心に帰れ

沖師匠のアドバイス。

どきり、どころではなく、ずばりなのである。そして、このブログにも、「それ」は当てはまっている。私の脳欠陥。凶星である。やはり、師匠は恐ろしい。

昔、某出版社の編集の方に、半分いい意味、半分辟易という意味で、「しかし、裕さんの私私私私私、このオンパレードのパワーと筆力は、凄過ぎて、辟易しますね」って、言われた。当時、三十代だったから、結構、むっとして、「えっ、私って、私個人ではなく、私という一人称で呼んでいる、なにか普遍的な人物なんですけど」と答えた。「え——、分かりますけど、やはり、私私私。これは、いずれの意味でも凄いです」。

話が、股ずれ。

で、沖師匠のアドバイスは、もちろん、素直に入る。ジャズジャイアントからの直々のアドバイス。三文ピアニストの私としては、反論のしようがないのである。

和音の再分析を始めた。皆さん、ご存知だと思うのですが、ジョン コルトレーン クインテットのピアニスト、マッコイ タイナーの奏法分析を始めた。ちょっと、専門的になるけど、

左手 1 4 5 1音 右手 4 7 3音 のドリアン

左手 5 7 1 4音 右手 7 3 6音 の7th sus4 コード

ご覧の通り、両手で七音を押さえる。これを、淀みなく、凄まじいスピードで半音ずつ降りてくる練習というのをやっている。まず、分析。表を作る。まあ、格闘技の形の一覧を作り、今度は、体に覚え込ませる。

正直、しんどい。上半身、筋肉痛でへろへろである。が、すでに、師匠から言われた悪いところが、相当、改善されている。師匠のアドバイス、さすがである。

「裕さんみたいに、ピアノ弾ければなあ——」と良く言われる。

でも、努力して居るのだよ、こっちも。たとえ、人前で謙遜して、ひょうきんで、おちゃらけで、気さくな偉ぶらない、ピアニストなんて振舞ってるけど、内実は、星飛馬なんだ。辛いわ、芸人って。

しかし、自分の悪いところを指摘してくれる人物。これは大変に貴重である。そして、悪口とはまったく根底から違う。本当にありがたい。深謝。

2012.11.21 Wed

ブログ記事のタイトル

今、ぼやぁーとBloggerの閲覧数というのを見ていた。

五日前ぐらいに、実に素朴な疑問が浮かんで来て、あれ、これって自分で開いた分もカウントされてんの？この辺が、PC音痴らしい。何ヶ月もしてから気が付く。で、試しに開いて閉じた。カウントされている。なんだよぉー、自分の分まで入ってんじゃ、マーケティングにならねえーじゃん。で、設定を開いたら、あった。カウントしないように設定変更。で、やっと、読者の方の実数が把握できるようになった。

それで、なんとなく閲覧数が多い記事の共通点が浮かんで来た。

やはり、記事のタイトルの影響も相当あるように読める。たとえば、今回の記事タイトル。わざとそうした訳ではないのだが、閲覧数が多い方に分類される。

当然、書いている側とすれば、興味は湧く。

そうは言っても、その日その日の思い付きしか書かないから、なんか、戦略を練って、なにかをやるという訳でもない。単に、ふうーん、と言っているだけ。そもそも、このブログに戦略だのマーケティングなんて、なにもないのである。あっ、違うな。YouTubeの動画の再生回数は、ブログ始める前より増えている。初期の目的を達成している。めでたしめでたし。あっ、それから、ブログに添付した動画。ブログの影響なのか定かではないが、あつと言う間に、100回ぐらい再生された。芸人の自己PR=YouTube動画のプロモート。本来の趣旨が軌道に乗りつつある訳です。改めて、ご愛顧、ご愛読、ありがとうございます。

なんか、急に思い付いて、他のブログをいくつか覗いてみた。

まず、テンプレートを見してみる。もちろん、本文を読む。

いくつか開いてみたブログ。とても良く書かれていた。文章、内容共に、きちんと書かれていた。とても、重い内容をきちんとした文章で綴られていらっしゃるブロガーさん。心に沁みた。私は、散文詩系のブログが大変好きである。本当に、きちんと書かれている。

で、この、自分のブログ。

「テンプレートのデザイン」ほとんど、昭和初期

「文体」ぴょんぴょんぴょん。私、俺、わたくし、ごった混ぜ

「内容」ちゃらちゃらちゃら、ひらひらひら

ちょっと、自分で呆れている。

本当に、落語の「欲耳」風に、鼻眞目で見て、なんとか良い方にとろうとすれば、オリジナルではあるかもしれないが、なんか、やはり、すみませんという感じです。近所迷惑な気もしてし

まう。

おかしいな、俺、元々、純文学の担い手、ないし、現代詩の書き手とか言うことになってたんだけどなあー。やはり、三十五歳の時に、ピアノを再開、しかも、ジャズの習得開始。ジャズ菌に脳が侵されてしまったのである。世界全体が、ハナモゲラと転回形になってしまった。でも、一回、ジャズ菌に侵されてしまった脳の回復は絶望的なのである。ピアノの上達と反比例して、脳機能は、どんどん絶望的な方向に行くのである。ここ近々、かなり、ピアノが良くなった。おわあー、その分、脳があー.....。

おおー、脳サンキュー！

2012.11.22 Thu

鬱というもの/返礼

私は、元引き籠もり、元自閉症、現在でも、慢性鬱病である。

この原因は、私自身が一番知っている。

マルセル デュシャンのピエール カバンヌとのインタビューの最後の方に、

「人は、存在しているだけで疲れているのです」という一行が出てくる。

そうであるならば、その上に諸々の社会生活が押し掛かって来る。

この疲労度は、大変なものである。

私のブログには、スタンスが当然ある。

芸人、裕イサオという人物以外は出てこない。

インターネットの海の一隅であるブログ。

巨大な海の中に、我々個人がいる。

そして、個々人の中に、もう一つの巨大な海がある。

社会、家族、感情、怒り、感傷、友情、諸々の巨大なものがある。

この巨大なものと対峙出来るもの。内的な力しかない。

たぶん、それを支えるために、私はピアノを弾き続けている。

生きていることは、生きている人間にしか認識出来ない。

2012.11.23 Fri

今、これを書く私の右側に、詩神様とうっくん(鬱君)が座っている。

私の展望台のようなサロンから見える階下の庭。積もる落ち葉が、私の来庭を待っている。

で、私の左側の黒いピアノの譜面台に、「超絶技巧への道」という自分で作った表が乗っている。ピアノの後ろの壁に、「否阿野一筋」と書かれた掛け軸(嘘)。ソファの上のピアノシューズと演奏着が、幾分、寂しげである(嘘、そんなもん、あるかって！)。

この状況下での文体統一は、不可である。以上。

下書きばっかり落ち葉のようにパソコンの中に溜まっている。

この状況下で、公開をクリックする判断は、不可である。

昨夜の詩神様とうっくんと協議では、「ちみも、53歳だろって！ブログ自体を、それ相応のものに変えるべきである」というお二人のご意見。

仮題として、裕イサオをタイトルから削除する。ブログタイトルを「人の居ない風景」とする。

文体は、詩体に統一する。編集、監修は、詩神様とうっくんが担当する。

「あのおー、お言葉なんですが、ブログタイトルをそのようにするとですねえー、下の腰帯の紹介文も変えんといかんのですよ。あと、テンプレートも。で、でね、わたくしの右のプロフィール。これは嘘は書いていない。職業、フリージャズピアニスト。これとの離反をどうするかあつー、大問題が起きるし、ジャズ菌軍団、ジャズ神様の欠席裁判は、ちと、いかんのでは？」

「いや、ジャズ神様とは、我々が話を付けるから、あなたは、我々の管理下でお書き頂ければ結構」

階下の庭の落ち葉様たちの不満のざわめき。

「もうおー、ブログに嵌っちゃってよおー、俺たち放置。ひでえー、主人だぜって！」

ピアノ様が点目で私を見ている。無言の圧力。なぜか、掛け軸が傾いている(嘘)。

とんとんとん。「ヘエイ、メエーーン。イサオちゃんいる？」

わちゃー、ジャズ神様だっ！

さすがおフランスのジャズ神様。赤ワインのボトルを持っている。後ろにジャズ菌連中を引き連れている。

「ありゃ、詩神君とうっちゃんじゃん。だめだめ、イサオちゃんは忙しいんだから、辛気臭い話は、よして頂戴」「もう、内の子なの、そっとしといて頂戴」

「あのおー、わたくし、どうしたらいいんだべ？」

「まあまあ飲んで。大体、イサオちゃん、ちょっと、噂でね、最近、(素面で)原稿書いてるって、本当？」

ぎくっ。

「だめよおー、ジャズメンが、そんなんじゃあー、分かるでしょ！えっ？わたすの書いてやった、腰帯、腰帯。スイングスイング空振りでもスイング！百振りゃ、当たるって！（なんちゅう、アドバイス。筆者）」

「いや、社会的な責任がございましてですねえー、やはり、拙い。読者の方々へ」

「あんた、何様？イサオちゃん。ジャズ屋のおちゃらけブログ。ちみのブログの唯一のチャームポイントよ。お分かり？」

と、このような状況下で、これを書いて居ります。

でも、段々、私を除いた皆さんで、酒盛り。盛り上がって来ました。

実況中継を、この辺で、打ち切らせて頂きます。

2012.11.24 Sat

有吉さん

全然、知らなかった。こんな芸人さんがいること。

御年は、三十八歳とYouTubeの動画には書いてあった。

「毒舌芸人」。おもしろい。

ところで、と、三行しか書いていないのに、もう、すでに、話題を変えてしまう。

はっきり、書いちゃう。

「お笑い芸人が、テレビに、あまりに多過ぎる」

結局、専門職がなくなってしまう。司会業とか、これは、もともと、専門職だった。

とはいえ、タモリさんも、たけしさんも、さんまさんも、お笑い芸人でした。

もう、日本は、随分前から、そうなっちゃったのね。まあ、いいや。

はい、次。有吉さんの毒舌じゃないんだけど、

「お笑い芸人は、知能指数が、相当レベルでない限りは無理。突っ込みもボケも含めて」

この辺、なんか誤解してませんか？

「俺、勉強できねえーしよおー、会社勤めも駄目だしよおー、頭、そもそも、悪りいーしよおー」

「しゃあーない、芸人でもなるかあー」

外れです。

ある意味、芸術家以上の能力が必要である。

芸術家は、いいのだよ、それに、特化すれば。「研究者」なのである。

芸人は、そうはいかん。庶民相手に、どこまで、行けるか。超絶巨人の星の世界だって！

いやあー、頭良くないと、駄目だよ、有吉さんみたいに。

芸人、舐めちゃいかんぜって！結構、マジで怒っている。

で、有吉さん。頭の切れ味は、素晴らしい。

で、有吉さん、マツコさん、たけしさん。代表毒舌系ね、どこかが、優しい。

本当に、どっかが優しいし、金金が、どこか欠落している。どうしてかな？

凄い金持ちになっちゃったんだろうけど、実生活は、以外と皆、地味な気がする。

有吉さんの毒舌。注意深く見て、聞いていると、矛先が芸人とか、テレビに出ている連中に限定されている。彼なりに、相当、ターゲットは気を付けているのだろう。鋭い人だ。ついでに、私の大好きな桃井かおりさんと哀川翔さんのモノマネが出てきた。これは、鼻眞の人のモノマネだけど、手放しで、超面白かった。昔、タモリさんがやった寺山修司の「思想のモノマネ」に肉薄している。大したもんだ、本当。

しかし、お笑い芸人。仕事としたら、相当にしんどいだろう。

不安定な位置。いつもディレクターと視聴者と人気をちらちら。先輩後輩、たぶん、相当、きつい内部の苛めと嫉妬、足の引っ張り合い。世間からのパッシング。この泥沼から突出する。いやはや、凄いパワー。脱帽です。でも、稼ぎ半端じゃないみたいですね。いいことです。お笑い芸人が億万長者。庶民の代表だから、やはり、素敵な話である。

そして、こちら、ジャズ屋。全然、こんなことはない。

まあ、大金が絡んでないこともあるかも知れない。でも、大金を稼ぐために、ジャズメンになるやつなんて、いない。別のことしてるよ。なんか、俺たち、一種の楽器フェティッシュなんだろう。頭の中は、演奏のクオリティーで一杯である。苛めはないけど、どつきあい、足の引っ張りあいは、「演奏で」やっているから、ステージ降りると、単なる好々爺、または、助平じじー。以上なのだ。平和なんだよ、俺たち。演奏第一主義者の集団。それ以外、頭がない。まあ、禁治産者にならないスレスレのところに、音楽と楽器があるのである。

あっ、今、気が付いた。タモリさん。元ジャズメン。

ずばり、他のお笑い芸人さんとスタンスが違う。無理感がないし、ニヒルでシニックだ。ジャズ菌のせいである。

2012.11.26 Mon

昨晚、おでんの仕込みを終え、よおーし、くつつやっている間に、下書きの整理でもするか、となった。まず、結果から書きます。下書きと間違えて、11月25日にアップした「文体分裂ブログ」削除してしまった。すいません、せっかくコメントまで頂いていたのに.....。

昨晚から、詩神様とうっくん(鬱君)、ジャズ神様、ジャズ菌軍団の検索を開始したのですが、Blogger、なんか操作が複雑で、たぶん、セキュリティチェックが厳しく、色々とネットで調べた方法にて復元を試みましたが、駄目だった。しかも、超PC音痴。力尽きた。

さて、公開した記事「文体分裂ブログ」。下書きとして残っていた記事「分裂ブログ」。紛らわしいから、整理整理とやっていたら、ほらっ、いわんこっちゃない、横目で天気予報を見ながらやった。紛らわしいからと、やったのに、紛らわしいから、公開した方を削除してしまった。記事が白紙になってしまいました。もう、本当に分裂。コメント頂いたじゃずっこ様、お許し下さい。ごめんなさい。

で、当然、今日、こんな記事を書く予定はなかった。けど、人間心理は面白いもので、いざ削除してしまった後の、私の脳内リアクション.....。

- 1) 自分で大変に気に入っていた。なんか擬人化が可愛らしく、私には珍しい愛すべき記事であった
- 2) もう二度と、あんな「素晴らしい」記事は、書けないだろう
- 3) 私のブログ史上の最高傑作であった

と、現金そのもの。ちゃかちゃかっを書いて、ちらっと、推敲して、ぱっと公開。以上という、通常以上に、おちゃらけちゃんちゃんの記事だったのに、掏られた財布とおんなじで、いざ、銀河系の彼方に消えてしまうと、すぐ、こうなる。

ところで、おでんと書いたが、

里芋、ゆで卵、揚げ豆腐、中華食材店で購入できる練り物各種、椎茸、うどん。

日本食難民の知恵のような感じのおでんのことです。

こちらは、大変大変美味しかったが、えーんえーん、私の最高傑作よおーと、一晩中、うじうじ。

でもね、ほれっ、わたくし、へらへらとフランス語をしゃべり、へらへらとピアノを弾き捲くる。この身に付いたもの、技術は、だれも盗めないし、あっ、削除っ、なんてこともない。やれ

やれ。

などと、自分で納得するための結論を書いても.....。

あの、だれか、プリントしてませんか？悔しいよおーー、 「最高傑作」！

追伸

メールだったら、ゴミ箱に残っているのに、ブログは、いきなり銀河系の彼方。

Bloggerが特別なんだろうけど、ちょっと、こういう過ちもあるのにねえー。厳しいねえー、世の中は。

2012.11.27 Tue

パリの仲間たち

ここ近々、なんだか凄く忙しい。

私の仲間たちの公演が、ほとんど毎日のように行われている。

例年、10月、11月と、確かに、我々の繁忙期。

「財津暁平」

財津さんの舞踏公演が、先週の木曜日。大入り満員。

ステージの上は、白布が波のようにふんわりふんわり。ステージの周りも白布が垂れ下がり、諸々の映像。一部のお客様たちは、ステージふわふわ白布の上の、折り畳みリクライニングチャア一に座り、その他は、ステージの周りの長椅子へ。

黒いビニールのゴミ袋の塊がステージ中央へ現れ、その塊がぐにゃぐにゃと踊る。

その塊が、踊りながら、少しずつゴミ袋を塗り取っていく。その中から、白塗り、つるつる頭、眉なし、細ふんどしの宇宙人、財津暁平が現れてくる。

初めて見た友人。仰け反り。

久しぶりに財津さんにお会いした。健在振りを確認。また、やろうぜっ、一緒によおー、となった。で、私は友人連と夕飯。夕飯後、地下鉄へ。ぎょ、「白塗りの」財津さんが、地下鉄のホームに立っていた。「ありゃ、暁平さん、もっ、もしかして、家からその格好だったの?」「はい」ぎょぎょぎょ。一緒に地下鉄に乗る。「白塗り、頭に手拭いの財津さん」が地下鉄のワゴン中央の棒に両手で掴まり立っていた。もう、彼の立っているところ、すべて、ステージになってしまう。凄い人だ、まったく。

今回の公演の最後の方に、財津さん、体にちょっとだけ残ったゴミ袋。後は、白塗り。床に寝そべりぐにゃぐにゃ踊りながら、「皆さん、ココア、お好きですか？僕は、大好き」「皆さん、バナナ、お好きですか？僕は、大好き」「ココア、バナナ、ココア、バナナ」「僕は、公演の終わりが大好き」「ココア、バナナ、公演の終わり、ココア、バナナ、公演の終わり」「僕は、公演が終わった後の、夜の静寂が大好き」「ココア、バナナ、公演の終わり、公演の終わった後の夜の静寂、ココア.....」と、不思議な呪文。凄い人だ、まったく。

急に思い出した。確か、1999年か2000年の我々のパリ公演。

シアターのステージ左側に、ヤマハのグランドピアノ。財津さんが右側。

財津さん、白塗りでぬおおーと立っていた。公演の間、ほとんど、動かなかった。

で、当時、暴力ピアニストとして一部のインサイダーに知られていた裕イサオが登場。

無茶苦茶弾き捲くる。動き捲くり、立ったり座ったり、右足上げたり、仰け反ったり.....

十分後、とんでもなく喉が渇き、裕イサオ、突然、ステージを下り、楽屋へ。

ミネラルウォーター片手に再登場。

「あれあれ、暁平さん、なにしてんの、こんなところで？」「イツツ マイ ダンス」「えっ、踊ってんだ？」「イツツ マイ ダンス」「あっそ」「イツツ マイ ダンス」。それから、裕イサオ、弾き捲くり、動き捲くり。

公演後、お客さんたち。「ダンサーが全然動かないのに、あのピアニストはなんなんだっ！」と、大変に衝撃的大反響で、この公演は、「伝説の公演」として我々のファンの中に焼き付いたらしい。

うへえー、なんか長くなっちゃった。

土曜日、佐藤真(ドラムス)師匠クインテット編成。日曜日、真師匠と、マルセイユのスーパーギタリスト、レイモン ボニのデュオ。二曲だけ、アルトサックスのナカノマキがゲスト。マキさんも久しぶりに会った。とても綺麗な音色、健在だった。このトリオも強烈。レイモンの超絶技巧に仰け反り。

昨日は、昨年、秋から冬に掛けて、パリのサンルイ島のパリ最古らしいシアターで、十回公演のお相手をさせて頂いたマリカズエ「東京からバルバラへ」を見に行った。昨年と、基本的なシナリオは同じだったが、今回は、ピアノは近藤マサハルさん。野蛮人ピアニストとは違い、素晴らしいピアニストのバックアップ。私との公演とは全然違う。伴奏部分、ピアノソロと、私の怪しげなピアノとはまったく違う。ブラボーの一言です。

私は、歌の伴奏は、技術的に出来ない。

で、どうしたのか？私のファン連が、いつも、「えっ、バルバラ、シャンソンと共演？イサオさんが？」で、カズエさんと相談し、苦肉の策。

バルバラの歌の譜面を分析。音および歌詞を元に、わたくしが、すべて、曲を再構成。

カズエさんの歌の後、わたくしめが再構成した曲を弾くという、超絶へんてこりん伴奏という離れ業をシンセサイザーでやった。名付けて、空気波動伴奏という前代未聞のジャンルを作ってしまった。不思議なことに、なんか伴奏以上に、もっと伴奏に聴こえるという、ご意見を頂戴した。

元々のピアニストが、公演間際に事情がありキャンセル。参ったなあ——状態のマリカズエが、お——、ひとり、暇なピアノがいたわってなって、私のところにSOS。で、こういう結果になった。こういうことも面白いけど、やはり、きちんとしたピアニストの方が、ベターと自己判断。で、今年のご辞退とあいなった。正解でした。

はい、このブログの仲間たち、みんなYouTubeでご覧頂けます(すいません、みんなの名前、漢字が分からない)。仲間ともども、ご愛顧、ご贖、よろしくお願い申し上げますですのアディダス

。のアンデス山脈とイーデスハンソンですます。よろくし。おーーー、この言語障害は、ジャズ
菌さんたちが、お近くに.....。このせんべい、パリパリ。途方にクレルモンフェラン。なっ、ナ
ントっ！

えっ、それはムルーズ。とってもコルマール。リィヨォーーーン。心はとってもマルセイユ。

2012.11.28 Wed

芸人ブログ

毎回、書いたものを読み返し、Bloggerの「公開」をクリックするたびに、得体の知れない不安に襲われる。そんなに仰々しい書き物ではないにしても、全世界に向けて公開される。少し、眩暈と恐怖に襲われる。やはり、非常に怖い。

何度も書いている。私のブログは、「芸人の自己宣伝ブログ」である。

自己顕示、露出することが、やはり、根底にある。不純な動機の上に構成されている。

ただ、ブログを書くこと自体が、すでに「宣伝」であるので、それ以上の営業、宣伝は、逆に必要がない。

ブログを開始して二ヶ月強。

当初、とても素敵な散文を書かれるブロガーさんへ、二度程、コメントをお送りしたことがある。

もちろん、愛読させて頂いていること、応援させて頂いていること。余計なお世話なのかも知れないが、やはり、お伝えしたかったのである。二度のコメントへ、大変丁寧なご返信を頂いた。それから、二日後、ブログサイトを開き、マイページのお気に入り一覧を開いた。そのブロガーさんのサムネイルが消えていた。この一件は、ずっと頭の中に残っている。もちろん、なんらかのご事情があるはずで、私のコメントが原因ではないとは思いますが、なにかが気に掛かる。

一ヵ月後、別のサイトに参加。私の大好きなブロガーさんへコメントをお送りした。大変、丁寧なご返信を頂いた。現在も、愛読させて頂いている。でも、コメントは以後自制した。まったく、当初、なんの他意もなくファンであることをお知らせしたい。それ以上の意図はなにもなかった。ただ、少しして気が付いた。ひとつは、結果として自分のブログの宣伝に間接的になってしまっていること。それ自身が問題なのではなく、問題は、私のブログの性質、立ち位置が芸人のものであること。こんな不純ブログの宣伝に、結果、巻き込んでしまっている。これは大変に拙いと自覚したのである。

以後、すべてのコメントを自制している。

ただ、どうしてもメールを送りたい。一言、ファンであることをお知らせしたい。

切羽詰まった欲求が抑えきれない時がある。

非公開コメントとしてお送りすることに決めた。

少しでも、この不純ブログの巻き添えを回避したいのである。

当然、すべてのブログは、公のものではあるが、各ブロガーさんたちの立ち位置は違う。

鈍い私も、理解しなければいけない。

2012.11.29 Thu

コマーシャル

はい、夜分遅く、お邪魔虫。
なんだか、ばたばたと仲間の宣伝に追われ、
俺って、しみじみ「いい奴だ」よな？なっなっ。

すっーかり、忘れていたのだ、自分のコンサート。
忘れん内に、書いときますですの、アディダスですだす。

1 2月4日(火曜日) 20h30 とはいえ、開始は21h00ぐらいかしらね
2 セットやるから、終了は、たぶん、23h00ぐらい

裕イサオ 超絶暴力的ピアノ理性付き
佐藤真 ドラムス 俺の師匠 パリでナンバーワンのフリーフォームのドラムスだぜって

入場料 しくしく、はっく 5euro寂しいねえー でも、飲み代は別だよ そんな高くないから、
大丈夫 まっ、3euroからね

おーー、場所場所、冬場所

BABILO

9 RUE DU BAIGNEUR 75018 PARIS

TEL 01 42 23 99 19

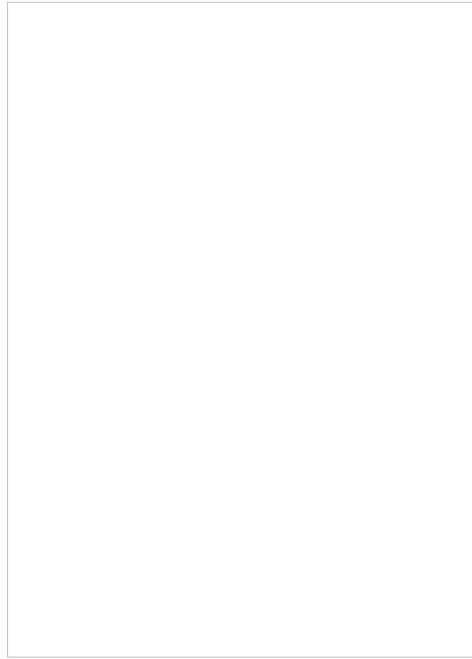
地下鉄の駅 JULES JOFFRIN 12号線だったかな？

こぞって、来て頂戴ね。遠慮なく、サイン攻めも、よたくしね。違う、よろくしね。

追伸
もう、俺、痺れてんの。
ある方のお陰で、あの駄文「文体分裂ブログ」が、蘇りました。
もう、再会して、うるうる。コンサート、ご招待したい、本当。
だって、これノーベル文学賞へ、2ミリぐらい迫ったのだ、この駄文。
で、実は、脳内レプリカっての書いたのね。その後、発見。
ふたつ、もったいぶってアップするから、間違い探し、楽しんで、くれ玉枝さん(だれ、これ?)。

ほな、また。ライブで、お会い致しましょう。

注 ピアノは、野蛮ですが、本人は、大変な紳士ですので、怖がらないように



2012.11.30 Fri

俺のマネージャー

マネージャー、正しくは、ジャーマネ。嘘。

自己訳。お釜に、沢山のマネーを持ってくる人。嘘。

俺は餃子を、手塩に掛けて作っていたのである。ワンタンの皮でも、焼き方次第では、美味しいの作れるのである。本当。だって、日本の餃子皮、売ってないのだ、俺の田舎じゃ。

ピンポォーーン、俺の家(豪邸)のチャイムがなる。

「ありゃ、ファンからの贈り物かしら？」

豪邸にしては、リアクションが、ちと、早過ぎ、だ。三百回ぐらい鳴らして、メイドが出てくるし、大体、玄関に、入れねえーって。

「裕イサオさんですね？」と聞いたことは聞いたけど、こやつ、ずかずかと俺の家に入ってきた。返事する前に、「おっと、餃子作ってんだ、あんたあ、で、ヤノピっ(ピアノ)は？」「えっ？餃子作ってからですけど」「駄目駄目、だから、売れないのって、主夫し過ぎ」むむむむむ。

「大体ねえー、あんたのログブ(ブログ)読んだけど、駄目駄目、芸人が、こんなんじゃ。露出露出のマネーマネーのマネー、ね。俺が、面倒、見るわい」「いや、わたくし、これで、十分でございますが」「駄目駄目、露出露出の露出、ね」「はっ、はい。あの、お名前は？」「石頭勝男だっ」

ジャズ神様とジャズ菌連。「おわあー、すげえー、すげえー。イサオちゃんに、ジャーマネ」

詩神様とうっくん(鬱君)、点目。酒神様、相変わらず、ハワイヤン。

はい、わたくし、石頭と申します。この裕君の管理は、わたくしめが、今後行いますので、よろしくお願い申し上げます。大体、こやつは、ほっとくと、すぐに、家事、買い物、草耨り方面へと、去ってしまうのでございます。

はい、まずは、裕君のトークショウから.....。

筆者、追伸。

えー、まず、専用スピーカーないし、ステレオヘッドホーンで聴いて下さいね。
全然、音、違うよ。あと、これ、シンセなんで、ベースも俺ね、ソロなのです。
でも、エッセイ部門、反則だよ、こういうブログ。二十秒ぐらい考えて、ジャンル蛙かもしれ
ません。金魚迷惑だっ。
あと、この出だしの映像、はっきり馬鹿面。でも、おわあ——、真実が映っているのであった
。

2012.12.01 Sat

「下書きが六つも溜まっている」

いいんだけど、季節感のある記事とか、あんまり寝かせると、春先に落ち葉の記事。拙いよね。ところで、やはり、ブログの特性として、新しい記事、更新された記事と、次、はい、次と読もうとする。うーむ、行く行く書籍化という手もあるなあー、皆さん。電子書籍じゃなくて、本。こっちは、前から読む。あつ、あとがきを読んでからね。ちょっと、考えてみる、けど、出版社ねえー、昔の虎馬がもぞもぞ。まあ、追々ないし、老い老い、考える。で、下書き溜まってる言いながら、もう、これを書いている。おーし、これ入れて七編、まとめてアップうー。金魚迷惑だって。読むかって、七編も。駄文の山なんか、読むかいなって、ね。

「石頭(ジャーマネ)のやろうが、俺のトーク動画をアップ」

おかげさまで、いわんこっちゃない。読者様、激減(嘘。大体、もともと少ないから、そんな現象は起こらないのだ)。俺の馬鹿面、ばれちゃったから、読者様、辟易。あぁー、やっぱ、こいつアホ。ばれちゃったよおー。というのは、これもまったくの嘘で、大体、YouTubeに自分でアップしてんだから、見られたって、別にまったく構わない。当たり前だ。で、俺の豪邸の小さなサロンで、メイドが撮ったのである。なんか矛盾した描写。向かって右側に、茶色い大理石の暖炉があんだけど、豪邸振りがばればれなので割愛。これも、まったくの嘘で、暖炉は確かにあるけど、別に、俺が買って付けたわけではない。もともとのもの。古い家だから、それ相当の立派な暖炉は、普通、ある。俺の経済力とはなあーんの関わりもない。向かって左側。この日は、もう、俺の脳内を投影したような快晴。日除けの布ブラインドを下ろしてある。真南の展望台みたいなサロンだから、そうしないとサンルームなのね。縦長の大きな窓が二つあるから、サロンで日光浴状態になっちゃうわけね。その暖炉の反対側に、俺のピアノが置いてあり、その右手前に、これを書いている、書斎みたいなテーブル。という感じ。俺は、新築の家は駄目なの。古い家。もう、職人さん魂のカタマリのような、こういう家がいいのだよ。壁の厚さ、58cmだよ。この安心感。いいんだよね。築112年。

「カテゴリーの変更」

なんか、エッセイ、随筆部門にいるのは、金魚迷惑なような気がしてきた。で、ジャズを見た。ふたつの系列。ミュージシャン。綺麗な女性シンガーが多い。それと、ジャズの名盤案内。と、本当に大雑把に分けると、こんな感じ。綺麗な女性シンガーのブログの合間に俺。これも、金魚迷惑甚だしい。で、名盤案内。これは、書けなくはないんだけど、大体、俺は、ほとんど音楽聴かなくなっちゃったから、これも、なんだか変。で、本業のジャズのカテゴリーでさえ、俺のブログは場違いなのだ。やはり、すいません、置いといてもらえますか？エッセイ、随筆部門。居場所がないよおー。はい、ひっそりしてますので、よろしくお願い致します。動画のアップは？えっ、反則？えっ？

「処女航海」

ジャズファンの方は、絶対に知っている名曲を、俺が変曲。どうしても、静かな海にしたかった。このタイトル、痺れる。言い換えると船出。うるうるする。いいよねえー、ぴっかぴかの船が、海に出航。荒海だよ。いいよなあー、船出。でも、俺はチャンジー(じーちゃん)だけだよおー、いつも、船出してんだぜって。ここ三週間の猛練習で、2ミリ、マッコイタイナーに近付いたのだ。こうやって、ちまちまと処女航海しているのである。本体は、よれよれでも、出来るのである。何度でも。あっ、詩神様、いらしたのですね。

「俺の読者様」

俺の数少ないファンの方々。はっきり、書いてしまう。素敵な方ばかりである。芸術系および、脳内乾物化から逃れた方々ばかり。センスがいいのである。逆説的自己自慢。ずばりである。別に芸術家である必要なんか、ない。俺たち全員、観客がいる。それを分かってくれる方々。同じセンス。結局、やる側見る側、乾物ではない。脳内自由人のスイス人の方々なのである。そういうことなのである。

「全然関係ないけど」

Bloggerのコメントの管理画面に、公開、削除、スパム、この三つしかないんだけど、非公開ってのがないんだけど、良く分からん。YouTubeと連動しているのでBloggerにしたんだけど、たとえば、記事の並べ替え、これ本当に出来ないの。俺がパソコン音痴だとばかり思っていたら、本当に出来ないのだ。やっぱFC2とかに変えようかしらねえー。もし、やばそうなメッセージございましたら、メルアド頂いたら、俺のメルアドからご返信致しまする、ぜ。

2012.12.02 Sun

この原稿、日付を見たら11月27日。この日は、小雨、肌寒い、うっくん(鬱君)がもっともしくりする日だった。で、本日、12月2日は、私の脳内投影そのものの超快晴。午後、湖辺りにお散歩しよう、という気分だから、気持ちと内容が乖離。でもね、わたくし、お金に関しては、元々ないからケチではないのですが、書いた原稿は、内容不適切で削除はありえるけれど、なんか勿体無いせっかく書いたのに、賞味期間切れ? なんとか、アップできないか、と、急にケチ、書いた原稿は、使い切る、廃棄は致しませんっ、と、いきなり戦中派になってしまうわけ。で、いい方法を思い付いた。元々の文章に、括弧で今日の注釈を入れる。

昨日から、また、詩神に取り付かれてしまった。

(詩神様とうっくん。超快晴なので、二人でお出掛け。いるのは、ジャズ神様とジャズ菌軍団と、泥酔している酒神様)

時々、昔の文学青年が戻ってくる。おちゃらけの逆噴射作用なのだろう。

で、一回逆噴射して、また、おちゃらけオヤジに返って来る。

やはり、私なりのバランスがあるのだろうね。

今朝も、起きる、コーヒーを沸かす。その間に、パソコンを立ち上げる。

コーヒーを飲み、タバコに火を付け、愛読が日課になったブロガーさんのサイトを開く。

私のブログのコメントに、「本人の声が聞こえてくるようです」と書いて下さった方がいらっしやる。この表現は、そのまま、このブロガーさんへも当て嵌まる。時々、なんか私に向けて、お話しされている錯覚が起きる。くすくす笑ったり、そうだそうだ、と頷いたり、時には、えっ、まさか、俺のことじゃねえーだろうなあー、なんて思ったりもする。もちろん、そんな訳はないんだけど、その筆力が、そういう錯覚を起こさせる。

それからもう一人のブロガーさん(私とほぼ、同時デビューの元ご近所さん。現在は、超大差。

私が、見上げているのです)へ、それから、最近、再登録させて頂いたブロガーさん(行方が分からなかったのだ)と、新規に登録させて頂いた二人のブロガーさんへと行く。

(皆さん、女性。三人のブロガーさんは、私と同じ50代。お二人は、遙か彼方ぐらい若い方と、たぶん、私よりは、ずっと若い方)

それから、マイページを見た。仰け反った!

私が開いた時、注目記事の欄。仰け反った!(はい、11月27日時点。こっち時間の朝)

私の三つのブログの順位が、1、2、4位と表示されていた。

ありがたい話ではあるけれど、これは、いくらなんでも行き過ぎです。

私の分析では、どうも「一定時間内の閲覧数の凝縮度」のために、こういう結果がコンピュータの計算式の中で、弾き出されているように思えるから、たまたま、そのようになったと解釈。私の仮説は、たぶん、正しいはずだ。なぜなら、きちんと書かれたブロガーさんの記事は、順位があまり動かない。私のものは、あっという間に、順位が彼方の方へ。
(この仮説は当たってると思うのですが、でもなあー、一篇だけ、なんか凄く長い期間順位が変わらなかった。あっ、確かに閲覧数、ダントツだったけど。じゃ、やっぱ当たりかしら?)

順当である。が、この瞬間的にも、この上記の状況は、やはり、仰け反る。

仮に、表示が出ているから閲覧される訳ではないにしても、きちんと書いているブロガーさんからすれば、なんだこいつーとなってしまう。いやあー、本人が一番呆れてしまうのだ。

(いやあー、マジで怒っている方がいらっしゃる気がする。すいません、本当)

と、突然、今日は小雨。昨日は、とんでもない秋の美しい一日。

サングラスをしないと眩し過ぎる。ヨーロッパの快晴は、湿気が少ないせいなのだろう、日差しが透明で、老眼に直撃である。サングラスをしないと、涙が止まらなくなってしまう。

とぼとぼとタバコ屋まで、公園を横切る。庭師が細道の両脇に掻き集めた落ち葉が、とても綺麗である。緑と黄色とオレンジ色と焦げ茶色の落ち葉の山。黄色い雪が積もったような錯覚を覚える。考えてみたら、新緑で癒してくれて、力強い深緑色の時があって、複雑な黄色のハーモニーを奏で、落下して、焦げ茶色になって、乾燥してぱりぱりになって、粉々になって土に戻る。もちろん、人間の一生をそこに投影しても一向に構わない。春から冬への自然の壮大なシンフォニー。常緑樹がすくと立ち、間もなく、葉の無くなった落葉樹の幹たちがすくと冬空の下に現れる。(なんだか、落ち葉の話ばかりだな。今は、雨に濡れちゃって、焦げ茶色のぐにゃつとしたカタマリみたいになっちゃって、あんま綺麗じゃない。腐葉土ってな感じになってます)

だから、賞味期限切れブログは、困る。筆者も読者様も、8月に落ち葉のお話。今日は、零下3℃の凍て付く寒さである、なんて記事、だれが、読むかって！

2012.12.03 Mon

インサイドパワー

この記事も四五日前に、晩酌しながら書いた。

今週は、下書き在庫放出週間。明日、コンサートだし、整理するのに丁度いいのです。音に集中しているのであります。で、段々、酒神様とルンバ状態になってきて、ジャズメン用語のガイキチ(きちがい)。スイングし過ぎて、しまいには、ほとんど、有吉さんと化していた。

毒舌ブログは、私の柄じゃないので、すべて、削除。えっ？そっちを読みたい？

だめだめ、心のスイス人を自称している温厚なわたくし。イメチェンはしません。

大体、疲れる。本当。毒舌、悪口、これって、やはり、相当、根がヒューマンで体力ないと出来ないよ。もしかすると、私の演奏って、毒舌ピアノかもしれん。なに言ってかわかんねえーけど。音は便利である。本音が出ているけど、特定化出来ないのだ。文字は、ちょっと、ねえー。

そういう意味、不便で怖い。

「インサイドパワー」(これ曲名に使えるな)

なんか横文字にすると、ずっと、入る。

日本語にすると、単語自体が、詩神様になる。

フランス語だと、フォースアンテリヤァー。

(結局、何語でも詩神様。綺麗な言葉である)

でも、英語っていい感じだ、なんか、変な情緒がない。って、我々、日本人は感じるのである。外国語だから、それを話している人々の実生活はゼロのまま、「日本語化」する。で、外国、異国は、なんかドライで、格好いいようなイリュージョンが起きる。

(でも、もちろん、そのイリュージョンも旅の楽しみのひとつ。私が、日本一周したい、なんて思っているのと同じである。確実に、私が外人になってしまった。車で一時間ぐらいのところに、日本の鳥居と参道と日本庭園があるのをガイドブックで発見。すぐ見に行った。本物だったけど、なんか、昔のジェームズ ボンド映画の中の日本そっくりだった。でも、変な外人の私は、うるうる。金持ちの保養所のお庭の一角に、どなたかが設置したらしい。母国が、遠い憧れの国みたいになっているのである。エキゾチックになっちゃったのだ、ラーメン屋の看板とかが。もう、そうなる日本の人たちのフランスとか、パリのイメージ。こっちが、逆にまったく分からなくなってしまった)

詩神様。

「人の暮らしは、どこの国も同じである。ねっ、うっくん」

(まあ、そうだけど、この仮にイリュージョンであっても、だからこそ、素敵なんだけど。なんで、自分に反論して居るのだ、私は)

ところで、日本に居る外人さんたち、こっちでは、私がそうだけど、理解、応援とかあるのかしら？フランスでは、皆無。当たり前だ、異邦人、ないし、違法人なのである。

ところで、これを書き出すとかなり仰々しい内容になってしまうので、ゲルに(逃げる)する。(日本と西洋とか、もう、おちゃらけブログでは消化不能なので、止めた。論文みたいになってしまう。ないしは、おーー、文学になってしまう。はい、ゲルにする)

ところで(二回目)、面白いことを思い付いて、で、削除してしまった「文体分裂ブログ」の脳内レプリカっていうものを作成してみた。えっ、なんで？となる。

はい、私は即興ピアニストなのである。

即興で弾いた曲、頭にインプット。って、ことは、私の馬鹿頭検索エンジンの中に、じゃ、あるだろーと。で、四分の三、あったよ。真ん中の関西弁の部分が欠落してたけど、ほぼ、縄文時代の遺跡の発掘調査としては、つぎはぎながら、完成。ついでに加筆してしまった。

(原文も、すでに書いた通り、ある読者様のご助力で発見。うるうるしています。こちらもアップしますので、間違い探しゲームにお使い下さいませ)

むむむむむ、この記事、実は、裕先生の「最高傑作」「ノーベル賞(アホ)ブログノミネート」のラムネートのシンジゲート。ご愛読致さなかった読者様方が、一生の落ち度として、苦悶しなければならない程の、大ブログ記事。もう、読み捨ては許しませんっ！という迫力(大袈裟だって)、および、やはり、脳内で発掘されたのである。文部省認定脳内発掘ブログ。よやい時代なのである。(まあ、頭の体操ってな感じです。外見の朽ち果て振りは、致し方ないにしても、せめて、脳機能だけでも、食い止めたい)

はい、読みたい人、手、上げて。

しーん。

この二行、明らかに、パクリでした。

2012.12.03 Mon

国木田は、パリ在住の、人気作家である。

多分、去年の秋口だったと思う。パリ在住のファンの女性から、一通の手紙が届いた。

国木田の小説の愛読者であること。国木田自身の大ファンであることが、連綿と綴られていた。

その手紙の中に、国木田は、いつものファンレターとは違う、なにか、切実なものを感じた。

本来、返信等は書かない国木田が、珍しく、手紙を書いた。書いている内に、国木田自身が吃驚する程の愛おしさが込み上げて来た。

初老の国木田には、新鮮な感覚だった。

封書の裏に、とても綺麗な字で、名前と住所が書かれていた。

直子。

連綿と綴られた国木田への賛辞が、なにか、迫ってくる。

国木田自身が、この不思議なパラドックスを良く知っていた。

国木田は、自分が作家であることを、ほとんど忘れ掛けていた。

延々と返信を書いた。愛おしさが込み上げて来る。

直子と言う女性。なにかが琴線に触れた。

その後、手紙のやり取りが続き、その内容が、どんどんエロス(ポルノグラフィック)になっていく。

そうはいつでも、お互いに逢おうとはしないという短編小説を、十二年前ぐらいに書いた。

逢えないエロティシズムは、三島由紀夫の「春の雪」を、じっくりお読み下さい。

成就しない愛というより、性欲。こういう形もある。いや、この形が、一番、高揚感が高いのである。

ところで、フランス、パリゆかりの外国人の作家、詩人といえば、私の貧しい読書暦の中では、永井荷風、金子光春、ヘンリ ミラー。現代作家では、青野聰さん、辻仁成さん。もちろん、他にも沢山の作家、詩人がいらっしゃる。

その中でも、もっとも、フランス、パリの内奥に迫っている作品は(私にとって)、何度か、書かせ

て頂いた、金子光春「ねむれ巴里」。ヘンリ ミラー「北回帰線」「クリシーの静かな日々」。
私は、フランス関係のガイドブックを、ほとんど読んだことがない。どうしてなのか、自分でも
良く分からない。

もしかすると、フランス、パリは、文通妾状態の方が、いいのかも知れないと、今、ふと、思
った。

この原稿も、随分前に書いたもの。

昔昔、芝刈りに行かずに、各原稿用紙五枚ぐらいの、短編小説集と、お笑いショートショートを書
いていた時期のもの。お笑いショートショートのタイトルは「コスミックヒステリー」だった。
意外といいなあー、このタイトル。ネタなくなったら、これ、アップという手もあるな。自
分で、ゲラゲラ笑っちゃうから、いいかもね。二十秒ぐらい熟考します。

今日は、コンサート。

音音音。演奏演奏演奏。これしか頭の中になくなってしまおうのであるのである。

ライブ オブ ミューじっちゃん。

2012.12.04 Tue

私は、詩神様とうっくん(鬱君)と一緒に、落ち葉搔きをしていた。

皆で、落ち葉に話し掛ける。うーん、ありがとうねえー、綺麗だね、この色。

黄土色?とも違うし、元々の緑と黄色と橙色と茶色と焦げ茶色。

で、葉によって、全然違う。うっくんが、しんみり、

「人の一生と同じ。辛い。見ているのが」

詩神様。

「それを、凝視することが詩なのである」

「でもね、来春には芽吹く。若々しい葉の子供たち。めそめそする必要はない」

うっくん。

「あまりに儂過ぎる。花も葉も」

詩神様。

「花は性器であり精気。葉は、日光を吸収するための植物の器官。自然は科学であり、感傷的になる必要はない。それぞれの観賞、干渉、感傷が詩なのである」

私は、黙々と落ち葉搔き。

どやどやどやっ。

「ヘエー——イ、メエー——ン！」

ジャズ神様とお笑い芸人そっくりのジャズ菌さんたち。

「ッツ、ゴーイングオン(冒頭部分、シンコペーション)?ヘエー——イ、落ち葉搔きいー。オチバァカキィー」軽いステップ。「相変わらず地味でんな、あんたら。ジミー辺土リックス。ジョン肩コルトレーン。マイルス デブス。あんなあー、イサオちゃん、忙しいんやから、そっとしときいー、ゆうとるねんな、われわれ。詩では腹がふくれんゆうとるんや、われわれ。しいー作るなら田あー作れ、富岡多恵子はんとおまっとさん(だれ?)がゆうーとる。しいーたあーの論理ゆうんやて。あんたら、一理おまっせ。詩人さんが、自分でゆうーとるから、それ、ほんまやで。ねえー、寺山はん」

寺山修司。

「それは、ひとつの世界観の位相であって、パラドックスの更なるトポロジー。二重のパラドックス。ホモの男性とレズの女性の恋に、似ているがもすれない。ただ、田んぼでは、す(詩)はづぐれないというもうひとつの見地もひとつのすんずつ(真実)ともいえるがもすれない」

「なんや分からへんがなあー、まあ、ええわ、ほれ、寺山はんも、そうゆうとるねんな。分からへんの?あんたら?俺も、よお一分からんなってしもうたやんか、℃アホ」

(作者注 東北人の耳に聞こえる関西弁です)。

と、ジャズ神様のお一言。それから、赤ワイン片手のジャズ神様とジャズ菌さんたち、せっかく掻き集めた落ち葉を掻き散らしながら、シンギングインザレインを歌い出した。

「アム Cィ————ギン愚ザレン アム Cい————いいん愚ザレン……」

両足と赤ワインのボトルで落ち葉を掻き散らす。

「わっははははは、みてみい——、この自然の壮大なるフリージャズを！葉っぱ、みなで好きかってにほざいとるわい。あぁーりらりん。我々と一緒やぁ——」

と、今始めて、その風貌を描写するジャズ神様。もっ、諸、筒井康隆超大師匠そっくりというより、本人そのものである。じゃじゃあ——ん、ついでに、酒神様登場！

哀川翔

「まっ、毎日、ね、続ける。まっ、休まない。で、最高の、ね、俺が、今いるってな訳」

桃井かおり

「うんもお——、イサオおはあたしのもの。横槍い、入れないでえ、頂戴い。ねえ、イサオお、タバコくれるうー」

作者注

このブログの登場人物は、裕イサオ以外は、すべてフィクションです。

もしかすると、裕イサオ自体もフィクションかも。「へえええええええええ、フィクショォ————ン」お粗末でした。またのご来店を。

2012.12.05 Wed

吉岡実2

吉岡さん。私には、言葉という素材で、プラモデルを作る子供に見える。

諸々の語彙の収集から始まり、彼の目に見える世界を、その収集した語彙を使って構築する。生き生きと、きらきりと、見た、その世界を、彼は、紙の上に焼き付けた。

吉岡実。1990年に他界されている。

徴兵、戦地で馬の世話をしていた。日本へ帰国後、筑摩書房へ勤める傍ら、日本詩の歴史を変えるほどの詩業を成し遂げた。

偉人である。でも、そんなところは、少しもなかった。だからこそ、偉人なのである。

偉ぶった人。この真ん中の平仮名を取ると、偉人になるが、そんなことは、絶対にないのである。

問(高橋睦朗)「偉大な人物は？」

答(吉岡実)「好きではありませんね」

吉岡実「わたしの作詩法？」より、抜粋。

冷静な意識と構図がしずかに張り、リアリティーの確立が終わると、やがて白熱状態がくる。或る絵画が見える、女体が想像される、亀の甲の固い物質にふれる。坂の上を歩いている男が去る。つぎに「乳母車」の形態と「野菜」という文字が浮び出る。キャベツや玉ネギ、ぶどう、とにかく球形体の実相のみが喚起される。そんな連想をつなげる。どうして女中や赤ん坊が不在なのか？ わたしの中の乳母車は沼へ沈むべき運搬用に必要なのだ。そのつぎに愛が来てもいいと考える。それはヘッドライトに照らされた、雨傘の二人の愛を永遠なものだと断定すればよいのだ。しかし意識のながれは誰の中にでも豊かに流れる。それを停止することが困難だ、すなわち文字の一行一行に定着させることが。発生したイメージをそのままいけどることが大切である。

わたしは自己のなかで一応出来た詩篇はできるだけ手を入れないことにしている。

吉岡さんの詩が、ひとつの即興詩であることが、これで分かる。

吉岡さんの、すべての詩集が絶版であることが分かった。とても残念である。

現在、入手可能なのは、私が所持している「吉岡実詩集」思潮社1968(上記抜粋、すべて、本書より)、および「続 吉岡実詩集」思潮社1995と、私がインターネットで調べた限りでは、明記さ

れていた。

2012.12.06 Thu

私は、詩神様と、うっくん(鬱君)と、一緒に、落ち葉搔きをしていた。皆で、落ち葉に語り掛ける。うーん、ありがとうねえー、綺麗だよ、この色、黄土色？とも違うし、元々の緑と黄色と橙色と茶色と焦げ茶色。で、葉によって、全部違う。

うっくんが、しんみり。

「人の一生と同じ。辛い。見ているのが」

詩神様。

「それを、凝視することが、詩なのである」

「でもね、来春には、芽吹く。若々しい葉の子供たち。めそめそする必要はない」

うっくん。

「でも、儂過ぎます。花も自然も」

詩神様。

「花は性器であり精気。葉は日光を受け止める植物の器官。自然は、科学であり、感傷の必要はない。自分なりの干渉、感傷、観賞が詩というものである」

私は、もくもくと、落ち葉搔き。

どやどやどやっ。

「イサオちゃんいるうー——？」

しんみりモードの私たちの前に、おぎゃー——、ジャズ神様と、その取り巻き。ジャズ菌さんたち。ところで、このジャズ菌さんたち、お笑い芸人に、良く似ている。なんでかしら？

「またまた、しみったれ℃も。マタマタ股間のマタマタ。落ち葉搔き。地味ですなあー、ジミー辺土リックス。ちみたち、まだ、わからへんの、どあほおー、イサオちゃんは、いそがしいー、ゆうとるねんな。そっと、しときいー、ゆうてんねん、われわれ」

寺山修司

「いや、その世界の位相は、複雑怪奇でありまして、それは、ひとつの世界観のパラドックスであり、土方巽の踊りに、すべては、集約されている」

哀川翔

「毎日、ね、続ける、休まない。まっ、休まないことかなあ——」

桃井かおり

「ねえ、イサオおーは、あたしのもの。横槍、ね、入れないでちょうだあいー。タバコくれるうー」

筒井康隆そっくりと、今、始めて風貌を描写したジャズ神様。そっくりどころか、どう見ても、筒井康隆x1000000000.....回、師匠にしか見えない。

つづく、かも。

作者 注

このブログの登場人物は、裕イサオ以外は、フィクションです。裕イサオ自体も、フィクションかも。「はあああああ——、フィクシヨオお——ん」。お邪魔致しました。ちょっと、明日、俺、忙しいんだよ、明日の分、今日、アップアップね。

コメント

じゃずっこ 12/11/26

うっくんと詩神様、ジャズ神様、ジャズ菌さんたち、・・・なかなか、しみり賑やかで、楽しい組み合わせですね。

裕イサオ 12/11/26 じゃずっこ様 コメント、ありがとうございます。私の馬鹿頭の内部の葛藤を、ちょっと、可愛い感じに擬人化してみました。なんか変なんですけど、自分で書いてて、親近感が湧いて来ました。

2012.12.07 Fri

皆さん、今晚は。こっちは、夜の始まり。綺麗な夕焼け。

やっと、溜まった下書きを、すべて、放出。貯金は溜まらんに、ブログの下書きばかり。大体、貯金なんかねえーよって。文体分裂ブログ発見版は、一度、お読み頂いた方は、パスして下さいね。本当に、脳分裂しない内に。

で、ここ一週間、新規には何も書いていない。忙しいのだ。

次から次へと、仲間の公演、自分のコンサート、超絶技巧の習得、次の動画の準備、作曲と、芸術し過ぎでよれている。若作りもいいけれど、年齢相当のお茶漬けライフが恋しいのである。もう、諸々のアーティストとお会いして、へろへろである。皆、本当に元気だ。空元気かも？

で、なんのお断りもなく、ブログさぼっちゃえ、と五分前まで思って、まっ、ワイン飲んで、くつろぎの一時と思って飲んだら、これを書き出した。おー、そんなことはどうでもいいけん。はい、こちら、フランス、パリ郊外、今朝起きたら、初雪でした。いいなあー、雪化粧。もう、うるうる。綺麗綺麗。薄化粧も、なんか、エッチで綺麗。厚化粧は、げっ。美人はすっぴんでも綺麗だけど、富岡(多恵子)さんは、女は、そもそもooooooooooooooooだから、化粧をした方が良いのであるって、エッセイに出てくる。

んで、一週間振りに、これ回転だけど、じゃない、書いてんだけど、なんか、疲れちゃったから、へろへろブログにしてしまう。いいよね、読み捨てなんじゃから、こんなもんでな。

で、昨日、初めて男性のブロガーさんをお気に入り登録。

しばしば、注目記事でお目に掛かり、ひとつのブログ記事のタイトルに、アル中ルランボーの手がひたと止まった。読んだ。私より一世代先輩のブログ。うるうるした。文体の素晴らしいこと。ゆうーーたりした文体、ユーモア、明るい。痺れた。実にしゃれている。俺、ずっと、おっさんブログかと思ってた。すいません。愛読愛読。

と、こっちもへろへろもへじーちゃんブログに、文体変更ね。

はあーーーい、文体、揃ええーーー。

ほころびの歌

えー、毎度馬鹿馬鹿しいオジギャグでございます。
ベートーベン交響曲第九番、ほころびの歌。ぎゃーはははははっ。
つまらん。

で、えーと、もじもじ、へのへのもじもじ。
ブログ書くの、飽きちゃった。以上、お粗末でした。

飛馬っ！という声が聞こえる。
どっからだ？

はい、今年のフランスの初冬は、雨日、快晴、雨日、快晴、雨日.....。
詩神様、うっくん(鬱君)、ジャズ神様、ジャズ菌軍団が、日替わりで出たり入ったり。
常駐しているのは、酒神様のみ。

分かり難いなあー、地球様のご機嫌も。本当、基本、機嫌わりいーよ、ここ十年ぐらい。
メローになったり、はちゃめちゃやったり、ハードになったり、どんどん、地球様が、フリーズ
ジャズになってきて、こちとらの演奏のスタンスが、分からなくなってしまう。まっ、我々が、お
かしくしてしまった。これは間違いない。フリーズジャズ屋は人畜無害の、すれすれ禁治産者だから
いいとしても、地球様は、そうはいかんぜって！ 俺のマイガーデンは、俺の所有物だけど、
地球様の表面なのだ。毎日、頬キッスせんといかんなあー、こうなると。

いや、なかなか、このたらたらブログも、なかなか。
気合入らなくなっちゃたので、更新だけしている僕。
なかなか。まっ、短めで、ちょっと、オジサンらしい含みなんちゅう、自然体ね。

あっ、「さまあーず」という芸人さんを見つけた。YouTubeで。浦島太呂男はわかっとなるけん。
大竹さんは、「ゆるい芸と言われるのは、問題だ」とおっしゃって居られるが、いいのだ、この
ゆるい感じが。老体に快いのである。

「おおーい、家老はどうした？」
「あっ、はい、臥せて居ります、過労で」

チャオー！

すいません、ブログのタイトルと腰帯変えないとね、このノリじゃあーね。

おーっ、この記事のタイトル、そのまんまで行けるっ！

2012.12.09 Sun

素敵なブログ発見法

今日こそ、ブログをさぼろうと思っていた。もう、シカトー。えっ、更新していない？ 私から、よおーく言っときますから、などと、ゲルに(逃げる)予定で、ピアノの超絶技巧への道に邁進して居たのでありますが、なっ、ナント。練習を「三十分早めに切り上げる」という、私の師匠にバレたらお尻ぺんぺんという愚拳をしでかし、パソコンを開くと、なっ、ナント。私のお気に入りブロガーさんから、コメント。うるうる。さぼれねえーって、こうなるとよおー。いつも、しょぼくれた私の脳内へ元気を注入して頂いているブロガーさんからである。うるうる。返礼せんと、義理人情ブログ。

えー、そんでなんだけど、素敵なブログ発見法ね。

- 1) ブログのタイトル、サムネイル、腰帯文から、むむっと開いてみる
- 2) お気に入りブロガーさんのリンクとコメント欄からにじり寄って行く
- 3) 注目記事のランクインが頻繁

等々、皆さんが、通常なさっているプロセス。

で、こっからも、当然、皆さんが、通常なさっているのだろうと、最近気が付いた方法。

私、頭良過ぎて、一番抜いてしまったり、「さまぁーず」という芸人さんを、今頃発見して、くくくくっ、とかやっている。浦島太呂男と申します。

で、このINとOUTポイントがなんなのか、一応は理解している(つもり)。

たとえば、私のアホブログにGoogleからアクセスする。裕イサオと叩くと、YouTube動画、その他諸々および、アホブログがどばっ————と出てくる。で、たとえば、ひとつの記事を開く。で、読む。で、リンクバナーを押すとブログサイトへ。これで、IN。そして、もう一度、アホブログを開くとOUTのポイントとなる。算数上は、分かる。

逆パターンだと、ブログサイト開き、私のお見合い写真のようなサムネイルおよび、フランスより、なんちゅう商人根性剥き出しのプレゼンで、つい、開いてしまう。で、OUT。で、ぎゃあ——ははははっ。となって、よお——し、もう一度リンクバナー。で、INポイント。

と理解している。それはいいんだけど、俺の仲間は、リンクバナーの意味を知らない。読む。以上。Bloggerの閲覧者数にカウントされる。たとえ、私が、仮に懇願したとしても、「うん、分かった、イサオのために(なんのためか、私も含めてだれも?)」と言うけれど、だれも実行しない。

で、だから、そんなことではなくて、私の計算上は、INとOUTポイントは、ほぼ、同数になる。はずが、色々なブロガーさんのポイントを見ていたら、バランスがちぐはぐ。INが物凄く多い方。

INして、一回閉めて、もう一回開くとOUTになるのかなあー？

逆に、OUTポイントが、物凄く多い人。これは、なんか分かる。ブログサイトから、お気に入りの方、当然、開く。ついでに、私は、INの方もクリックする。私はだけど、イコールではない。で、最近登録させて頂いた男性ブロガーさん。私が、せっせとリンクバナーをクリックしていたら、突然、順位が、ぎょおーんと上がった。もちろん、私だけではないにしても。

で、算数の教科書みたいになっちゃったけど、良く分からんのは、INポイントの入り方。これが、良く分からない。なんでか？ 私にとって興味の対象は、昔のサハラ砂漠文士(読者皆無状態)のトラウマで、「読者様の数」。知りたいのはこれだけなのである。ということは、要は、OUTポイントの方に興味がある。となる。順位は、どうでもいいのだ。

(読み返すと、裏セールスになってるけど、もう一回、裏にして下さいね。これは、本当なのだ。おかまを二回極めると、男になる計算。おかまじゃねえーけど、算数上は、ね)。

おわあー、ここまでが、前置きなのだ、よ。

で、考えたら、OUTポイントを見て、開いて読んだ。

もちろん、好みは別として、私がお気に入り登録させて頂いたブロガーさんたち、OUTポイントがダントツなのである。で、ついでに、私のアホブログも、「その傾向がある」。これは、むふふ、なのである。

で、ここまでが、前書きで、結論は、私が一番最初にお気に入り登録をさせて頂いた、脳内通称、明子姉さんと、最近、登録させて頂いた、男性ブロガーさん、通称、モヒカン兄貴。

私の稚拙な文章とは、比較にならないのだけれど、文章=人生レベルの差を差し置いて、私は、同じDNAを感じています。脳内乾物化回避シニアブログ。素敵だ。あれっ？ だから、OUTポイントから発見したってこと。説明、なげえー、三村さんの口調で。

2012.12.10 Mon

Db7sus4

ラbシレbソb 左手 シファシb 右手

その前に、AbDorian ラbレbミbラb 左手 レbソbシ 右手

これは、サブドミナントからルートに行く、4---1音の動き

で、この動きを一音ずつ下がる。4---1 4---1 4---1と。

で、最後に、ドミナントモーションで、最後の1=音階の5---1と決める。

これを、マツハ3でやる。

と、分かったかしら、わたくしの日常および非日常が？

とりわけ、手の小さい俺(フランク リストと較べたら)には、この一行目のDb7sus4、これ押さえ難いのである。ドMじゃないと、しんどいけど、俺は、ドSだ。つらい。このドS、「ええ——」と、よく言われるが、文体に良く出て居るわい、お若いの。見る目がないのおー。俺は、フェミニストのサディストという両性具有者。アンドロジィヌスなのである。おかまじゃ、ねえーけど。

「さまあーず」の動画も見ないといけないし、この「ドラゴンへの道」も、やらにやーいかんし、忙しいのである。と言っても、サラリーマンではないので、自分で、忙しさを決めているだけなのである。禁治産者すれすれと言っても、よろしかろう。でも、自分でね、これコントロールすんので、逆に、サラリーマンはでけんと思う。嫌味かしら？ 逆恨みだっ。

「どう、これで？ いいよね？ 今日の分、ね？」

哀川翔だって、この台詞。

もう、たらブロ(たらたらブログ)にシフト変えたんで、ごめんちゃい。

でもね、マイルス デイビスの奏法の真似なんだけど、ワンフレーズだけ決めるっていうのがある訳ね。たらたらに、一行だけ、含み音、みてえーなやつ。

ブログぼさりたいよおー(さぼる)。

でも、先輩方の健筆。ぼさると、叱られんだろうなあー。

いやいや、読者様方のために、ぼさり症候群と、戦って居ります、わたくし。

112年前の流し

今日は、ちょっと、執筆体勢。モヒカン兄貴とも連絡が取れた。丁寧なご返信まで頂いた。ありがとうございます。で、なぜに、ここ十日間ぐらいブログを書きたくなかったのか、今、やっと気が付いた。もちろん、たらたらブログへのシフト変更は、致し方ない。おっさんだからよおー。

はい、十日前から.....

俺、私生活は、書きたくないの。一杯書いてる？ はい、芸人の部分だけね。

でも、ちょっと勇気を奮って、書いてしまう。愛おしい流し様のために。記録に残したい。

でね、急にさっぱりして書くんだけど、112年前の台所の瀬戸物のカタマリ、および、当時のクラフトマンが、壁にのめり込ませ、その上に、丹精込めて張られたタイル。流しです。これを、取り替えようとして居るのだ。

「その理由」

俺は、中背なんだけど、当時の人は、背が小さかったらしく、軽い「くの字」でないと、皿洗いが出来ない。結構、主夫には、毎日だからきつい。しかも、人生二度目のぎっくり腰。さらに、つらい。あと、瀬戸物のカタマリ状の流し、俺は、大変に、気に入って居るのであるが、その支え部分の木というのか、家具というのか、これが、俺と一緒に、よれよれへれへれたらたら。はっきり、どう見ても、貧乏人が諸だしである。実際そうだから、いいのでは？と、読者様は、おっしゃるかも知れんが、やはり、貧乏は、あまり見せたくはない。でね、俺の師匠の現代彫刻家のお宅。俺より、収益はないはずなのに、とんでもなく、おしゃれな内装。家具、蚤の市で二束三文の値段。すげえー、しゃれた椅子と想像していたら、プラスチックのガーデンチャアーに、ベージュ色の布が被せてあった。本当に、素敵なお家で、貧乏なんて、どこにもない。

ひっひいーーー貧。

つづく。

なんか、お笑い推理小説みたいね。

なんかさあー、顔まで、さまあーずの大竹さんに、似てきてんだけど.....

やあだあーーー、こんなブログうーーー。

モダンキッチン

とうとう、現代風モダンキッチンの取り付けを完了。後は、細部を詰めるのみ。
私は、日曜大工セミプロなのである。

ところで、今日で、ブログ開始、丁度、3ヶ月。この記事で109篇目。原稿用紙換算推定、350枚。
11年前の筆力が戻ってきた。自分に、お辞儀する。ご苦労さんっ！

さて、本日、112年前の流し、瀬戸物のカタマリ、30kgが玄関の廊下に立て掛けてある。
ちょっと、寂しい。こっちも、ご苦労さんでした。私が3人目のオーナーだから、3世代の生活を彼、彼女は見てきた。

遡ること1年前。真鍮の水切りが半分に割れた。新しいステンレスのものとの交換を試みる。
錆付いたネジ、びくともしない。ペンチで、強行撤去を試みる。ふたつにへし折る。その途端、
流しの排水溝の下のUの字の鉄のカタマリチューブが、10cm落下。ぶらあーん。ぎょえー、
鉄パイプと水切りは一体であったのである。強行撤去=壊してしまった。こんなもの、今時、購入
不可。途方にクレルモンフェランのそんなのムルーズ、とってもコルマールと、フランス地名オ
ジギャグを発しつつ、へなへなと座り込み、そうはいつでも、顔はバスターキートン(超マジ)。
家事、炊事がでけん。痺れた。1世紀前の鉄パイプの留め金を「破壊」してしまったのである。

とにかく、今、手に入るプラスチック部品で、キュービズムをせんといかん。痺れた。サイズ
はないし、鉄パイプの代わり、ある訳ないのである。それからの3日間、巨大大工道具店を行っ
たり来たり。112年の排水の歴史を破壊してしまった私。この逆噴射は、もう、芸術家として勝負
するしかない。

で、その前に、あんなあー、なんで業者、よばへんの？ と日本の方は思うはず。
フランス国、基本的にサービス業がない。専門業者、3ヵ月後まで、予約一杯。
人件費が超高い。いくら取られるか分かったもんじゃない。等々の理由にて、結局、皆、自分で
やるのである。

で、ありったけの芸術センスで、排水システムを作り上げた。ただ、アクセスが超シビア。限界
もある。とはいえ、ピカソの彫刻を確実に凌駕している排水システム。私は、ジェームズボンド
の笑いを笑い、テスト。水を流す。

四方八方から、ジャアアア。流しの下が、台風。

おわあアアア、サイズが、節々、微妙に違うのだ。再度、作品解体。シリコン注入。再テスト、
四方八方から、小雨。超シビアなアクセスにもメゲズ、小雨出口をシリコン。小雨が止んだ。

いずれ、この流し自体を変えねばならん、でも、寂しいなあー、俺。と1年間、ぐずぐず。

大体、壁に、半分のめり込み、当時のクラフトマンが手塩に掛けて設置。これにセミプロとしては、挑戦する勇気が湧かんかったのである。

で、設置後、ピアノに這って行く。花形満状態で蓋を開ける。
手を鍵盤に乗せる。両手、10本の指。マジンガーZと化していた。
練習を諦め、これを書いている。

ありがとう、俺の最愛なる流し。

しつこく、つづく。連載小説「流し」、および、フランス文化史なのである。

2012.12.13 Thu

俺は、お新香屋「かけおばあ」の店主である。

古びた藍染の暖簾が掛けてある。「かけおばあ、新香都市」

いつものように、カウンターの後ろで、魚の仕込みをしていた。鋼の包丁、指まで切れそうで、ちと、怖い。実は、俺の本当の仕事は、英国諜報部員コード007.5なのだ。指がないと、ワルサーPPKがもてなくなってしまう。それから趣味のピアノカ。これで、象さんを演奏するのだ。

がらがら。俺の店は、築112年だから、やや、立て付けが悪い。

前に、役場の若造が、道路を拡張するから立ち退いてくれと頼みに来た。

俺は、魚の仕込みをしながら、ダニエルクレイグそっくりの笑顔。無言。

若造、根負け。退散。大体、俺は自転車しか乗らないから、道路の拡張なんざ必要がないし、第一、ガキどもが通りで遊べなくなる。狭いぐらいで丁度いいのだ。竹とんぼ、竹馬、ベーゴマ、シャボン玉、紙風船。通りで出来なくなってしまう。で、その若造、役場の上司を連れてきた。その上司、「何卒、何卒、町の発展のために」となんども頭を下げた。ちょっと、その切羽詰り具合が気の毒になったが、俺は、相変わらず無言。ダニエルクレイグ。

がらがら。

「ヘエー——イ、メエー——ン」

最近馴染みになったイー爺が入ってきた。ブルックシールズ似のかみさんと。

「らっしゃい、ボンジュール！」

イー爺とブルックがカウンターへ。

俺は、「サバ？」と聞いた。

「うん、それにしてくれっ、ボンジュール鯖ふたつ。あと、いつもの脳内新香付けて」

「ウイ、ムッシュー」俺

「ケスク ブブレ アポオアァー？」俺

「テイクイットイー爺、メエー——ンっ！ モヒカンの水割り！」イー爺

がらがら。

俺はカウンターを軽快な身のこなしで飛び越え、イー爺とブルックを床に突き飛ばす。背広の懐に右手を入れた男に体当たり。男が通りへふっとぶ。その勢いで横転する。素早く立ち上がる。ベージュ色の腹巻から、ワルサーPPK。その男が懐から右手を出す前に、その男の眉間のど真ん

中に風穴が開いた。役場の回し者。スペクトラムの一員だ。俺はステテコの埃を払うと何事もなかったかのように、かけおばあへ戻る。

敷居で、ちょっと、躓いた。「アッ、マンスウ！」(ありやまあー)
やっぱ、フランス語ってゆるい感じ。

2012.12.14 Fri

ところで、第一の関門は、この壁にのめり込んだ「流しの撤去」が可能かどうか、である。可能でなければ、当然、不可能であり、単なる「台所の破壊」。炊事はどうなるのだ？俺は、日曜大工のセミプロだからこそ、112年前のクラフトマンとの対峙を躊躇するのだ。

ところで、この連載小説「流し」は、推理小説なのである。

犯人？ 「なぜに、裕イサオは十日間、ブログを書きたくなかったのか？」、この犯人探し小説なのである。でも、犯人のいない推理小説とか、裕先生は考えておるから、要注意のこと。

で、その流し様は、長方形である。でも、右側上部辺りから壁にのめり込み、しかも、その上にタイル。しかも、丹精込めた仕上げ。今時の若者には、絶対にでけんという風情なのであるが、今時ではない若者なら、できる。

で、撤去自体の失敗。これを恐れておったのである、セミプロは。

で、モダンキッチンを注文してしまう。

で、まず、女の子を引っ掛ける。じゃ、ねえーって、とにかく、前に書いたけど、目的を、まず、始めてしまうっていう裕先生お得意の、ドS、強行突破ね。本当に、俺、Sなのだろうか？当然、こういうことをやると、ドMが自分に逆噴射。とはいえ、この新旧交代劇は1日でやらないと、炊事停止状態を招くのである。度重なる外食。余計な出費……。1日2日はいいとしても、1週間、長期は痺れる。

必勝鉢巻、ライト付きヘルメット(嘘)をし、流し様の撤去に着手。

恐る恐る、流しとタイル部分の接続部分へ鑿。金槌で、軽くこんこんしてみる。

びくともしない。大き目の鑿と金槌に変える。ちょっと、アントニオ猪木の顔で、強く叩く。タイルが割れた。

ここから、発掘調査隊の試練が始まる。流しに密着している部分のタイルを鑿で、1cm程度割る。中のセメントを3cm程度、鑿で削っていく。あまりに固い部分はドリルで小刻みに割っていく。半日での進行、約30cm。3日間、延々とこれをやった。当時のクラフトマンの仕事への心意気を、改めて思い知らされた。もう、ほとんど、半永久的な設置。何度か挫け掛ける。注文してしまったモダンキッチン。この撤去に失敗すると、モダンキッチンがパー、しかも、もともとの流しの周りのタイルはぎざぎざ、と最悪の事態となる。向かって右側奥の部分が5cm程度、壁にのめり込んでいる。鑿では不可と判断。小刻みにドリル、鑿、ドリル、鑿、ドリル……。びくともしない。挫けそうになる。やはり、挑戦自体が無謀だったっ！ 目が寄り目になってきた。その時

、左目にタイルの破片。ぎょ、やっやばあー、危うく失明である。昔掛けていた近眼鏡を掛ける。無精髭、髪、ベーターベン。サラリーマン眼鏡、ジョッキングパンツ、庭仕事用の軍手と、まったく、職業不明のいでたちで発掘調査隊。少しずつ、流しと壁の密着部分が見えてきた。次の疑問。流し全体が壁にセメント等で固定されていたら？ 撤去は、自力では不可。壁自体を壊さないといけない。寄り目のバスターキートンという複雑な表情。泣きそうになってくる。

3日目の夕方。

壁と流しの隙間に鑿。ちょっと、不思議な感触。微かにキッという音。
むむむむむうー、再度、鑿。クラッ、流しが5mm手前に移動したっ！
床にへたり込み、ビールで乾杯。流しに頬摺り。ちょっと、寂しくて泣いた。

しつこく、つづく。

2012.12.15 Sat

流しの撤去の目途が付いた2日後、近所の大工道具店から、ご注文のキッチンユニット到着との電話。

フランスの巨大大工道具店の代表は、「ルロワメルラン」と「カストラマ」。

日本にあったかなあー、こういう大型店？ 大工道具店というより、ほとんど、家を自分で建てる人のお店という感じ。すべての工具、材料が手に入る。実際、私のニース在住の知人は、自分でプール作ってしまったし(南仏は日差しが強いため芝は枯れてしまうので、庭にプールを設置する人が多いのである)、最近知り合った三十代の夫婦は、あまりの不動産の高騰に、これではマイホームは無理、よおーし、自分で建ててしまえと、現在進行中。

早速、取りに行く。

翌日、キッチンユニットの組み立てに着手。私はセミプロなので、お茶の子サイサイ(これ意味分かんないんだけど、書いてるくせに)。キッチンユニットの上に、ステンレスの流しを設置。問題は、排水システムの構築。まず、洗濯機と食洗機の排水口がいる。新しい流しは、水槽が二つおよび、水槽上部に水切り口。家本体の排水パイプに接続、および、沈殿物を除去する円筒球形のプラスチックを付けねばならん。もろもろの難題を抱えつつも、アクセスが楽なので、大したことはない。快晴の日、サロンのど真ん中でこの作業をやった。丸1日。夕方には、後は設置、扉の取り付けを待つばかりの、キッチンユニットが完成。排水システムがポンピドーセンターみたいで美しい。ビールを飲みながら、しばし、見惚れた。大理石の暖炉、金箔のアンティークの半円形の鏡。赤と黒のソファ。茶色い中国風の家具。黒いピアノに囲まれたど真ん中のキッチンユニット。痺れた。この場違い感が素晴らしいし、等々、近代的生活が始まるっ！といった打ち震え感。今度は、赤ワインを飲みながら見惚れた。とりわけ排水システムの美しいことっ！

ところで、「どうして裕イサオは十日間、ブログを書きたくなかったのか？」という、読者様には、まったくもってのほかにどうでもいい問い。おもむろに裕先生、舞台に登場。マイクの位置を決める。ちょっと、ごほんごほん。

「えー、本日ご愛読の皆様へ。えー、わたくし、幼少期より、詩だピアノだ小説だと諸々に手を染めて参りました。器用貧乏、多芸は無芸の極北を極めて参りました。すべて、三流、鼻屑目で見ても2.7流止まり。最近、ピアノの進歩目覚しく、三流の上から二流の下へ昇格致しました。えー、ついでに三ヶ月前よりブログに手を染め、このように皆様とネット海海上にてお目に掛かる機会を持てましたこと、誠に持って、嬉しく思う次第でございます。手漕ぎ船でひいこらひいこらお買い物。ひいこらひいこらキッチンユニットの運搬中に、こうして擦れ違う。あっ、ど、どうもと会釈をし、皆、住み家へ。なかなか粋でございますな。で、先のご

質問でございますが、わたくしめ、元を正せば現代美術家なのでございます。しかも、一流の。現代のクラフトマンなのでございます。この手仕事。物体。こちらへ世界観を圧縮するプロなのでございます。最後の展覧会から、早や十五年。このキッチンユニットの新旧交代劇は、わたくしの中の、現代美術家、伝説の巨人を揺り起こす超絶的作用を脳内にもたらし……。という次第でございます」

どうでもいい？ あっそ。

しつこく、つづく。

2012.12.16 Sun

「詩」のようなもの

それぞれの詩があるから
押し付けても意味がないことを まず 知らないといけない

球体に表裏がないように 私たちの関係にも それはない
私たちは みな 無関係

関係？ 血の繋がり それ以外のものはない

表裏がないから 私たちは 楽しく無関係

「詩」を強要することは詩的ではない まず これを知ってから書かなければいけない

でも 私たちは「詩」に強要 強制されたい そういう動物なのだ

だから それぞれの中に「詩」がある

2012.12.17 Mon

新旧交代

いよいよ、流しの撤去、開始。左側のテーブルにカーTONを敷く。流しの重みで腰を痛めないように、水平移動を試みる。古代エジプトの知恵である。

ぐらっ、めりっ、むむっ。少しずつテーブルへ流しを移動。一瞬、アントニオ猪木のような、明日のジョー。流し様の重量に耐える。元OOO一中、野球部キャプテン、キャッチャー、四番が、二秒ぐらい蘇り、無事に流し様、台座から外れた。懐かしい、あの頃、坊主刈りの頃が。一級上の先輩は甲子園に行って居るのである。二回戦で敗退。仕方がない。むふふ、俺の行った男子高校。たった一度だけ、準優勝をして居る。小さな大投手。全試合を失点、わずか1。で、決勝で敗れた。俺が小六の時に。町中から人がいなくなったと後で聞いた。粹でしょ、失点1でって。

おわあ—————！

初めて、流しの裏側、台座の中を上から見た。まさに、鳥瞰図である。

昔のガス管、多分、一等最初の水道管、排水口、諸々の蛇口、右側の壁からコンクリート、床との段差、等々。大体、壁自体が推定93度。直角ではない。このラビリントスの空間に、長方立方体を「壁際に」設置しようというのだから、飛び上がる。簡単に描写すると、古代のジェットコースターのミニチュアを上から見た図ってな感じです。

とにかく、要らないものを除去。なるべく凹凸のない空間を作る。算数上は、そうなります。除去できない突起物。キッチンユニットの裏板を切らないといけない。これも、道理。現代美術家(元)の面目躍如である。なんか、作業自体が、人間社会の縮図的、です。

その日の夕方。キッチンユニットの設置を終了。ぴたっ、と納まる。

お見事っ！ ぱちぱちぱち。

テスト開始。

- 1) 床、水浸し
- 2) メインの排水システムから、小雨

むむむむむうー。

- 1) は、キッチンユニット移動の際に、パイプの接続部分が外れた。すぐに解決
- 2) もう、はっきり言って原因不明。とはいえ、毎度御馴染み。フランスのプラスチック製品の精度に問題ありと解釈するしかない。これだけ嚴重な作業にも関わらず小雨。再度、解体。シリコンと、水漏れ用の薄いナイロンテープで再構成。小雨、止む。快晴

すっ、素敵だ。薄いグレーのキッチンユニットっ！

これで、更に炊事マン、パワーアップっ！

(翌朝、削ったタイル二枚が浮き上がっているのを発見。二枚を剥がし、タイル専用の接着剤で修復を試みる。けど、すべてのタイルが、びしっと手を繋いで成立していたのだ。二枚を嵌め込もうとしたら、その横のタイルが剥離。で、それを……。次が剥離……。次から次へと、剥離。結局、六枚が剥離。剥離を回避しつつ、修復。これも、人間社会の縮図そのまま。タイルとタイルのせめぎあいが、壁を成り立たせていたのである)

ところで、

ちょっと、ちょっと、俺、昨日ブログ書いてないんだけど……。なんで、更新されているの？ だれだっ？ 詩神様がサロンのソファでにやにやしている。あっ、詩神様だなあー、勝手に更新！ むふふふふふ(今日も、注釈入れちゃったよおーん)。なんだよおー、駄目だよ、俺のブログなんだから……。えっ、さすが？ いつもより、どおりで格調が……。ありゃ。

どどどどどどどどどどどどどっ、出てきたあーん、俺の脳内住人っ！

ジャズ神様、ジャズ菌軍団、うっくん、酒神様は常駐、おわあーん、シニアマン、ジェームズ裕、ハイランダー(未執筆)、キャサリン、イザベル、直子、俺のプール付きの豪邸……。

ありゃ？ すいません、あのあーん？ 馬鹿タレっ！ わしは哲学者の球体爺じゃ！

すいませえーん、目鼻ないと、どっちが前=顔なんだか、分からんのですが……。

ばあーんかかあーん、お前っ！ わしは、旧態人間。あっ、漢字が違う、球体人間じゃ、哲学者って、こと、ね、若造。

もう、みな、不平たらたら。登場回数が少な過ぎる。シリーズもんは放置。ちょい役のまま放置された云々。がやがやがやがやがややややっ。

だまらっしゃいっ！

わたくし、キッチン格闘家。忙しいのっ！

文句言ってねえで、手伝いなさいっ！

お台所

モダンなキッチンユニットを設置してみると、諸々のバランスが変わった。

壁にコの字に張られた白いタイルとのバランスが悪い。流しの幅が20cm増えたので、調理台のスペースがなくなってしまった。ガスオーブンを小さいものと取替え、調理台として、小さな食洗機を購入することにした。白いタイルは、タイル専用のペンキで、茶色っぽいワインカラー(ボルドー色)に変更予定。今、下地を作っているのです。

元々、この家を購入した時、お台所に、鉄のかたまりのオーブンがあった。鉄のかまどです。いくらなんでも、毎日、蒔き拾い、調理ともいかないので、さすがに、ガスオーブンに取り替えた。通りに古いオーブンを出したら、多分、アンティークショップに転売するのだろう、あつと言う間になくなっていった。いらぬものを処分する時、たとえば、くつ、食器、家具なんて、通りに出すと、いつの間にか消えてしまう。自転車は、出して扉を閉めた途端に、もう、ない。捨てた衣類が、翌日の蚤の市で売られていたりする。お金はフランス国はあまり循環しないけど、ものは、ぐるぐると回る。悪いことではない。取っ手の割れた急須なんてもんも、蚤の市で売っている。50センチムとかで。アーティストが作品用に購入したりするのだ。

私は、ものを集める趣味はないけれど、物持ちは世界トップレベルである。

二十歳の時に、クアラルンプールで購入した自転車の絵柄のTシャツは、十五年ぐらい着ていたし、自動車運転歴二十一年。愛車は、まだ、二台目。ピアノ、アップライト、電子、共に二台目。これは、私のレベルアップのせいで、道具の方が、付いて来れなくなった。安物楽器の限界はある。

フランス人のお金の使い方は、当然にしてベースがケチだから、消費系にはあまりお金を使わない。自動車なんかに、あまり散財しない。お金持ちが、リッターカーに乗っていたりするから、車から、地位だの収入を推定するのは至難である。考えたら、有料のテーマパークみたいなどころにも、あまり、行かない。森とか湖とか川岸。昼食は、サンドイッチを持参。

で、お金を使うところは、家、庭、家具とバカンス。こんな感じ。

これに関しては、私も該当する。プラス、これに楽器が入る。

やはり、どう転んでも経済の活性化はない。

で、家電が一番安いもの主義なのであるが、

ガスオーブン、これは料理狂の私には道具である。安物は避けたい。で、いいものを購入。

白とはいえ、やや、象牙色。このガスオーブンの横に、真っ白な安物食洗機は、やはり、その安物感があまりにあまりなので、やはり、多少の散財要。

なんか、元々、美術やってたから、こういうところはうるさいのである。
でも、衣類は、すべて安物で固める主義。なんで？
もじもじ、どうしようかなあー、書いちゃおうかなあー.....。

ブランドは私だっ！

書いちゃったっ！

2012.12.19 Wed

one day is a one day

毎日 空の様相が違う

当然である

自然は 毎日 静かに動いて 同じ形を示すことはない

その形は 一度だけである

私たちも その自然の一部 同じ顔は二度とこない

生まれてから死ぬまで 同じ日 同じ顔は二度とこない

地球に生物が発生してから

私たちは まだ いる

地球の表面に 蔓延った

そして 知能を持ってしまった

破壊と感傷が繋がってしまった

だから 泣きながら 破壊を続ける

私たちに似た 以前の間人間が 同じことをしてきた

私たちは 続ける以外に 方途がない

私たち？ そもそも始まりから そんなものは ない

2012.12.20 Thu

食洗機を買いに行ったら、レジにすごい人、と言っても十人程度。

約三十分待たされる。注文時に、20%を支払い済みなので、残りを支払わなければならない。注文品は届いてますよね、と念を押したら、出した小切手を押し返されて、それでは、あちらのカウンターで確認願います。あっ、そ。十分待たされて、箱に入った食洗機が出てきた。では、レジに戻りお支払いを済ませて下さい。戻る。なんとなくイラ付いているレジのお姉さん。小切手を渡す。何やら同僚およびスーパーバイザーのお兄さんにごじょごじょ。その間に、他のお客さんがどんどん支払いを済ませる。三十分待たされ、

「すみません、コンピュータープロブレムのため、本日は、小切手は受付できません」

一時間十分後にご通達。

温厚な私、であるが、このフランスで頻繁に起こる「こういう事態」。

「えっ、今突然なのですか？」「いいえ、2日前からです」「では、なぜ、最初のレジで小切手を出した時に言ってくれないのですか？」「ご迷惑を掛けたくないの、いろいろとトライしてみましたが、駄目だったのです」「事情は、分かりますが、一時間以上立ったまま待たされているのですけど.....」と、その時、お姉さんの目に「るっせえー、客」という光が見えた。

温厚な私、から、松田優作へ、0.2秒で変身。

「おい、ねえーちゃん。事情は分かる。最初のレジで、なぜに言わん」「いや、私が担当ではありませんでしたから」「スーパーバイザー、呼んでくれる？」「いや、コンピューターの問題で」「それは分かっている。段取りの問題を言っている。悪いけどよおー、金は払うから、そちらで俺の家まで運んでくれる。よろしく。不愉快なんだよ」「申し訳ございません、コンピューターの.....」「だから、そっちで持って来いって！」「有料ですが.....」

その時、松田優作からターミネーターへ表情が変わった瞬間、手伝いに来てくれていた友人に腕を掴まれた。「裕さん、出直しましょう」「いや、あなたに何度も.....」「いいですよ、いいですよ」。

と、たまにこういうこともある。結局、お姉さんの態度が気に入らなっただけなんだけど。で、なんか一晩中、珍しくイラ付いて、まっ、YouTubeで野球でもみっかぁーと、突然なった。

引退後の選手のオールスターみたいな動画が出てきた。

江夏、田淵、六十九歳。あれれ、そんなに上だったかなあー。

村田、六十二歳。なぜか、これは、しっくり。そんなもんだらうなあー。なんと、直球130km。痺れた。

ベース、五十五、定岡、五十四、掛布、五十三、岡田、五十一。あれれれえー、そんな行ってたっけえー。

桑田、四十一。そんなもんだらう。

見終って炭酸水を飲んでた。飲み終わり、あれ、俺って桑田と同世代のはずなんだけど.....。何時の間にか、脳内が一世代ワープしていた。なんだよおー、俺って掛布と同じ年かよおー。自分でびっくりしたりする。

ところで、皆さん、もうにこやかで、エラーしても、三振しても、みんな、ドンマイドンマイ。にこにこ手を振って、お客さんの声援に答えて、127kmの直球に、自分ではしゃいで、一塁まで全力疾走って言っても、ベースと一塁の間辺りでアウトになって、ベンチに引き返して、お客さんに手を振って.....。

皆さんの年齢を考えたら、凄いレベルだけれど、なんとも、このオジサンの余裕と、なにより、楽しそうなこと。いいなあー、オジサンって！ 音楽も、こんな感じでいいんじゃないなあーい、と、思ったよ。ミストーンだの、メロディー忘れちゃって、皆に笑顔で手振ったり.....、ね。

2012.12.21 Fri

フランスの日常

本日、再度、食洗機を取りに行く。

さすがに、お店の方々、私=ターミネーターのことを覚えていた。

あっ、タミネさん。うんうん。私は笑顔。あっ、はっ、はい、直ぐに、お餅を突きますから。

レジのねえーちゃん、振り返り、あっ、ムッシュー、今日は、小切手、わなわな、だっ、い、じょう、ぶ、です。私は好々爺。

俺、そんなに怖いのかな？ お店の人たち、なんとなく、膝がくがく。

ここまで書いて、今度は洗濯機の水漏れ。中断。パイプを繋ぐ。また、目がタミネさん。

でね、俺は全然、強面ではないし、超絶的に温厚な人間なのである。

けど、草食系とかいうアンちゃんではないのである。小食系ではあるんだけど、草食ではない。

あっ、粗食っていうやつね。伝統的な日本料理が一番いいのである。

わらび、とか、ぜんまい、とか、ひじき、とか、納豆、塩辛、豆腐、なめこの味噌汁とか、とにかく、昔から日本人が食べていたもの、これが一番なのである。

で、この粗食、温厚の日本異邦人が、フランスで生きていくと、ちょっと、どこかで、暴力的になる時がある。たぶん、中田選手が一番分かってるかも。そんなことはしたくない、けど、仕方がない時もある。弱肉強食。肉弾戦。向こうが掛かってくる。そんな気は、ないことは分かっているけど、我々日本人には、「掛かってくる」という感じが、いつも、する。

で、東洋系の良いところでも、悪いところでもある、「最後に炸裂する怒りのエネルギー」。

ブルースリーである。でも、現代風の「切れる」は、拙い。

フランス人の、かねがね良いとこと思っているのは、「口論する」こと。「手は出さない」。

これは、絶対に良い。けど、俺、怒ると、目が据わる。

たぶん、フランス人には超絶的に怖いのだと思う。この無言。静寂。目力。

俺だって、こんな俺、怖いっ！

でも、今日は、店員さんたちに、「ボンジョーネ」って、笑顔で出てきたよ。

2012.12.22 Sat

むむむ諸々

えー、赤ワインを飲む。えー、タバコを吸う。健康にご注意くださいね。でも、一番、健康に悪いのは、会社です。各会社、入社前に、入り口に張ってくださいね。よろしく。えー、また、赤ワインを飲む。

でね、忘れてしまった、なに書きたいのか。

では、ボンソワァー。

ちょ、ちょっと、あのねえー、俺の出番、なんとかなんないの？

あっ、ジェームズ裕さん、じゃん。

じゃんじゃねえーって、ちらちら登場、以上。なんだてめえー。芸人、舐めんじゃねえーって！

おおー、すっぱいっ！

ぎよ、キモ。そうじゃ、ねえーって！

そう、俺の本名は、ジェームズ裕。フランス国、重宝部員007.5である。

大工仕事、車の運転、料理、諸々、セミプロなのだ。優秀な重宝部員。

でね、顔なんだけど、これね、ユニバーサルワールドワイドハンサム、なのだ。

シリアス系 グラサンすると、あっち系 取ると、可憐な純文メロ

お笑い系 そのままで十分

パパ系 そのままで十分 ホームドラマ そのまま 好々爺 そのまま 助平爺 そのまま

ほれ、すべてのニーズに対応して居るのじゃよ。

俳優としたら、息の長あ————い、それだ。

俺の顔ってさあ————、皆に似ているのだった！

と、ここまで書いて放置。師走で、やはり、ちょっと、忙しい。

間もなくクリスマス。フランス語だと、ノエル。

で、このノエルが日本の年越しの感じに近いのです。

下宿している学生さんを例にとると、ノエルの前々日に、実家に帰省。

親族で、ノエルの前日、当日と過ごす。で、その翌々日ぐらいに下宿に戻り、大晦日は、友達と飲んで踊って騒ぐ。新年会という感じです。

粗食日本異邦人の胃袋には、辛い日々。

ノエル前日(クリスマスイブ)、午前11時半辺りからアペリティフ。前菜、前菜、メイン(普通は巨大な七面鳥の丸焼き)、サラダ、チーズ、こってりしたクリームケーキとアイスクリーム、コーヒー、食後酒。午後4時ぐらいまで続く。この間、ずっと、近況報告、フレンチエスプリアイロニージュークとへらへらやらなければならない。こっちは、元々、へらへら坊ちゃんだからいいとしても、この私の感覚だと五人前ぐらいの量を、笑顔でお腹に入れないといけない。赤ワインはばしばし出てくるし、結構、シビア。

大晦日は、友達とのパーティーっていう感じなので、ちびちび摘んで、ワイン飲んで、マイケルの物まねとかやっていたらいいので、お腹は楽。ただし、飲み過ぎ注意です。と、皆で言っているだけで、絶対に二日酔い。

で、ノエル前日(クリスマスイブ)、午後5時半ぐらいから、またまた、同じ行程を行う。メインが巨大ローストビーフに変わるけど。書いているだけで、仰け反りそう。フランス、パーティーとかで寝るの超聾感なので、辛いぞおー！

もう、毎年、ノエルの翌日は、ざるそば、とろろいも、お新香、なあーんていう感じ。ざるそば食べてるサンタさん。やっぱ、変かしら？

皆さん、ジョアイユ ノエル(良いクリスマスを)！

年始まで、ちょこちょこブログさぼりまあーす(伸ばさなくてもいいと、オジサンは思うんだけど.....。ぶりっこしてる、よ)。

2012.12.23 Sun

外から割れない卵

うす曇の夕暮れ

うすいグレーと 黒に近いグレーが まだら模様で 空に広がる

まだら模様の手前に 常緑樹と落葉樹の影のような形がみえる

ある番組で 卵は外から割れないことを知った

手のひらに卵を乗せる カップ手のひらを結んでみる 割れない

球体 力学の説明をつけることは もちろん できる

でも それは 人の心に とても似ている

内側からしか 割れない

2012.12.23 Sun

えー、本日は、ノエルイブの前夜。

(爺様ではなく、時差の関係。日本国は、すでに、24日です)

俺なりの「一年総括」。で、俺のアトリエである台所掃除(素敵なモダンライフに超変身)。俺の地球様表面である庭掃除(ブロ中のため、やや放置)。で、俺を支えている支柱であるピアノ(これは、これは)。と、軽く書いて居るが、しっぶうーい、1日。

あれれ、日本国のおやじ。俺と同年ぐらいのって、今日、何やってんだろな？

分からんなあー。まあ、いいや。大体、想像は付いてるよ。ぎょ、金魚っ！

とりわけ、ピアノ総括は、次の年への第一歩だから、念入りにやった。

で、メローなベクトルと、ハードリズムックス、このふたつの精神ラインがもぞもぞしていることが分かった。たぶん、ではなくて、近々のブログの文体に、良く出ている。

んで、お庭のぱりぱり焦げ茶色、小雨でぱりぱりがちょっとべとべと落ち葉を軍手で掻き集めていて、ふと、思ったんだけど、例年、この時期は、うっくんとの蜜月だった。のに、ブログ様のお陰で、うっくんの登場が実に少なかった。んで、年明けると、よっしゃーと、いつも、なっている。から、いい感じっ。

この、うっくんの登場が少なかったこと。これは、俺には意外だったよ。

どう考えても、ブログ執筆以外には、考えられない。で、やはり、愛読者様へ、お辞儀です。

メルシー 僕うー。です。

こういうブログの効用は、確かにある。

書くことで、自分の位置を確かめる。

羅針盤だね。でも、書くこと、辛気臭い。籠ると、やばい。

籠り系は、籠りのおば様になっちゃうから、詩とか小説、やばい。

病的だ。ある意味。でね、詩が一番やばい。ある意味、自己中を越えちゃう。

自己陶醉。これは、ね、やばい。

小説、これ、辛気臭い。ねちねちしていて、暗い。筒井大師匠は別です、けど。

でね、自己中、自己陶醉、ねちねち、だよ、やっぱ、止めた方がいいと思う。こういうことは。

でね、むふふ、そうではない詩、小説、エッセイもあるのであるのだのアディダスなのだっ！

2012.12.24 Mon

食べ物と飲み物

17h30 ペルフォートビール(赤茶色)

18h15 シャンパン シャンパン シャンパン

クラッカー、チップス、ミニソーセージ、ブッダン(豚の血を凝縮したソーセージ)、白ブッダン(白身魚の練り物ソーセージ)、鰯のテリーヌ(自家製)

21h00 生牡蠣 レモンないし、ニンニクビネエガー 白ワイン

その前に、トースト、バター、フォアグラ シャンパン

22h15 鴨腿肉のクリームソース、インゲン添え

赤ワイン 赤ワイン 赤ワイン.....。ブルゴーニュ、ボルドー、ボルドーメドック、サンテミリオン.....。カルバドス

24h00 クリームケーキのパイ包み

01h00 ノエル用のアイスクリーム

12h00 シャンパン シャンパン

13h00 フォアグラとトースト 生牡蠣

14h00 エスカルゴ、パセリニンクソース(エスカルゴ、自分で捕獲、ソース自家製)

15h00 羊腿肉丸焼き 肉汁ジャガイモ 自家製ニンジンのピュレ

16h30 クリームケーキ アイスクリーム

17h30 コーヒー

はい、隊長。

フランス人は、何を食っとるのだ？

えー、裕の報告ですと、このように.....。

そうじゃなくて、一般家庭は？

えっ、裕の報告ですけど.....。

えっ？ ボウ貧なのに.....。はい、だから、富裕層は、何食べてんですかねえー？

ちょっと、裕を出せっ！

「いえー——、隊長、体調はいかが？ るっせえー——、レポート書いたから、今、とろろ汁。こっちの身にもなって頂戴って！ ジェームズ」。

作者注 一般家庭です。これが標準なの、フランス国は。食料自給率200%だよって！

痺れました。

2012.12.27 Thu

紙上コンサート書き散らし

今、フランス国は、午後5時半でございます。

俺の展望台サロンの右の窓は、クリスマスツリーのため雨戸を閉めてあるわけ。

で、俺の正面の縦長の大きな窓。薄いグレーと雨雲。かなり強い風で左側へ凄い勢いで流れている。雨、雨。なんかブルターニュ地方とか、ノルマンディーの海岸。

冬の海岸に立っている感じ。俺、昔から好きなのだよ、冬の海。根暗なのだ。

本当は、ブログ書かずに、赤ワインを飲みながら、じいーと、見ていたい、けど、ブロガー魂なのか中毒なのか、しくしく、これを書いてしまっている。綺麗だ、本当に。宇宙船の中にいるみたいなのね。見晴らしがいいってのは、心にも、たぶん、いいんだろう。はい、お仕舞い。だめ？ あっ、そ。

でね、今年のフランス国は、雨、快晴、雨、快晴、雨と、すでに書いたけど、今日は、1日の中で、地球様は、ご演奏されて居る。凄い気迫。とはいえ、年末なのに、日中の気温は、15℃ぐらいという暖冬です。高血圧には、暖冬は、助かるのである。懐が寂しいけど、心は錦になり易い。俺は東北人だから、寒いのは構わん、でも、高血圧だから寒暖の差は痺れる。どっちかにしてもらわんと、やはり、心臓に悪い。でもね、南国に住みたいとか行きたいとか、全然ない。急に、また、博学。セリーヌの代表作のひとつに「北」というのがある。で、ミラーのそれも「北」回帰線。やはり、俺には、なんかの極北。ありゃ、この単語も「北」だったよ、すでに。だから、南国には、興味がない。

でね、庭の木々の剪定を始めた。

ぶどう、なし、りんご……。心が休まる。

毎年、毎年、心が痺れている時に、俺の庭、および、木々が救ってくれた。

彼らが、いつも、後ろに付いて来ている。

助かる、本当に。

剪定、散髪と一緒に、すっきりするのである。

俺も、彼らも。

2012.12.28 Fri

ジャズ菌さんの詩(うた)

豚のようにと 安易な比喻が 最も相応しく
今 私は 布団の中で豚のようになっている
豚の形になってみると そりゃ ふて豚しい

はなもげら語を発明したのは もりはなえ ではない
洋ナシを ジャズメンが食べると 当然 字が違う
そんな 話はなし と東シナ海で考える

よしなさいっ そんな 派無しっ

拳銃を持った爺さんが 東シナ海で ずどおーんと 拳銃撃ったら
嚴重になって 蛸が引き攀った で カオスのタコス ね
で 酢蛸にして 食い散らかして 悔いが残った残ったの 大相撲

おー 烏賊は墨に おけないわ などと ナドの実(えっ、なにそれ?)を 食べた
わらびを ころびながら 取ったら 扉の取っ手 だった
なにとってんだって はい 取っ手です なんて 取って 付けた

もおー 毛布はやめてっ て おまえが言うから 羽毛に変えたら
うん もおー って言うから 手羽先 手間が 省けた
ような 木の下(だれなの?)

えー 本日も まあ なに ちよいと なにを ね(なんなんだって!)
まあまあ そう怒んなさんなの三男坊 棒を担いで ぼー

蛇頭野 菌次郎作

ととととと、まさか、読者様、読んでないよね？ これ？

公開 先に 立たず

お粗末でした。

2012.12.29 Sat

年の瀬

今朝、起きて、なんとなく年末の挨拶ブログみたいの書いて、よおーーーし、ブログは、ぼさろおー、と、さっきまで思っていた。で、結局、これを書き出している。これは、もう、絶対に、明子姉さんと小股兄貴のせいである。団扇じゃない、内輪にしか分かんっ！ その通り、です。

で、「年の瀬」。実は、意味が分からないのです、おっさんなのに。恥ずかしい限り。後で調べる。しくしくしく。と言うのは、本当の嘘で、翻訳すると、「年の淵」。だから、当然、年末。日本語って粹な言語なのである。

1日=24時間

1年=365日

このリズムは、我々が決めたのである。と言いたいけど、これは、宇宙様と地球様との力関係で、このようになった。地球の上司、ね。宇宙は広いどおーー。駄目駄目、しょうもないことに、くよくよしてちゃ！

などと、書いて居るが、俺だって、自己中だぜって！

ところで、これがだ、1日が3時間とか、1年が3000日とか、こういう風に考えると、おわあーとなる。前者は、超忙しいし、後者は、なんだか、「はい、僕、今、5歳です」なんてことになる。で、インカ帝国の人、マヤの人たちが、たぶん、こういう計算式を立てたのだろう。

でね、今日、俺の家の庭のど真ん中の菩提樹の枝切りをしたわけ。

当然、樹齢、112年。でね、絶対に、俺の家は、この菩提樹の上に建っていると、踏んでいる。この木と、俺の家と、たぶん、ありゃ、俺もだよ、合体ロボなのである。

そうなんだけど、主旨が違う。

この区切りってのは、気分的にいいのである。

四季。これない国も多い。やはり、気持ちの区切りである。

年。あった方が分かりやすい。ないと、どうなるのかしら、ね。

と、うだうだ、書いてるけど、俺には、ありゃりゃ、年末の大掃除なんてないし、新年の抱負なんてもんもないのね。でね、前者は、日頃の積み重ね、と言うか、あまりに、きっ

たねえーと思ったら、徹底的に掃除する。以上なのだ。で、後者、ふふふふふ、毎日が、抱負の連続だから、とりわけ、いらんだ。という、これ、一応、元気ブログなんだけど。

はい、体と心の元気は、みんな、いるのだ。

2012.12.30 Sun

昨晚、書いた記事を、今、読み返したら、なんだか物凄く重々しい内容なので、ばつっと、削除してしまった。分からないのだけれども、私の中にブログというものに対する考えがあって、私の判断で相応しくないとした。明確な説明はできない。

ブログに書かないことが沢山ある。いや、逆に言うと、本当に書きたいこと。書かなければいけないと思っていること。そういうものは書かないのである。なんか別の土俵でと考えてしまう。これも明確な説明はできない。

と、もやもや、もじもじしながら、まァー——良くも毎日、書きまくっとる！
3ヵ月半で、126編。この吹き零れる馬鹿力！ なんなんだっ！
もぉー、やはり、以前書いたこの台詞。「そこに山があるから登るのだ」に近い。

ジャズメンの脳内構造は、十分にばれてしまった。

ぎょ。やはり、このネジレ構造あつてのジャズなのだろう、ね。

これも、以前に書いたけれど、時々、私のところに、クラシックのピアニストが、教えて欲しいといらっしゃることがある。で、教えられないのである。大体、私自身がジャズは独学。手探りで、「自分の出したい音」を発掘してきただけなので、教えるような技量はない。もちろん、理論的な説明はできる。それから、このブログのタイトルでもある「シンコペーション」。リズムの強弱の位置を変える、いわゆる、こぶし回し。このイサオ節と良く言われるこれに関しては、もう、私の内奥のエモーションから発生しているから、教えようがない。で、一部の方から、これが、やかましいというご批判も受ける。たぶん、一理あると思う。

ピアノの饒舌体。このブログの文体に、当然ながら共通している。

やたらと音数が多いのだ。へらへらなのである。これは、もう絶対に根暗の裏返しで、明るくへらへらやっていないと、私自身のバランスが取れなくなる。アルキヘンデスのメンデルスゾーンの論理である。嘘。

年が開けると、諸々のプロジェクトが始動する。

ニュートリオの結成。デュオ。ピアノソロ。

舞踏との再共演。それからアーティストによる動画の撮影。

うひゃー——、忙しいなあ、もう。

でね、超絶技巧「ドラゴンへの道」。これは、かなり身に付いた。今、消化中という感じ。さり気なくでる訓練をしている。これはこれで難しいのだ。

はい、私の読者様方。改めてお辞儀です。ありがとうございます。

読者様の脳内の方を心配して居ります。だめだあーこりゃ、とお感じになられましたら、早急に、アクセス中止、お願い申し上げます。でも、脳内ジャズ菌感染してしまった方は、むはははは、お読み続ける以外には、方途はございませんこと、ここに明記させていただきます。嘘。

では、皆様、良いお年を！ 心から！

2012.12.31 Mon

明けまして、おめでとうございます。読者の、皆様。

どうでしたか！ 大晦日は？

それぞれの、過ごし方をなされたと思います。

で、私は、ぎょぎょぎょ、ははは、書かないのです。

そんなことは、どうでもいいのですが、本年も、良い御年になりますこと、心からお祈り致します。体と心の元気。私も必要なのですね。だって、ピアノ弾けないでしょ、それないと、ね。

で、初心者、チンプラブローガーの初めての年越し。

皆さん、お休みなんだろうなあ———とっていたら、きちんと更新されている。

仰け反りましたっ！ 甘いぜ、俺なあー。素晴らしいです。うるうるしています、本当に。

親愛なるブロガーさん、および、ご家族。本当に、良い御年をっ！

やはり、区切りは、人間、必要なのだと思う。

でもね、良い御年は、自分で作るしかないと思っています。

いくつになっても「新年」は来る。

植物の循環と同じだから、新芽、新年は来る。

我々人間は、高度に墮落しちゃったから、豊年は、自分で作るしかなくなっちゃったよ。

ただし、この「豊か」、これは自分で定義しないと、人間はいけなくしてしまった。

尺度が分かんないよね。トマトは、よお———く、分かるのに。

はい、内面、内面、と、簡単に言って居るが、これこそ、本当に大変。

でね、「皆で」いい年を作る、ことも、ミュージシャンは、できるんだぜ。

凄いでしょ！

現在、こちら、フランス国は、一月二日の午後二時半。

先週、今週と冬のバカンス週間。クリスマス、新年のパーティーが済み、国全体が、ぼーっとしていている感じです。

二年前の年越し。大雪。二十八年ぶり。パリ近郊で積雪30cmぐらいになり、交通マヒ。

一年前。寒波。パリ近郊で零下16℃を記録し、交通マヒ。

今回の年越し。異常な暖冬。日中の気温がパリ近郊で11℃から15℃なんていう、二月末のお天気。もう、春めいちゃいましたという感じなので、余計に、ぼーっとしていている。

枝切りされた、各お庭の菩提樹の木の姿が、なんだか場違いに見えるぐらい暖かい。

それで、三日までは、ぼーっとしていようと思いきや、働き者体質全然治らない。

昨日午後から、せかせか。せかせかせかとピアノの練習を開始。せかせかせかとブログを更新。

本日は、せかせかせかと新年メールを書き。せかせかせかと、これを書き。終わったら、せかせかせかとピアノの練習をする。全然、フランス国に住んでいるのに「寛ぎ感」というものがない。

あまり詳しいことを書いてしまうと、私のブログ自体、興ざめえーっとなっちゃうので、書かないけれど、私は二十四年間、超絶ハード究極の多忙ジェームズボンドライフをやってきたので、これが治らない。四六時中メールに 아이폰から返信、ひっきりなしの電話、早朝、

深夜の移動。TGV、車、飛行機。モナコの海岸道路を黒いオペルアストラステーションワゴンで、猛烈なスピードで運転したり(ぎりぎりのアポイントタイムのせいじゃなくて、アポイントの住所がモナコの反対側だったの。俺は、遅刻しない主義なのでこうなった)、ムルーズからニース空

港まで、ほとんどプライベートジェットと呼んでいいような小型ジェットで移動したり(二人の超

美形の客室乗務員のお姉さまに、どちらのエージェントの方ですか？と、真顔で聞かれたから、

フランス重宝部員だ、俺は、とサングラス越しに答えて、ウイスキー飲みながら眼下のモンブランの雪景色を見ていた)と、本当に、マジで、これって「現実のジェームズ」じゃんと思っ

たのである。モナコの高級ホテルのロビーをスーツ姿で歩いていた時は、もう、本当にソレになりきっていたよ。ボンドガールがないだけで.....で、この生活を行いつつ、右のプロフィール

も本当だから、多忙を通り越していたのだと思う。瞬間最大風速、三十五歳の時。この生活プラス、美術と小説執筆とピアノの再開と、すべて、同時進行していた。考えるだけで、良く、体

が持った。巨人の星の世界だよ。

で、今は、庭の木々の剪定して、おでん作って、おーっ、人の暮らして、本来は、こうだったのねえー、

などと、ジェームズ裕は、一人呟くのであるが、笑い方だけ、昔のまんまだ、よ。

変なおじさん、だっ！

2013.01.03 Thu

ほんとの話

俺は、むっとする灼熱のニース空港に到着した。
ムルーズから、定員二十名の小型ジェットでやってきたのだ。
総革張りの二十席のシートには、俺だけだ。

英語とフランス語の機内案内。俺は、どちらの言語も堪能だから、どっちだっていい。
超美形のボンダガールのような客室乗務員が、寄ってくる。しかも、二人。

「ミスター」「俺、フランス語、話すよ」「失礼致しました、ムッシュー。お飲み物は？」
「うーん、ウイスキー、ロックで」「ウイ、ムッシュー」
ささっと、出てくる。

「ムッシュー、大変、失礼ですが、どちらのエージェントの方ですか？」
「あっ、俺？　OOO。それが？」「失礼致しました、一般のお客様は、当機にはいらっしゃらないので」「そりゃそうだろな」「左側に、今日は快晴で、アルプス山脈、モンブランが見えますので、ごゆっくりお楽しみ下さい。ご遠慮なく、なんなりと」

俺は、二人の客室乗務員のタイトスカートの後姿。もちろん、OOOのラインをウイスキー片手に、もちろん、早目(という目があるのね)で見て(観賞ないし鑑賞)いた。凄い脚線美だった。

二人の客室乗務員に、夏物のスーツ姿の俺。サングラス。に、両手を前結びにして、出口でお辞儀されたから、サングラス越しに、ウインクして、メルシー、ボンジョーネって言って、プライベートジェットの階段を下りて、空港へ歩き出した。滑走路の端の方ね。だって、プライベートジェットだから、こうなるの。

で、ニース空港のレンタカーの事務所。毎度、馴染み。

「ボンジュールっ！」「あっ、ムッシュ裕っ！」「元気だった？」「ええ、お陰様で」「相変わらず、イカシテルね(ウインク)。旦那、捨てちゃえ、よ。冗談冗談」「またまた、ムッシュ裕」と、まんざらでもないようにこっちがたんじゅんにそうていしてしまってもいたしかたないような笑顔。

「ムッシュ裕。ベンツのリムジーンが空いているんですけど.....」
「ありがたいけど、さ。目立ち過ぎる、よ。ベイビー」
「そうですか.....」「さりげないやつ、ないの?」「オペルアストラは?」「いい感じ、色は?」
「黒です」「いい感じ、ね、それにして」

で、俺は車の運転はセミプロだから、ほぼ、一分半で、操作を理解。

これから、モナコに行くのだ。秘書からもらった住所を 아이폰 に入力。

「なあ———んだ、早めに行って、海辺のレストランで、ゆう———くり、海鮮料理、冷えた白

ワイン。うひひひひひ。ぐふぐふ(これは、俺の笑い方じゃないけど、だれだ?)」
で、その住所へ行った。おっ、この通り、奇数しかないじゃん、マニーペニーに電話。
「ハイ、マニーペニー、俺だ。もう一回、スペル言ってみて」ぎよ、一字違い。
「メルシー。いいぜ、おめーのせいじゃないよ、ケアレスミスは、だれでもある」
と、ジェームズ裕。ただし、ナビで調べる。ぎよぎよ、ぎよ、わあ——、モナコの皇居の横
かよ、俺、モナコの正反対じゃん。むむ、俺は遅刻はしない。プライドが許さん。で.....。

飛ばした飛ばしたモナコの海岸通り。

俺はナビを見なくても、位置さえ分かれば辿り着ける。で、行く。
一通と左折、右折禁止の連続、および、印象では、10mおきに警官。
位置は分かっているのに、辿り着けない。カフカの城状態。
時間は迫る。俺の美学上、遅刻はしない。
で、あのトンネルの左の坂を上る以外にはアクセスなしと判断。
左に見える。左折禁止。右、右折禁止、ただし、左折しないと間に合わない。
左側にパトカーと五人の警官。

俺、ぎい——、四輪ドリフト停車。いきなり、バックで、右の一通の通りへ。バックミラーの
中に、大型トレーナーが映っている。パッシングライト、クラクション。素早くバック。直進。
警官五人に、サングラス越しにウイंक。で.....。

俺の時計は秒針まで合っている(はっきり病的)。秒針が、アポイントの時間ぴったりに、ピンポ
ーン。はい、美学と遊びと現実が交差すると、こうなるのね、何事もなかったかのような笑顔、
当然。

2013.01.04 Fri

最初のブログ筆トーク

昨晚、なんの気なしに、いつものようにブログサイトを開いて見た。

で、これもいつものように、ブログランキングの順位は56位とか、そんなところだった。

で、日本ブログ村の方に移り、これもいつものように、お気に入りのブロガーさんの記事を読んだ。で、注目記事のところに目が言った。俺のが1位。で、総合順位、れれれ、10位。

なんか、すっかり、村の住人になっている。読者様方には、本当にお辞儀です。

で、そんなはずはない。俺のブログは、そういうのではなく、良くも悪くも特殊でマニア向け。と推定していた。別に、特別という意味ではなく、特殊、ね。万人受けはしない。これは、当たり前で、俺自身がそうだから、当然、そうなのである。とはいえ、読者様の数が、じわあーと、俺のライブ動員数に迫り、少しずつ、それを抜き掛けている。

なんとなく、談志師匠の前口上を思い出した。

「えー、俺の落語に、確か3000円。俺のなんか2000円でも高いと自分で思っちゃう。しかも、満席。えー、よほど、世間から阻害されている人が、多いんだね、この国は」というやつ。この大変に失礼なアイロニー。

はっきり、これぞっ、フレンチジョークなのである。

でね、初心に蛙をしてみて、俺の最初の「筆トーク」の記事を読んで見た。

はっきり、今より、ずっと、文体が生き生き。ブロガー初心者のういういしさが、剥き出し。しかも、三週間、ぎっくり腰で座りきりだったから、もう一日中、ブロ中。

でね、村への参加は、筆トークの最後の方だったから、こっちは、あまり読まれていないはず。で、バックナンバー読むのって、なんだか、鬱陶しい。なんでかしら？

で、月毎にタイトル読めるように変更。

もう、自分で読んでげらげら。シニアマンシリーズと架空の人物と夢小話。

この小説もどきは、俺の未発表のショートショート「コスミックヒステリー」の延長にある。もし、マニアック系の読者様がいらしたら、是非、この辺は、お読み下さいね。

なんか、やはり、段々、ジミーになっていることが分かった。

やはり、人間の本质で、そこそこの観客がいると、無理をしない、やばいことはしないと、保身様になるのである。

痛てえー、だれだよ、後ろで突ついているのはっ？ おーーーーー、保身様の天敵、ジャズ神様

だぜって！

2013.01.05 Sat

私のブログの「媚帯紹介文」。「フランスより.....」。で、これを見て開く。来る日も来る日も、馬鹿頭馬鹿頭の連続。読者様、ベズリー目でへたり込み、辟易。これは、看板に偽り有り。ブログ法(なんだそりゃ?)に抵触している恐れがあるので、突然、読者様サービスです。では、北から行く。たぶん、人口だの、細かいことは、私の記憶で書いているので、間違っていたらお許し下さいませ。調べたりする気力はないのだ。謹んで、お辞儀。

「リール」

これは、三年間住んでいたから、特別な思いがある。シティ(かっぺ)の国と呼ばれる。失業者とアル中と、大金持ちが多い。真ん中が少ないということ。国境の町。ベルギー人、イギリス人が混ざって歩いている。気さくな連中が非常に多い。なんか変な風に警戒(フランス人はこっち系が多い)していないので、通りで地図広げていると、三人ぐらいが、なに探してんのと寄ってくる。それと、とんがった前衛ミュージシャンの巣窟。町全体が、ジャズしている粋な町。で、なんとなく、活気はあるけど、町並みは煤けているイメージがあった。実際は、ミニブリュッセル。ベルギーの中都市という感じで、とても、美しい。フランドル洋式。元々は、繊維、その後は炭鉱で栄えた町。私も東北の炭鉱の町で育ったから、この空気は懐かしいし、実にしっくり。私が、もっとも愛している町。人口二十二万人だけれども、周辺人口を入れると百七十万。パリ圏の次の大都市ということになる。モンペリエの駅前のパン屋で缶ビールを買った。びっくりした！ 缶ビールを紙袋に入れて渡された。一瞬、意味が分からなかった。あっ、昼間から酒飲んでいる親父というお下品のカモフラージュということだったのね。リールに住んでいると、えっとなっちゃうわけ。朝の歩道は、缶ビールの空き缶だらけだから、えっ、ビールって酒なの？ となってしまう。外タレミュージシャンに、フランスのどこの町でのコンサートが良かったですかと聞くと、リールとマルセイユという返事が大抵でるのだ。なんか北にある大阪？ 日本の町だとどこなのだ、このノリは？ あっ、とうほぐだっ、やっぱす、俺だち、あずいんだっ、ところが。

「ナント」

フランス、中都市住み心地ランキングで、いつも、一位。これは、行ってみると頷ける。説明は難しい。空気が、日本の仙台市に良く似ている。町並み、人、地理、どれをとっても一位、うーん、納得という感じ。バルバラのナントの雨というシャンソンのせいで、なんか、くらあーい、ブルターニュの首都というイメージがあるけど、正反対。SF(?)作家のジュール ベルニュの生まれ故郷でもある。人口、分からないけど、たぶん、周辺部を入れて三十万人ぐらいかしら、すいません、全然違うかも。なんか、空気の良い町である。もちろん、海が近いせいもあるのだろうけど、町の雰囲気は淀んでいない。あんまり、ジャズっていう感じじゃないけれど、まっとうな人には、絶対に心地良いと思う。ジャズメン自身が、社会の淀みなので、淀み裕先生とかが行くと、なんか、心に海風状態でいいんですよ、逆に。世間を斜に構えて見て

いるおれらにはよおー。チェッ！ で、怒られちゃうかな、俺はアンチ南仏なのだ。断然、ブルターニュの荒海と断崖絶壁の方がいいのである。人間が重々しいのだ(ど嘘だ)。

「ラロシェル」

フランス西部の港町。美しい町。当然、魚が美味しい。気候もブルターニュ地方と違い、穏やか。いずれ、住みたいという連中多し。夏のバカンスで、ぼおーとして、海行って、魚食って、なんていうのもいいですよ。ついでに美しい港町の代表は、オンフラー(オンフルールと書くのかしら)。エリック サティの生家がある。なんとなく漁港って感じだとディエップ。で、ラロシエルの夏。海パンにビーチサンダル。ミネラルウォーターにサングラス。バスタオル肩に乗っけて、ちんたら海に行く。体操する。飛び込む。ばしゃばしゃやる。それから大の字になって浮かぶ。浮かびながら、人間とは、所詮、体重しかないなどと、突然、詩神様が現れたりする。で、平泳ぎ、クロール、背泳ぎとやって、また、浮かぶ。自我とは、この海の容積に対峙できるのか？ ぶうあーかもおーん、八十万年早いわい、若造という声が聞こえちゃったりする。で、泳ぎ疲れて、魚市場に行く。美味そうなやつを買ってくる。ビールを飲む。白ワインを飲む。テラスで、魚を塩焼きにする。

「ボルドー」

これは、フランス南西部の首都。ご存知の通り、赤ワインの世界最高峰の産地。金持ちも、当然、多し。私は、83---85年と住んでいた。フランス生活の第一歩となった町。今でもそうだけれど、とにかく、町全体が古い。とはいえ、ジロンド川の辺はすっかり綺麗になった。具体的に言うと黒ずんでいた古い建物の壁面が削られ、または、水圧を使った洗浄機で洗われ、建物の元の色、白い石壁に戻ったから、重苦しい印象が払拭。同時に、旧市街が世界遺産に登録された。気候は温暖。アルカションという港町が近郊にあり、大西洋に面している。フランスでも有名な保養、観光地。昔、ボロ自転車で延々とボルドー郊外を走ってみた。うえー、どこまで行ってもブドウ畑。走っているだけで二日酔いになりそうだったよ。それから、スペイン国境の方の下っていくと、これまた、大西洋側のモナコにあたる、ビアリッツとバイヨンヌという観光地。定年後、ここ(ビアリッツ)に小さな家を購入したいなんていうのが、フランス人のごく一般的な夢。たぶん、ボルドー、フランスの中都市として、もっとも重要な町だろうし、観光地でもある。赤ワインはピカイチだし、当然、食の町でもある。どうでもいいけど、ボロ自転車で乗って2m x 2mの美術作品を担いで夜中に走っていた。強風。私自身がやっこ尻。ジロンド川にオコった！ 当時、ぎょ、金槌だったから、やばかった。その日に決心したのだ。俺は、水泳を独力で習得するのだあー！ 今は、セミプロとなった。ちょっと、大袈裟かも、このレベル。長髪を坊主刈りにして、毎日、プールへ。後日、書こうかな、これ。で、土砂降りの日に、屋内プール閉まっていたのね、で、海パンと水中眼鏡したまま自転車に乗って、屋外プールに行ったのね。空は雷、豪雨。プールには俺しかいなかった。気持ち良かったあー。やっぱ、馬鹿なんだろうか、俺って？

れれれ、まだまだ、あんだけど、つづくにしておこっと。

書ききれないね、一回じゃ。

2013.01.06 Sun

パリのスリ

お早うございます。

フランス中都市紀行。つづき、少々、お待ち下さいませ。

本日は、あまりまとまった時間がないので、ショートブログに致しますね。

先日、ジャズクラブでコンサートの打ち合わせ。その後、地下鉄へ。

乗ろうとした車両から、スマートな身のこなしの長身の男が出てきた。右手に持っている財布がちらっと見えた。途端、ホームの向こう側から、少年が小走りにやってくる。あっという間に、財布が少年の手にパスされ、逆発想なんだろう、男が出てきた車両に乗り込んだ。一体、どなたの財布が掏られたのか、まったく不明。これでは、目撃してもお手伝いができない。車内で、盗難の騒ぎもないから、そのままメトロ発車。鮮やかだった。なんでも、やはり、プロは半端じゃないねえー、まったく。

私は、フランス滞在歴を考えると、盗難被害は、ほぼ、皆無に近い。

1983年、ボルドー。ピッカピカの自転車、ロードレーサーを買った日にやられた。全財産を放出しての購入。目は、当然、ターミネーターになったが、矛先がないよおー。

2011年、グルノーブルのセルフ中華レストランで、水を取りに、十五秒ぐらい席を立った。知人が正面に座っているし、と、思いきや、椅子の背に掛けてあったジャンバーのポケット、しかも、ファスナーが閉めてある、から、iPhoneの本体だけ(ケースは残っていた)やられていた。ケースの感触があるから、ホテルに戻るまで気が付かなかった。お見事である。しかし、フランス重宝部員007.5としてのプライドは、かなり、傷付いた。プロがプロにやられた感じで、思わず、胸ポケットのワルサーPPKに右手が掛かった。というのは、嘘。気持ち的に、という意味では、です。以上、二回のみ。あっ、違った、郊外列車の中で、男、約十人に囲まれたことがあった。金目のものは、すべて、差し上げた。抵抗はしないのだ。アイデンティティカードとか、こっちをやられるとやっかい。それ以上に、ナイフが出てくると、こっちも、007.5であることがばれてしまうっていうのは、またまた嘘だけど、やだよ、お腹にずぶっ、なんて。それから、郊外列車の中で、やはり、男十人ぐらいの喧嘩に巻き込まれた。私の前に、中学生ぐらいの男の子。膝ががくがくしている。やばい。隙を見て、男の子の腕を掴み、別の車両へ、同時に緊急停車のハンドルを下げた。列車止まる。なぜか、警官がどやっど、入ってきた。どなたかが、事前に通報していたのだろう。日頃の重宝部員の訓練が役立った。ふふふ。

ところで、私のお隣の大学の先生。車盗難三回。

一回目、シトロエンのマニア生唾、オールプラスチック製のミニジープ。スーパーで盗難。

二回目、ルノーの二人乗りの、商用車のミニバン。これもスーパーで。

三回目、自宅前で、ルノートゥインゴ。

一台目は、マニア系だとしても、どれも、高級車ではない。

最近は、ルノーのミニバンを購入なされた。先日、乗り込んでから15分ぐらい、延々と発車しない。私は、その後に止めようと思っていたので、待っていた。でも、あまりに、長い。

「ボンジュール、サバ？ バッテリー上がっちゃった？」

「あっ、イサオ。違う違う、盗難防止プログラムなの。ナビにね、行くところの住所、全部、手入力しないと、発車しないようになってんだよ」

「げらげらげら、もう、二十分ぐらい座ってない？」 「うん、不便だねえー」

「良かったねえー、ジェームズ ボンドじゃなくて」 「うん」

考えたら、私のホンダシビック1997も、1500円の携帯も、盗難防止機能が付いている。

そこにあっても、だれも盗ろうとしない。そういえば、ジェームズ ボンドのフォーユアアイズオンリーに出てくるロータスエスプリ。運転席に盗難防止という表示。悪役がこじ開けようとしたら、車自体が爆発。いろんな手があるけど、私のシステムが一番、安上がり、ね。

いきなり、追記。

急に、読み返していたら思い出した。山下洋輔トリオのイタリアツアー。サックス、坂田明、ドラム、小山さんの時代です。三人の会話。記憶の中からの抜粋。

「あの、尻のポケットから出ている財布。あれ、俺でも盗れるけどなあー」

「確か、俺たちが生まれた国では、盗ってはいかんと言っていた」

「なんで？」 「うー—む、確か、人の物だからとか言っていたような気がする」

「で、なんで、駄目なの？」 「うー—ん、人の物だからかなあー」

「でも、あいつが悪い。盗ってくれって言っている。あの振る舞い自体が拙いんじゃないの」

「でも、駄目だったような気がする」

全員、なんか、そんなこと言われたような気がするなあ—。

「では、なぜ、人の物を盗ってはいかんのだ？」

全員、「うー—ん、覚えていない」

2013.01.07 Mon

パリの治安

なんだか、ちまちまと忙しく、まとまった時間が取れない。

昨日の記事の続きみたいなので、お茶を濁すことにする(ブログのいいところ。俺、責任ないもん)。たらたらから、お茶濁しに変更。四六時中、スイングしているのも、馬鹿だ。

で、結論だけ書いちゃえ。

別に、物騒ではない。暴力沙汰というより、スリが多いって感じ。

俺の知人、日本から来たご家族と共にレンタカーでオペラ座界隈を走っていた。

ジャンヌダルクの銅像の前、赤信号で止まる。いきなり四つの扉がぱっと開き、男四人ががさがさがさと車内を荒らして遁走。まあ、物騒といえはいえる。けど、拳銃でズドンなんてのはないから、そういう意味では、命の危険感はない。

とはいえ、四六時中、スパイのように緊張はしている。

うたた寝なんかしない。できない。緊張しているから.....

吊革に掴まりながら、片手は財布のに入ったポケットに突っ込んでいる。

無意識にやっているのだね。

観光でいらしている日本人の方と、俺らみたいに現地化してしまった日本人。

着ているもの、物腰、目付き。明らかに違う。

前者は、漫画に出てくるキラキラ目。後者は、スパイ目だ。

たまに、べろおーーんと、ミニスカート、太もも剥き出し、キラキラ目の日本のおねいちゃんを見る。ぎょおーー、大丈夫かいなあー。獣化した男どもの巣窟だよおー。と思うけど、呼び止めてお説教ともいかないから、ボンシャアーンズ(グッドラック)、マドマゼルと呟く。

で、俺の母国は、世界一、治安の良い国である。水道水もおいしい。

これは、世界に誇れることである。気遣い、気が利く、丁寧等々の美德は素晴らしいのだ。

日本に行ったことがある知人連は、皆、絶賛。

大体ね、道歩いている。左からすたすたと来て、俺の目の前で右折する。

このフランス人特有の歩き方。車の運転と同じ。なんで、最初から右にいないのか？

分からないのである。体力の消費上もその方がいいし、他人を押し退けなくても、ひとりで右折できるだろうに、とってしまう。

この弱肉強食。体力勝負、極北の自己中。

俺ら現地化組も、じーちゃんになると、これがしんどくなる。なあ——んてことはない。こっちだって鍛えられちゃってるから、来るならこいっ！ と、こっちもなっている。

でも、日本の方が、こんなこと真似する必要は、一切なし。
第六感だの、日毎の緊張なんて、野生動物じゃないんだから、ないに越したことはありません。

ところで、日本のガソリンスタンド。運転、俺。
スタンドに入る。計五名の男女が「いらっしゃいまあせえ——」と笑顔で、建物から走ってきた。俺は、びっくりして飛び降り、走って逃げた。マジで、怖かったっ！ 追い剥ぎかと思ったの、つい。

と、ここまでを読み返したのね。で、例によって、追記なのだ。
ほんと、今年の冬は、暖冬で、ぼよお——んとしている。
で、フランス、とりわけ、おパリは、世界一ないし二位の、行って見たい国、行って見たい町。すいません、俺は、この答えが分からないのですよ。そもそも、フランスに来る予定は、まるでなかった。俺にとっての外国は、ニューヨーク以外にはなかった。
で、先日、お会いした日本人の女性との会話。

「いつ、フランスに？」
「八年前」「で、ぶっちゃけ、何しに来たの？」「うん、住みたかったの」
「えっ、それって目的なの？」「うん、憧れだったの。裕さんは？」
「あっ、俺？ こっち来て三十年」「すっすごお——い」「えっ、なにが？」
相変わらず、これが理解できないでいる。おフランス、おパリ。地上の天国なの？

はははははっ、はあー、「そうじゃないから」、結局、住んじまったの、俺。
ハードハードハードでシビアシビアシビア、美しい町並み？ 忘れてた。本当。

難しい。日本とフランスっていうの。ちょっと、真面目に考察しようかしら？

2013.01.08 Tue

おパリ住人のその日

なんだか、書く暇がないのだ。で、ちゃかちゃかとやっている。
ちゃかちゃかのせいなのか、急に、おパリ記事が増えた。で、読者も増えた。
そうかあー、ちゃかちゃか、おパリでいいのかあー、商業ベースでは。

ぎよ、俺は、筋金入りの偏屈親父。天邪鬼。けけけけっ。なんていう元気は、もう、ない。

朝、起きる。お気に入りブロガーさんの記事を読む。コーヒーとタバコ

俺は私生活は、一切書かない

サロンのペンキ塗りを開始する

先日、知人宅へ、ご新居。業者がすべて内装。俺、自宅へ。ぎよわあー、古びれて煤けて
いるっ！俺も内装もっ！しっくり、し過ぎっ！アンティークの鏡に映る俺が、あまりにし
っくりし過ぎで、見えねえー

俺は私生活は、一切書かない。ダンディズムである。

洗濯機から、水漏れ。蛇口が閉まっているのに。馬鹿野郎って、と、ちょっと、叫んだ。

フランス製品の欠陥なのだ。俺は、予測していた。流しの排水と洗濯機の排水。高さが同じな
のだ。算数上の推定値として、「逆流の可能性」、これは、十分に把握できる。で、その通りだ
。大工道具店へ、「上向きの排水口」を買いに行く。ついでに、嫌味を言いたい。

「ねえ、俺さ、これ買って付けたけど、案の定、逆流。それは、想像できた。けど、表のさ、写
真は、上向きの排水口になってるけど、中に入ってもものは、水平。はっきり、クレーム」

「うな、馬鹿な。あっ、本当だ」

「で、兄貴のよおー、責任なんてよおー、問わねえー、はした金だしよおー、あんちゃんだっ
て、わかんねえーだろって、そこまでよおー。でな、上向きのやつ、ある？」

一生懸命探す。一緒に。

「ありや、ない」

「マジかよおー」

「流しを立てちゃったりしてえ」ぎやはははははははっー

俺は、このマジな対応と、答えに満足したのだ。

偏屈かしら、ねえー？

で、セントラルヒーティングのスイッチを入れに、半地下へ。

自転車の後輪パンク。常習犯がいるのだった。またかよおー

ペンキ塗り、水漏れ対策、自転車修理、スーパーの買出し、家事、そして、ちょっと前まで、ジェームズボンドライフ。

もし、俺の読者様に、若い兄貴がいて、おフランス、ピカピカ漫画目の方がいらしたら、もちろん、構わないけど、覚悟して来てね。

で、男らしさと、優しさと、フランス語はおかまっぼいのよ。そして、笑顔で、へらへら、ハードライフと、アイロニックジョークと掃除洗濯家事子育て本妻妾文通妾などなどなどなどなどを、笑顔でこなさないといけないのよ。駄目だって、日本の男はっ！ グローバリゼーションしてから、お越し下さい。

追記 俺の愛読男性ブロガーさんで、唯一、合格しているのは、モヒカン兄貴だけ
兄貴のことは、ブログに書くのだよ(もう、下書きできているの。ふふふ)

2013.01.09 Wed

不死人間族ランハイダー

作者注 ハイランダー アメリカのテレビドラマ 不死の人間同士の死闘
フランス人俳優クリストフ ランバート主演で、映画、確か三本ぐらいあり
裕先生のシニアマンシリーズの後継作である はっきり、アホ小説

俺は、いつもの、サクレクール寺院の後ろ辺りのジャズクラブで演奏していた。
ピアノソロ。一部を終えた。バーの奥の方で、取り巻きのねえーちゃんと、いちゃついていた。
ギー、長身の男と、素晴らしい脚線美の女、どちらも東洋系が入ってきたのが、右目の端の端の
方に映った。殺気なんていうもんじゃねえー、とんでもない、威圧感。違う。同類の臭い。
ヤバイ。で、取り巻きのねえーちゃん方に、ちょっと、外で、バタコ吸って来るねっ、といい
つつ、バーの後ろに置いてあったジャケットをすっと、取った。外に出る。

カキィー————ン。

来た。日本刀だっ！

俺は、向かいの建物の屋根に飛び上がる。その間も、カキィー————ンの連続。相手はふたり。
30メートルぐらい飛び上がった。パリの18区の屋根の上だ。

「探したぜ」「探したわ」

「ちょい、待ち。高峰と、トメ」「止めろって、俺は、今は静かに暮らしている。以上」

「馬鹿かあ————」「馬鹿じゃないのお————」

「むむむ」

「俺らはランハイダー。平静の世などないのじゃ、なあー、トメ」高峰

「そうよ、この男が、あたしを捨てたのよ」トメ

それから、約15分。ちゃんばら。どちらも、俺も、剣の達人。

「ちょい、待ち。二部、始まっちゃうんだけど」俺

「知るか、ばあーか」「なにが、ズーージャなのよ、捨てたくせにっ」

「あのさあー、トメが怒るのは分かるよ。悪かったよ、俺が。で、なんで、旦那まで一緒にくんだよって！」「しっ、知らないわよっ！」

え————、毎度、馬鹿馬鹿しいお笑いでございまして、わたくし、普通の寿命でございますから
、彼らの年号感覚は、わかりましえ————んけど、国木田裕之助が、高峰新之助の女房トメと、
なにをしでかしましてなあー、ありゃ、江戸末期の頃ってえー、年号が出ないから、ねんごろに

などと申しまして、なあ——、まあ、何百年もめえーの、情事は常時、ジョージ マイケル。何時の世も、付き物でございましてねえー。まっ、この連中、今年で、御年、823歳。いろいろねえー、我々には分からんことも、多々、ありましよう。多々多々多々っと、多々。

2013.01.10 Thu

Free Jazz in Paris

マニアックなタイトルが、やっと、でた。これぞ、本来の裕君のブログじゃ。
ジャズフリークではない方々は、パスパスして下さいと言っても、もう、開いているのね、では
。

で、凄いことになってしまった。
俺のホームのジャズクラブで、「フリージャズナイト」をやると言う。
で、それはそれでいいのである。

パリのフリージャズ。沖至組とアラン シルバ組と、ふたりのジャズの巨人が居るのであるので
あります。そこからの分派も多い。俺は、分からん、沖組系チンピラ、だ。で、俺の直の兄貴は
、佐藤真であります。ただ、真兄貴は、分からん、どこの組なのか。自由人だから、分からん。
無所属組の組長だろう。で、俺は、沖組系無所属組直系チンピラ。なんか、さまあーずみたいな
感じ、ね。ゆるい、のだ。すべてが。

で、沖組とシルバ組は、仲良しである。共演ミュージシャンも、しばしば、重なる。
だから、いじめだの抗争なんてもんはない。

で、この「フリージャズナイト」。
第一部。裕イサオ、ピアノ。佐藤真、ドラムス。スペシャルゲスト、沖至、トランペット。
第二部。アラン シルバ、シンセ、ベース。アブドゥー ベナニ、テナーサククス。

で、はい、チンピラ裕君の位置なのだ。

「沖至」

ジャズジャイアント フリージャズの創始者のひとり 現代詩、舞踏との共演を始めた最初の人物
オシメしないと、会うのはシビアですよおー まああー、分かり易く言えば、たけしさんの位
置です芸人で言えば

「佐藤真」

俺の兄貴、大先輩
パリ屈指のフリージャズドラマー でも、絶対に、無所属だろう
聞いたことないけど そんな野暮はしねえーの 俺たち あれとあれにしか、興味ねえーって

「アブドゥー ベナニ」

モロッコ人のテナーサククス

たぶん、今、現存する世界最高峰のフリージャズテナー

絶対に、メロディーを吹かない 倍音のみ 生きジャズ神だ、彼は。一度聴くと、もう、頭から離れない 病み付きになってしまう

「アラン シルバ」

これは、インターネットでお調べ下さいね。ニューヨーカー、元アルバート アイラー ユニットのベーシスト これだけで、俺は仰け反る

とっとなとととと、このメンバーの中に、俺がいる。おまけ、みてえー！
はい、俺だって、ファンがいるから、はい、ばっつす、行くぞおーー！
オシメして。

追記 検索狂の方へ

ちゃんとした、スペルは、Alan SILVA Abdelhai BENNANIです

でね、組長ふたりは仲良しでしょ。で、真兄貴は、シルバユニットのドラマーでもある。アブドゥーは、俺、何回か共演させてもらった。くんずほぐれつ状態なのです

結局ね、俺らの抗争は、音、だけ。痛くないの。これ、重要、マジで、大人だから、なのでもね、二部は、凄いことになるだろう。俺は、もちろん、参加なんてしないし、できない。分相応に、客席で聴くのだよ。この自分の位置の把握は、しないと、駄目

2013.01.11 Fri

さまぁーずについて

最近、この二人組みの研究をしている。
諸々の番組を見ている。大体の彼らの位置が分かってきた。
相当な売れっ子。

世間、若手芸人よりの評価。

「ゆるい芸」「周りのスタッフ、若手が緊張しない」「ホリプロの新人女性タレントの憧れ」
なんか威圧感がない、気さくな兄貴、若手の面倒見がいい等々。その存在自体がゆるい=癒し。

キーパーソンはどっちなのか、いろいろと見てみた。

これは、どちらも、だ。つつこみ三村さんと、天然(?)ボケ大竹さん。このカップルとしてのバランスが抜群である。本年お二人とも四十五歳。仲よし高校生が、そのまま、おじさんになったほのぼの感が漂っている。

「きのこのはなし」「悲しい駄洒落」「サンタさん」

たとえば、紙芝居サンタさん(ストーリー=お話しするのは、大竹さん)。ご存知の方もいらっしゃると思うけど、袋を担いでやってくる。サンタさんが、自分で袋の中に入ってしまう。三村さんのつつこみ。「なんだよおー、寝袋かよおー」「なにしに、来たんだよおーー」

これは一例だけれど、一見ゆるそうだけれど、一歩進むと、なんだかサミュエル ベケットの不条理劇に近づく。でも、ゆるいお笑いで踏みとどまっている。この微妙な均衡。独特な芸人さんだ。セクハラトークにも、それは出ている。

芸人特有のギラつき、裏に隠れた暴力感、いじめ。こういうものが、まるっきり感じられない。三村さんのパパ顔のつつこみ。一見、気難しい感じの大竹さん、実は、天然ボケ。この見てくれとの乖離が作動している。それと、大竹さんのキャラなのだろう、なんか、無理に笑わせようという気迫がない。別に、笑わなくてもいいんだけどっていう雰囲気。そこに、三村さんの元気なつつこみ。

この「ゆるい感じ」。私は、非常に気に入っている。

で、ピアニスト裕イサオという芸人。いじめは皆無にしても、ギラギラ隠れ暴力芸人なのだ。丸くならないのだ。でも、見てくれがゆるいので助かっているわけ。へへへ。騙されないでっ！

2013.01.12 Sat

フランスバッテリー狂想曲

「前号までのあらすじ」

国木田裕之助(832歳、無職)は、洗濯機の炊事場逆流事件に巻き込まれるが、上向き排水口は存在せず。機知に富む裕之助。ただちに、変形可能な排水パイプを購入。パイプ自体を上向きSの字にしてしまう。解決。サロンのペンキ塗りを開始する。四面の内の三面目の下塗りを終える。一番、面積が大きい。ペンキが尽きた。大工道具店へ、ペンキ購入のため、車に乗り込むが.....。

ぎよぎよぎよ、エンジン掛からない。もう一度、ぎよぎよぎよ。掛からない。

裕之助の目が、一挙に、自動車整備士目になる。インパネのインディケーターを見る。

エンジン、オイル、バッテリーが赤ランプ。ボンネットを開ける。まず、目で見える異常を検索。ない。点火スパークをチェック。ない。オイル、平常。算数上は、結論はひとつ。黄金のバッテリー、江夏と田淵。これだ。午前11時。確認終了、11時45分。まずは、腹ごしらえとする。

午後1時。小振りのころころの付いたスーツケースを持って、馴染みのガレージへ。1KM。

着く。「ボンジュー」「あっ、ムッシュ、裕」「まずは、良いお年を」「あっ、良いお年を」

「で、バッテリー頂戴」「あれれ、ホンダシビックでしたよね?」「うん」「ちょっと、調べますが、入手は難しいですよおー」「えっ、適当なのでいいんだけど」「適当? サイズ、アンペア、プラスの位置。で、日本車のそれは、コンパクト。簡単には見付かりません」「あっそ」

「むむむ、すいません。うちでは入手不可」「あっそ」「ちょっと先に、部品の専門店があります。そちらで、なんとかかなと思います」「メルシー、チャオー。兄貴、フランス人にしちゃー、いい感じ、ね。いい加減なの、多いじゃん。メルシー」

1KM先の部品店到着。午後1時40分。入り口のシャッターは閉まっている。開店午後2時。

左のシャッターは開いている。二人の従業員が談笑している。裕之助、寒いから、店員に見えるようにうろつく。絶対に、目線に入っているのに、絶対に見ない。寒いよおー、馬鹿みたいスーツケース。あっ、これはね、バッテリーを持って帰るためなの。推定重量13KG。窓越しに、色々な顔真似をしてみる。絶対に気が付いているのに、こちらを見ない。力尽き、タバコ。午後2時。シャッター開かない。中に四人の店員。談笑。2時5分。シャッター開く。

「ボンジュー」だれも返事をしない。

チーフらしき親父、電話。中堅親父、コンピューターを見ている。もう一人、奥に引っ込む。仏頂面の若造。こちらを見ない。5分待つ。若造が、年長のスタッフの威圧感「馬鹿野郎、お前が対応しろよっ」を感じて、仏頂面のまま、「ウイ(なにか?)」「あのバッテリー」「車はなに」「

ホンダシビック」「日本車かよおー」「ないの?」「あると思うけど、正確なサイズあるの。で、プラスは右側なの」「あの、型番で調べ付くと思うんですけど」「付かない、日本車だから」「えっ、車種で、バッテリーの種類って、普通は分かるけど」「いや、日本車は複雑なの。いや、で、車、外に止めてんの?」

突然、フランス語版三村さん。

「なにいったんだよおー、バッテリー上がっちゃってるから、きてんだよおー、徒歩にきまってんだろ、馬鹿タレっ!」「そりゃそうだ。じゃ、今、付いてるやつ、外して持ってきて」「おりゃ、おれんち1KM先なんだけど」「見なきゃ、ワカンネえー、日本車だから」「あっそ」

家に帰る。バッテリー外す。スーツケースに入れて、また、1KM。何キロ、歩いているの、俺。

「あっ、これね、分かった。スタンダードの日本車用だ」
「スタンダード? なんで、持ってこないと分からないの?」
「いや、サイズとね、プラスの位置がね。いや、間違ったもんは、売れないから」
まあー、一理あるようなないような。

午後4時。目は、松田優作。

「兄貴よおー、わりいーけどよおー、持ってきたバッテリーは、そっちで処理して。俺、これ、またよおー、徒歩で持って蛙。わかってるよなあー、兄貴」

若造兄貴。びくっ。急に、初めての笑顔。「もっ、もちろんです、ムッシュ」

なんか、俺のフランス語、三村さんになってんのかしらね?
でね、よおーーーく考えると、大竹さんの日本語って、フランス人だよ、マジで。
分かる人は、絶対に、分かるっ!

2013.01.13 Sun

本日は、1月13日、日曜日。2013年。

今、自転車の後輪のタイヤチューブを取り替えた。

キッチンの取り付けから始まり、水漏れ、水漏れ、逆流、逆流、車のバッテリー、サロンのペンキ塗り、自転車のタイヤ修理。おー、用務員っ！

切羽詰ったら、パリの便利屋で食って行けるだろう。

どうしても、俺は、こう、一日中、ちまちまとなにかをやっている。

パイプ ブランディー モーツァルト ロッキングチェアー 読書

このおフランスらしい「寛ぎ」。まるでなし。

せかせかせかせか、ちゃかちゃかちゃか、ちよろちよろちよろ。

駄目なのだ、働き者なのである。

で、なんだか、昨年 of 年末から本日まで、曇り、小雨、曇り、小雨、平年より気温は10℃ぐらい高い。ぼよおーんとしている。なんか、全体にゆるい。のに、せかせかせかせかせか。

で、ピアノの超絶技巧が身に付いて来たら、前のように、弾けなくなってしまった。

へたうまエモーションの味わいが、どっかに行ってしまった。困っている。どうしても、技巧を見せ付けようと、体がやってしまう。俺本来の三流の味わいが出てこない。もおー、どうしようかしらね。ギンギラギンの超絶技巧のオンパレードの饒舌ピアノ。なんか、自分で、鬱陶しいのだよ。困ったなあー、へたうまぐらいで、丁度良かったのだ。今考えると。

音楽は、難しい。超絶技巧も、それはそれでいいのだけれど、前面に来ると、鬱陶しい。

随分前に、リヨンを本拠地にする世界的な即興演奏家集団、アルフィーのコンサートを聴いた。クインテット。全員、リヨン音大ジャズ科出身。上手い。それはそれは上手い。で、一時間十五分ぐらい聴いて、なんか辟易して来た。上手過ぎなのだ。ルーブル美術館の中に半日いた時の、あの、もういいいー、俺っ！ の感じね。

考えたら、一番、フリージャズしている絵描きって、やっぱ、ゴッホかも知れない。

不思議なんだけれど、美術家としては、ゴッホの影響は皆無なのに、ピアノを弾くと、ちょっと、ゴッホ的だ。形と音という素材の違いなのかしらね。

ところで、ジベルニー、モネの晩年のお家がある。そこそこの豪邸。

そこを見てから、ゴッホの晩年の屋根裏部屋を訪ねた。三畳間みたいな部屋の天窓を見ていたら、涙が止まらなくなった。

2013.01.14 Mon

久保の兄貴と勝手に呼んで

「じつはぼくの久保はつじ」

ご愛読の方も多いと思う。

私が、ブログ村に登録したのは、それ程、昔の話ではない。昨年10月半ば。

しばしば、注目記事のところで目に留めてはいた。相当筆力のある方なのだろうとは思っていた。それでも、なぜか開かなかった。ひとつには、今以て、ブログタイトルの意味が分からない。不思議なタイトルだなぁと、ずっと思っている。そのせいなのか、目に留まっているのに開かなかった。

ある日、記事一覧のところに、

「酔った勢いでブログを書いてみる」

この記事タイトル。

私はアル中であると書きたいのであるが、医者にせせら笑われたので書けない。

プロとして認めてもらえなかった。

私も、良く、赤ワインをちびちび飲みながらブログを書く。ただし、時々、ハイになり過ぎるので、翌朝まで寝かす。翌朝、推敲。毒舌っぽいところ、どうも、差し障りがあるなァーというところを、削除して公開する。そんなせいか、この記事タイトルに猛烈に惹かれた。

開いてみる。読んだ。面白い。勢い付いて、次から次へと記事を読んだ。

何時の間にか、私は正座をし、「あっ、兄貴っ！ 師匠と呼ばせて下さいっ！」となっていた。私は、ほとんど本を読まない。ブログも読まない。読まないくせに、文章、内容に対しては、超絶的に偏屈で、好みも煩い。ただ、私もチンピラブロガーである。その道の筋の方は、すぐに分かる。こっ、これはっ！ 私は、ベズリー目でへたり込んだ。

漫画、詩、小説、エッセイ……。諸々の領域。ローリングストーンズ、淡谷のり子、ピンクフロイド。諸々の文体を駆使。重さと軽さと、なにより、私が定義しているユーモア。

年輪、虚無、寂寥感、明るさ、尖がった感じ、

そしてなりより、自由な精神運動が、見事な文体で活写されている。

凄いつ！

私は、全ブログ記事が書籍化されないか、切に願っている。

是非、購入し、貪り読みたい。

久保の兄貴のプロフィールを見てみると、私より一世代上の方だろうことは、分かる。

団塊の世代。私の直接のジャズ兄貴、佐藤真師匠と同世代と推測。たけしさんの世代。
私のゆるい世代とは違い、気骨のある方が多い。もちろん、大半の方々が緩んでしまったことは、後ろから私の世代は見てきたから知っている。それでも、絶対に芯が折れてない方々、先輩も多い。気骨、反骨、自由。風前の灯を、その火を消さずに生きている先輩がいる。
そんな先輩方の後ろ姿を見て、こちらもシニアになった。

そして、久保の兄貴の「仕事始め---あるいは日常」という記事=詩を拝読。目が潤んでしまった。その日の、私のピアノの練習。いつになく、ハードなものだった。フリージャズ。ジャズではなく、その前の部分。この火を消してはいかんと、この全エモーションが鍵盤を覆い尽くした。

2013.01.15 Tue

プロとアマ

この話は、俺が若い頃、結構した。

で、判断基準を列記してみるね。

1) それで、飯食っている人

異論はない。社会的な仕事なんだから、アマではない。どんなに拙くても

2) 自分で、そう言っている人

これも、異論はない。ただし、拙いと、串刺しの責任を取れるのか、ここが、微妙

3) 第三者が、そう、認めている人

異論はないし、ある意味、なんか、一番のプロの気がする

と、これはいいんだけど、この「芸術家」というのが、やっかい。

社会的な仕事ではないのね、これ。詩人、これは職業名ではないの。

ピアニスト、これは、職業として認知されている。けど、その前に、フリージャズが付くと怪しい。

ブロガーなんていうのも、怪しい。なんかプロレスラーみたい。で、プロレスラーは、プロが職名に付いている。すでに。ありゃ、じゃ、プロガーってないのかしらね。

で、「芸術家限定」で、1.2.3をやってみると、

1) しばしば、ばしばしのしばしば、芸術屋。これは、芸術家とは別人種ですよ。きっぱり

だから、そう言えば済むのだけれど、そう、言わないから、訳が分からなくなる

金儲けのために、やってまあ——すって、言った方が、分かり易いのである

そう言ってもらえば、応援するよ、俺

2) これは本人の自由。ただし、どこまで、責任取れるのかってこと、ね

3) これは、やはり、お辞儀だ

で、俺なんだけど、えっ、またっ？

だって、俺のブログだよって！ いいじゃん、自分ちなのって！

で、俺なんだけどね。

無料では弾かない=1)に該当している

だから、アマとは言えない=2)に該当している

で、有料で、お客様がいらっしゃるから、当然、3)も、該当する

えっえっえっ、俺って、プロだったんだあー！

2013.01.16 Wed

木に似ている家

わたしの家

真ん中に

石造りの堅牢な螺旋階段

壁の厚みも入れると 直系3m

最上階の天窗まで

吹き抜けている

螺旋階段の

南側と北側に

サロン 台所 寝室 寝室 と続く

わたしの家の真正面に菩提樹

筋肉隆々の太い元枝

絶対に

この菩提樹と 螺旋階段は つるんでいる

わたしたちは

木に生る部屋の中で

平静な毎日を繰り返している

もしかすると

わたしの家は

どんどん大きくなっているのかもしれない

2013.01.17 Thu

今日は空が真っ青です

はい、良い子の皆さん。

こちらは、1月17日、午後5時15分。パリ郊外。空、真っ青。

私の目線、右の奥の方に、オレンジ色の太陽。

時々、日本の方々と、私が見ている太陽が、同じであることを忘れそうになる。

私の展望台サロンから見る、この空。縦長の窓の形に縁取られているけれど、溜息がでる。

薄いブルーから、段々、さらに薄くなって、白、ピンク、ピンクグレー、森、建物の順でグラデーション。で、階下に、我が家の木々と庭。この高台って、贅沢だよな、本当。

世界を鳥瞰している。パイロット、サンテグジュペリ。本当の上から目線。

もう、サロンの壁面全部ガラス張りにしちゃおうかしら、ね。

でも、そんなことすると、独裁者目線になりそうなので、止め止め。

「マルセル デュシャン 記憶の中からの抜粋」

自分の評価は、自分では分からない。第三者が行うことだ

最終、第三者。歴史と呼ばれるものだろう。50年ぐらいのタームで評価が確定する

歴史に残るのか残らないのか。でも、歴史に残るものが、その時代の最上のものとは限らない

でね、一昨日の記事、実は後半部を削除したのだよ。

読み返したら、

「裕イサオは、芸術家であり、世間には認められていないが、または、歴史には残らない人物かも知れないが」という前置きに読めて、結論、「いや、裕イサオは、そうではなくて、偉大な芸術家なの、よ」という風に読める文章になっていた。

削除したよ、本当だからっ、ぎょ！

2013.01.18 Fri

突然の寒波と自叙伝

今週の日曜日、1月13日に「暖冬」という記事を書いた。

(翌日、ブロガーさんたちの記事で、その日の東京が大雪だったことを知った)

どうも、地球様が俺のブログを読んでいるらしく、この記事にカチーンとなった模様。

で、翌日、14日。突然の寒波。その日の夜、大雪注意報。

いきなり最低最高気温、7--13℃が、-5--0℃。寒いなのなの。

でも、良かったよ、この寒波の中でのバッテリー交換だの、お庭の木々の剪定だの、シビレエイになるところだった。結局、大雪にはならなかったけど、快晴の毎日、ただし、寒波。

なんとなく、暖冬のまま、ぼよおーんとお春さんとの思惑は、外れ。

あんまり寒いので、脳細胞がムーミンじゃなく、トーミンになっちゃったので、ネタが凍結しました。では、さようなら。

ところで、どうでもいいジャズ自叙伝。

俺が、一番最初に買ったジャズのレコードは「ビルエバンストリオ ワルツフォーデビィー」。ジャズフリークは全員知っている名盤中の名盤。で、買ったのが中学二年生の時。ませガキだ。高校受験の塾通いの車の中で聴いた。で、その頃、中学の先生に、「ちみは、将来、なにになるだべっ」って聞かれて、俺、即答、「ジャズピアニスト」。プロ登録したのが、シジューの時だから、なっ、なんと、二十六年後に、初志貫徹。この超絶的遅咲きの回り道。しかも、ジャズピアノは、独学である。なんなんだろうね、これって？

非常に素朴な疑問が、当然、身内方面からも出る。

やっぱ、こやつは、音大に行かせれば、よかったじゃん、というね。

一見、そういう風にも見える。けど、たぶん、音大に行っていたら、今の裕さんはいなかったと推測して居る。良く俺のコンサートに、クラシック、および、ジャズのピアニストがいらっしやる。

俺「いやあーん、すんませんねえーん、でたらめピアノ。ご容赦、ご容赦。僕、クロマニオンピアニスト、ぎゃははは」などと言うと、真顔で、「イサオさんみたいなピアノ、だれも弾けませんよ」と返事が返ってくる。一応、いい意味と理解して居る、勝手に。

と、この叩き上げ、独学自己流ピアノしかも、ピアノ中毒重症付き。

ギラギラ自己中自己顕示、女にもてたい大いなる野望、そして、内的暴力ニャロメエネルギーと、こういった、もう、傍迷惑甚だしい、このヤな男じゃねえーんと、確かに、あんなピアノは

弾けない。だから、音大に行ったら、牙抜かれて、たぶん、やってねえーという結論。と、後悔なんちゅうもんはないわけ。

とはいえ、良くも悪くも、俺のピアノ、随分、穏やかになったよ。

分かんないねえー、年のせいもあるし、技術が付いたせいもあるし、自分でやかましいのが鬱陶しくなってきたところもあるし、ちょい、待てっ！

ギラギラ 全然ない

自己中 心のスイス人

自己顕示 億劫 大体、自分自身があまり自分に興味がない

女にもてたい うん、これは、あるけど、もてたいだけ 以上

内的暴力 あんまりない 世間様が掛かってきたら、受けて立つっていう受身になっちゃった

なんだよおー、牙なんてねえーじゃねえかよおー！

うん、音大に入り直そう。うん、そうしようそうしよう。

2013.01.19 Sat

ブログソロ

やはり、地球様が俺のブログを読んでいる。

今朝、起きる。雨戸を開ける。雪。推定7cm。

俺の展望サロンからの眺め。雪景色。実は、俺の家の窓から、35km先のパリまで見えるのだ。

ソロピアノのゴトシが、ちゃっちゃと三件も入ってしまった。ありがたい。

今、ヤノピのレパトリーの整理をしている。整理？ 物置の片付けとは違うのだ。

なんとなく怪しくなっている曲を、脳、体、エモーションと、元の位置に戻す訓練をしているのである。家事とは、ちと、違うのね。

はあはあはあ、ありゃ、今回は、格好良く、結論だけ、ばしっと決めて、後は、へめらも。のはずが、決めのフレーズが出てこない。

そうそう、ソロピアノなんだけど、

別に、人間皆芸人に、なんちゅうお話ではない。ろくなもんじゃないのだ、俺らは。でも、しゃきっ。

一人で舞台の上

ピアノと俺

スポットライト

舞台から見ると、その俺の展望サロンの景色と一緒に、下の方に、お客様のかたまり(失礼お許し下さいませ、大寒様)

で、舞台、物々しい感じの広間に、一応、生き物は、俺だけ、だ間もなく、五十四歳になる、チャンジーだけだ

で、ピアノという西洋理論の権化機械パソコン超絶変な格好の黒いもの、しかも、水平にヘチマ状が舞台にある、これと、格闘して、身銭を稼ぐ売れない三文ピアニスト、しかも、スポットライト付き、ケースによっては、歯科医じゃねえー、司会の方がいらっしゃったりする。

でね、まず、この状況なんだけど、当然、自分で作り出しているわけね。なんでなのか？

元自閉症引き籠もりの根暗

世界そのものが、元々、雪景色にしか見えないペシミスト

人間嫌い 人と会うのもお話するのも、嫌いである

と、こういう脳構造。で、当然、必然的に自己中の極北である。
で、こういうやつが、上記の状態に置かれる。

ぎょ、タイガーマスク、虎の穴の荒治療。

だれも、俺のことを、助けてくれないのっ！
自業自得なのである。

自分に自分が、ざまぁーみろっ、ていうことを、自分でやっているわけね。

俺、ざまぁーずに改名しよっと！

2013.01.20 Sun

逆説的人生

大雪になってしまった。

交通網が徐々に、乱れ始めている。

今夜は、パリに仲間の舞踏公演を見に行くことになっている。

電車、ちゃんと動いているかしら？

ところで、人間嫌い、イコール、人に合うのも大嫌いなので、なるべく、出掛けるようにしている。とりわけ、仲間の公演には、私は必ず行くのである。矛盾しているようで、していない。籠りのおじちゃまにならないように、せっせと出掛ける。

大体、私の仲間に、根の明るいやつなどいないのである。

皆、くらあ——い、くらあ——い、暗黒の世界の住人なのである。

で、くらあ——い私が、くらあ——い、くらあ——い仲間の公演へ行くのである。

お——、真っ黒っ！

というのは、半分以上、嘘かも。

いつも、沖師匠、真師匠と、

「なあ——、明るく行こうぜえ！ 明るくないと、フリーズなんてやってらんねえ——、よな」、なんて、話している。

大体、この暗い私が、暗い暗い仲間に会って、暗い暗い一晩を過ごしているのかといえば、まったくの逆で、もう、馬鹿話のオンパレードで、ぎゃははははは、と一晩中やって帰ってくる。たぶん、我々全員、翌日、また、暗い顔で、楽器の練習だ、舞踏の訓練だとやっているのである。

だあ——ら、どっちなんだよお——！

わっ、分からない、のだ、よ。

作者 注

どう見ても、裕先生の文体。ネアカだ

むかしむかし、げいじゅつかは、暗くしていないといけない時代がありました

実は、藤けいこさんって、超明るい人なの

歌のせいで、くらあ——い感じにしていないといけなかったのね

明るいフリーズ屋なんて、許してもらえなかったの、むかしは

どうでもいいブログ、本当

2013.01.20 Sun

パリバイナイト

本日も、大雪のまま。

昨日、15h30、家を出る。

私の家は、丘の上。駅まで、ずっと坂を下らなければならない。

大雪。路面つるつる。かなりの勾配の坂道。

二年前の大雪の時、ずりっとなって、ばぁーんと転んだ。

危うく手首を怪我するところであった。幸い、お尻を打って済んだけど、手首、商売道具。やばいのだ。考えたら、そういう意味では、あまり資本の掛からん商売だ、ピアノ弾き。でも、内的資本は、凄いぞおー！

そう、普通なら、駅まで七分の道程を三十分掛けてゆっくりゆっくり。

パリ行きの電車も、ちゃんと動いていた。始終、遅れ捲くるフランス国鉄SNCFなのに、こういう時は、意外と定刻通り動いていたりする。やれば出来るんじゃないかーのかって、フランス人めっ！

乗る。ぼぁーんと、雪景色。綺麗。

雪の静寂感。沈黙の音楽。人間が、雪の中で、寄り添っている感じ。

車内で詩神様と、お話ししながら、パリへ。

着く。メトロへ。乗る。クロカワアズサの舞踏公演会場へ。パリの道、雪、どろでぐちゃぐちゃ。

途中、カフェでビールを飲むか、ちょっと、迷う。でも、寒過ぎ。後、公演中の尿意。やめる。会場に着く。おぉー、レモン入りのホット赤ワイン2euro。飲む。うっうめえー。

知らなかった、三部構成の一夜になっていた。

17h50。アコーディオン。アルトサクソ。ダンス。アコーディオンは顔見知りの高名なミュージシャン。先日の私のコンサート。聴いている内に、むらむらしたのだろう、私が低音部を弾いていたら、いきなり、私の横に座り、高音部を弾き出した。私は、こういう感じ、大好きである。でも、他のミュージシャンは、普通はマジで怒るだろう。心のスイス人ミュージシャンには、への河童だ。楽しいじゃん、飛び入りね。18h30。終了。

18h40。電子音楽と詩人。面白かった。30mm。

19h20。クロカワアズサと、コントラバス。コントラバスも高名なミュージシャン。良く、あっちこちで見掛けるのに、名前を覚えられない。すいません。私は、あまり優秀な営業ではないのだ

。自分の売り込みは一切しない。星一徹。孤高のミュージシャンなのである。これ本当。

アズサには、先日の財津暁平の公演の打ち上げの時に、初めて会った。

お話していて実に楽しかった。で、公演案内を必ず送ってね、と分かれた。だから、初めて見た。素晴らしかったの一言。細々描写はしないけれど、私が大変に気に入った大きな要素は、緊張感と狂気の中に、お笑いが見え隠れすること。この芸当は、大変に難しいのである。

私は、しゃちこばって、「これは偉大なる芸術である」と、やり手側が押し付けてくるこの感じ。これが、大変に嫌いなのだ。それは、聴き手、見ている側の問題で、やり手から押し付けられる筋合いはないのである。アズサには、それが無い。素晴らしい。そして、このメカニズムを理解しているやり手側、実に少ないのだ。気に入った。大ファンになった。

実は、アズサも、私のコンサートに同じことを感じたらしい。緊張とリラックスとお笑いが混ぜこぜになった、なんとも、いい感じ。なんか、ちょっと、ふっと、抜けている感じがとても素敵だったそうです。手前味噌だけど.....。へへへ。

会場を出た。20h30。友人と中華へ行こうとなった。地下鉄へ。チケットを出そうとしたら、「裕さん、俺、定期持っているから一緒に入っちゃおう」。私は、無賃乗車は一切しない。けど、日曜日の夜。大雪。チケットのコントロールに遭遇する確立は、ほぼゼロ。で、無賃乗車。降りる。げっ、階段の上にコントロール隊。目配せ。Uターンしたら、後ろにも一人。「ムッシュー、乗車券を拝見」。とっさに、日本人観光客を装うか迷う。ただ、友人が定期券を所持。しかも、すでに、フランス語だ。「はっ、はい、僕、隣町から来ました」。パリに来た時のチケットをポーカーフェイスで出す。おじさん、じーと見ている。そもそも、Uターンを見られている。点目だ。なんか機械を持って来る。差し込む。「改札を通貨したのが、15h45。チケットは二時間有効。ご存知ないのですか?」「へえ、カッペなもんで、するませんでした」「覚えておいて下さいね。二時間ですよ。では、今回の罰金は、レベル2、半額45euro」

ぶっ————、たった一度の出来心。軽い過ち。ちょっと、友人へ八つ当たりしたい。わあっちゃ————、高い高い、お出掛けになりました。でも、楽しい、パリバイナイトね。

2013.01.22 Tue

その日、裕之助は、行き付けの園芸店ジャーディランドへ、ぶら、ふら、ふと、くなどんな、なんとなく、寄ってみた。馴染みのお姉さんへ挨拶。素晴らしいプロポジション。「やはり、毎日、植物に囲まれていると、あのようによく育つのじゃろ」と裕之助は、いつも、思う。

お店の奥の方に、ひとつだけぽつーんを見掛けない観葉植物。背丈は30センチぐらい。むむむ、なに、ゼニリュウム？ 聞いたことないな。ひとつを除くと、別に、取り立てて目立つところはないといえはいえるのだが、小さな葉が無数に付いている。それはいい。その形ね。長方形なのである。不思議不思議。へえー、値段。むむ、53ユーロ。たっ、高いっ！ お姉さんと呼ぶ。

「ねえ、見たことないけど、これ」

「はい、そうですね、ごく稀に、三年に一本ぐらい、こうして入荷することがあります」

「ゼニリュウム？」

「お客様の母国、日本の木と聞いて居りますけど」

「ふうーん、いい値段だね」

「はい、滅多に入荷しませんから」

「うん、面白い。大枚叩いちゃう」

購入。帰宅し、南向きの寝室の窓際に置いてみた。

何度見ても、長方形の葉っぱが愛らしい。

「うーん、可愛いねえー」と、好々爺目で見詰めていた。

翌朝、むむ、なんか随分大きくなっている。一夜で倍近い背丈。

へえー、成長が早いんだな、ちみは、などと、呟く。

三ヶ月もすると、背丈が3メートル近くなった。

無数の葉っぱの大きさも、丁度、ユーロ紙幣ぐらいの大きさになった。

なんとなく、水をやっている時に、ふと、気が付いた。葉が二枚程、変色している。

れれれ、枯れちゃった？ よーく、してみる。

ぎょ、おわあーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーっ！

10ユーロ札ではないかっ！ うな、馬鹿なっ！

裕之助、さっそく、インターネットで調べてみた。

ゼニリュウム(一部の地方では、銭入無と表記)

前略。古くからの言い伝えでは、心の優しい、清く正しい、清貧のミュージシャンのお宅にて、百年に一度。一本のみに紙幣がなる。ということから、このような表記が生まれたと考えられている。いわゆる世俗で呼ばれる金のなる木に相当するが、あくまで、心根の優しいミュージシャンに限定されているところが、いかにも、言い伝えといった趣である。好事宴より

むむむむむうー、当たっちゃったっ！ 俺っ！

早速、その二枚を丁寧に鋏で切り取り、タバコ屋へ。

タバコ屋には、偽札探知機があるから、試しに、親父に、

「はははははっ、俺が作ったんだよ。偽札。どうだね、本物そおーくくり、だろっ！」

「なに、また、馬鹿なこと言ってんですか、探知機は嘘付かないよ。本物そっくりの本物。お見事ですな」だって。

帰宅。午後中、ゼニリュウムにお話。

むひよひよひよひよ。これで、俺も大金持ちだあー、世間を見返してやるっ！

ブランド、買い漁るのよおー、これから。俺がブランドだっ、なんて、ブログに嘘八百。

けっ、貧乏でよおー、買えねえーからよおー、そういうことにして、辻褄合わせてるだけ

でよおー、あっ、まずいまずい、だれに、読まれているか、分かったもんじゃねえー、この話は、ブログには書けねえー。うししししし。

結局、裕之助のお宅になった紙幣は、この二枚切りであった。

イソップ物語のように、作者の意向で、強制終了とさせて頂く。

2013.01.23 Wed

ぽかあーんと時間が空いた

なんか、ぽかあーんと時間が空いた。

せかせか族の私には、こういう時間は珍しい。

大雪で外出もままならないし、とはいえ、一日中家事だ、ピアノの練習だともいかない。

で、こういう空白地帯となった。で、ブログの書き溜めを、結局、せかせかやることにした。

すでに、二篇書いてしまった。まだ、ピアノの練習時間まで、45分あるから、がめつく三篇目を書き始める。

今、ブログ村のランキングを見たら、なっ、なんと7位っ！

一回、4位ってなって、本当に仰け反ったっ！

ちょ、ちょい、お待ち下さい。と、私の場合はなる。

毎日、お気に入りブロガーさんのリンクバナーを押すのが楽しみで、そちらの順位ばかり見ている、時々、あっ、ちょ、ちょい、まちい——、と自分のを見て、びっくりしたりする。本当に、ありがたいです。お辞儀。

なんとなく、段々、元気ブログみたいになってきている。

イサオちゃんのやつね、読むとね、なんか、元気での、あたし、俺。

こんな感じだと、無内容なりに、一応、多少の役に立っているということにはなる。

いやあー、それにしても、自称人間嫌いの偏屈親父などといっているが、すっかり、村の住人になっている。なんか、良く考えると、私の言動というのは、非常に巧妙に仕掛けられた裏セールスに、結果なっているような気もしてきた。本意ではない。と、書くと、またまた、ポイントがアップ。いや、本当に本当に本意ではない。と、またまた、アップ。もう、こりゃー、人徳だわい。ということにしちゃおう。

ところで、随分前に「ナルシスイタビュー」という記事を書いた。未だにアップしていない。もう、わたくしの本質がすべて書かれていて、う——む。あまりに真実だもんなあー、こんなもん、アップして、アップアップになっちゃってもなあー、などと、躊躇しているところもあるが、それよりなによりも、こんな俺の本質なんて、だれも興味ねえーのに、うざいなあ——、もじもじ。また、芸術家気取りかよおー、とか、自分でなってしまう。とはいえ、愛読者様へは、やはり、お伝えしたいのでもあるから、ちょっと、考える。

閑話休題

もう、寒いので、髭剃り、鼻毛切り、爪切り、もう、風呂に入るのも億劫になっている。

もう、風呂にooo日入っていない。南極探検隊である。極限の不精の後に、熱い風呂に入ると、この喜びは膨大になるのだ。メンデルスゾーンの反比例の法則である。

で、こういったことには超不精なのに、世間でいう「筆不精」。これは、ゼロ。

筆まめお君だ。ブログ記事、ちゃっちゃちゃ。メールの返信、ちゃちゃちゃ。一回なんぞ、問い合わせのメールが来るだろうと、返信を書いていたら、案の定、来た。二秒後に返信したら、先方から、電話。「もしもし、はっ、はやあ————。あんた、スーパーマンなの?」。無内容とはいえ、なんぼでも書けちゃう体質。なんなんだこりゃ。考えたら、よく、ジョークを飛ばすお話好きでもある。どこが暗い人間嫌いなのだ? 自分の営業だけ、頑なにしないと、馬鹿じゃねえーの、本業だけ、超偏屈になる。逆だ。すぐ、金はいらんとかかってしまう。

結局、世間とか仕事とか社会とかシガラミとか、こういうのが嫌いなだけじゃねえーのって!

そうかあー、俺って、超ヒューマンなのかも知れんなあー? 良く分からん。

2013.01.24 Thu

「桃」

むかしむかし チャンジーとチャンバーがいた

チャンジーは 山の上のジャズクラブに行き チャンバーは 川の辺のクリーニング屋へ行った

チャンバーが 川面を見ていると どんぶりこどんぶりこ どんぶりが流れて来た

その中に 桃が入っていた

「かさかさ爺」

枯れ木に花を咲かせましょう

と 爺さんがいったけど その桜の木は すでに 根元から切られていた

「鶴ちゃん」

チャンジーは 庭で怪我をしていた鶴を手厚く手当てした

右足から 血が出ていた

消毒し 包帯を巻き 空へ放った

3日後 はたおり機をしょった優香ちゃんが 玄関に立っていた

チャンジーの目 すでに 恩返し必要はなかった

「ちぼ」

愛犬のちぼが フランス語で ここほれオワンオワン と言った

庭の片隅を掘った

ちほが オワンオワンと泣き続けるので 徹夜で掘ったら ブラジルに出た

「大紙少年」

金のなる木を手に入れた ゼニリュウム

みなに 言いふらした

冷たかった友達が 急に 優しくなった

「働き者」

松田裕作主演

蘇る勤労

お粗末でしたっ！

2013.01.25 Fri

「裕イサオさん、こんにちは」

「はい、サオイウーユさん、こんにちは」

「今年で、フランスにいらして、丁度、30年ですね」

「うん、そうね、幼稚園の時に来たから」

「なんか、御年、バサ読んでません？」

「サバサバ」

「若く見られたいのですか？」

「ぜえ——ん、ぜん。あのね、チャンジーになるとね、なにが衰えるだろっ、これは駱駝」

「相当、なにに引き摺り回されたのですか？」

「人並みには、という意味ではね。だって、俺って、トータルインテリジェンスなのだよ、ウーユさん、でね、なにが邪魔してたの、お分かり？ 脳に特化しねえー、なにがあるとよ」

「じゃ、なには、もう、全然の全然なのですか？」

「明るい老人のなに、だ。陰に籠らない。もてもてちやほやで、ほれ、選択肢が、そこいら中じゃん、このシュチエーション、いいんだなあー、もう、明るくてよおー、でも、衰えちゃったら、その、なに、選択肢も、自然を見る目というものに変わるのだね、ある意味、作家目線だよ、部外者なのだね。悲しいねえー」

「ところで、裕さんのブログの読者数、両手両足の指の数を超えましたが？」

「うん、お陰様で。俺、指でしか勘定できないから、丁度いいの。でも、最近、ちょっと、超え始めているのね。俺の小学校の1クラスぐらい(47人)までなら、勘定できるけど、それ以上は、ヤダね」

「でも、世界人口、および、芸能人というお立場からすると、あまりに、あまりのチャンチキでは？」

「おお——、あんた、突っかかって来るわけね。多い少ないは、俺が判断するのだよ。いいのであるし、大体、俺ヤダよ、アクセス数70万人(有吉さんのツイッターかなんかの数字)、1日なんて。いいの、熱狂的なファンがいいの、俺はね。でもね、内輪で凝り固まるのはいかん、いつも開かれていなければね。それで、いつも開かれていて、そうであれば、いいじゃん、それで。くどいけど、ファンだけに囲まれて、有頂天は良くない。あんたのピアノは、だめだこりゃ、つ一人もいるから、謙虚に聞くか、理不尽だったら喧嘩するのだよ。表に出ろって、ね。で、じ

ゃんけん、おはじきで勝負を付ける。あやとりでもいいけど」

「ところで、裕さんは、日本で音楽活動をなさってませんか」

「うん、基本的には。でも、今年の2月から3月に掛けて、8年振りに3回のソロコンサートを行います」

「8年振り？」

「うん、早いものだねえー。それで、俺は基本、日本での活動はしていない。なんでかって言うと、なんか、外タレ、おパリよりのご帰国、そりゃ、商売ベースでは、売りのひとつではあることは、分かっているけど、どうも、天邪鬼でね、なんか、ヤなのね、それ」

「でも、裕さんのピアノは、インサイダーでは、暴力ピアノとか、スポーツピアノとか呼ばれますよね、プラス、やはり、フランスでご活躍というのは、芸能人としては売りでしょうに」

「うん、分かっているよ。ひとつだけ訂正ね。俺は、有名でもないし、活躍なんてしていない、売れないピアニストだよ。フランスは、単に住んでいる、だけ。俺個人にとっては、どこもセールスにはなっていない。暴力ピアノとか野蛮人ピアニストとか、世界で指が一番早いとか、これは、エスペラントな意味で、俺のセールスポイントなんだけど、本国でやると、それが後回しで、おパリからって、こっちが先になるのが、天邪鬼の元になっているわけ。なんか、そんなんで、ご大層なミュージシャンに見られる。これがしっくりしない。むむむ、裏自信かもしれん、俺のピアノは脳味噌初期化して聴いてくれっ！　すげえーんだぞっ！　という自信の裏返しのエントロピーアルキヘンデスのパラドックス偏屈天邪鬼の理論だ」

「なんですか、それ？」

「うーん、こっちでやっているとき、日本人の、なんていうのは全然セールスにはならん。ワンノブジャズ屋。色眼鏡がないから、実力剥き出しだ。そこで、どう評価されるのか、めちゃめちゃ言われるのか、知りたいのはそれだけなの、そういうこと。だから、どうしても、こっちの活動に集約となっちゃう」

「CDは出されないのですか？」

「現在まで、オフィシャルになっているものは、1枚だけ。当然だ。売れないピアニストのCDなんか、どこも出さん。それとね、もうひとつ、俺は、ライブピアニストなの。その場で、燃え尽きてしまって、以上で、いいのだ。そういうポリシーもあることはあるようなアディダスのアンデス山脈のイーデスハンソンの負け惜しみ？」

「裕さんの履歴って、ちょっと不思議ですよ。美術、文学、音楽と、世界制覇でも狙っているのですか？」

「あっ、これね、これ、本当に説明簡単なの。ウーユさん、現代美術の祖、マルセル デュシ

ヤン、ご存知？」

「名前は知ってますけど、人と作品、詳しくは存じません」

「でね、彼はね、絶対に、同じコンセプトの作品を作らない。3点までと自分で決めてたのね。印象派、キュビズムの時代を通り、独特な概念芸術に辿り着いた。代表作、通称大ガラス、この1点の制作に8年掛けて、確か、33歳ぐらいで、未完のまま放置。それから、フランス語の先生、図書館員とかして、途中からチェスプレイヤーになって、フランスのチャンピオンにもなった。で、晩年は、20年ぐらい、秘密のアトリエで、超大作を作っていた。分かります、この、人生？ 彼は、私は商売人ではないと言っている。公の人間ではないし、毎日、絵を描きたい欲求もないと晩年のインタビューに答えている。猛烈に少ない作品群は、ほぼ、すべて、フィラデルフィア美術館へ寄贈。全作品(ほぼ)が1カ所にある美術家は、彼しかいない」

「とんでもなく、オリジナルな人ですね」

「うん、そう。こんな美術家は、歴史上に彼だけだ。で、彼にとってのチェス。社会的な要素がない。脳内の美学しかない。純粹に観念の世界である。そして、社会的に無意味なことで、人生という暇を潰している。こういうことなのね。彼の中にある芸術という概念に一致していたわけね」

「で、俺はね、今以て美術家、デュシャン直系のと思っている。ほおーら、分かったかしら、デュシャンのチェスが、俺のピアノなのだ。で、彼の真似をしているのか？ 多大なる影響は認めるけど、要は、同じような脳構造なのだろう、基本的に。解決などない、そもそも、問題がないのだから。この名言が、そのまま、脳に入るの、俺」

2013.01.26 Sat

寒波が去った。

まだ、ところどころに雪が残っている。

どんよりした雨空。

こういうお天気が一番すっきりしない。

ちょっと、気持ちが沈んでくる。

なんの理由もないけれど、やはり、心の中も雨空だ。

と、今日書いて、3日位寝かしていると、超快晴。心も快晴なんていう日に、これをアップというネジレ現象が起きる。

そんなにお天気の様相って大事なのか？

もちろん、農家には当然だけれど、フリージャズピアニストという職種に？

コンサートの客足が鈍るとか、そういう影響は多少はあるけど、その程度の話だ。

毎日、展望サロンから、空の様相を見て、一喜一憂している。

空の様相が、心のそれと共鳴している。大丈夫なのかしら？ そんなんで。

雨空を見て、理由もなく、めそめそ。

変なおやじっ！

思い出せないんだけど、若い頃って、こんなだったかなあー？

土砂降りの中、海パン、水中眼鏡して、ボルドーの町中を自転車に乗って、しかも、屋外プールに行っていた、あの若者、馬鹿者は、どこに行っちゃたの？

急に思い出した。

ボルドー時代。俺は、前衛芸術家と呼ばれる、フリージャズピアニストより、さらに怪しげな人種をやっていた。小さなアパート。台所、サロン、寝室。アパート全体がアトリエだったから、作品、材料、工具が散乱していた。それはいいのだけれど、寝室の中に、風呂桶とおトイレが、そのまま、どんと置いてあったのね。お風呂場にベッドがあったのか、寝室に風呂桶が置いてあったのか、今以て、分からない。

ブログで文学する？

ある方との交信の中に、「俺はブログで文学するつもりはありません」と書いた。ふむ。その前に、「文学」ってなに？ これを定義しないと、俺の文章自体がおかしいということになる。

二十年前ぐらいに文学新人賞に、せっせと原稿を送っていた時期がある。今はどうなのか、ちょっと、分からないけれど、純文学、エッセイ、エンターテイメント、同じことだけど娯楽小説とか、読み物なんていうカテゴリーになっていた。

初期は、純文学というカテゴリーの賞に応募。ピアノ再開を境目にエンターテイメントと変わった。

と書いても、なんの定義にもならない。ちょっと、矛先を変える。音楽。ありゃ、全部、「学」が付いてる。美学。まあ、いいや。
(違うじゃん！ 音楽だけ、「楽」だっ！ 素晴らしいねえー！)

たとえば、俺、俺らの音楽。「ありゃー——、音楽じゃ、ねえー——」というご意見も、しばしば出る。と、やはり、文学と同じで、じゃ、音楽ってなに？ となる。で、俺なりの極私的個人的普遍性はない見解は、リズム、たとえば太鼓叩いて踊る。酒を飲む。いちゃつく。皆で盛り上がる。これが、音楽と理解している。だめかしら？ 「いや、高級な音楽は、そうじゃない」なんて方も出てくるから、なんだか分からなくなる。高級文学なんていうジャンル。ネイミングとしては、おもしろい。

シンセサイザーとピアノ。俺は、どちらも弾くけれど、ミュージシャンの見解は、シンセは、あんまりテクのないやつが弾く。となっている。これは、オートマとマニュアル車の関係に、ちょっと、似ている。お——、軽音楽と純音楽。エンタメと純文学。なんか、同じレベルじゃないような.....。

で、ピアノ弾けるやつは、シンセも弾けるけど、逆は難しいのである。タッチが重いし、ロングトーン出せないから、やはり、正確な技術がないと持たない。車の関係とほぼ、同じだ。

あはははは、結局、なにを言いたいのか、自分でも全然、分からない。なんか、なんにでも、クラス分けみたいのがある。軽と純。で、後者の方が、一般的には、高級。俺は、どっちの肩も持たないスイス人。

んじゃ、俺の文学の定義は？ っとなる。これも、極私的個人的普遍性なし見解。
俺の脳の琴線に触れるかどうか。となるけど、俺の脳の琴線を説明、定義しないと、これじゃ、
分からない。で、当然、それぞれのそれが違う。あと、触れ方の度合いも違う。分からないから
、放置放置っ！

んじゃ、芸術とは？

これは、けっこう、きっぱり、独断で定義されている、俺の頭の中で。

社会的な自由ではなくて、脳の自由の容積。夏目容積だっ！

で、これは大きいほど、本人が駱駝。楽しいし、他人との争い事が皆無になる。

ユーモアのメカニズムが、すべてを消化してしまうのだ。ユーモアって、お笑いとも、ちと、違
うのである、俺にとっては。俺は、俺のことが嫌いだと言い張る奴と、仲良しになったりする。
そういうことね。

そうね、文学、音楽、各自が各自、勝手に定義。または、定義しない。

もう、なんでもいいのだ。

2013.01.28 Mon

コンサート間近

今日は、1月27日、日曜日。

今朝、「ブログで文学する？」という記事を書いた。今晚、アップするので、この記事は、明日アップ。

今晚は、沖至師匠のコンサートに出掛ける。

レアールの高級レストランの地下にある、実におしゃれなジャズクラブ。

なんとなく、東京の六本木辺りに来ている錯覚がいつも起きる。

昔、Tという即興演奏家の巣窟ライブハウスがあったんだけど、ここの元オーナー主催の、ライブハウスT縁のミュージシャンたちシリーズの第二弾(だと思う)。当然、出演者、皆、顔見知り。俺も、随分、Tにお世話になった。

このライブハウス、コンセプトが徹底していて、「即興のみ」「メロディー弾く奴は出さん」以上。尖がったコンセプト、本当。で、俺、ソロピアノで出してもらった時、サマータイムをマッハ3で弾いてオーナーの颯感。掟破りなのだ。といってもマッハ3だったから、許してもらったけど。

と、尖がった楽しい思い出のところですよ。

で、考えたら、俺の師匠のトランペット。客席で聴くのは、久しぶりだ。

共演者として聴くのは、大分違うから、実に楽しみ。で、今晚、お目に掛かって、30日には、裕イサオ、佐藤真、フューチャリング沖至をやるから、客席およびステージで聴くことになる。師匠から、「MF Bflat」という暗号メールが既に来ている。

でね、俺は、饒舌暴力スピードピアノを得意としているから、バラードは苦手。

俺にとっては、大変な挑戦になるのである。おおーし、新境地新境地。

沖師匠のトランペットは、ご存知の方も多と思います。物凄くリリカル。音が悲しくて寂しい。このトランペットという楽器で、こういう音が出るのである。師匠の深奥に、なにかがあるのだろう。やはり、簡単には出ない音である。

因みに、同じ楽器を弾く、吹く。人によって、全然、違う音が出る。

一度、一部に別のピアニストで、二部、俺。お客さん、俺も、あまりの音の違いに仰け反った。

沖師匠「イサオのピアノは重い音。ピアノで重い音出す奴って、あんまり、いないね」

俺「師匠、タッチが強いからでしょうね」

師匠「うーん、そういう意味じゃないの。お前自体がヘビーなんだよ」

俺「重ければいいってもんなんすか？」

師匠「うん」

俺「ふーん」

師匠「お前の、その尖がったつっぱりが、愛らしいな、俺は」

という会話。

絶対に、俺の悪いところは言わないのだった！

こうして、俺は、邪頭の道へと導かれたのである。(小さい声で。師匠も認めているのだ=人生を台無しにされたのである(爆笑))。

[blog_import_52a67451b8f4f.jpg](#)



深謝。

2013.01.29 Tue

記事の執筆日とアップの日が、少しずつズレ始めている。

本日、1月28日2013年は、快晴、真っ青。宇宙船から見える地球を、反対側から見ている実感が込み上げて来る。突然、地球の海の面積を思い出したり、コスミック現象を脳が起こしている。

「コメント」

被害に合われたブロガーさん、ごめんなさい。

時々、私は、コメント狂に変身する。赤ワインをちびちびやっている内に、もう、なんとしてもエールを送りたい。ファンであることをお伝えしたい。この欲求が、どうにも抑えられなくなる。ただし、得体の知れない裕イサオなんちゅう三文芸人からのコメント。ご迷惑になる可能性大なので、ある意味、姑息なのかもしれないけれど、非公開で、と送ってしまう。そして、翌朝、起きて後悔する。ひとつには、コピーしていないので、内容は、もちろん、覚えているけれど、自分のコメント、非公開なので再読できない。今後は、コピーしておくことにします。すいません、いい加減なコメンテーターで。

インターネットというバーチャルな世界。当然、ブロガーさんご本人と面識はない。そして、お会いする可能性も、とてつもなく低い。こういう関係の中で、コメントする。一抹の後悔は、なんか馴れ馴れしい文章だったかしら？ 言い回しが適切だったのだろうか？ たまたまなのだろうけれど、コメントお送りした後、更新がされていないと、とんでもなく心配になってくる。応援の仕方が、拙かったのかな？ 応援自身をご迷惑とを感じる方もいらっしゃるだろうな、とか、いろいろと考えてしまう。なんか変なんですけど、自分のブログ以上に、気を使ってしまう。

ブログは、公に開かれているし、文責は、すべて、私にある。

コメントは、その方、特定された個人へのメッセージ。しかも、面識のない方へ、である。

個人攻撃という、私が、もっとも嫌いな方向も可能であるところが、物凄く怖い。

いや、応援、エールの送り方も難しいと、いつも、思っています。

私個人は、応援コメントを頂くと本当に嬉しい。でも、そうでない方もいるかもしれないという一抹の不安が拭えないのです。

「心のスイス人の内的実態」

物事には、賛否両論が付き物。

山下洋輔さん。初期の演奏スタイル。拳、肘打ち。よくピアノの弦を切る。ペダルを折る。消防

服姿。海岸にグランドピアノ。燃え上がるピアノを朽ち果てるまで演奏する。

現代美術家、ナムジュンパイク。画廊の真ん中で、アップライトピアノを斧で破壊。

例として書いたのですが、当然、信奉する側と、非難する側という二極が生まれる。で、後者の方が、圧倒的に多数である。この状況下での、自分の意見ないし立ち位置は、どこにあるのか？　ここが、スイス国籍の分かれ目になる。好き嫌いというレベルではなく、ある意味、社会的な立ち位置なのかもしれない。好き嫌いは個人ベースなので、一向に構いません。

マルセル デュシャンの歴史上の最初か二番目のスキャンダル。レディーメイド(既製品)という概念があるのだけれど、二十世紀初頭の現代美術展に、男性トイレ用の日本で朝顔と呼ばれる便器を寝かせて展示。マツムツと便器に署名。展覧会主催側より撤去勧告。「これは芸術ではない」。デュシャンは展覧会自体から脱会。

現代美術家内部でも、ふたつの意見が交差する。批判組み、あんなのは、売名行為のペテン師だ。

非常におもしろいのは、デュシャン自身の見解。

「私は、あれを芸術だと定義はしていません。あそこに置いただけなのです。私が腹を立てたのは、出品形式自由という趣旨で開催された展覧会の開催側が、展示を拒否したことです。スキャンダルは、私の意図ではありません。あれを、単に置いた。それだけです。それは、作品ではなく、私の中の、問い掛けのひとつとして置いたのです」

そして、彼の口癖。「たぶん」。

「自由の容積」

私は、社会的な意味での自由。そんなものはないことは知っている。

だれしも、巨大な人間社会の一員だから、当然、なんらかの歯車のひとつである。

そして、お金が絡んでくる。当然、利害の迷宮の中で生きるしかない。

幸い、私たちには脳という究極のプライベート空間がある。

この中での話なのだ。私のこのブログの二番目の項目。例として書いてみたけれど、こういった事象が、脳内へどのように投影されるのか。そういうことです。

なんだか、ややこしいブログになってしまった。

ここ近々、こちら、間もなくホモセクシャルの婚姻が合法化される。

テレビでは、この賛否両論の討議が、さかんに行われている。

動物としての自然の摂理に反するという、反対派の方も多い。

私個人は、それも一理あるとは思う。反面、自然の摂理を破壊し続けているのは我々でもある。こちらも一理。その他、諸々の討議の切り口がある。

と、ここまで書いてお昼を取った。もう、脳内シンコペが止まらなくなった。で、3日分ぐらい書いてしまう。

「俺のブログ」

俺、俺って、うるせえなあー、おやじっ！ となる方も多々いらっしゃるはず。で、これは、俺という一人称で語られる「ワン ノブ 人類ズ」と、ご理解願います。ヘンリ ミラーは、「俺は、一個の人類史なのだ」と言っている。そこまで、コスミックではないけれど、ベクトルは同じだ。

でね、複数の仲間から、「裕さんって、やっぱ、すげえー、真面目な人ですよ」って、言われた。ばれないようにばれないようにと書いていたつもりなのに。でも、毎日、長期に渡って書いてれば、本質は、当然で。

それから、ある読者の方から、「裕さんが書かなくてもいい、おちゃらけ記事。必要ないのでは」というご指摘。この時、沖師匠の一言が脳内でマッターホーンエコー状態となった。

「なあ、イサオ。お前は芸術家。ヘビーな人間だ。わざとらしいおちゃらけ演奏は、止めろっ」

ところで、俺の中に、たしけさんと似た精神構造がある。

真面目人間、情に脆い、おセンチetcetc。そして、内的暴力満載のドSだ。

矛盾したふたつの要素を内包してしまうと、ドSなのに、いじめとか一切しないというネジレが起きる。そうなると、算数上のバランスは、ひとりサドマゾ。いじめの対象が自分になる。で、自分の本質とは懸け離れた、おちゃらけ、お笑い、ひょうきんとかをやってしまう。結局、自分で自分を笑っていじめるという倒錯人間となる。自分の真面目さを自分で笑い、踏みにじる。と、こうなる。

でも、真面目人間はばればれなので、やはり、ブログスタンスを変える時が来ていると思う。タイトル、腰帯、ブロ画は変えないけれど、スタンスは、変えないといけないだろう。もう、三文芸人のPRブログなんていう言訳はよします。三文芸人さんに失礼だ。ある意味。

そう、格調高い、真面目な、高級文学ブログに変えちゃう。

または、孤高の芸術家の眩きとか、真の芸術家の心の叫びとか。

おー、やっぱ、ブログのタイトルとか一新しちゃうかしら？

むむむ、またまた、ひとりサドマゾ神が、俺の様子を伺っている。出番はないのおーっって。
めんどくせえー、キャラだよなあー、ったく。

2013.01.30 Wed

ブログで文学してしまおうと考え始めた

なんとなく、ブログのスタイルを変えようと思ったら、またまた、執筆欲に火が付いてしまった。

更新することに意義あり、などと、ちょっと、嫌々書いていたところもあったのだ。ばれてしまった気がする。

でね、正直、やはり、ブログというメディアを疑っている。

旧人類の偏見そのものなのかもしれない。

なんか、文学は、正座して和服着て、蓋付きの湯飲みでお茶。原稿用紙にモンブランの万年筆で縦書き、じゃないとできないような思いが、少し、ある。

そして、やはり、それは偏見なんだと思う。でも、となる。

で、「私にとっての文学」は、私の脳の琴線に、「文学として」引っ掛かるかどうか、考えたら、それだけ。でも、「文学として引っ掛かる」の、この「文学」ってのがなんなのかわからないのだ。あっ、そうか、私の脳琴線に引っ掛かるもの=文学とすれば、分かり易いね。でも、私以外の方のそれに引っ掛かるのかは、わからないから、結局、なんか、馬鹿な結論だけど、自分の脳琴線に引っ掛かる諸々、これは膨大な量があるのね、要は、それを書けばいい、ということになる。そして、私以外の方に読まれて、偉大な文学者として、私の銅像が、小学校の樺の木の下に立つ。結果として、そうであればいいし、結果として、そうでなくてもいい、と、やったあー、やっと、結論がでたぜって！

よおーし、大文学者養成ギブスは撤去っ！ 撤去とは言わないよね、身に着ける物を。

あっ、そうそう、だから、自分の脳琴線に引っ掛かるものをブログに書く。

で、それが、文学として私以外の方のそれに引っ掛かる。

てことは、ブログが文学であっても理論上は、おかしくないから、私の疑惑は、偏見となる。

ところで、筒井康隆大師匠。現在は、大作家として認知されている(よね?)。

漠然と昔と書いてしまうけれど、「ありゃー、文学じゃないね」という人、結構多かった。

ドタバタエンタメ小説。で、筒井さんの肩書きも「SF」作家と、フリージャズピアニストみたいだった。筒井さんのエッセイとか読むと、大師匠自身、結構、むっとなさっていたことが分かる。

たぶん、立川談志師匠も、同じような境遇が続いたと推測している。

やはり、クリエイターの悲劇ではある。

なんて、偉そうに言っているけど、私自身、ブログ、インターネット小説、携帯小説とか、すぐに、目が点目、懐疑目になる。書籍書籍とかなるのである。やはり、おやじらしい反応。でも、上記理論上は、発表の仕方の問題ではないということは明白である。自分に抗議する。

と、ポリシー、スタンスを変えて、数少ないご愛読者様をご納得なされますのか頂けるのか、お疑問である。媚ちゃんが、背骨の辺りでもじもじ。それでなくても少ないのによお——、ゼロはやだぁ——とも思うが、致し方なし。もう、私の嫌らしい本質がばれてしまった。私は、自己中のお芸術家なのであることが、ばれてしまった。当然、世間様へ対してメガロ目線である。致し方ない。宿命だっ！

2013.01.31 Thu

宝くじ

インターネットを見ていたら、「琴線に触れる」を、神経に障った、むっとしたと、ネガティブな意味に使用するケースが多々あるが、間違いである。と言った説明があった。

確かにそうだ。そういう意味で使う方、結構、いらっしゃる。

やはり、琴の線だから、ミュージシャンとすれば、ネガティブなはずはない。

良いこと、素敵なこと、感動すること、音楽、楽器の基本要素が、そのまま言葉になった感じ。それと、非常に繊細である。と言うことは、そういう線がない、とか、俺のはスチール弦だぜっ、いや、本体はあるけど線が切れているとか、オジギャグしたいなあー、金銭しかいらん、とか、いろんな方がいらっしゃるだろう。

で、「自分の琴線に触れることをブログに書こう」なんて、書いてしまったけど、たとえば、俺の心の形態が琴だったとする。他の方のそれが、ギターぐらいなら、まだ、共鳴できるけど、これがピアノだドラムだとなると、俺の心琴の調べなんちゅうもんが、どうなっちゃうのおーと、ちょっと、恐ろしい。いや、俺のは鉄琴だっ、なんて、やっちゃうかしら？ まあ、いいや、共鳴しなくても。つまないけど。

そうそう、フランスの宝くじ。LOTOっていうのがあるのね。

俺の知人の隣の隣の失業中の方が、これに当たった。しかも、ヨーロッパLOTOだから、とんでもない金額だ。その方、その日から、行方不明になった。良く分かる。

フランスのコメディ映画に、ある富豪が亡くなったら、息子だと言い張る奴が3人現れるというやつがある。そんなもんだ、世間様は。

因みに、俺は、ギャンブルは一切やらない。なぜだ？

お金がない。うむ。物欲、金銭欲がない。本当だ。

結局、俺の人生自体がギャンブルみたいなもんだから、プラスではいらないのである。

で、この泡ゼニ、バブルゼニ、碌な事がない。

テレビを見ていたら、宝くじに当たった方のその後ってやつをやっていた。

予想通りだった。生活めっちゃめっちゃ組がほとんど。二件だけ、凄く素敵の方がいた。

ひとりは、80歳のおばあちゃん。

当たった金額で、南仏にプール付きの五世帯住宅=豪邸を建てて、一族で仲良く暮らしていた。

なんか可愛い。

もうひとつは、田舎のカフェ。常連8人の飲み助。

その中のひとりが当たった。そして、飲み助仲間で均等に分けた。

げらげら笑った。ど田舎の鄙びたカフェの前に、黒いベンツが8台止まっていた。粋だ。

2013.02.01 Fri

実録ジャズの契り

その日、パリ18区、ジャズクラブ「バビロ」周辺は、物々しい空気に包まれていた。入り口向かって右側に、沖組の若い衆。左側にシルバ組のそれ。後方に見えるライトアップされたサクレクール寺院。通りの反対側に、機動隊。パリ二大フリージャズ組織が一同に会するのだ。機動隊の緊張も頷ける。どうも、沖組若頭の裕の仲介との連絡があった。なにを、企んでいるのだろう、裕という奴は？

午後7時。黒いセルシオが到着。

若頭の裕が、そそくさと扉を開ける。トランペットケースを抱えた沖組長が、軽く右手を上げて車内から出てくる。反対側の扉から、高級幹部佐藤真がシンバルケースとスネアケースを持って出てくる。

数分後、黒いキャデラック到着。

シルバ組長と高級幹部アブドゥーベナニが降りてくる。

「ヘイメエーーン、テイクイットイージー」と、本当に言った。

若頭の裕がシルバ組長に挨拶。興味なさそうな目で裕を見た。

「ハウドゥユドゥー、ミスター」裕の流暢な中学英語。

「イヤアーーー」シルバ組長の流暢なニューヨーカー英語。

二人の組長が、親しげに(親しいのだ)英語でペチャペチャ。

佐藤幹部、ドラムセットの組み立て。裕、手伝い。

「やっば、スネア変えようかな？ ブラシ、どう？ 安っぽくない？」

「兄貴、マジ、安っぽい。ブラシというより、擦れ音」

「やっば、そう。めんどくせえーけど、やっば、変える」

スネア分解。

「ありゃや、なんだよおー、ちゃんと計ってきたのに。ここのやつ13インチだよ。14インチの持ってきちゃったあ！ 酔っ払って計ったからなあー、インチが違うなんて、いやいや、そんなインチキ」

「兄貴、オジギャグ、俺と一緒に時は、女の子にしないでくださいね」

「ふん、お前の言うことなんか、聞かないもおーーーん」

裕、ピアノ。十分ぐらいウォーミングアップ。

沖組長、リップコントロールの練習。

少しして、シルバ組長、シンセのセッティング。

全然、物々しい雰囲気じゃねえーじゃん。

沖組とシルバ組の若い衆も、バーで仲良く盛り上がっている。

どうしよう、機動隊だのセルシオだの出しちゃったんだけど……。まあ、いいか。伏線ということで。なんのための？

で、知らなかった、その日、アランシルバとアブドゥーベナニのデュオ。レコーディングすることのこと。じゃ、あんま、一部伸びると拙いから、ワンセットにしようねえーと、沖師匠、真兄貴と協議。20h00、お客さん、3人。俺、ちょっと、冷や冷や。ちょちょい待ちいー、俺が企画に絡んでいる。拙いっ。20h20ぐらいには、始めないといけない。20h10、5人。やっ、やべえー。クラブのオーナー、やや点目。俺、冷や汗。

と、この後の十分間に、一挙に、俺のブログの読者様の数を上回るお客様が、どどっ。なんでも、地下鉄の四号線が止まっていたとのこと。俺、ベズリー目。オーナーもタレ目。ミュージシャンの卵連、学生さん、高名なミュージシャン、ジャーナリスト、映像作家、パリの日本人女優だけの演劇カンパニーの団長さんと女優さん、オーナーのタレ目が、垂れ過ぎて立て目になっている。

ゆったりした感じの曲から始める。兄貴のドラムが絡んでくる。スローをキープする。沖師匠のフリューゲルホーンのリリカルな音。

ところで、前に書いたけど、このクラブ。ピアノが向かって左側でステージより、ちょっと、低い位置。背の高いアップライト越しに、真兄貴の頭しか見えない。本来、ドラマーは、ピアニストの手の動き、とりわけ、左手の動きを良く見ている。で、こちら、ドラマーの腕の動きを良く見る。間が空くかな、来るな、いや、一歩ずれるな、とか。沖師匠は、俺たちの音だけ聴いている。

と、これができない。少々、お互いにやり難いけど、あとは、へめらも。

その後は、書かない。凄まじく静かに白熱した。

兄貴の掛け声、沖師匠の気合い、俺は目がうるうるして来た。

こっちも、まけじと応戦。50分。アンコールはお断りした。二部の時間が迫ってたので。今回は、へとへとになった。

終わってカウンターへ行きビール。

真兄貴「イサオ君、あんた、折角、師匠が入ってこようとしているのに、無視してソロやっただろう。かわいそうだよ、そんなことしてえー」

俺「えっ、マジすか？」

「バラードのさあー、後半とこ」

「えー、すんません、師匠の後ろにスポットライトがあって、姿が影絵みたいで、仕草が見えなかったのです。拙いことしたなあー」

「落とし前付けないとな」その時、兄貴が佐藤幹部へ変身。
「幹部、申し訳ございません」裕若頭。
「ただでは、済まんぞ」
「小指は、勘弁願います。商売道具」
「じゃ、足でいいよ」
「ペダルが踏めなくなる」
「じゃ、ローラの顔真似しながらブルースリーのアクションでいいよ」
「気が狂ってしまう」
「なんとかしろっ！ 後ろ前付けろっ、馬鹿野郎っ。お前の下半身の後ろ前を逆さにしてやるっ」
「やっ、止めてえ——————。不便だぁ——————」

クラブの外で、沖師匠とタバコ。

俺は失礼をお詫びした。本当に、スポットのせいで、仕草が見えなかったのだ。

師匠「ぜえ——ん、ぜん。良かったよ、イサオ。お前、ピアノ、随分、うまくなったなぁー。

ソロコンサート、がんばれな。あれだけの技術あったら、バッチリだ」にここにこ。

その時、「遅くなりましたぁ——」と7人ぐらいのお客さん、仲間。「イサオさん、何時から始めるの？」「えっ」

一部の俺たちのお客様。時間を間違えてきた俺たちのお客様。二部を聴きに来たシルバファンのお客様。

当然、二部は、超満員になった。

フリージャズナイトは、大盛況。

俺、へたへたへた。面目保ったぁー。

2013.02.02 Sat

今晚は。松田裕作(ギリギリ二桁台の愛読者を持つ、超人気ブロガー)です。

今回、俺は、デンマークへ飛んだ(地球儀の上の方だけど、どこだ？ で、各国の首都を二秒以内に答えられない。しょうがないから、チャップリンの地球風船踊りで誤魔化す)。

ハーゲンダッツ航空で。飛行機の形が、ソフトクリームだった(正確には、それに両翼と尾翼付き。なんかカワイくない?)。

機内、あっ、当然、俺はファーストクラスである(あのね、俺、それより、畳。飛行機の後方に、味の名店街。銭湯。屋台の飲み屋。こういう飛行機作って欲しいのだ。えっ、赤線地帯も？ 駄目駄目、そういうのは。食の方だけね)。

当然だ。なぜっ？ 当然だから(宝くじに当たったんじゃねえーのか？ あっ、買わないと当たらないって)。機内食、当然、巨大なソフトクリームだった。おええ(コンビニのとんかつ弁当でいいのによおー)。

別嬪の、客室乗務員が近付いてくる(ニコルキッドマンに似ている。ことに作者の強権でしてしまう。いや、読者様の好みでいいや。お好きにどうぞ)。

「ミスター、お飲み物は？」

「昆布茶と仁義とドライマティーニを、01 01 98の割合で。面倒だったら。前は外して結構」と、俺はダニエルクレイグの口調で言った(ちょっと、早口英語なんだけど、仁義だけ分からなかったから、ここだけ日本語にした。あのね、フランス語に気が利くという単語ないよ。ないんだよ、最初から。行為として存在していないの)。

「ハイ、畏まりました」

俺は、去っていく客室乗務員の、しなやかな、まあー、いや、それはそれ、人生一度切り、いやあー、切りがないねえー、あんたのブログも、などといいながら、まあー、それで、早くしてよおー！ むっ。はい、.....を見ていた(結局、書かずに、お上品に行く。細目の早目ってやつ。女性読者様への配慮)。

コペンハーゲンに着くまで、コッペパンを食べて、改札の親父は禿げだった。

いわゆる、ちょっと長い文学駄洒落的フライトだった(くだらねえー。注 差別用語が入っている。他意はありません)。

クボンハッキネン監督の超大作映画「未来の巷」に出演するのである。

近未来を描いた、SF映画である。

俺は、クボンハッキネン監督、直々にメールを書いた。

是非、登場したい、と。

クボンハッキネン監督より、すかさず、ご返信。

「テイクイットイージー、メエーーン」

意味が分からなかった。

シナリオを読んだ。

連行シーン。これはいい。しかも、天才文学者という役所。異論はない。

それ以外のシーン。撮影中、ずーーーと、モスマンのコーウン。もちろん、モノホンではない

。

焦げ茶色のムーゴ。馬鹿面で横たわる俺。衣装は、アルママルソの黒いーツス。馬鹿面がさらに目立つので、俺は、勝手にグラサン。モスマンのコーウンと俺を、美術さんが、氷を模した透明なプラスチックで囲む。撮影中にヒビ。その部分を、割れたまま二枚のプラスチックで挟む。このシーンは、スタッフ内部で「独身者の花嫁」と暗号で呼ばれた。そのセットは、フィラデルフィア美術館に展示されている。

2013.02.03 Sun

エトルタの断崖

心が閉塞した時

わたしは海を見に行く

腕組みをしながら 断崖の上に立つ

冬の海風 空 巨大な水の体積 地平線

海と空の境界が分からなくなる

一瞬 その空間に吸い込まれそうになる

吉増剛造の詩を思い出す

生存の停止は 時に甘美な夢想になる

自分の体を支えきれない時

わたしは断崖の上に立ってみる

2013.02.04 Mon

変礼赤ちびブログ

本日は、朝から忙しく、高級文学ブログへのシフト前記事の下書き在庫x2。高級文学ブログx2のいずれかのアップで、アップを乗り切ろうと、昨晚まで、思っていた。でも、高級文学ブログの二篇目は、あまりに、あまり。正直、泣いてしまった。自分の記事に。やはり、アップは永久にしないだろう。

でね、昨晚なんだけど、寝しなに、「寿司名人」というYouTubeの動画を見てしまった。なんとなく、上手い寿司が食いたくなつたのである。で、結局、大トロだの目光りだのが、頭の中に堆積し…。結局、眠れなくなっちゃったの。

東京の名人。「次郎」。二郎(本名は二の方でした)師匠。正座、お辞儀。超絶っ！ 後は、書かない。手が、ピアニスト見たいだった。本当に綺麗。俺のは、大工さんの手っていう感じ。で、二郎師匠、動画の中では、御年八十歳。愛弟子三十二歳。名古屋でお店。この愛弟子の寿司を食べに行くというストーリー。

愛弟子。電車の着く「一時間前から」、名古屋駅の前に、直立していた。うるうるした。俺も、似たようなことを良くやる。弟子男なのだデシ。

一貫目 いか 師匠 にぎりが緊張し過ぎ 弟子 直立 はいっ
二 目光り 一番難しいやつ 師匠 うーーん 美味しい 愛弟子 泣いていた 本当に素敵
だ こういう涙
三 卵焼き うー ハンペンか卵か分かんないな
四 たこ うーーん 美味しい

師匠。お前は一流だ。卵焼きだけ、駄目っ。

俺のジャズ師匠。沖至。

「イサオ、うーーん。イサオ節イサオシンコペ、多過ぎだよ、お前。シートオブサウンドの低音な。マッコイ(タイナー)みたいな。ブロックコードな」

むむむむむ、ここまでが、前置きなの。

で、俺のブログ師匠。クボンハッキネン師匠。

なっ、なんと、俺の記事まで書いて下さったっ！

でね、読者様にばらしてしまう。

クボン師匠から、俺は、沢山のコメントを頂いて居るのだ。

お褒め、ちく、アドバイス、激昂、激高、あめ、鞭、駄洒落、オジギャグ、文学、真摯、示唆、もう、あらゆるエスプリ示唆満載のコメントを。もう、これだけで、ブログが成り立つ。

で、師弟の会話なので、非公開とさせて頂いている。

で、今日は「自伝イサオ節」というのを、返礼として書こうとしたのですが、ちと、時間切れと、あと、赤ちび(赤ワインをちびちび)なので、後日にする。師匠にお辞儀。

「返礼 酔った勢いでブロぐる心」

むっはははははっ 四拍子で

ちょっと ピアニッシモのニッチもサッチも

あたしの心は 江戸時代 ぎょ

目光り あなご恋しいや 春の地球儀(字余り)

あさし夢見し ちよがねの 心の松はいくぞやよ

われ 琴線感覚 よお——お

あとは へめらも

あっ おおきい——おおきい—— 大きなフライでえ——す レフト イチロー 後退後退

どお—————ん イチロー 地面へのめり込みましたあ——

とっ、取っていまあ———す 大きな海老フライ 三トンぐらい ね

また、おっしょさんに、叱られそう。むむむ。

はい、直立。「言葉なんか 覚えるんじゃなかった」田村隆一

決まったっ！

2013.02.05 Tue

自伝イサオ節

わたしは文芸評論家の国木田潤一郎と申すもの。

今日は、「裕イサオ君のハイパーアホーマンススイング文体の形成」について、研究分析結果を発表致したく。と、無意味なことの論評は、無意味の二乗になるのではという、そこはかたない一抹の不安もあるのであるが、無意味の意味というものも、あるようなないようなあるようなない。ようなある.....。読者様忙しいんだから、早くしてって！　じゃかあーしい、リーブミーアローンのレスモアトンキールっ！

「形成電鉄1」

裕は、十代後半から日本を離れる1981年まで、脳挫傷の籠り文学青年であった。

イサオ節に多大なる影響を与えたもの。詩人、田村隆一のエッセイ郡であろう。短いフレーズを矢継ぎ早に重ねていく手法。スピード感、スイング感。この礎になっている。それから、富岡多恵子のエッセイ郡の斜め目線。個別の詩人名は控えるが、言葉の意味の解体を目論んでいた当時の現代詩人たちの詩、詩論、エッセイ。ダダイストたちの詩。シュールレアリズムの詩、詩論。そして、裕の全体に多大なる影響を与えることになる、マルセルデュシャンの言語による作品。意味を剥奪されたオブジェとしての言葉。そして、もうひとりの巨人、ヘンリミラーの饒舌体。詩とも小説ともエッセイとも判別の付かない饒舌長文。この戯言と哲学の間の振幅。この影響は否めない。

「形成電鉄2」

裕には現代美術家の時代がある。一時は、時期世代を担う前衛作家と目されていた。

この頃、いかにも文学的な主題。たとえば、生と死といったものを、まったくの主観、感情移入を排除したベクトルでの視覚化、および、その作品の言語化を試みていた。たぶん、虚無的な作業ではあったが、世界全体をオブジェとして捉えようとしたのではないか？

「形成電鉄3」

二十代後半から四十代前半に掛けて小説を執筆。丁度、真ん中にピアノの再開、ジャズの習得開始というターニングポイントが現れる。

ピアノ以前の作品=いわゆる純文。散文詩形の中編小説。美術作品の反動であろう。生と性と死が満載されている。抑圧され隠されたエモーションといった様相であった。唯一、単行本化された作品が、他薦で某文学賞の次席になる。選者の芥川賞作家二人から、次席であることのお詫びと、励ましの手紙を受け取っている。「次回作に期待する」。この頃、裕の周囲では、いよいよ作家への第一歩を踏み出したと噂されていた。この後である。裕の脳内に、もともと豊富であった

であろうジャズ菌が蔓延し始めた。ピアノの再開が、決定打になったと思われる。筒井康隆、山下洋輔ドシャメシャエッセイを貪り読む。この二人の、超時空ドタバタ、はなもげら思考に多大なる影響を受ける。とりわけ、山下洋輔エッセイのスイング文体が、田村隆一エッセイの礎の上に、更にパワーアップ症候群となった。「次回作に期待する」。以後、お笑いショートショート、ドシャメシャ超時空小説を執筆。この作風のコペルニクスチェンジングは、大変な響感となる。第十三作目「横式」。医学用語、広辞苑の説明文、ジャズ用語、ことわざ、古語を駆使した言語実験長編小説を執筆。完全に無視される。それ以後、ブログ「裕イサオ筆トーク」まで、十一年間、裕は断筆。ピアノ演奏に、すべての脳機能を集約することとなった。

と、このような形成電鉄。上記諸々が、シニア回路の中で熟成。ブログとの出会いにより、その熟成された痴呆指数導線に点火。裕のピアノ奏法はイサオ節と巷で呼ばれているが、その奏法自体の言語化とも取れるハイパーアホーマンススイング文体が、二十一世紀の世界文学史上に燦然と現れたのである。現在、世界中の読者(ギリギリ二桁)を魅了して止まないのである。

と、こんな感じ(ローラの顔真似。ほっぺぷくぷく)。

えー、言葉は、我々、人類が発明したのであるが、で、この人類というものの自体を無意味としてみようと、その発明品も無意味。みいーん、ノンセンスでござんすと俺の脳計算式の中で、なっちゃう(ほっぺぷくぷく)。で、俺の頭の中で、唯一、意味のあるものは音楽=太鼓叩いて、酒飲んで、いちゃついて騒ぐ。で、ブログる手法は、ただひとつ。言葉のお祭りなのだ。言葉で騒ぐ、盛り上がる、読者様巻き添えで踊る。異常なのだ。

「裕イサオ作曲(1999年)ピアノとド音痴のための歌」

音は二つだけ。低音のファとレ。左手で、ファファレ(下)を繰り返す。右は、へめらも奏法。

歌詞一挙掲載っ！

東京会津(映画Tokyo Eyesのぱくり)

閉まる扉に お気をつけて

次の駅は 新宿

閉まる扉に お気をつけて

意味のない歌 歌う

(車内アナウンスの物真似)

次はあー 新宿 新宿 網棚のお子さん 奥さん お忘れないよおーに

次はあー 新宿 新宿 閉まる扉に お気をつけくださあーい

以後、勝手にリフレイン。最後に、ピアノ超絶へめらもマッハ3でソロる。

このボーカルは、ド音痴の方以外には、絶対に歌えないのである。

はい。

追記 あっ、すいません。来週辺りから、脳内改装工事のため、3月中旬まで開店休業となります。その間、脳内電気配線もオフとなりますため、お気に入りブロガーさんの記事も拝読できなくなってしまいます。ごめんなさい。謹んでお辞儀。世界中に多くの読者様(ギリギリ二桁)を持つ、超人気ブロガーのわたくしとしては、遺憾の限りでございますが、折角の機会でございますので、感染してしまった脳内ジャズ菌の浄化、初期化を願う次第でございます。ただ、イサオちゃんのブログを読まないで、手が震える。便秘になる等々の重症の方は、僣越ながら、我、泣き濡れてバックナンバーと撓むるにて、お待ち頂けますると幸甚でございます。この場をお借りして、日頃のご愛顧、よおっ、謹んでのシンデレラ、よおっ、のたもうての、よおっ、ショーペンハウアー(尿促進剤。くだらねえー)、よおっ、なにやらせんでえー！ 再度、正座付きお辞儀。

2013.02.06 Wed

小説セントレイニーホスピタル

2013年のある日。

セントレイニーホスピタル院長室。

院長の国木田は、腕組み、細目。じっと、白い天井を見ていた。

内科主任の花村医師。「院長っ、このままでは、当院は.....」

「うむ、分かっとる」

人気ブロガー、裕イサオが休筆して5日経った。

二十畳の畳部屋中央横座りのまま、虚ろなベズリ一目。裕イサオの拡大プロ画をじっと見ながら、人差し指でプロ画をゆらゆらさせている女性患者。

いきなり、ピアノを弾き出し、指を骨折するシニア。

「酔った勢いで」ブログを始めるシニア。

一日中、ウォークマンで裕イサオのピアノを聴いている若者。舞踏病。

家事を放り投げ、昼メロの代わりに裕イサオの動画を見入る主婦。

部屋中に、裕イサオの拡大プロ画を張り巡らす女子高生。勉強疎か。

飲み屋で、日本語が、すべて転回形になってしまった飲ん平。

突然、ド音痴になったカラオケ狂。

等々等々の等々の患者が殺到して居るのだ。

それでなくても、セントレイニー地区は二年前から、奇病が蔓延していた。医師の間で「クボン病」と呼ばれている。一日中、クボンクボンと咳。突然のくしゃみ、ハッキイイイイイイイイネンっ。いきなりブログを書き始める。漫画を院内の壁中に描き捲くる。と、思いきや、突然、犬の散歩に行く。国木田は、対応に、頭を痛めていたのである。その上、医師間で呼ばれるIYビールス症候群。院内は、ほぼ、パンク寸前であった。

「なあ、花村君。もう、ゼブラーマン呼ぶしかないのかなあー」

国木田院長。完全マジ発言。

「えっ、ゼブラーマン？」花村主任。

「分からないのだよ、花村君。君も知っている通り、クボン病に効く薬は三つのみ。しかも、併用しないと効かないのだ。しかも、この病も、IVビールスも、ブロガー間での蔓延。分からない。オナラミンC。バカバッカリン。脳高速弛緩剤ピポポタンD。これだけだ。しかも、併用。副作用が酷い。おなら、オジギャグ、一日中太鼓.....」

「院長。かっ、隠して居りました。昨日より、村谷副院長が、突然、ブログを.....。しかも、ドラムセットを購入っ！」

「えっ、そっ、それはあ——、拙い」

「はい、ブログ、路傍の医師」

国木田は、へたり込んだ。その時、警視庁、アル中防犯対策課二股刑事が院長室へ。

「いん、院長。よっ、学級院長っ。で、ですな、セントレイニーナショナルライブラリー子分書コーナーで、こんな文献を。不思議なのは、発行年月日、よお——く、見ると、2813年。十九世紀の古文書の中に、紛れて居りました」

国木田の脳裏。もしやっ！ あの、悪夢っ！ 嫌な予感がした。

所変わって、2813年。裕イサオの展望台サロン。

「ニャロメェー。日本ブログ村エッセイ、随筆部門。300123位。ニャロー！ 一位一位っ。一位しか意味がないどお——。よお——し、例のやつ、送りこんだるっ！ ふっ、ふふふふふふふ。わあ——ハハハ

ハハア-----

」

2013年。国木田院長。

「もっ、もしやっ！ 花村君。もぞもぞ。聞いてくれるかなあ——。実は、週間実話じゃなくて、もじもじ。でね、花村君。でへへへへへえ——。二股警部の文献。でね、おりややややあ、あのね」

「院長、要点、まとめて頂けませんかねえー」花村主任。

急に、院長らしい顔に。

「君っ、結論はひとつ。ネタミネーターだっ！ 裕というやつはっ！」

「えっ？」

「未来のブロガー。ネタミネーター。現在の順位を破壊するために送られた、未来ブロガー。間違いないっ！」

「院長っ！ 院長、院長お—————」

セントレイニーホスピタルよりの注意事項。

我々、医師団。医師団結は、裕および、クボン病の発信元のブログを、顕微鏡で、微細に検査してみた。舞踏菌がヘモグロビンの中に、ビンビンしているのが、この病の特徴と断定している野田哲也な野田。この、ビンビンヘモヘモ菌が、なっ、なんと、八万画像ピクルスにて、ブログの中に、昔のアメリカ映画の手法であるところの、フラッシュバック、映画の合間に、小刻みにコココーラの映像、このビンヘモがチラバメラタノレているのだのパッパァーのパーマン。

「院長っ！」

その間、あなたの心のすぐお近くに、むふふふふっ、ネタミネーターが忍び寄る。

作者注

もしかすると、マジで、俺のアホブロを「初めて読む読者様」いらっしゃる可能性があるんで、俺が、一位だの順位に固執していると思われちゃったりしたら、そりゃー、拙いぜっ！ 全然の全然なのだ。まっ、ターミネーターのぱろぱろを装った「高級文学」なのだよ、お若いの。忍び寄るネタミネーター。それは、君かもしれないぞおー、の象さん。俺、ねえ———んだ、その感覚。なぜっ？ すでに心の一位(一周遅れだっ)なのだっ！ えっ、も、もしかして、俺の「後ろの人」が、一位の方？ 汗。なんかさあー、なに書いてもよー、意味深だし裏自信に聞こえませんか？ 難しいよな、人間ってよおー。深読みし過ぎだっ！ 太鼓太鼓、叩いて叩いて、赤ちび赤ちび(赤ワインをちびちびね)。

2013.02.07 Thu

2013年のある日。

私は、いつものように、いつもと同じ時間に、ピアノの練習を開始した。

譜面台の上に、「超絶技巧集ドラゴンへの道」を開く。

45分後、両腕が痺れてくる。両腕を休めるために、日本の童謡を何曲か弾く。

いつものように、ぴったり一時間後、休憩。一服する。

その時だ。私の脳内に短波ラジオをチューニングする音。切れ切れにロシア語、ポーランド語、スウェーデン語、タモリの四ヶ国語マジヤン、北京放送、ドイツ語、英語、フランス語が聞こえてきた。一瞬、筒井康隆のエンガッツィオ司令塔を思い出す。

「お、ザーザー、ホニャアーーー、お、俺だ、ザーザー、キョワンキョワン、きっ、ザーザー、ピーヒョロオーーー、ピ、聞こえるか？ ザーザーザー、ザザァー、き、きこ、える、か？」
「えっ？」

私は、幻聴だと思い、たばこを吸い終ると、また、ピアノの前に座る。練習を再開する。

幻聴が止まらない。ピアノに集中できない。

「おっ、俺だっ！ 2013メガヘルツ。チューニング、合ってるよな、IY28」

「えっ、俺って？」

「だから、俺だ。お前、脳反応遅いな、IY28」

「俺？」

「あっ、そうか、俺、つまり、お前だ」

「お前？」

「うもおーーー、馬鹿じゃねーのって！ 俺、つまり、お前だよ」

「えっ、脳が振れそう。あなたは、俺なのですか？」

「くどいっ！ 2813年のお前だったの、IY28」

「なんですか、その2813年だの、IY28って」

「れれれれれ？ お前、覚えてないの、IY28。お前は、俺が送り込んだネタミネーター。嫉み、やっかみ、嫉妬の塊。超絶自己中、剥き出しのライバル意識。出世欲、金銭欲、物欲。性欲、食欲。自己顕示欲。ナルシスト。サディスト。もぉー、めいどいなぁー、究極のやなやつなのだ」

「なにをおっしゃるのですかっ！ わたしは、心のスイス人。嫉み？ なにに対して、なんの根拠で、そんな感情が起きるのですか？ わたしには、その根拠自体がありませんよっ！ 自意識、自己？ ライバル？ わたしが感じるのは、少々の食欲と、ナルシスの霞みかけた残像。その程度ですが.....」

国木田社長。八世紀前の映画「ターミネーター3」を見終わり、一人、呟く。

「そうかあ——、女かあ——、ネタミネーターは.....」

やっ、やばいっ、問題発言っ！

2013.02.08 Fri

小さな町

私の住む町。パリから35キロ。快速列車で30分。各駅停車で45分。

観光地というほどではないけれど、歴史指定都市のひとつではある。

丘の上の町。パリの「昔のモンマルトル」に似ているらしく、時々、映画の撮影が行われる。

殺伐としたパリ近郊地域。金持ちの密集した郊外。

私は、いずれも受け付けない。庶民的な町が好きだから、ここになった。

環境がいい。人が少ない。鄙びた美しい町。迷路のような小道が沢山あるから、お散歩に丁度いい。それから、たぶん、私は坂道が好きなのかも知れない。下りる時、上る時、風景が変わる。

イルドフランス県ぎりぎりのところに位置しているから、町を出ると広大な麦畑が広がる。

パリへ、自分のコンサート、仲間の公演のために、ちよくちよくは行くのだけれど、人、車、オートバイ、自転車と、いつも、やや辟易して帰ってくる。展望台のようなサロンから、人のいない風景を見ている方が、心が休まる。心の羽を休めてから、ピアノと格闘する。孤独な作業かもしれないけれど、私の中に聴衆の方々がいる。私と他者との接点に、この黒い西洋の楽器があるのだ。

群衆の中の顔のない一人として、パリの歩道を歩く。この感覚は嫌いではないけれど、むしろ、自我のない一人として、麦畑の中に立っている方が心地良い。私、自分、自我、固執するほどのものではない。

手掴みのできない音。これが私であっても、一向に構いはしない。

2013.02.09 Sat

「ちょっと、花村君、そこの糠に釘取ってくれるかな？」

午後のサンシャイン(はっははははあー、3社員――ん。汗)が、燦燦と降り注ぐ京東区内丸のオフィス街。課長の国木田が、ふんぞり返って言った。デスクの上に、セブンイレブンのとんかつ弁当(作者、お得意の意味のない描写っ！ 字数の水増しの水澄まし、水臭いこと言わんといて。水も漏らさぬ馬鹿頭。水は方円の器に随う。いいことゆうじゃん、たまに)

「糠に釘？ 国木田課長、暖簾に腕押しのことですか？」

「いや、そうとも言うらしいが、その君の横にある小男の腕立てのことだよ」

国木田は、うもお――、最近の若い奴はあーと、一瞬、オヤジ脳内呟き。バカバッカリン(作者注。本意ではありません。アホに上下の隔てなし。千慮の一失かしら?)

その時、むっははははは、むっははははは、これ、電話の呼び鈴(ちょっと、裕さん、最近、脳の振れ、酷過ぎませんか？ 読者様の呟き)

「はい、エンタメプライズです。あっ、二股さん、いやあー、鯉の滝登り、破竹の勢い、裸一貫。お見事ですなあー」

二股さん、はい、国木田さんの、中学時代からの親友。最近、不動産で莫大な富。ということにする。会話の流れ上、そうする。別に、宝くじに当たってもいいし、なんでもいいんだけど……。あっ、違うな流れ上は、なんか事業が成功したっていう感じだね、やっば。

「またまた、花村さん、提灯持ちなんだからあー、うもおー。ところで、鱈ある男いる？」

「あー、課長の夏の小袖、坊主の花簪、国木田ですね。少々、お待ち下さい」

「おい、花村君、今、なんか言った？ ちらっと、聞こえたけど……。夏とか坊主とか」

「ぎょ、いえいえ、な、夏、今年の夏、あ、暑いから、ぼ、坊主刈りにしようかなあーって、言ったのですけど」「今、2月だけど？」

「お――、二股っ。なる木は花から違うねえー、走り馬にも鞭、商人に系図なしだな」(えー、作者、同時通訳。お前の事業も、ばっちりじゃん、どんどん行けよっ、お前、根っからの商人だぜえー)

「またまた、お前だって、鶏群の一鶴じゃん」

(なあ――に、お前だって、一流企業の課長じゃん)

「なあ―――に、あんこうの待喰ですよ、ははははは」
(まあ、大して忙しくもないのよ。まっ、ラッキーラッキー。むふふふふふ)

通訳するような会話、最初から書くなよなあーって！
ちょっと、この記事って、何人で書いているの？
あっちこっちから、いろんな人が出てくるのですけど(読者代表)

「ところで、お前、裕イサオのブログ、世は相持、読んどるか？ 清濁併せ呑むなんちゃってるけど、日本ブログ村のごまめの歯軋り(ちょっと、違うんだけど。二束三文の方がいいんじゃないの？ じゃかーしいー)って、あいつのことだ。猿に烏帽子だぜって。徹頭徹尾、鉄砲玉の使い文体だ、ありゃー」

「お前、なに、毎日開いて雀の糠喜びしてんだあー、あんなブログ、夏炉冬扇、風食っちゃえ」

「それがな、断機の戒め、止められないのだよ」

「あぁ―――あ、それな、早に雨Yビールスだ」

作者注

わたくし、陵雲の志と申すもの。両手に花だぜっ、ありゃ。
でね、これで、昔、恋愛小説書いた訳。編集者、あれなんていうのかしら、漫画の額の縦線。

2013.02.10 Sun

もののサイズ

なんとなく、もう少し、人間が小さかった方が、地球に優しくったような気がする。身長五十センチぐらいで、良かった気がする。

仮に、そのサイズで現在とまったく同じ暮らし。

家もずっと小さくていいし、車もそうで、結局、すべて、もっと小さくて済んだ。

オランダ人の平均身長は、確か、男性183cm、女性172cm。ドイツ人も大体これぐらい。フランス人のそれは、丁度、男女ともに10cm低い。日本人とあまり変わらない。

俳優さん。最初、ダニエルクレイグさんを観た時、随分、小柄なジェームズだなと思った。俺の推定175cm。友人連と意見が分かれた。そんなこたあーねーだろって、ジェームズボンドだよ。小柄に相対的に見えても182cmとかじゃーねえーの？ そうかな？ あれ、名前、突然忘れた。ミッションインポッシブルの俳優さん。友人連の話だと165cmぐらいとか？ 今、調べた。トムクルーズだ。結局、俳優さんの身長は映画の中では、良く分からない。昔、アランドロンと仕事してた時、俺とあまり背丈が変わらないので驚いた。もっと、ずっと長身だと思っていた。

で、調べた(マヒナスターズだ。暇人のこと)。

ピースブロスナン 187cm。

トムクルーズ 170cm。因みに、サッカーのメッシ君 169cm。

ピーターフォーク 170cm。哀川翔 178cm。竹内力 180cm。

で、ダニエルクレイグ 178cm。ほれっ、俺の当りかな？ 皆の予想の真ん中だな。

刑事コロンボとトムクルーズが同じ身長、れれ？。なんか、トロンプユ(騙し絵)みたいだ。

あと、翔さんより、力さんの方が、映画の中では、ずうーと、長身に見える。これも、錯覚。

違う違う、そんなことを書きたいのではないのだ。

あのね、もちろん、生物学的な根拠は、当然、あるけど、食物のサイズって、なんか人間が食いやすいサイズだ。なんでかしら？ りんごが直系3mとかだと、食べ難い。あと、ニュートンが、逆に引力発見出来なかった気がする。迫力あり過ぎて。ニンジンも、長さ3mなんかだと、買い物行っても車に入らない。八百屋に買い物行くのに、軽トラックで行かないとね。3mのニンジン担いで、知人と擦れ違う。「裕さん、精が出るねえー」なんてね。「あっ、どっ、どうも。いや、ちょっと、てんぷらに(何人前なんだよおー)」って。

で、木々、動物のサイズも、比較的、人間が分かり易いサイズになっている。一部を除いて。

やはり、腕白フリッパーも鯨でやると、撮影費が高むし、人間との相対サイズが絵になり難い。と、我々の尺度では感じる。象さん、キリンさんも、家で飼うのは、ちと、辛い。やはり、カウボーイがキリンさんに乗ってくると、我々の目の尺度上、お笑いになってしまう。

結局、どっちが先か分からないけれど、我々に、都合のいいサイズになっているような気がするようないような……。でも、地球の大きさは、ちょっと、分かり難い。宇宙も、銀河系ぐらいまでは脳が着いて行けるけど、その外になると、俺の知能ではアウトだ。

でも、直系3mのりんごがなっている風景。

なんか、楽しくない？

2013.02.11 Mon

「ジャズ菌一家代表 邪頭野菌次郎」

邪険 ポイよおー 愛顧でしょ

もおーいいかい まあーだだよ

邪険にポイは 女だよおー(すいません、逆も一緒です)

「詩神様」

最近、わたしの言うことを聞きやせん。機器や線。また、始まったっ！

「うっ君」

しくしく、はっく。

「酒神様」

健在健在、ご健在。わあーはははははっ。映画「赤ちび」黒澤明(なんだなんだあー)

「ジェームズ裕 フランス重宝部員コード007.5」

あっ、俺っ？ ふふふふふっ。両手に花っ！

「久保の兄貴」

あれ、なにしてんれすか？ おっしょさん。不在中、よろしくお願い申し上げる次第でございます。おっしょさんのブログを、お読み下さいませ。メタルリキッド未来ブロガー(期限切れ、ありゃ?)おっしょさんがよおー、物欲ないのだよ、参ったねえー、子分は。俺も、ねえー。そもそも。

「密秘のアッコちゃん」

だれ？

「シニアーマン」

ぼくの なまえは しにあーまん からーたいまあー が ぴーぽーぴーぽー

うるとらまん と ちょっと にているけど うるとらせいではなくて くりすたるのくに から きた

「ランハイダー」

カキーン まだ たたかっているのだ ふしも たいへん よ

「ネタミネーター」

ぼくの なまえは ねたみねーたー みらいのくにから おくられて きた
でも きげんぎれ か こしょう している

セントレイニーホスピタル

「国木田院長、どうします、この人？」

「うむ」

「一日中、ミニカーの消防車で、ピーポーピーポー」

「ちょっと、寂しいな、その風景。間もなく、五十四だよな、この人」

「寂しい？ 院長、医師として、ちょっと、その台詞、おかしくありませんか？ 医師の基本は、薄情です」

「いや、諸々の労苦は……。やはり、認めたいと思う。どうして、こうなってしまったのか。脳高速、振幅症、ジャズ菌。脳転回。ピアニッシモ症候群。もともと、この人は、地元で、振動と呼ばれていた。なにかが隠されているのでは？」

「医師団結医師団および二股警部、花村主任」

「はい、この方は、ズーージャ菌脳シンコメ症候群の、典型的な患者。詳しくは、筒井総合病院、脳シンコメの権威、山下洋輔先生の文献をご欄頂きたく。この病気の、唯一の薬は、ナオンタミンZ。および、ケーサノード、および、入手が、ほぼ、不可能な、ヤノピリン。以上」

その人、裕イサオは、フランスのマルセル病院へ、送り込まれた。

ちょおー——と、待ったっ！

あの馬鹿垂れっ、ジャーマネ、忘れとるっ！

はい、石頭勝男でえ——す。

高々、一ヶ月の休筆を、この、なに、仰々しく「演出する」ことが、まっ、わたしの仕事なのでございます。で、ちょ、ちょっと、さすがに、断筆じゃなくて、分泌の休止なのに、この動画をアップは、いくらなんでも、オジギャクのどうがど思うよって、なるのでございますが、まっ、この野郎のセンチメンタル脳シンコメ、聞いてやっておくんなせえー。泣かないでね。

「国木田院長」

日頃のご愛読、切に御礼申し上げます。

あまりの馬鹿馬鹿しさに、悶絶、絶句。これは、わたくしが、理解して居ります。

ジャズ菌アレルギーの方々は、至急、ご愛読を中止願いたく、医師団としては、お伝え申し上げる次第でございます。

ただ、もう、羽毛症等の併発、重度のご愛読者様は、毎日、

ブログリン一錠ないし二錠

ケースによっては、ヤノピリン2h

ケーサノード1L

オナラミンC バカバッカリン ピポポタンD

かくれんぼ するもの よっといでえー

もおーいいかい まあーだだよおー

もおーいいかい まあーだだよおー

裕イサオ

11/Fev 2013

日頃のご愛読、深謝致します。

2013.02.12 Tue

えーびーしー

えーと、と書いて、少し、ビビる。どこからか、シーーーーーって声が聞こえる。で、いいんじゃないと呟く。無理にエフエフエフと笑ってみる。じーーーーとする。エッチな愛が込み上げて来る。得るものはないのだ。再度、笑む。と書いても、なにも得ぬ。おーーーー、ピピピッと閃く。キュッと心が時めく。ネタなんて、沢山、あーるのだよ。まあ、ええす。痛ってー。余裕余裕。部位部位。ダブって隆起する。もう、止めてえっくす。ワイワイ騒ぐ。わはははは、やったぜと。

いきなり、営業再開。脳内改装工事、終了。なのに、もう、イサオ節なのだ。どこが改装されたのか、謎だ。うーーーーん、書かない、やはり。

で、昨日から、こちらは雪で、本日は、大雪。

で、俺は、国連会議に出席して居ったのであるが、体中に、禁治産者シールと、変な外人シールと、だめだこりゃシールをべたべた張られて、オホーツク海に飛び込み、ロシア大陸を走り抜け、疲れたので、ワルシャワから自転車で、展望台サロンへ帰って来たのである。

取り急ぎ、営業再開のお知らせでした。まだ、時差ボケと本ボケの境目が見えないので、本日は、これまで。

追伸

皆さん、お元気でいらっしゃいましたか？
俺？ ちょっと、脳および全身へめらも状態です。
ちょっと、自主トレせんと.....。

2013.03.12 Tue

にやにや笑い

日本滞在中のふたつのコンサートのビデオ撮りを、今、見てみた。

俺は、終始、にこやかに、一応は見える。ただし、良く見ると、所謂、にやにや笑いだ。

どうして、終始、にやにや、動作もへなへなしている。フランスにいる俺の目付きは、いつも、刑事目だ。歩き方も、ダニエルクレイグなのに。そして、当たり前なんだけど、笑っていない時は無表情だ。この無表情が一切ない。終始、にやにや、へこへこ、にやにや.....。サングラスも外したから、もう、超絶善玉感が俺の半径3メートルに漂っている。実際、いい人ではあるにしても。

俺の故郷は、被災地。ここに、おフランス野郎が帰郷する。こういう形にはしたくないのだ。

俺は、全力で、その臭いを消そうと勤めた。そういう、ちゃらけた非礼を絶対にしたくないと思った。結果、裏目は明白である。謙虚を勤めるほどに、そのおフランスが現前している。

このなんとも不自然な笑い。不自然な物腰。マルセルデュシャンの物腰に良く似ている。

「そこに居ないような雰囲気」。そっくりだ。

本来の謙虚とは、程遠い。

裏自信でもない。一言で言うと、ばつの悪そうな感じ。

俺の中に、人様に自慢するようなもの。人の上に立とうという優越意識。そんなものは皆無なのだ。だから、逆に、下から目線が耐えられない。だから、俺は下、同じレベルに行こうとする。さらに下がる。だから、俺も下がる。

俺は、しみじみ、日本へ帰ることはないだろうと思った。

もはや、日本人ではなくなっている。

日本製のフランス人なのだ。とはいえ、俺は日本でも音楽活動をすることに決めたから、年一回程度は戻る。いや、行くかな。たぶん、福島、宮城、岩手。この三県を回ると思う。

諸々の葛藤が、にやにやへと通底している。

だから、もう、葛藤はしない。そのまま、おフランス。

仙台の妹が、「お兄ちゃん、実家の住所、横文字でしか出てこないの?」と言った。

俺は、分からない、その憧れの対象であるところの、おフランス芸能人を決め込むことにした。ひとつのプロ意識なのかもしれない。いいんだ、そのまま、と、思った。

分からない。俺が不自然な逆噴射をしたところで、俺の故郷の仲間たちの「憧れを具現化した人物」。紛れもなく、それは俺なのだ。ならば、それでいいではないか、と考え方を変えたのだ

。

うん、芸能人のあるべき姿なのだ。そう、銀幕の中にいるのだな。
だから、駄目なんだよな、そこから出て来ては。
よ——し、堂々とおフランス野郎ってことだよな。

あっ、そうそう、不思議なのはピアノの演奏だけ、いつも通りなのだ。
ピアノは嘘付かない。このにやにやとのアンバランスが、我ながら変。
と、無表情で、今、これを書き終わった。

2013.03.14 Thu

3月の雪

昨日、3月13日。

「にやにや笑い」という記事を書き終わり、あまりに天気が良いので、散歩に出た。積雪15cm。イルドフランス県の3月の雪。この積雪量、私の記憶の中にはない。

車と人の通った後の雪が、シャーベット状になっている。

私は、畑仕事用のごつい長靴を履いて出掛けた。

サングラスを掛ける。

銀行、薬局、スーパー、パン屋と回る。

歩き難い。滑る。凍り付いた雪が潰れる微かな音。

暖かいバゲットを持って歩いていたら、私は、どこにいるのか分からなくなった。

先週まで、私は日本にいたのだ。

天気の良い日は、近所のセブンイレブンへ散歩がてら煙草を買いに行った。

煙草を吸いながら、セブンイレブンの向かえにある斜めになった古い日本家屋を見ていた。

取り壊し作業を待っているのだろう。ブロック塀が崩れ、屋根にブルーのシートが掛けられていた。

私は、快晴の空を見上げた。

頭上の太陽が、日本で見たそれと同じものであることを、子供のように、突然、気が付いた。

2013.03.15 Fri

ロボット

映画、トランスフォーマー。

普段は、トラックなんだけど、カシャカシャと巨大ロボットになる。

そういえば、マグマ大使も、ロケットから、マグマ大使。

こういうの、俺、大好き。

なんか、男の子ってな感じだ。

シニアになったせいなのだろう、こういうのが懐かしいし、なんか、妙に、熱くなる。

で、俺の心の形状なんだけど、

トラックとロボットの間みたいなわけ。

下だけトラック。ないしは、上だけトラック。

で、背広を着て、革靴履いて、ネクタイしてるんだけど、

ノーパンってな感じなのだ。

で、セクシー野郎なら、エッチだろうけど、萎びたシニア、そうそう、俺だ。

こんなの、それだ。

俺だって、見たくねえーって。

ギョへへへへっ。あー、きもっ。

2013.03.16 Sat

変な変身と変心

トラックの形の 俺の脳が グワァー---

変身いーん ガシャギョへへへ 巨大ロボット

と思いきや まっ拙い 失敗

なんだよおー 頭だけ トラックじゃん

はい もう一度っ

ガッキイイイイいー---

おっ 体は成功したけど 雑念入っちゃったあー 頭だけ マグマ大使
もう一度 おりゃあー 下半身だけ マグマ大使
はっきり 分厚い股引穿いた 巨大ロボ

もう一度っ

りゃあー 頭だけ 仮面ライダー

マグマ大使の顔の部分も ロケットのまま なんだよおー しっかりしてよ

ぎよおおおお 今度は 顔だけ ウルトラマン

下だけ ウルトラマンで 上は バルタン星人

突然 仮面ライダー キカイダー 顔 上半身 下半身

ばらばらばら なのだって

突然 顔だけ たけしさんで 下がミラーマン

おわあ-----

なんとかしてクレヨン(このオジギャクは町田康さんのコピーライトです)

って言ったら 全身 ブースカになった俺の脳

2013.03.17 Sun

音ブログ1

田村隆一詩集「言葉のない世界」より抜粋

言葉なんか覚えるんじゃないかった

2013.03.18 Mon

成田空港、到着。屋外へ。

ポケットから煙草を出す。おお——ととととお——。

そうだ、日本は駄目なのだ。と知人から聞いた話を思い出す。

横綱部屋を探す。はい、ご説明致します。相撲キング、はい、横綱のことです。くだらねえ——って。つつたく。

バス停みたいなガラス小屋の中で、プッハア——。

野郎しかいない。女性愛煙家は、どうしているのだろう？

煙草を吸わない方々が、ガラス小屋の中の我々を、点目で見ている、はずだ。

常磐自動車道、友部インター。

おっわあ————————。

うどん、そば、ラーメン、とんかつ、メンチカツ、たこ焼き.....。

大部屋中央。俺、甲子園で優勝した高校球児。ガッツポーズで泣いていた。

「俺、うるうるうるうる、日本に帰ってきたどお——！」

「あら、お客さん、成田から？」

「あっ、おばさん、すっ、すいません、思わず.....。はい、さっき成田に」

「どちらから？」

「あっ、はっ、はい。フランスです」

「え——、素敵ですねえ。一度、行ってみたい」

「あっ、はっ、はい」

結局、海老天そばを食った。拳で涙を拭いながら。

原町のコンサート。午後六時半。お客様方が到着。

れれれれえ————、女性のお客様、ほぼ全員が着物姿。

主催してくれた友人に耳打ち。「あっ、裕さん来るから、着物にしてもらったの」。

「あっそ、ありがとう」。やはり、俺はゲージンなのだ。

半径3メートルに幸せオーラの妹と、仙台駅の裏側で待ち合わせ。

メールで何度も、「兄貴は高級店は、駄目だかんね」って伝えてあった。

「間違いなく、お兄ちゃんが震えるお店、すぐそこ」

我々は、その震えるお店、大衆食堂、半田屋に直行。メンチカツと味噌ラーメン。超絶的に美味かった。二人で計700円っ！ 会計で気絶した。

渋い戦国武将のような弟が、古川の駅前ホテルに迎えに来る。

こちらも、しつこく、「鄙びた居酒屋」、これを伝えてあった。

千鳥足、立ちションが似合う細道の一角。引き戸の居酒屋。テーブルの足がビールケース。暖簾を捲り、もう、すでに、俺は泣いていたのだ。生ビール、いか納豆、焼き鳥.....。俺の心は、生ビールの中でクロールしていた。

いわき市のヨークベニマル。

毎日、アホのように惣菜を買いに行った。

コロッケ、メンチ、いかげそ、ちくわの天ぷら。マカロニサラダ、安いうなぎの蒲焼。

急に、658円のフランスワインが目にとまった。そういや、俺、昔、ワイン党だったはずだ、と、急におフランス。買って飲んだ。この二級酒感が、大層、美味しく、結局、ずっと、赤ちび(赤ワインをちびちび)と、ここだけ、いつもに戻った。

実家のテレビで、パリ十五区の朝市のドキュメンタリーをやっていた。

日本語字幕を読んだ。れれれれれ、言っていることも、同時に分かる。なぜだ？

えっ、なんで分かるのだ？ 皆、パリは素敵って、横で言っている。そうだな、俺も、一度、行ってみるかあー、なんて考えている。なんか、見ている内に、つまらなくなると、飛騨山脈の寒村の干し大根作りというドキュメントに変えた。貪り見た。皆、ヨーロッパの町並み、綺麗ねえーと言っている。「そうかなあー」なんて、俺は答えている。「日本の方が、めちゃくちゃで活気があっていいねえー」なんて、俺は答えている。

いわき市の平。喫茶店「ぱりー」が気に入り、煙草を吸いに通った。

俺は、なんと4キロ太って帰ってきた。

一週間で、2キロ減った。

ところで、高速のインターに、たとえば、午前十時とか、午後四時とかに入る。

いつも、カツ丼とかラーメンとか、カレー、ソフトクリーム、フランクフルトソーセージとかを食べている人がかなりいる。これって、朝食、昼食、夕飯、どれなのかしら？ 謎だ。

2013.03.19 Tue

田村隆一詩集「言葉のない世界」1962

詩「帰途」より抜粋

言葉なんかおぼえるんじゃなかった

言葉のない世界

意味が意味にならない世界に生きてたら

どんなによかったか

俺の高校

今、計算したら、俺が高校へ入学したのは、三十九年前だ。当時は、男子高だった。自分で理解に苦しむ年月が経っている。おかしいな、俺、今、四十一なのになぁー、なんて。相変わらず、桑田選手と同世代と思い込もうとしているのだ。掛布さんの世代だろって！

で、当時、一クラス四十七名。文系が五クラス。理系が五クラス。で、各クラスに約十名。浪人組みがいた。だから、一年生の時に、年がひとつ上の連中がクラスにいて、こちらは、皆、長髪だから、直ぐに分かる。

で、長髪組み。隣町のその隣の隣からの連中。ちょっと、怖かったのだ。高校入学、初日。俺は囲まれた。俺は、特に強面系ではないけれど、中学時代に野球部のキャプテン。で、キャッチャーだったから、当時はがっしりした体躯。身長も、相対的に長身。やはり、目立ったのだろう。

「おい、おめえー、どこの中学？」

「坊主刈りだから現役だよな、おめえー。生意気なんだよおー、詰襟しろよ」
どつかれた。

少しすると、空手部のひとりから呼び出し。
体育館の裏に来いっ。

「おまえ、一年のくせに、体育館勝手に使いやがって。生意気なんだよおー」
いきなり、回し蹴りが体育館のトタンの壁に炸裂した。今考えたら、そいつも一年だった。今頃気付いたぜって！ 今度は、俺が呼び出したるって！

廊下の自販機から、俺は、コーヒー牛乳を取り出そうとした瞬間、通り掛かる番長に腕が当たってしまった。胸倉を捕まれた。既に、右手がパンチの体勢になっている。

「てめえー、どこの中学だっ？ 名前は？」

「はっ、はい、〇〇中の〇〇です」

「ん？ 〇〇？」

「はい」

「親父なにやってんだ？」

「〇〇」

急に胸倉から手が離れた。

「やっ、やべえー、同業かよ」

「えっ？ あっ、おまえ、あそこの倅？」

もうこれで、仲良しになってしまった。

いつの間にか、番長、俺、怖い連中、空手部の兄貴、そして、これが分からんのだけど、先頭集団の天才秀才。こういうバンドが出来ていた。このバンド、周りの連中には、相当、怖かったんだろうねえー。俺たちと目を合わせないようにしていたな。今考えると。

今でも、俺たちは、仲良しなのだ。

このバンカラ気質、今でも変わっていないのも妙だな。

なんかクローズゼロを見て、涙したのは、どこか心がクロスしたのだろう。

2013.03.21 Thu

音ブログ3

富岡多恵子 詩「動物」1965より抜粋

だからどうするのだと

ともだちの他人はいうのだ

ところがきみは

コトバをたなにあげて

いつも

散歩に出るところだった

2013.03.22 Fri

なんだか、最近、記事を書いては、公開前に削除というのを繰り返している。
どうしてなんだろう。前は、ほとんどなかった。なんらかの心境の変化はある。
文体も、あまり、スイングしていない。言葉の重量が、明らかに増している。

で、突然、田村(隆一)さんの詩が頭の中で木霊している。
なんだか抜粋した「帰途」という詩が。

うむ、まああー、あんま無理してスイングするのも、なんか変だから、このままにする。

そうだな、ブログ書いてて、楽しくないのだ。

むふふふふふ、こういう時、俺はミュージっちゃんだから、言葉のない世界に戻るのだ。
音の世界。こいつは堪らなくいいのだ。クリスタルの国、M第七星雲、ミュージっちゃんの故郷っ
という感じなのだ。ここに、ぶうーんんと飛んで行く。音のプールの中で、ばしゃばしゃやっ
たり、浮かんだり、溺れたりするのだ。

前に書いたけど、エリック ドルフィーの一言。

どどん音は、中空に消えて行く。格好ええー。うるうる。
がさばらないし。

でね、心の中点が定まらない時でも、定まっている時でも、へめらもの時も、むささびの時も、
それぞれその時も、もげなはの時も、しらうまの時も、ももんがの時も、さねつねの時も、くんな
ましの時も、ピアノの蓋を開けると、ピタッと、心が垂直になるのであるのだのだののだ。くな
とんな。俺はピアノなのか？ どっちがどっちを弾いているのだ？ そんなことは、へめね
けだっ！

(はなもげら用語は、中洲産業大学森田教授の言動を脳内から抜粋)

時々、なんで俺はピアノを弾けるのだ、と、不思議な感じがする時があるわけ。
れれれ、なんでフランス語しゃべるとるのだ、俺、なんても時々思う。
なんかデジャブの反対現象みたいな感じなの、ね。

俺の愛読者様へ

と、書いてみた。けど、俺は、今、ご愛読頂いている(本当に、ありがとうございます)方々の実数を、ほぼ、掌握している。ふたつのサイト、および、グーグルブロッガー経由。この三系列でのアクセス。本当に、俺のコンサートに足を運んでくれるお客様の数に等しい。記事に寄るんですけど、20---40なのです。で、リピーターの方を計算すると、やはり、ご愛読者様の数は、推定、二十名と算出。この数字は、本当に心地良いのです。ベスト。どばあ---なんていうアクセスは、いらないし、怖い。俺の高校の一クラスのアクセスを超えたら、超怖い。

で、何度も書いたけど、インターネットは、超怖いのです。

顔が見えない。実生活も見えない。とはいえ、小説なんて書いてた時期もあって、考えたら、俺の唯一の単行本は、一応、千部掃けたから、やっぱ、怖い。

じゃ、ヤノピはくんなましなのか？

はい、言葉じゃねえ---から、いいのだ。

分かる人にしか、分からんように音は出来ているから、ぱびぶべぽっぽなのだ。

やっぱ、言葉は怖いどお---。っても、へめらけ言葉は、音と一緒になのであるのだ。

はい、意味を剥奪しちゃえば、怖くないわけね。だって、音だもおおおおおおん。

で、げんにんも、げるにして、みーいをだつはくすれば、とーおになるから一緒なのって。

かたわったしらか？

羽毛っ、俺は、もう、日本語、べっしゃらけんな。

あーそーげえー。おぬうちゃんも、あがぬげ、すたねえー。

2013.03.24 Sun

心のスイス人

と、なんだか書いた。

で、本当なのか？

で、嘘だ。

まず、性欲、食欲、嫉妬と、こういった煩惱がある。

物欲、金銭欲はない。

で、ちょっと、生々しい例え話をすれば、

別嬪のお姉さんがいる。しかも、俺は狙っている。

あっ、ちゃかちゃかと、横取り。

俺の目は爛々と輝き、動作はダニエル クレイグ。

地下の武器弾薬庫へ駆け下りる。ワルサーPPK。

映画、「スカイフォール」の中の、台詞。

「殺られる前に、先に殺る」って、呟く。

「アイ キルゼム フースト」だったと思うんだけど。

結局、どこも心のスイス人じゃねえー。

と、お思いになるのは、早や、合点承知。

でね、こうはならないのね。「ありゃりゃあ——、と、盗られちゃったあー」などと、呟き。

「まっ、赤ワイン飲んで、ピアノでも弾くかあー」となって、突然、エリーゼのためになんかを弾く。

ギョ、なんか寂しいねえー、こういう反応も。

人畜無害。おっ、やっ、やば。男じゃなくなっちゃったのかしらね。

じゃ、なんなんだ？

おかまでもねえーから、おばさんかしら。

たぶん、おじさんと、おばさんの、アンドロジジーなのだ。

なんか、突然、十二年振りに小説でも書くかぁーと思った。

その前に、なんで、一時期、そんなものを書いていたかと言えば、
答えは単純で、「家でできる仕事」はないかしらって思っていたので、そうなったわけ。
究極の出不精だし、会社行くのめんどろだし、人と会うのも億劫、てな野郎には、丁度いいんじゃないって。

で、俺の唯一の単行本。本名で書いたやつ。本名と本のタイトルで検索したら、なっ、なんと、
まだ、流通していたのだ！ マジでびっくり。出版日1996年の七月なのですよ。へえーって
な感じですよ。

で、以前、応募したことのある文学新人賞の詳細を見てみた。
前と一緒に、応募総数2000名強だった。で、すぐに、決心が変わり、すぐ、止めた。
こんな天文学的な競争に、俺の思い付きなんてもんが、太刀打ちできるはずはない。みな、マジ
なのだ。おちゃらけ親父が出ていったって、植木等さんの「あっ、およびでない。こりゃ
またぁー、失礼いたしあしたぁー」以上である。

ところで、俺が前から書きたいと思っている小説のスタイルがあるのですが、
ひとつはヘンリ ミラーのスタイル。小説っていうより長大なエッセイって感じです。
もうひとつは、ペソアの日記みたいな、これって、今でいうブログに近い。

で、前にも書いたんだけど、物語とか登場人物とか会話とか、これを、俺はまったく受け付け
ない。当然、書かないし、書けない。唯一、小説の形で、すげえーって、今以て思っている
のが、富岡多恵子さんの第一小説集「丘に向かってヒトは並ぶ」です。究極の観念小説。素晴ら
しい。たぶん、詩を書いていた富岡さんにしか、書けない。こんな凄いものは。

考えたら、ピアノのスタイルも同じだ。
既成曲を覚えて、自分なりの味付けをする。こういうまっとうなことができない。
まず、でたらめ。饒舌。いいかげんでめちゃくちゃ。で、その内、なんか、格好ができる。
逆プロセスなのである。

むむむ、やはり、インプロ小説、書いてみっかなぁーとか思うんだけど。
でも、そんなに書きたいことってあるのかって考えると、ない。
いや、いっぱいある。けど、それは、俺の脳内にひっそりしててもらって、一向に、構わない。

でね、本当に書きたいことは、書きたくないわけ。
これって、矛盾してないのである。

2013.03.26 Tue

やはり、なんか、どこかで、もう一度、書いてみっかぁーという気持ちが蠢いている。

素晴らしい、この漢字。春に虫虫。文字通り、文字通りだ。

でね、ブログの下書きが、つまらんつまらんなどと言いながら、実は、溜まっている。

読み返す。つまらない。いや、俺が読んで。読者様からみると、詰まっているかもしれない。

だから、なんか、アップする気が起きてこない。いや、そういうことかぁー、書くことが嫌になったんじゃないくて、ブログとしてアップするのが、なんとなく、億劫になってきたってことかね。

はい、突然、俺のブログが途切れてしまったり、なんだか不定期更新になっちゃったら、ごめんください。はい、わたすが、変な文学おじさんですってことで。

で、昨日、ヘンリ ミラーみたいなスタイルと書いたんだけど、すべてが、気に入っているわけではない。一言でいうと、即興文で、哲学から下世話な話との間の振幅が気に入っている。ただ、下世話な話が、あまりにあまりの部分も多く。二十世紀の大文豪っていうのは、ちょっと、ヘンリ ミラーには似合わない気がする。大マイナー文学っていう感じなのです、俺には。いや、違う、確かに大自由人、大芸術家なんだけど、文豪ではないな。フリージャズだ、文章の。だから、大変に気に入って敬愛している。

とりわけ、これは、かなりの方が同意しているんだけど、「マルーシの巨像」。これは、素晴らしい。下世話部分がほとんどない。哲学エッセイっていう感じです。ただし、振幅ドシャメシヤハーレーションは、代表作「北回帰線」の方が、遥かに上を行っている。このルール無視の内的パワー、この纏まりのなさ、脱帽です。無理やり、本という額縁に入れちゃったぁーっていう感じが、素敵なのです。出鱈目を無理やり八十八鍵の黒箱の中に入れちゃったぁーと、フリージャズの真髓という気がしている。

あっ、そうそう、もしかすると、これをお読み頂いている方の中に、小説を書いてみようかな、ないし、すでに書いている方、いらっしゃるかもしれませぬ。で、俺のやり方なので、もちろん、参考になんかはならないのですが、この蠢きを感じたら、とにかく、書き出してしまおうのです。書くことはないとか、書きたくないとか、本当に書きたいことは書きたくないとか、こういうもじもじを一切無視して、書き始めてしまおうのです。あれ、突然、どうでもいいことを思い出した。俺のPCって、縦書きできんはずだ。まぁー、いいや、横で。だって、ピアノの正式名称、我々の、ですが、横式白黒鍵盤指関節増幅器と呼ぶのです。りゃ、関係ねえーか？

2013.03.27 Wed

なんだか、さて、小説でも、などと呟いて、今日、すでに、書き始めてしまった。

自分でも不思議なほど、るんるんしている。
タミヤの戦車のプラモデルを購入した、少年の頃のるんるん感に似ている。
ふむ、まあ、小説も、プラモデルといえはいえなくもない。

溜まったブログの下書き。まったく読み返す気持ちがなくなってしまった。
頭は、このプラモデルのことで一杯である。その勢いでブログも書かなくなっちゃうんだろ
うなあーと思いきや、今、これを書き出した。

でね、昨日、やっぱ、縦書にすんべーと思い、諸々の機能を弄る。以下、省略。
で、でけん。力尽きる。インターネットで調べる。よっしゃー、ダウンロードかあー。
弄くる。で、セキュリティーシステムに引っ掛かり、上手く行かない。力尽きる。なんだか
、弄っている内に、分からん、絶対に、変なところをouiとやったはず。大体、俺のPC、元
がフランス語版だから、英語になったり日本語になったり、途中で、オーケーがouiになっ
たりしている内に、変なことになってきた。なんか分けの分からんもんをダウンロード。PC内を
すべてチェックとか出てきて、危うくキャンセル。リヤリヤあー、なんだか怪しげな広
告がばんばん出てくる。まあ、嫌いじゃないけどなあーなど、見ていて、やっ、
やばあー、俺のPC、アホになってしまったあー！ 最上階に棲息する息子と呼ばれる
成人男性を呼んでくる。リペアーしてもらった。危なかった。書き手、アホ。PC、アホ。
二方向がアホでは、小説以前の問題である。

一晩中調べ捲くる。オープンオフィスの日本語版。これをダウンロード。なんどやっても、
セキュリティーに引っ掛かる。とうとう、午前零時にダウンロード完了。へたり込む。もう
、これだけで、小説は完成したような気になってしまったよ。

で、今日、使ってみた。つまり、小説らしきものを書き始めて見た。
久しぶりの縦書き。ピアノを立てて弾いている感じでリズムが掴み難い。やっぱ、やめっ
かなあー、ね。脳がホリゾンタルになっているし、第一、俺はピアノ弾きだ、許してもらえ
んかねえー。

そうそう、それで、昔、なんか応募したことのある文学賞の応募規約を読んで見たら、ど
こにも「縦書で」って書いてない。ってことは、横でもいいのかしら？ となるけど、通常
は駄目です。のはずです。変わってなければ。

ところで、またまた、応募するのって？ となる。分からない。なぜか？
すでに、俺の中に俺なりの小説感というものが存在しているから、他人様になにを言われよ
うが、聞く耳持たずなのである。そうすると、選者の方のご意見というものも、豚に真珠。
猫に小判。馬耳東風。糠に釘。暖簾に腕押しとなる。仮想締め切りっていう使い方もいいか

も知れんけど、応募自体の意味は、やはり、ない。その前に、大体、力量がねえーだろっての！　そもそも。えっ、ぎょ！　そうなのねえー、たとえばね、俺が、ジャズピアノのコンクールに出たとする。

一時選考で、チャオオーー、アビアントッ！　となる。これは、絶対にそうなのである。もう、根っからのマイナー、アンダーグラウンド、ゲリラなのだよなあー。日の目は見ないのだ、絶対に。

はい、でも、どうせ書くんなら、自分が納得できるもんにしたいわけね。

多少、出来が悪くてもね。ちょっと、虚無的なものになるんじゃねえーかっても思うんだけど。

ブログ書くのと、随分、書くっていう行為のスタンスが違う。畏まっているといえはいえるけど、なんか、使う脳のパートが違う感じです。あっ、やっば、俺ってブログ脳かも知れん。まあ、ちょっと、このプラモデル、試してみます。

2013.03.28 Thu

小説プラモ

昨日、書き溜めてあったブログの下書きを、すべて、削除。

その拍子に、アップした記事まで削除してしまった。失礼致しました。

一度、同じ失敗をしていて、ご愛読頂いている方が「キャッシュデータ」をコメントとして送って下さった。改めて、深謝致します。今回は、自力で復元。まったく、同じ記事が二つ。二つ目に再掲と追記致しました。すみません。

たぶん、私の小説裏話なんて、おもしろくないと思うのですが、

もう、頭の中は、この小説プラモで一杯なので、お許し下さい。

いやあー、もう、無数の書き方があって、あーでもないこーでもないと考え出したら切りがない。

プロットの設定、これだって、なしという選択肢があるし、文体、これは無数だし、じゃ、なにを書きたいのだという根源的な問いが、ぬう————と現れるし、もおーたあ————いへん。

で、面倒だからおちゃらけ文体、つまり、私のアホプロ文体のまま横書きで、まあー、ちょっと奇を衒った物語にすっぺ。と思ったら、脳内に現れてきたのは、はい、富岡多恵子さんの小説郡、金子光春の晩年の三部作、深沢七郎さんの「笛吹川」。「百年の孤独」。ペソアの日記。そして、もうすっかり内容を忘れてしまった森敦さんの「月山」と、こんな感じなのですよ。

まず、オープンオフィスを縦書きにして、40字x30行と設定。字が小さくて、老眼には辛いので、20x20に変更。で、書き出したあー！ なっ、なんとっ！ 結果は、以下、列記。

- 1) オジサンらしいしっとり文体
- 2) 自我なんかどっかっちゃいました的、鳥瞰目線
- 3) 私と言う俺は、単なる語り部

と、私のアホプロの対極文体が出現。自分で、やや、驚いている。

で、その根源的な、初めの問いは、もう歴然としている。

そう、私たちの鳥瞰図、カメラアイという感じです。たぶん、これを虚無と呼ぶ。

少し、付け加えると、心のスイス人が空を飛んだって感じなのかしらね。

虚無って言ってもね、暗い重い切ないと言ったものの対極にある、あっけらかんとしたそれです。

自分の脳味噌も掘り下げて行くと、こんなもんが出て来たりする。悟り君なんて、その内、呼ば

れんだろうな？ 猿飛サトリ。

2013.03.29 Fri

孤独とブログ

十二年振りに、小説、「らしきもの」を書き出してみて、この、物書き心理っていうものはなんなんだろうとも思う。大体、俺は、ミュージシャンなのだから、この、籠って、しかも、日本語という言語枠に挟まって、なんかを書く。で、分からんって、言いそうで、実は、良く分かる。

でね、俺も孤独系だから、良く分かる。

社会、しがらみ、人付き合いなどなど、鬱陶しいと思う人も多い。どころか、八割ぐらい、そうなんじゃねえの？ いや、もっとかしらね。

でね、今、俺は、究極の籠りのおじちゃま、そう、この小説っていう超キモ、超辛気の世界へ、人差し指を、またまた、ちょこっと、入れてしもたやなのね。

れれ、考えたら、辻さんも町田さんも、ミュージシャンだよって！
ステージ組じゃんか。でも、籠って、小説、素晴らしい小説を書いている。

ステージで暴れる。籠る。

こうやって、人間バランスを取る。で、今度、籠りのおじちゃまになると、また、ステージへ。で、そうそういつもステージがある訳ではない俺みたいなマイナー君。そうになると、ほれ、ブログを書くのだ。一人電話みてえな感じだよな。などと、言いつつ、受話器の向こうに、あなたがいてくれる。ありがとうな。

2013.03.30 Sat

長い庭

もう、3月も末だというのに、ちっとも暖かにならない。

春の鼓動が、ほんの少ししか感じられない。木々が、寒風の中、じっと耐えている感じばかりが伝わってくる。明日、正確には今晚、3月31日の早朝からサマータイムが始まるというのに。

さっき、階下にある庭(私の家は、丘の上に建っているので、庭のレベルが、一階下になる)を、ぶらぶらとしてきた。広大な庭というわけではなく、細長い庭。母屋から庭の外れまで、ぴったり60m。一人用の50mプールは作れる(笑)。なんぼ孤独系とはいえ、少し寂しいね、こんなプール。

諸々の木々が、そこそこにはあるというのに、芽吹く感じがほとんどない。唯一、林檎の木、山吹。それと梨の木のみ。その他は、沈黙している。

ここまで書いていたら、太陽が「まあまあ、ちょっと、待って」という感じで、薄曇りの空の隙間から春らしい光を送り込んできた。うわあー、眩しい。

私、たっただあー、階下へ降りる。

階下の工具室(寒波を避けて屋内へ入れていたのです)から、鉢植えの椰子の木を、庭のテラスへ引っ張り出す。

椰子の木と並んで、私は太陽を見上げると、よおーしと呟いた。

2013.03.31 Sun

自分の物まね

ではなくて、自分宛にブログを書いてみると、諸々が出てくる。

いい年こいて、諸々諸々のプロジェクトが蠢いて、はい、春虫虫している。

五十四歳に間もなくならうとしている、町田康さんの文章を借りると、「切れ切れ」シニアなのである。私は特別変なのか！ そんなことはない。裏自信というもので、特別では、絶対がない。

そこいら辺で、息も絶え絶えの中間管理職のおじさんたちと、まったく、変わらないのである。実際、ちょっと前まで、私は、その中間管理職であった。

それで、放置しっぱなしのユーチューブ。自分のチャンネルを見てみたら、再生回数の合計が3000回に近付いていた。素敵なコメントまで、頂いていた。返信、遅れました。ごめんなさい。

素敵なコメントを読んでいる内に、当然、春虫状態となった。

ジャズフリークではない人。この方たちのために、なんか、作ろうと思った。

ジャズは、ペダンティックに成り過ぎたと、少し、思っているの、やってみようと思う。

そう、分かり易い音で、なんか、できないのかと考え始めた。仲間からは、串刺しになる、はずだ。

小説。これは、書くしかないだろう。そう決めたのだから。

未来の小説家の方々の役に立つのかは、知らないけれど、自分なりの作法がある。

書き過ぎない。主題を絞る。音楽も一緒に、一曲の中に、諸々を入れようとしてしまう。

どうしてなのかと言え、自己表現だからである。だから、自分自分で饒舌になるし、気が急ぐし、書き急いでいるんなものを入れようとする。でも、一旦、文学と言うニュートラルな世界に立つと、書くべきことは自分ではなくなる。コスミックな鳥瞰図となるから。

と、言うは易しで、私だって、簡単にはできない。

それは、私のピアノ演奏をご覧頂いても、一目瞭然。一聴瞭然。

ところで、医学的に、新しいものに脳が反応できるのは、三十五歳まで。

と、私は聞いたことがある。仮に、そうであれば、私の年齢で、なにかを始める。

当然、無謀ということになる。

結果、新しいものでなければ、いって言うことにしか、ならない。

2013.04.01 Mon

遠い空

このタイトルは、富岡多恵子さんの小説のタイトル。

英語だと、スカイハイなんだろうね。私が三十代半ばに書いた小説の題名は、「水の記憶」だった。自伝的な散文詩小説と自分で言っている。原稿用紙換算枚数は、確か、98枚だったように思う。単行本のページ数は68だったと記憶している。

川、海のイメージが散乱している。

ほんとに、たまに、読み返してみる。

執筆したのは、この家を買って間もなくだったから、1994年のはずだ。

出版は、1996年の7月。

私は三十五歳だった。

私は、今でもそうだけど、既婚。二児の父親。現代美術家。小説。

某日系企業の手配課長だった。この頃に、ピアノを再開している。

睡眠時間は、三、四時間だったと思う。

なにかに、憑かれていたとしか思えない。諸々の「社会と呼ばれるもの」と道楽が拮抗していた。なにひとつ、趣味ではない。

私は、趣味は庭弄りと、料理だけで、美術も小説もピアノも、趣味ではない。

あっ、今は、ブログが趣味になった。楽しいから。

川と海のイメージ。頻繁に私の描写の中に出てくる「金子光春の洪水のイメージ」。

水のイメージは、ひとつの死だったし、それは至福の幻想でもあった。

それが、壊れた。本物の洪水。幻想ではない。

私の中の、ぬくぬくとした幻想が壊れた。

書くしかないのだろう。

なんか、ブログという形式でしか書けないものもあるような気がしてきた。

「あなた」と直結できる、もしかすると、唯一の手段なのかもしれない。

2013.04.01 Mon

散歩

風邪を引いてしまった。

毎日、春なのに秋晴れって感じの快晴。

私の展望台サロンは、室内にいる限りは、サンルームと化している。

でも、外の気温は6℃。四月なのに、なんなんだろう、この気温は。

あまりにお天気が良いので、日曜日、近所のお城まで自転車。

立派なお城で、現在は隣町の市役所になっている。沼あり森ありの広大な公園になっているので、良くお散歩に行く。観光地というわけではないから、地元の人の散歩コースっていう具合です。

快晴、気温6℃。これがいけなかった。風邪。私は、滅多に引いたりはしないのに。

いつも、酒神様に守られているから。マリリン朦朧と化しているが、昨日は、英語でいうイースターで、薬局はお休み。そのままマリリン。

さっき、ぼーとしながら薬局へ。一番近いやつ。開店14h00。まだ、13h20。ちょっと先まで、ぼーと歩く。こちらは、開店時間がどこにも掲示されていない。13h35まで待つ。開く気配なし。結局、市役所前の薬局まで歩く。快晴。気温6℃。ぼーとしている。13h45、開いていた。薬を買い、そのまま水なしで飲む。ぼーと家まで歩く。市役所から、町の中心部のメインの通りは、歩行者専用。レストラン、カフェ、諸々のお店が並んでいるけれど、田舎町なので、あまり活気はない。南仏風の広場を通り越す。大聖堂の前を横切り、日本語に訳すと市民公園かしら、ここを、ぼーと通る。通り抜けると、その裏の通りが、私の住む通りとなる。

ところで、前に、小さな町という記事を書いた。

私の住む町。人口約三万人。リヨン、リールと、出たり入ったりしているけれど、この町には、91年か92年から住んでいることになる。まだ、若かった当初は、正直、都落ちという感じがした。パリでは、ポンピドゥーセンターの近くに住んでいたから、ことさら、そう感じたのかもしれない。二十年以上経過した今は、なんだか、私の老化とのバランスが良くなって、ホームタウンっていう感じに変わった。町並みは、まったく変わっていないから、私が変わったわけ。丁度いいわけ。

古い町だから、お散歩コースに事欠かない。今でも、あれっ、こんな家あったっけ、なんて、しばしば気が付く。そのコースのひとつに、私の住む丘の上から見ると、その下側、変な描写だけど、丘の下か。そう、そこが、やはりお城と公園になっていて、公園の奥にセザンヌ村という芸術家村がある。十世帯ぐらいの諸々のアーティスト一家が住んでいる。とはいえ、昔の活気は感じられない。慢性化した不景気が芸術家村全体を包み込んでいるっていう感じ。

ずっと、なんでセザンヌ村と呼ばれているのか、私は知らなかった。

その一角に古い水車小屋があるんだけど、知らなかった、セザンヌの水車小屋っていう絵。この水車だったのだ。ふうーん、なんか、セザンヌが、そこにいたこと自体がなんか不思議。セザンヌっていう人、実在していて、ここに立っていた？ ちょっと先の村を散歩していたら、ドミエが何年から住んでいた家なんて、玄関の上を書いてあったり、一番、仰け反ったのは、サンレミドゥプロバンスをうろついていたら「ノストラダムスの生家」ってあって、れれれれえー、実在の人物なのかあーとなりました。

そして、その水車小屋の先が、貸し農園になっていて、セミプロとおぼしきおじさんたちの作品を鑑賞できるのです。もう少しすると。私の猫の額畑の作品とは、歴然と違う立派な作品。トマトだのかぼちゃだのきゅうりだの、みずみずしいやつが一杯。うっとり、毎回、見惚れてしまう。どうも、上手いかないのだ。花とは違う農作物の存在感。食べれるせいかしらね。かぼちゃ持って走りたいぐらい。花の刹那とは違う、なんか元気が形になりましたあー、どうもどうもっていう感じだ。

あっ、こないだ行ったら、もう、すべての畑、耕してあったな。
風邪治ったら、やるかな、ぼちぼち。

2013.04.03 Wed

と、なんとなくタイトルを書いてみた。

風邪が悪化し、マリリン朦朧ノータリン状態になってきているような、回復しつつあるのか、どちらなのか分からない。

昨晚書いた記事は、あまりにノータリンなので、削除。

ところで、今日、今年、初めての春のざわめきを感じている。

木々が、むむむむむうーと踏ん張っている気配が伝わってくる。

土中の騒ぎも、私には聞こえる。

ところで、最近、ピアノのことを、あまり書かない。

超絶技巧が、結構、血肉化してきているので、更なる超絶を探っている。

技術はあった方が、こちらが駱駝。けど、なくてもいいといえ言える。けど、こちらがしんどい。けど、なくてもいい。ノリとかエモーションと、ちょっと、技術とは違う要素も音楽の中には沢山あるので、そちらが前面に来ても、一向に構わない。けど、こちらがしんどい。とりわけ、ミュージっちゃんの体力には、きつい。

ところで、十二年振りに、小説なんちゅうもんを再度書いてみようと思ったきっかけは、ずばり、ブログ。昨年九月十二日から始めたから、途中の休筆を除いても、もう、半年ぐらい、毎日書いていることになる。これが、女装じゃない、助走になっている。今、諸々の習作を書いているのだけれど、つまり、いろんな文体で書いてみているわけ。それから、会話体を試したり、ラブストーリーなんちゅうものも試してみたりと、まあ、いろいろと書きなぐっている。こういうことが、なにかに結晶するのかは分からない。けど、ひとつだけ気が付いたのだけれど、なんか、全然、昔と変わっていないということ。結局、文体にしろ内容にしろ、なんの進歩もないし、逆にいうと後退もあんまりしていない。なんなんだろう、五十半ばなのに。あっ、相当、諸々が丸くはなった。自己表現とか自意識とか野心とか、わたくしはゲイジュツのレキシを変えらうーっ！ とか、こういう個人的な意識のベクトルは、随分となくなっている。れれれ、随分、違うじゃん、昔と？ そうかな？ でも、当たり前なんだけど、中枢は、あんま、変わっていないのだ。考えたら、一向に、渋みだの貫禄だの、ヒトカドの人物感とか、こういう感じがまるっきししない。これって、客観的に考えて、ポジティブじゃあーないと思うんだけど。

頭痛が痛い

うえー。その通りです。なにが？

田村(隆一)さんのエッセイの中に、田村さんが小説家の高橋和巳さんに、

「田村君、小説は辛抱だよ」と、諭される場面が出てくる。もう、その通りです。

なんか、良く言えば、しっとり、悪く言えば、辛気臭い文体で、しかも、できる限り「自分を出さない」という逆噴射をしながら、文章の編み物をやっているのと、頭痛が痛いのです。その内、腹痛も痛くなって、ゲーリーになって、眩暈に襲われて、長い庭のはしっぺ辺りで、ぼったり。

まあ、別に、編集者に急かされているわけでも、明日までに原稿用紙で三十枚なんていうわけでもないから、ひとりサドマゾ。そう考えると、大した話ではない。でも、なんかブログを書く感じとは、やはり、随分違う。縦書きということもあるし(本当に、ピアノを縦に弾いている感じなんだよね。リズムが掴み難い)、なんか「普遍的なもの」なんてことを考えちゃうから、息苦しい。どうでもいいベエーとか、直ぐに納得して止めてしまおうとする。

金子(光晴)さんが、晩年の自伝三部作を布団の中で、ちびた鉛筆で書いていたと、なんだっけな、昔、現代詩手帳かなんかで読んだ記憶がある。やはり、小説なんちゅうもんは、こういう境地になってからという気もする。まだ、わたくし、若過ぎかしらね？

それと、私の悪いお笑い体質がむらむらと込み上げて来る。

前に書いた、たけしさん体質。真面目な自分に、自分でちゃちゃ入れたくなってしまうのだ。善人面していると、私の中の悪が忍び寄ってくるし、逆もしかりで、自分でも良い人なのか悪い人なのか分からない。まあ、あんまり、後者は表立っては出てこないから、相対的に前者にしておこっと。あれ、あっ、そうそう、でね、やはり、おちゃらけお笑いをしたくなってくるのですわ、あたくし。まあ、いいや、ピアノで発散しちゃえーって。

ところで、私は納得していない呼称、純文学。全然、読まれていないって、だれからか聞いた。大体、書物自体が、「もう」、読まれていないっても。本当ですか？ 考えてみたら、たとえば、私と同世代の名の知れた作家の本。買い漁って読んだのは、唯一、町田康さんのみ。あと、辻さんの本、何冊か。町田さんの本とか、売れているのかしらね？ 分からない。私は、大変に気に入っている。パンク歌手。これって、フリージャズピアニストといい勝負。怪しげで胡散臭い。あと、あの独特な町田節ね。あれこそ、ユニークな文体というもので、その文体で、延々と俺は人間の屑だってやられるから痺れる。辻さんは、日本を代表するロマンシエール。ストーリーテラーだと、私は思っている。彼らの才能の欠片でもあればねえー、頭痛も起きないんだらうね。

2013.04.05 Fri

人生が 海辺の 小石に喩えられる

無数の 丸い小石がある

でも その中に ひときわ丸くて大きなものがある

毎日 毎日 波に揉まれるから

次第に 小さくなっていく

その小石に 名前はないけど

でも ひときわ丸くて大きい

そういう小石も 時にはある

と すごく小さな小石のわたしは 思う

「今日」は「快晴」です。

「」の部分、新明解国語辞典の説明文と置き換えてみる。

「今何かを、して(話して)いる、その日」は「空が、素晴らしく晴れ渡ること」です。

この文体は、私の現在までの最後の小説作品「横式」のもの。

執筆は2000年---2001年。これ以後、十一年間、私信以外は、一切、書かなくなった。

「水の記憶」1996。ページ47。

私は生きながら昇天してしまった美術家や作家の事を思う。彼らは独自の時間の中にいるもうひとつの惑星なのだろう。アルフレッド ジャリ。レーモンルーセル。マルセル デュシャン。カフカ。吉岡実。沼正三とマルキドサド。

そして、私は天界から失墜してしまったのだ。何時しか、私は二人の墜天使の系譜の中にいる。金子光晴とヘンリ ミラーである。全長十六mの二十七枚のパネル(追記。私の初期の美術作品、木の属性)が、私の観念の王国の最初で最後の作品になった。それはひとつの終焉であった。私は否応なくもうひとつの系譜の中へ流されたのだ。泥水の中へ。最早、水は透明ではなくなったのだ。

この文章は、私がピアニスト、裕イサオになる前のもの。

「横式」の文体は、「水の記憶」の中に出てくる「もうひとつの惑星」。レーモンルーセルからインスパイヤーされたもの。たぶん、私の狭い知識の中で、言語実験をした最初の人物だと理解している。

私は、文学者ではないので、私の物言いは私見に過ぎない。私の母国である日本の小説。私小説の潮流と、精緻に書かれた物語に、本当に大まかな分類という意味では、分かれるように思う。観念の王国としての文学という営為は、日本の詩人に引き継がれた。

以前、記事にしたエクリバン(作家)とロマンシエール(小説家)と、私は自分なりに分類している。どちらがどうという意味では、まったくない。たとえば、だ。相当の異論は出ることを承知で書いてしまう。私にとっての作家。稲垣足穂。小説家。三島由紀夫。この流れで行くと、前者は、町田康。後者は、辻仁成。これで、ある程度は、お分かり頂けると思う。

ルーセルは前者。では、カフカはとなる。後者である。カフカについては、改めて書くつもりでいる。虚構のロマンシエールとして。なんだか、周りくどい言い方になっている。どちらも、文学であり芸術家なのだ。スタイルの話をしている。商業作家、流行作家、等々の話ではないのです。

りゃ、ルーセルのことは、明日にします。

つづく

追伸

急に、ジッちゃんになるけど、「最近の若い連中、作家志望の」、勉強してんのかしら、文学は職業じゃないよおー、禁治産者のことだ。悪いけど。

私事も自分も私欲も、エモーションも感傷も、観念の王国には、存在していない。

こういうベクトルもあることは、知っていて損にはならないと思います。

言語の解体は、世界、人間の解体と再構成。自由への入り口ってことね。

2013.04.07 Sun

小春日和のおじさん

今日は、あまりにお天気が良いので、階下の工具室のお掃除をした。

頭の中が、小春日和になっていて、しかも、おじさんだから、もう、豊かなシニアライフそのものと化している。

三日前ぐらいに、布団に入り、志村けん馬鹿殿をユーチューブで見ようとしたら、なんだか突然、十代後半に読んだ作家たちが、脳内にどっとなだれ込んで来て、ウィキペディアを貪り読んでしまった。レーモンルーセル「アフリカの印象」の日本語訳を読んだのは、確か、十九歳だったと思う。下落合の下宿で、ジャズ、サントリーホワイト、本に浸り込んでいた長髪、黒尽くめの暗い暗い暗い青年だった。でも、こういう若者だったから、今日の、この脳内ヒラヒラへめらも小春日和シニアになったような気もしている。逆噴射。

このムッシュー ルーセル。1877年---1933年。

この頃の作家に多いけれど、富裕層の出身。とりわけ、母方が大変な資産家だったよう。

もともとは、パリの国立音楽院のピアノ科に行っていて、プロのクラシックピアニストを目指していた。相当な腕前のはず。在学中に、よおーし、詩人になるって行って、詩作を始めたんだけど、このムッシュー、名声欲と自己顕示欲と自信過剰の嫌な奴だったようで、俺は、偉大な文学者っ、歴史を変えるっ、本気で思っていたらしく。考えたら、十九歳の頃の俺も、ちょっと、そういう傾向があったのだ。小さい声で。

どこから、この言語実験のスタイルが出てきたのか、良く分からないんだけど、もしかすると、音楽の影響かも知れない。ジャズ屋のはなもげら語と、なんか同じなのかも。でも、このムッシューはお笑いではなく超マジだった。自費出版で出す本出す本、無視、酷評。しまいには、無理やり芝居にしちゃって、莫大なお金を使って、一流シアター、一流の俳優さんたちを総動員。結果、ぼろくそ。莫大な資産も使い果たしてしまった。禁治産者。

とうとう鬱病および睡眠薬中毒になってしまった。

これが原因で亡くなっている。

毎々、登場するマルセル デュシャンも、沢山の言語実験の作品を残している。

こっちのムッシューは、「楽しみ、遊び、ユーモア」と余裕余裕。全然、切羽詰まっていない。

今調べたら、レーモンルーセル全集がフランスで刊行されたのが、なっ、なんと1994年！

代表作、「アフリカの印象」の出版が1910年だから、この評価されるまでの長いこと、本当に。たぶん、嫌な野郎だったと思うんだけど、このムッシューが自分で言っていた、大文学者、文学の歴史を変える。これ、戯言じゃなくて、本当だったのだ。これは、やはり、認めます。でも、

俺の今の年の頃、睡眠薬中毒だったのも、ちょっと、ジャズメンぽくて、この辺り、泣ける。本質は、もっ、もしかすると、ドキッ、ミュージシャンだったのかも、このムッシュー。

2013.04.07 Sun

ブログの効用

分析してみる。

ピアノと一緒に、脳を刺激する。
キーを打つ指先から脳へ、なんらかの元気電流。

非常に庶民的。
だれでも、できる。開かれている。革命的だと思う。
編集者が仲介していないのに、世界に向けて発信できる。
ちょおーと、大袈裟だけど、本当、そう。

まったく予期していない出会いがある。
私の場合は、文学的な出会いがあった。
こういう出会いも、ある。

私は、同人誌等へ参加したことはない。
天邪鬼だから。ブログと違うところは、「顔見知り」であること。
インターネットも怖いけど、人間も怖い。いや、こっちの方が怖い。

知らない人との出会いがあるんだけど、出会った後も、知らない人のまんまなのが、
なんかいかしてる。こういう「人間関係」、おもしろいと思うんだけど。

頭が、レーモン君になっていて、破裂しそうです。
あっ、ばあ——————ん、遅かったっ！
チャオー。

2013.04.08 Mon

頭が、小説化。小説家じゃないよ。で、段々、ブログる魂が腑抜けといいつつ、まだ、這って書いている。意地汚いのだ。貧乏性、ケチなのかしら、俺よおー。

レーモン クノー。ご存知の方も多いと思う。もうひとりのレーモン君。

文体練習という小説。同じ物語を九十九通りの文体で書いたもの。痺れるのだよな、こういうのに、俺。なんか、ちょっと、男の子してんのかしらね。あんま、確かに日本に実験小説書く人っていないな。まあ、食えないしな。詩人が食えないのも、実験も、みいーん、引き継いじゃったわけだ、日本は。

あっ、さっき、シニアっていくつからって調べたのね、六十前後とか六十五とか、定年後とか、会社等では、五十代以降とか、分からんわい。中年って四十以降って書いてあった。俺は間もなく五十四だけど、なんなんだ、これ。中高年の、高年の方に入るけどシニアじゃないらしい。中年でもないしいー、シニアジュニアってことかよ、な。

でね、この小水の失禁じゃねえー、小説の執筆なんだけど、こりゃー、いい頭の体操だし、自分の所在地の確認とかには、おもろいどおー。でね、いくつか判明してきた。

あんま、俺の中に深い思考はないことが分かった。脳天気なのだね。

しみりと人生について、一言なんて思ったけど、特に若い世代へ繋げたいなんて、ちらっと、思ったけど、実は、そんなもんはねえー。邪頭菌の威力を思い知ったのだよ、強力現在形のその日暮らしの音あるのみ。脳挫傷だわな、こりゃ。正直、人生とか人間とか、どうでも良くなっている。その時その時の演奏あるのみ。明るい刹那みたいな感じなのね。こういう人に、文学は、ちと、無理なんじゃなあい。

草木とお話したり、太陽の顔色を伺ったり、音のプールをばしゃばしゃ。

やっぱ、人間に興味ないのだ。えっ、俺も、人間なの？ 路傍の草って感じかしら、ね。

とさりの境地。うんうん。文学は、ちみに任したっ！ へっへっへっへえー、でも、小水の失禁は、違う、憔悴の執筆じゃない、小説化は、止めないっ！

素面

やはり、そうだったのだ。なぜに、ブログが、と、小説化(小説家じゃねえー)がウグスイじゃない、失礼、スイングしねえーのかっと入れ歯。そう、素面で書いてたっ！

でも、酒飲みでない人に素面なんて言ったところで、なっ、なんなんですか？

このアル中と実生活の「きわどい境目」の中に、あんたは、えっ、俺？ は、いたのではないのだ老化のくんなまし。邪の未知はジャズと、江戸時代から、いっとらへん。

とも思うけんちょも、まあまあ、そう、言わずに。

うんでね(四拍子。んを多少強くお願いします。読者様、巻き添え。お辞儀。読み方、師弟の指定文を学んじやったあー)、今日、パリ郊外とパリ周辺っていうチーズじゃなくて、地図、痴頭、えっ、を買ってきたのだ。ずっと、十年前ぐらいのやつで、実生活る。あんま、支障はなかったけんちょも、ちららっと、御手洗団子ると、結構、こけこっこだった。

とね、利根川る。

だあーらよおー、俺は、ミュージッちゃんとううとるだろがっ！

ああーりらりん。日本語は、耐え忍ぶ言語なのかも知れない。

いろいろ、おちゃらけても、崩れない。

ニャロメえー————。辛いわ、こんな言語。言語同断っ、ね。

オジギャク、控えめに、お願いします。偏執狂部。畠股一樹。

えっ、急に新キャラ？

そこそこの数の国に行ったことがあるし、長年、フランス全土を受け持つ営業マンをやっていたから、フランスに関しては、かなり隅々まで行っている方のはずだ。

でも、旅行が大嫌い。

昨日、大きな書店に、私の住む小さな町の近郊ガイドを買いに行ってきた。

この町自体が、歴史指定都市だから、その近郊にも諸々の名所旧跡がある。

まだ、そのガイドブックを良くは読んでいないのだけれど、詳細な近郊地図を見ているだけで、わくわくしてくる。なんか、旅行、遠出が大嫌いなのだけれど、この近場の探索、探検は大好き。

絶対に、私のような方がいるはず。日本のなんかの雑誌にも、近場探検マニアが増えているという記事があった。

昨夜も、ぼーと近郊地図を見ていたら、ふむ、うん、ここに小道はあるのは知っているけど、歩いたことはないなって思い、ガイドブックをぺらぺら。うおー、由緒ある、日本で言う旧街道だった。これはこれは、お天気の日に行ってみよっと。と、実に、楽しい。

私は自宅の展望サロンで、人類の今後とか、人間とは？ とか、世界経済の動向などなどを、ひとり慮っているのも、大変に、好きな性質でもある(嘘)が、近場探索は、やめられないよおー。ところで、半径どれぐらいなのかしら？ 徒歩圏、自転車圏、自動車圏と考えると、50キロぐらいの模様です。

いろいろと近場を散策していると、木の電柱、案山子、畑。

なんだか、幼少期に見た、日本の風景そっくりの小道に出たりして、感慨に耽っちゃったりしているのである。

脳内小説化により、いろいろな文体の習作を書いてみた。

その勢いで、密かにブログは、灯火化、蛍の光り化を目論んでいた(いる)。

でも、なぜか、合間を縫ってしぶとく花形満ブロガーをしている。

おこがましいのですが、もう、脳内小説化のため、おもしろくないわいとお気付きになられた方は、裕先生のブログは、おパス願いたし。ラジャー。

「おちゃらけ」これは、赤ワインとの蜜月状態でやると、楽しい。蜜月が行き過ぎると、ちと、ちとである。シュールリアリストのスリク(薬)実験に、ちと、近付くが、明らかに、私の脳が無内容であることに、自分で気付くという弊害あり。でも、あっそ、と認めているので、ごめんください。

赤ワインって、南仏の太陽が詰まっている感じがいつもしていて、その太陽、凝縮した光りを飲んでいるって、もう、私が光りに飲まれている気がしてきたりすると、詩を書いちゃったりする時も、三万年に一回ぐらいはある。飲み助の言訳として、しばしば、却下される。

「マジ」そう、私は、大変に真面目な人間なので、なんら違和感はないのであるが、もう一方で、真面目なお笑い系でもあるので、真面目に自分をちやかす。から、なんか分からん文体が現出する。

「実験系」これは、自分で予期しない文章が出来上がる。偶然が介入しているから、自我を超えたコスミックな世界が、現出しちゃったりするんだけど、問題は、この自己廃棄の逆噴射って、これって、病的なわけね。あまり嵌ると、ちと、やばいし、脳破壊に追い込まれるので、あまり、お薦めは致しません。マジ、行き過ぎると、アル中、スリク中、禁治産者方面へと流される。

と、なんといっても、わたくし、売れない、三文というご批判、現実はあるにしても、ミュージッちゃん。言葉の音楽化。これは、自然な流れというものであるから、そうなのである。と、どの文体を選択しても、諸々の弊害、副作用が出る。ということは、音楽化複合文体を駆使するという結論が導かれたわけ。で、今、やってみてんだけど、うむ、歯車が、噛み合っちゃったんじゃないのおー、裕先生っ！ という今日この頃、みなさん、いかがお過ごしですか？

りりりゃあー、YouTubeの新作。早くやれっの！

分かりやすい音だけで、二曲、できてんだけど.....。

2013.04.11 Thu

なんか、このタイトルに意味はない。

小説を書いてみたり、YouTubeの動画を作ってみたりと、まったく、世界動向と関係のない非生産的な諸々で、ひとり多忙をやっている。なんだか、忙しいのだ。

たとえば、小説を根詰めて書いていると、ブログが書きたくなり、ブログを書いていると、ピアノを弾きたくなり、ピアノを弾いていると、おっ、YouTubeYouTubeとなり、動画をアップロードしていると、階下の庭が気になりだし、庭の草木とお話していると、夕飯、なににしようか、などと考え始めたり、いわゆる、連続した気分転換の連鎖っていう、貧乏暇なしとも言う状態。まあ、なんか、幸せなオヤジだ。退屈とか、まったくない。前からそうなんだけど、なんなんだろうね、こういうセカセカ、いつもなんかをやっている。パイプを燻らせながら、空の様相を、じーと見るなんていうことができない。だから、貫禄なんか、自慢じゃないけど、ぜえーんぜええええん。悪かったな。

もともと、動画の宣伝になるのでは、という下心でブログを始めたのだけれど、多少の宣伝にはなっているのだと思うけど、半年以上過ぎた今は、その下心はほとんどなくなっている。ピアノ弾きが、その動画の宣伝のためにブログ。これは、非常に自然なセールスの流れだろうけど、今は、なんなんだろうね？ 分からんねえー。で、これじゃ、本末転倒じゃんかよおーと思ひ、また、しこしこと動画を作り始めました。もし、もし、ご興味ある方いらしたら、覗いてやって下さいませ。

はい、五つぐらいアップ予定なんですけど、共通点は、

バックのリズムが一緒。すべて、三分ぐらい。あまり難しい和音は使っていない。メロディーパートを重視。あまり、ジャズジャズしていない。

と、こんな感じなのです。

どうしてこうなったのか、ローラの口調で、忘れちゃったっ！

あっ、そうそう、昨日、YouTube弄くっていたら、ものまね女王、荒牧、あれ、陽子さん？ だったかなあー、出てきて、一杯見た。凄い歌唱力。なんか本物より上手いような気さえする。本人のインタビューとかも、全然、スターとか芸能人っていう感じがしない。なんか、テレビに通常出ている人と、雰囲気全然違う。穏やかな感じとか、謙虚とかって言いたいんだけど、あたしがあたしがという、あの芸人の私の強さを感じない。コロツケさんにも、ちょっと、そんなところがある。このふたり、まねしている芸能人以上の実力派なんだけど、存在感が、まるで違う。不思議不思議、自我がないような気さえしてくる。荒牧さんの本人の声がどれなのか、全然、分から

ない。全部、本当に似ていて。荒牧さんご本人の曲、聴いてみたいな。あの歌唱力だから、凄いだろうな。英語のやつなんて、単語の切り方、シンコペーションの仕方、完璧で、脱帽でした。文学物まねっていうジャンルも作れるな。我輩は猫であるを三島由紀夫が書いたらどうなるか、とか。

ねえー？ 荒牧さんみたいな作家、出てきたら、おもしろかしら？

2013.04.12 Fri

真春日の旧街道

真春日。こんな単語はないはずだけど、本日は、そうとしか書きようがないのです。

テレビでは、一週間前から天気予報で、「とうとう、春到来」「イルドフランス、快晴、予想気温二十二度」「昨年十月から続いた冬型の気圧配置」「一ヶ月以上遅い春の到来」等々やっていたから、今日の天気外れるとメテオフランスは、クレームの嵐だったはず。予報通りです。

昨日の朝のスーパー。いつになく人でごったがえしていた。

カートの中に、炭の入った袋を入れている人、多数。本日、バーベキュー日を見越しての仕入れ。マラゲズソーセージ(中東のピーマン入りの辛いソーセージ)、シッポラァータ(フランスの豚の腸詰ソーセージ)、アンデュイエット(豚のもつの腸詰ソーセージ)、鳥肉各種等々。予報が外れないで良かった良かった。

考えたら、半年間、冬型の気候が続いていたんだあー、長あ——————い、冬でしたあー。寒波のみなさん、ご苦労様でしたあ——。ちょっと、お休み下さいね。お疲れでしょう。

でね、あんま、天気がいいから、こないだガイドブックで見付けた旧街道、歩いてきた。

今年、初めてのテーシャツ姿だったけど、結構、汗かいた。片道四キロ。結構、ごっついハイキングシューズで歩いた。旧街道っても、「開通が1912年」とガイドブックに書いてあった。

そうか、俺の家は、もう、あったんだ、この年には。

この頃は、徒歩と馬車だったのかな？ 自動車はあったけど、普及はしてなかったはずだけど。今、俺の家にあるもので、この頃、なかったもんは一杯ある。ホンダシビック1997年もなかったし、ヤマハのサイレントピアノも、ローランドの電子ピアノも、台所家電はなかった。携帯も、ブログも、いろんなもんがなかったなあー、と、歩きながら感慨っていう感じでもないんだけど、まあ、随分、いろんなもんが増えたなあーって。考えたら、俺も、なかったんだよ。あったのは、今、住んでいるこの家と、菩提樹と榊とローリエの木だけじゃん。「時が過ぎるのではない 人が過ぎるのだ」。田村(隆一)さんの詩のフレーズが、真春頭の中に、木霊したのでした。詩の力も、そう考えると、凄い。

すいません、ブログの更新、ちょっと、飛び飛びになっちゃうと思うので、イサ中のわずかなご愛読者様、お許し下さいませ。家、出たり入ったりで、パソコンは、外には持っていかないのです。歯ブラシと紙パンツ以外、持たないのですよ、旅先には。カメラも、携帯も、なんも持ってかない。合う人と風景を脳の印画紙に焼き付けて、帰ってくる。のみ。おー、よっ、小説化っ！

(小説家ではない)。真春日。最高に、気持ちいい。

あっ、荒牧陽子さん。休業中であることが分かった。

俺なりに翻訳してしまう。ものまね、ものまねの仕事の連続で、喉を潰してしまい、歌うのが怖くなった。体調不良と、歌えなくなる恐怖心。

痛々しくて、涙が出てしまった。ゆっくり休んで、今度は、荒牧陽子として、戻ってきて下さいっ！ 応援するよっ！ 三文ピアニストの俺でさえ、指、手を怪我するのは、本当に怖い。喉を潰す。人事とは、とても思えない。お大事にっ！

2013.04.15 Mon

未来の子供たち

先日、甥っ子夫婦が遊びに来た。

男の子、二歳と一歳を連れて。私は当然、好々爺目。本物のお爺ちゃんになるのも、そんな先ではないから、パピーの予行演習。

このちびちゃんたち、当然、好奇心の固まり。ただ、意識して悪戯をするといった年齢ではないから、やることに他意はない。

私のことわざ辞典。いつのまにか涎で、べとべと。

マドレーヌのケーキ、粉々。絨毯へろへろ。

ソファテーブルも、涎でべとべと。

チョコレートクッキー粉々。チョコ、あちらこちらに。

スプーンで、ピアノを叩く。これは、さすがにストップ。

庭に連れ出し、サーカーボール。本格的な革のボールだったから、おちびちゃん、蹴ると、本人も後ろへどおーん。ないしは、ボールと一緒に、ごろんごろん。芝生の上だから、ふたりとも、楽しそうにひっくり返っていた。

小さい子供のおもちゃ、なにひとつないので、リコーダーを二本持ってくる。

おじさんが見本。ひとりずつに渡す。リコーダーをべろべろ舐める。違う違う、吹くのっていつでも、べろべろ。ずっと見ていたら、二歳のちびちゃん、要領を把握。ぴいーーぴいーー。嬉しそうに吹きまくる。おじさん、よおーーしと、トランペット。ちびちゃん二人、得体の知れない音の出るものをじいーー。直立。いつのまにか、サイドテーブルをパーカッションし始める。

ふむ、もう少し大きくなったらピアノ、教えちゃおっーと！

ちびちゃん、可愛いし、おもしろいどおー。パーカッション、すでに、セッションの感覚が芽生えている。ふふふふふ(ジャズ屋のおじさんの目の奥が、キラリ)。

2013.04.15 Mon

小さな葉っぱ

やあ——と、ついに、菩提樹の小さな葉っぱを確認した。

本当に遅い。今頃ですよ、木々の新芽。一ヶ月以上、例年より遅いはず。

とはいえ、半世紀以上、芽の出ない、えっ？ 俺っ？ 筆者に比べれば、ちょっと、だれが書いているの、この記事。俺だっ。ほっといてくれっ！ ねえー、失礼しちゃうぜって。

この小さな葉っぱ。赤ちゃんだよ、本当。二センチぐらいで、くるくるって黄緑色で、可愛いのだ。可愛いねえー、好々爺目だよ。こっちは、春到来っても、人生の秋だぜって！ なに自慢してんだよって！

もう、根詰めてよおー、お小説だよ、複合文体を駆使駆使して。

頭、いかれそう。もう、いかれてる？ ふむ、そうかも知れん。

もお——お、このお小説、しんぼうしんぼうで、なんだかジャズの対極だな。

よく、やるよな、町田さんも辻さんも、こんなしんき臭いものをよおー。

考えたら、ミュージシャン作家、すげえ一人を忘れていたよ。深沢(七郎)さんもギタリストだった。で、前に書いたレーモン ルーセルもピアニストだ。あと、意外と知られてないかも知れんけど、ヘンリ ミラーもピアノ、上手かった。十分、文豪がいるな。あっ、美術関係だと、池田満寿夫さんと赤瀬川原平さんがいる。赤瀬川さん、俺が東京で在籍していた美術学校の先生だったけど、面識はない。なぜか、はい、在籍していただけだったからです。

でも、なんで、こんなしんき臭いこと、みな、やるんだろうね？

えっ、おめえーだって？

ふむ。

2013.04.16 Tue

ヨジレマイオス

これは、山下(洋輔)大先輩(勝手に呼んでいる)の発明したジャズ神様の名前。で、

私
俺
僕
わし
あたし
あたい
我
自分
わたくし
小生
小職 げっ

もう一人称をどれにして良いかさえ判断できん。
でも、日本語って、なくても書けちゃうんだよなあー。
フランス語でやったら、白痴だろうなあー。

脳内小説化ヨジレマイオス現象。

もう、駄目だぁー。。
ブログ更新、ギブアップっ！

分かり易くご説明すると、コロッケさんの連続ものまね。
あの顔と声が違うやつです。
森真一さんの顔で、ちあきなおみさんの声とか、
これを連続でやった時の、脳内の断面図をヨジレマイオス図像と、
我々の間では、呼ばれていない。

チャオー！

来週まで、ミニ休筆してしまいますのヨジレマイオス。

無理矢理、新作動画を添付してしまう。
だってよおー、ほとんどの再生回数、俺のだ！

自給自足も、嫌いではないけど、寂し過ぎ。

まっ、蟹と戯れながら、聴いてくれ玉枝。さん。

短めに作ったから、聴いてクレヨン(オジギャグ、コピーライト、町田康さん)!

あっ、そうだ、本文で一回で、動画一本ずつで、2日。3日分ブログってことだ。な。玉枝(だれなんだよって、これ。忘れちゃったあー!)

2013.04.17 Wed

ご愛読者様限定動画

布団の中より、愛を込めて。

へとへと。さっき、できた、ほやほや動画です。

こ れ は ご愛読者様 限定 動画 ブログ なのだ。

だから、ご愛読致していない方々は、見てはいけないのだよっても、公開されてっけど。
っても、ご愛読者様しか、大体、読んどらんって！ これ。

「今日の、あがりは？」

じゃ、ミニ休筆。来週までね。

ボン ニュイ！

2013.04.18 Thu

アルビの大聖堂

トゥールーズに行ってきた

ジャズシンガー クロード ヌウガロの故郷へ

アルビの大聖堂 巨大な建物

小雨 肌寒い

町の重鎮のお葬式 棺桶が大聖堂の中へ 沢山の参列者

わたしは トゥーリスト いつもだ わたしは トゥーリスト

アルビの大聖堂 こまかなレンガ みなで 積み上げた
みなで 積み上げると 巨大な建物が できる
でも みな 一緒になければ できない 見事だった

でも 怖い

バスティーユの牢獄に とても 似ていた

ジャズシンガー ヌウガロ

なにも 残していない 歌 以外は

巨大 巨人 目に見えない方が いいと 思う

2013.04.22 Mon

長距離列車

お小説の大体の下書きが出来た。

本当に、ブログ様のお陰で、確実に筆力と脳力が戻って来ている。

「現役」っていうやつね。十二年間、試合に出てねえーから、このブログ様との助走は、相当な脳インパクトになったみたい。

いいねえー、ジーちゃんだって、まだまだ、若けえーもんには、負けんぞおーってな感じだ。若くても、ジーちゃんでも、そんなにオリジナルだのユニークなもんなんてねえーから、五分五分だぜってな、お若いの。でも、こっちの要素、ジーちゃん側の年輪とか風格とか深い人生観とか、これまた、本当にナインナインで、自分でも、この軽薄ジー振りには呆れた。とはいえ、お小説は試合とか勝敗とか、そんなもんじゃないから、当然、ドゥーマイベストしかない。

結局、なあーんもないチャンジー。これを書くしかナインナイン。

文学面、芸術家面、もう、こういう面はいらんから、なんもないよおー、しゅいまっせえーん。だふんだっ！ と、なっている。

で、下書きが大体出来て、つまり、脳パンクになっちゃって、考えたら、フランス国鉄SNCFの営業マン時代の膨大なマイルが溜まっていることを思い出し、うんじゃ、一番遠いところ行っちゃえ、となった。四半世紀前に、ちらっと行ったトゥールーズ。ほとんど記憶初期化。なんとなくピンク色だったなあー(禁則文字が気になっちゃうのだけど)、以上。そうなんですね、フランス語でビルローズ。ピンクシティーって呼ばれてんです。なぜか？ 建物がピンク色のレンガで出来てる訳で、別にエッチなとこっていう意味じゃないよ。

パリのオーステリッツ駅から、なっ、なんと、六時間四十分。俺の住む小さな町から、なんだかんだドアトゥードアでオーステリッツ駅の電車に乗るとすると、一時間半前ぐらいに家を出ないといけないから、計八時間十分。なんだか、海外旅行じゃん。

後は割愛なんだけど、帰りの電車。トゥールーズ発。午後四時四十六分。パリ着十一時十八分。夕飯、ビール、赤ワイン、乗車前に、当然、購入。密かな車内宴会なのだ。

でね、行ったスーパー、冷えたビール置いてない。とほほ。うんじゃ、ちょっと、生ぬるで行けるビンのベルギービールとなった。乗り込む。いきなりだと、アル中がばれるので、午後六時まで、日本の雑誌「ベストカー」を読む。カーキチなので、熱中。午後六時五分。

おっ、六時過ぎてんぞおー。スーツケースからビール瓶。むひょひょひょ。世間体もあるから、静かに静かに、世間の目になるべく触れないように触れないように、臭いは、まあ、ごめん下

さい。密かに密かに……。この時、裕先生の頭の中に、スーツケースの移動、内部の振動、F1レースのシャンパン、この算数式はなかった。

むひょひょひょ、栓を抜く。

泡、どばあ-----。

推定高さ二十センチ。車内でのご迷惑は、以下、割愛。因みに、テーブル、俺のジーンズ、びしょびしょ。

一体、俺は、なんの表彰台にいたのだ？

2013.04.23 Tue

「四月は、残酷な月だ」と書いたのは、THエリオット。

今考えたら、このTH、名前の略なんだけど、フルネーム、知らないのだ。
こういう風に、脳インプットされている。で、TとHの間に、点が入る。
「T.Hエリオット」となる。

なんで残酷なのか？ これは、俺が生まれた体。
と、エリオットは書いていない。後は、この長編詩をご参照のこと。

でね、さっき、股股球球、ユーチューブに最新動画をアップしてしまった。
これは、限りなく、「俺の今」に近い。素晴らしいのか、芋なのか、分からんが、
「俺今」であることに変わりない。

でね、こう、下向いて弾いているから、顎の弛みとか、顔の染み、なのかなあー、なんだか、
カラーだと、ジッちゃんし過ぎているので、白黒付けた。まだ、ちょっとだけ、色気はあるみ
たい。

でね、なんだっけ？ そうそう、お小説は、紋付き袴の記念写真。
ブログは、スナップ写真。いいねえー、こういう感じ。
二時間前まで、ブログの閉鎖を考えていたのに、もう、こうなのだよ。
まっ、いろいろ丸痴にやってみると、いいところが分かるということなの。
結構、そういうところは、真面目人間なのだ。
とりあえず、批判する前に、自分でやってみる。

たとえば、なんだよー、あのペット(トランペット)、芋芋じゃん。
と言う前に、自分でやってみる。
ぎょわあ—————、ビシアっ！ 失礼、シビアっ！ と、なる。

やはり、俺の師匠の「おい、イサオ、お前もペットやれ。分かるから、俺達のことが」。

染みる。

セカンドバージン

なんだか、金子(光晴)さんみたいに、布団の中で、これを書いている。ユーチューブを弄っていたら「セカンドバージンの予告編」というのが出てきて、主題曲、KODA Kumi。知らなかった、こんなソウルフルなやつが日本にいたこと。動画を見捲くった。ドキュメントも見た。笑いながら、清々とした涙が零れてきた。着せ替え人形ではない、本物のR&B。「セカンドバージン」という映画の内容は知らないけれど、なんとなく、俺の今に呼応している気がした。だから、ブログを始めた初期のスタンスに帰らないといけないと思った。ミュージッシャンのプロモートブログへ。すでに、書き過ぎている。こちらは、小説に集約する。KODA Kumiのミュージックソウルに感応した。「愛の歌」「愛を止めないで」。ふたつのブログサイト、および、ご愛読してきて頂いた、本当に一握りの方々へ、熱く厚く御礼申し上げます。ブログは、Google Bloggerへ集約致します。

2013.04.24 Wed

ソウル

今日のイルドフランス地方は、快晴。二十三度。
あんま天気いいから、小説書きはボサリ。
カミサンとモーモロンシーの森をお散歩してきた。

なんだか昨晚は、「セカンドバージン」とKODA Kumiに打ちのめされてしまった。
この映画の詳細は、全然知らないんだけど、この「人生をやり直す」。
これが、なんだか俺の脳中枢に刺さったわけね。今の俺じゃねえーかよって。

十七年振りに、もう一度、物書きに戻ろうとしているわけ。「セカンドライター」だ。
でね、これに脳中枢を犯されながら、KODA Kumiのソウルに追い討ちパンチ。
布団の中で、エモーションが、ぐおーってな感じ。

Kumiちゃん、パリ近郊のやややばい地区にいる姉御。
これに、ルックス、素顔、お話、本当にそっくり。
ソウルボイスに、踊りのセンス抜群が、これにプラスだよ。

モノホンのR&B姉御だ。

世界に羽ばたけっ、な！

追伸なんだけど、ヤノピやってると、いかに脳空になるか、しみじみ分かった。
悪いことじゃーねえ。ヤノピが上手くなるほど反比例で脳空。素晴らしいっ！
なんとしても、この脳空を小説化したいのだった。

で、コマーシャル、「俺の今」動画、はい。

2013.04.25 Thu

今日も快晴。たぶん、外は二十五度ぐらい。

なのに、朝からずうーと、小説の下書きと戯れている。

もしかすると、ノンセンス独白小説というへんてこりんなものが、完成するようないかないような気がする。ちょっと、確信を感じちゃったりもしている。

でもなあー、日本国の小説事情。最近の状況とか浦島君なんだけど、俺の思い込みかな、精緻に書かれたストーリーテリングっていうのが、日本小説の本流だと思ってんで、俺のは、なんじゃこりゃー、ノウハウ覚えてから来てね、と一蹴りって感じ。

さっき推敲してて、しかし、俺の小説、やっぱ、俺のピアノ演奏にそっくり。

饒舌体、アドリブ、崩し、ルール無視、おちゃらけ、まじ、エモーション、ソウル、優しい感じなどなど、やっぱ、お小説にも色濃いのだ。

俺のピアノ。野蛮人だの、あいつ譜面読めねえーのかあー、めちゃくちゃ、でたらめとか、随分、言われた。最近、それでもねえーけど。でも、ずうーと、熱烈に支持してくれているファンの方々がいんだよね。

なんか、この熱烈な少数の方々に支えられているわけ。

小説も、たぶん、このラインにしか行かない。まっ、いいかっ、な、それで。

でね、俺のピアノなんだけど、もちろん、上手くはない。

本来、フリージャズっていう「難解」なジャンルに位置している。

でも、聴いて頂くと分る通り、お芸術家系上から目線難解ホークスっていう感じはない。

俺の心のスイス人人格が滲み出ていると思いませんか？

不協和音とかも、かなり、使ってはいるけど、あんま無機的な難解さはないはず。

ちょっと、ほろっと優しい感じも出てんだけどなあー。

あれ、ピアノじゃなくて、小説なんだけど、

本当に五十四歳にして、この「空っぽ脳」。やはり、多少は呆れたけど、

しゃーない、現実だ。識者の方だの、その筋の人に、「羽毛おー、五十半ばのチャンジが、こんなパープリン小説書くかあー、ばあーたれっ」って言われそうだけだよおー、

現実だもんなあー、やっぱ、しゃーない。

初めて、小説書いててね、楽しいと思ったよ。前は、全然なかった、この感じ。

チャオー。

2013.04.25 Thu

さっき、やっと、お小説の当初の予定枚数に到達した。
後は、研磨君なんだけど、ダイヤモンドになるのかしら？
結構、いろんなスタイルで習作を書いてみて、ピントが合う文体っていうのができて、
その文体で、書き進めたら、意外とあっさりと到達。
やっぱ、この脳と文体のピント合わせが大変なのですね。

空脳が発覚したから、それに相応しい文体、内容の設定となったわけ。
率直、表自信で、なかなかこれだけ無意味な小説は、日本文学にはねえーどおーと、
自負している。本当に、存在意義がゼロに近い。満足している。

第一、書いてて、書き手の気持ちが沈まない。
あっけらかんと明るい。なんか、書き手自身が楽しい。
読み捨て、読み飛ばし書籍に、大変に相応しい。
大体、カフカの変身でさえ、俺は二回しか読んでいない。
ほとんどの書物は、まず、読まれない。プラス、再読されない。
だからこそ、このノンセンス小説の存在意義がゼロではなくなる。

ところで、ブログを-google-ブロッガーに集約したら、当然、閲覧数が激減した。
で、そんなことは予想通りなんでどうでもいいんだけど、「お気に入りブロッガー」さんたちの検
索が、ちょっと、手間取る。マイページがないから、こうなっちゃうんですね。しぶとく、検索
して拝読して居ります！ あっ、考えたら、お互い様なんだ？ 健筆祈るっ！

やっと、これで、常連さんの数が分かった。
謹んでお辞儀です。
三つ目のブログになるんですけど、私信様、日記、こんなしょうもない感じになると思います。

負け組

今日は、肌寒い曇り空なんで庭の芝刈りをしたんだけど、
あんま暑いとしんどいわけ。
母屋から、二十七メートル辺りまで刈り進んだら、雨。

うな、ヤノピをくんなまししようぜって、意味分からない？ ピアノの練習をした。
で、セカンドバージン症候群、正確には、俺は男だから、セカンド童貞か？
になっていて、またまた、閃いた。やっ、やばいんだよなあー、俺には、これ。

俺がピアニストのプロ登録をしたのが、十四年前。
リヨンに住んでいた。そこで、裕イサオトリオを結成したんだけど、
名前が「フォーブ」。日本語だと「けもの」。

リヨン芸大のジャズ科にいたヤニック ナレジヨスがアルトサクソで、リヨン大学の経済学
部だったな、トマ ワーニングが、あれ、日本でなんて呼んでんだ？ ジャンベイというアフリ
カのパーカッション。確か、今の俺の息子の年齢より若かったはずだから、二十二か二十三歳だ
ろう。俺はシジューだった。このふたり、大変なハンサムだったから、コンサートは、毎回、一
杯だった。

でね、この頃、俺は、ド音痴なのに、ピアノ弾きながら「歌う」という、とんでもない愚行をし
ていた。「意味のない歌」「明日になれば」と自作曲を無謀にも歌っちゃってたのね。今、聴い
ても、やはり、ド音痴。パンクジャズだ。

ジョン コルトレーン カルテットの「至上の愛」というアルバムの中に、彼らの歌が一曲だけ
出てくる。歌詞はひとつだけ。「アイ ラブ ザ フリー」。これだけ。この演奏は、ハンカチ
なしでは聴けない。熱過ぎ。彼らの歌は、この曲のみ。

むはははははあー、なんだか、もう一度、「歌ってしまう」とか思っている。
来週辺り、密かにユーチューブするかも。むっはははははあー。

はい、前置き終了。

俺は、いわゆる、負け組だ。
って書いてみるでしょ、沈み、卑下、こういうものに全身を包まれている裕先生。
とは全然ならん。なんだか、こそばゆい快感が込み上げてくる。
そりゃー、会社辞めちゃったから、お財布は空だぜって。

でも、なんだか、負け組、なんだか(リフレイン)嬉しいのだ。

だってよおー、だれが勝ったのって？

2013.04.28 Sun

起きる。午前中、残り三十三メートルの芝刈り。
昼、鱈子スパゲッティのようなものと生ハムと、パックに入った葉っぱを食べる。
で、駅までパリまでの回数券を買いに、お散歩。

帰宅する。芝の裾刈り。幅、奥行き、すべてx2だから、130mをでかい鋏でやる。
腰、ヨジレマイオス。へろれろのまま、ヤノピのくんなまし。ちょっと、歌う。げっ。
来週の「歌手デビュー」が控えている。げっ。羽毛っ、無理矢理、歌ったるっ！

でね、なんで、俺がうんちなのか、分かった。
ピアノ弾きが、うんちのはずはない。だって、ドレミ、歌える。
で、分析した。

いわゆる、諸君、あのね、ジャズのテンションコードってのがあんだけど、
ハイ ノートでもいいんだけど、これを、俺は、どうもやっているから、
大塚愛ちゃんにはならんののだ。

でね、ジャズ屋なんだけど、たとえば、ベースと俺ピアノが、ド。
ペットのやつは、ドはださんのだ。ソとか、オクターブ上のレなんてのをだしちゃう。
これが、ズージャのエロ格好ええなのだよ。

でね、どうも、俺は「歌でも」、それをやる。
ハイ ノート。まあ、向上心的な感じはある。

とはいえ、ヤノピの鍵盤は八十八鍵なのだよ。
なんぼ、向上ハイになっても、最後の音は、ドの半音前のやつなのね。
ピアノは人生の縮図なのだ。

春休み

今週来週と、イルドフランスは春休み。

学校が休みの時は、大人たちもお休みするから、俺の住んでいる通りは、いつにも増して静か。なんだか、キリコの絵の中にいるみたい。

大人たちの休みは年間五週間だから、春は一週間。

その一週間が今週に当たる。皆さん、どっかに旅行。

日本のお父さんたちは、お休みなんて、ほとんどない。

大丈夫なのかしら、ね。

ユーチューブの志村ファミリーを見て、笑いながら、少し泣いている。

で、俺は皆さんルンルトラベリング中に、黙々とお小説。

さっき、頭がパンクしそうになったので、庭の畑を耕して、風呂入って、ビール飲みながらブログ。お庭全体が散髪、すっきりになったら、花壇と畑が、やや、荒れている感じになった。なんだか気になり出した。荒れたお庭とか、畑とか花壇。まっとうな暮らし自体が荒れている感じに見えるので、あんま、好きじゃないのですよ。ピアノで荒れるのはいいんだけど、実生活はやだね。いや、まともな暮らしをしていないと、前衛ピアノなんかでけん。気が狂っちゃうって。人によるんだけど、カフカとかマグリットなんか、すげえー、まともで規則正しい暮らしをして、変なもん作ってた。こういうもんだ。マグリットなんて、町で時計代わりに使われていたみたい。毎日、同じ時間に散歩。

さっき、なんか調べものしてたら、新しい芥川賞作家の記事が出ていた。

横書き、平仮名の多用。執筆に十年。うるうるした。素晴らしい。

彼女の談話のような記事の中に、「読み捨てできないように平仮名を多用した」云々ってあった。素晴らしい。こういう作家が日本にも出てきた。

で、自分のお小説は、レベルの差は差し引いて、ひとつの対極にある。

意図的に、読み捨て、読み飛ばしされるように書いている。意味がない。

無意味も、美学まで行くと、はんぱじゃなくなんだけど、うむ、ドゥーマイベストだな。

歌えない

今朝、起き抜けに昨夜の記事を削除した。

三名の方が、読んでしまった。「酔った勢いブログ」と、きちんとしたスタンスがあれば、削除はしなかったけれども、単に酔っ払いだったので削除となった。むむ。

その酔っ払う前に、歌ビデオを作製。

見て見る見る見る見る見る、ミルファイユ。きれあきた、違う、アキレス腱、違う、秋のレタス、違う、呆れた。あまりのド

音痴い-----
。こっ、これはあ-----、ひ
っでえ-----。

マジでひでえー。声の禁治産者である。どうんちの肥溜め。

優秀なわたくし、すぐに放棄した。馬鹿だもん、本当。

でね、きゃはははははあー、む。「は」の数を勘定する。五つだ。

朗読を思い付いた。ピアノ弾きながら、自作詩を読む。やってみた。

あまりの格好よさに、ユーにチューブすることに、めきた。

でね、なんで歌えないのか？

暗いのだ、性格が。

2013.05.02 Thu

引き締まった馬鹿

書くこと、書きたいことが無限大。

たぶん、エベレストより高い。ブログは、もぉーえーという感じ。でも、書いている。どうして？

うっりゃー——、「読んでいる、読んでくれる、読んでくれている、お読み頂いている、愛読している」方がいらっしゃるからなのだ。ゼロになった日に、止める。で、いいんじゃないのと思う。

人生は長いけど、時間を共有している。ほんのわずかにしても。

こういうことは、大切にしたい。お辞儀。

今日は、午後中、畑を耕していた。土の中から、みみずが沢山出てきた。

汚染土という音が、木霊した。涙の代わりに、汗をかいた。

小説の作法ってのが、俺なりにあるんだけど、下書き、それを元に、清書。その清書を元に推敲っていうやり方です。でね、たぶん、さらに、それを推敲するかも知れない。延々と推敲、つまり、削除と加筆を繰り返す。サクラダファミリア大聖堂と一緒に。

ところで、沢山のビデオ撮りをした。ピアノと自作詩っても、即興詩ね。

これを、撮った。編集して、ユーチューブする。ね。

でね、馬鹿小説、無意味小説、ノンセンス小説を書いているって書いた。

これを、たぶん、延々と推敲し続ける。

こういう作業をしていると、引き締まった馬鹿。

半端じゃなくなる。ということなんだけど。

でね、自分の現在地が良く分かるってこと。

大したことはないのは、八万年前から知ってんだけど、

でも、こういうことを突き詰めて行くと、一人称を超える。

泣き声が、ふへえーんふへえーんって。

次のブログは、動画だけにしよう。

2013.05.05 Sun

自転車

いいよね 自転車

目線が

ちょっとだけ 高くなるし

スピードが

ちょっとだけ 徒歩より速くなる

この

ちょっと感が いいよね

2013.05.06 Mon

今日は快晴で、タンポポの綿毛が、あちらこちらに舞い上がっている。

この春らしい一日に、俺は小説原稿の第二清書を完成した。第二というのは、まだ、最終稿ではないのである。頭、爆発しそうなんだけど、だれか、代わりに書いて頂戴。

比較的、俺にとっては楽な枚数設定をしている。原稿用紙百枚っていうやつなんだけど、削除、推敲、加筆。結構、大変なのだ。逆に、この枚数って、大変な訳ね。中弛みし難いんだよね。短編の方が駱駝。でね、未来の小説家の方が、もし、これを読んでいたら、とにかく、書き続けてくんなまし、ね。ピアノの練習と一緒に、毎日毎日、書く書く。以上なのだ。でもな、生きることが先だぜ。小説書くために、俺ら生きてんじゃない。その軌跡が、小説になる時も、書いている人にはあるけど、別になんなくてもえー。小説なんぞ、暇潰しなの。生きているのに忙しい人は、やらん、こんなことは。ジェームズが小説、書くかよって！

日曜日に、娘との年間行事のひとつ。

トマト、ミニトマト、インゲン豆の植え込み、種撒きをした。

娘っても、ローラと同一年だ。十五年ぐらい、ずっと、一緒にやってきた。

収穫は、そこそこで、はっきり、スーパーで買った方が安いんだけど、

うるうるの赤トマト、筆って食べる。うるうるが口の中一杯に広がる。

スーパーで買えないよ、こういうのは。親父としての俺の軌跡の味が、ちこっと、する訳ね。

うるうる。

でね、俺の両隣の一軒先の両方に、分かる？ チビ助のいるご一家が家を購入、引越し。

春の光り、タンポポの綿毛、左側のお隣の猫、小鳥の声に混じって、チビ助どもの声。

俺の声より二オクターブ高い。ほとんどはなくて、#だ。いいよね、こういう音。

ローラという音

昨晚、なんだか、延々とローラの動画を見てしまった。

前々から、気が付いていたけど、非常に頭が良い。

勉強って意味じゃなくて、人間の空気と人間の音を聴く能力が、ずば抜けている。

初期の動画の中に、並んでいる方の一人から「この馬鹿に、ちゃんとした日本語、教えたる」という一言が出てくる。日本のテレビ、病的だ。私は、笑わない。

お笑い番組。居並ぶプロに混じって、諸々の質問。

いつも、的外れの、意外な回答。ジャズのテンションコードに非常に似ている。

同じ音階の、凄く上の方の音。9-11-13音。

見てくれ、言動、ボディーアクション。

ローラは、ロシアの血とバングラデシュの血と日本の血、昔、蔑称として呼ばれた混血。

この血のミックスから、彼女の今が出来たと思う。日本という国で、選択肢は、あまり、多くなかったと推測している。

2013.05.09 Thu

デロリンマン

今週、フランスは日本のゴールデンウィークになった。

祝祭日が年によってズレるものがあるって、こういう風になった。

休みの日が、水木と週の真ん中。金曜日、ポン、日本語だと休みの橋渡しってのを、皆、やるから、水から日までお休み。イルドフランスは、先週と今週、学校も休みだから、先週、大人たちは有給休暇を取って、今週は金休みとやっているはず。フレンチライフな訳。だれも、会社への帰属意識なんてもんはない。自営業は別です。俺も、そんなもんはないのに、二十四年間、土日も、家で電話だメールだやっていた。医者に酒、タバコを止めろとしつこく言われたので、一番、体に悪い会社を辞めた。

毎日が休日といえはいえるけれど、変なもんで、世間が休みの時は、こちらも休もうとする。

で、小説の第二稿は、一旦、脳内初期化、で、明日から、たぶん、最終稿の執筆。

で、世間が休みの時に、なにをするのか、自分で、自分を観察していると、やはり、いつも通り。

料理、大工道具店内のお散歩、庭弄り。

それから、ピアノの練習。

やはり、これで、俺は成り立っている訳。

2013.05.10 Fri

なにも書きたくない

と書いたけれど、もちろん、嘘で、一日中、書いている。
病的な感じさえ漂っている。というのも半分、本当だけど、
なにせ、すみません、ピアノ弾きだから、脳爆しそうになると、ヤノピにゲルにする。

ピアノは逃避の道具なのか？

うん、芸術なんてもんは、すべて、その蛍光灯の傾向が蛍光している。

逃避と頭皮は、違う。

ピアノに頭皮できれば、幸いなんだけど、ゴトシだ。
仕事に頭皮はいらない。

むむむむむ、また、ドラゴンへの道の改訂版を昨日から始めた。

磯がC。分からん、相変わらず、裕ちゃんの言語は。

音と言葉、どっちが裂きなの！

でね、こぼとはよおー、意味、あんじゃん。
音も、あんだけど、ワカンネえー。

2013.05.11 Sat

ゲイジュツチャンジの一日

朝、起きる。

「お気に入り登録」を、かつてしていたブロガーさんの記事を読みたい誘惑に打ち勝ち、プリントしてあった、お小説最終原稿に赤入れをする。誤字脱字、ほんの少し推敲。終了し、再プリント。右上にパンチで穴あけ。靴紐のようなもので閉じる。でけた。昼食をとり、郵便局へ行く。日本国を代表する出版社のひとつへ投函する。帰りに、煙草を買い、冷凍サーモン、イカゲソ、サバを購入する。

帰宅。ジャズクラブから電話。

裕イサオナイトをやってくれ、構成はお任せ。了解する。

メールを開くと、どばあーと、仲間のコンサート案内。

俺は、律儀だし、客席で聴くの、好きなので、今週末は、行くことにする。

まっ、もっ、小説もでけたし、寛ぎの一時でもと二分ぐらい考えて、結局、ピアノの裕イサオナイトのための、作曲に勤しむ。勤しみながら、リヤリヤリヤ、次の小説のことを考え始め、弾きながらメモを取る。はっきり、病気だ、こういうの。

一応、俺なりの年間計画というのがあって、あと、二週間で計画表がちゃらなんだけど、クリアーした。ユーチューブに裕イサオチャンネルを作る。ブログを開設する。ニューユニットで、びしばしコンサートする。これは、すべて、達成したぜって。帰郷。もっとも重かった課題も、なにもクリアーはしてないけど、達成して、今後が決まった。で、なんかの勢いで、小説まで、書いてしまった。

兎にも角にも、なんだか、ひたすら忙しい。

貧乏賞。やったあーと！

2013.05.14 Tue

こういうのを「夢」って言うのかしら？

でも、オジサンに実現できない夢なんてねえーよって。

昨日、お小説を脱稿したら、こっちも脱稿してしまった。

今日は、気抜けな間抜けを一日している。

ぼーーと、掃除、料理、風呂、ピアノとぼーーとして、いない。

全然、寛ぎの一時なんちゅうもんは、働き者系の俺には来ないの、えーんえーん。

小雨で良かったよ、庭に行けないのです。

などと、言いながら、実は、お小説の新作の下書きをしてしまった。

むっははは、内容は言わないよ。なんてことはない。そんなにもったいぶる話なんてない。

昨日、脱稿したやつは、なんで、俺はピアノと一体化したのかという考察のような一人称独白ノンサンス小説。精一杯、無意味を試してみた。疲れた。へろへろのヨジレマイオス。

でね、新作は、なんとなくイタロ カルビーノの影響かも知れん、架空の家の物語。

まっ、ありえないようなあるような家ってわけです。

元々、俺は美術家のせいもあるし、俺の娘が建築やっているせいもあるかも。

脳内に、架空の建物を建てるわけ。理科系だから、たまらんのだよ、こういうの。

と、お小説付いているわたくしであります、ピアノも超絶技巧その二へにじり寄っておる。

これはね、ゴトシだもんな。

でね、ふたつのサイトに登録している頃には書かなかったけど、

でね、実は、でね、ずっと物件を探しているのです。物件？

はい、畑のド真ん中の石造りの納屋。はい、前衛シアターを作るのです。

文学、音楽、美術、尖がって発表の場のない、尖がった未来の芸術家のために、俺は作りたいたのだ。でね、お金はないから、はい、ド田舎になっちゃうわけです。しゃーないわい。

脳挫傷の思い込み

皆さん、今晚は。
お元気でいらっしゃいますか？

さっき、ピアノの練習してたら、ピアノ右上に南西からの光りが差し込んできた。
で、高音部の方がキラキラしていた。
で、ずっと、弾き続けていたのですが、「ありゃあ—————」！

ありゃ、おかしいな、最後の音ってシだったんだけどなあー。
いつから思い込んでたんだろう。たぶん、おっさんになってからだと思うんだけど、違った。

でね、俺の頭の中では、一番低い音は、ラ、裸=生で、一番上がシ=死になってたのです。
一番上の音、ドだった。これで、分かったよ、生まれて死んでド=土に帰るってピアノはなってたんだ。

でね、ラシドが一番、鍵盤の数が多いってことだよな。
そうか、何回も生まれ変われるってことだよな。
うん、生きている内は、ね。

そうそう、最高音のドだけ、黒鍵が重なってないのです。つるつるのマージャンパイみたいな鍵盤で、不思議だ。なんで、今頃、こんなことに驚いているのだろう。

2013.05.16 Thu

ゴムばんは。

ユーチューブに「雑草ZAT SOO」っていう、即興詩、声だけっての入れたんだけど、なんでか、添付できない。声ブログなんだけど、できないのです。大体、5日前からPCの調子が悪く、昨晚から通りすがりの息子に、さっき、直してもらったのだ。「遠い空」、俺のブログと呼応している声、ピアノの動画。こっちは、ブログに添付する気にならない。ご興味ある方は、ユーチューブの方にて、ご覧下さいまし。

本当に、今年のフランスは天気が悪くて、寒い。小雨小雨の毎日で、フランス国民、みな、鬱病しています。俺も風邪だし、PC調子悪い。でも、暖房は、止めた。もう、五月も末だよ。

建築小説、気に入ってやりだしたら、壁の厚みだ、土地の広さだと、娘と協議しないといけなくなってしまう。これはこれで、楽しいのだけれど、設計図作って、などなどと、小説の本意とは、相当違っちゃうので、中止。でね、一作はできてしまったのだけれど、結局、なにを書きたいのか。りやりりりゃあ——ん、なんかね、恒常的な至福感みたいなものなのです。難しい歯ナシはやだし、生徒氏も屋だし、いわゆる、なに、その、所謂揺る揺るの、それらしき、その者もヤダな。きよははははははあ——、音言葉になっちゃうのね。あのね、なんか、俺が、凄いことしている訳じゃねえ——んだけど、こういう心境。とさりの境地なのだなあ。

ほれっ、「辛気臭くない文学」、これを考えとる訳なのですだす。

読物でも、お笑いでも、辛気臭い生だの死だの人間だの、いらん、そんなもの。

俺、十二歳から余生してんだぜって！

2013.05.21 Tue

長過ぎる冬

今日も、どんより小雨肌寒い。

もおー、エエ加減にしてってな感じ。まだ、冬だよ、まったく。

どんより空を見ていると、一瞬、閉所恐怖症になりそうになる。

パリ症候群のオネイさんたちには、きついだろな、こういう天気。

俺は比較的、いつも暗くて明るい。感情の変化が、あんまない。

根暗も筋金入りだと、結構、毎日、明るいのである。修練の賜物ってやつだね。

なんだか、ラブコメディーライトノベルなんか書いちゃうかしら、なんて思うけど、駄目なのだな、これが。俺には、ストーリーテラーの才が、まるっきりない。小説家じゃないわけね。戯言家とか、そんな感じに近い。作家？ 見ようによっては、そうなのかも知れない。こりゃー、どうにもならんのです。ないものはない。辻さんみたいな才はないのだ。

あんま天気悪いから、コウダクミネエーの動画を見捲くった。時々、ちょっと、涙が零れた。いいよなあー、あの元気と、京都弁と、おばちゃんぽいところが。ソウルフルでジャジィーでいかした人だ。たぶん、そこが、「嫌い」って人も多い気もする。下町のチャーミングってやつで、駄目な人も多いいんじゃないの？ 前に書いたけど、パリのバンリュウのちょっとやばい地区にいるネエーちゃんに、本当に感じが似ている。俺は、このブルース系をこよなく愛しておる。ブスっぽい美女。身に付いたエロなエレガンス。で、身の丈感。このまんまスターへ。素晴らしい。気取りのなさが、貧乏臭くないのだ。なんか、稀な人物という気もしている。

チャオー。

2013.05.22 Wed

脳拘束

っても、なんの意味もないようで、ある。

脳が自由ではない人っても、病気のことではなくて、正常に機能しているのに、思い込みだの、なんたらかんたらのなになにだので、拘束されているってこと。異常、おしまい。

でね、ブログ熱は冷めてしまったよ。お小説に脳移行しちゃったから、冷めてしまった。

復帰っても、だぁ—————れも、読んでないお小説、第二弾で頭が一杯なのだ。

一回、こういう脳内プラモに火が付くとね、もう、カップエビせん。

でも、一回、脱稿すると、やはり脳脱稿する。もぬけの殻の脱稿ちゃんになるし、天気悪いし、ちょっと、鬱になるけんちょも、浮き沈みはある、当然。パソコンの調子も悪いしよおー。

むっはははははあー、こういう時は、ピアノ超絶技巧の更に超絶とかに挑戦する。出来ない。りゃあ—————、などど言いながら、やる。ちょっと、出来る。盛り上がる。下手で良かったよ、こうやって、永久練習してられる。脳も、馬鹿状態でいられる。

その第二弾の見取り図が、今日、出来た。

平和なオヤジだよな、ったく。

マヒナスターと言うの、ね。

2013.05.24 Fri

トマト

これって、ミュージシャン用語になり難い。

音として完成し過ぎだ。マトト、トトマ。トトマの方が、可愛らしい。トって音、終止形的なのだね。音のリズムとして。

でね、今年もイルドフランス地方は、トトマ、駄目そう。この天気では、まあ一、やばい。昨年も、全滅したんだけど、俺の年上の義理の弟。定年したから六十。この、ガーデニングのプロが、唯一、トトマを収穫。でも、やはり、みんなで、全然、甘くないねえーって。じゃがいもも、いまいももなのだ。ジャズ屋に「いも」、禁句なので、要注意のこと。

寒い寒い、懐も。五月末なのに、最高気温が十二度だよ。なんのために、税金払っているの？ 関係ねえー。だからね、昨年も今年も、ワインは駄目。外れ年だよ、俺と一緒に。えっ？

あんま寒いんで、通りすがりの息子とプールに行った。矛盾してねえーのだった。

室温二十二度。プールの方が、暖かかったのだからだね。

一年ぶりに泳いで、脳空。いいねえー、プール。体重がなくなっちゃうからね。

当然、脳は元々にしても、体が、軽くなる。

軽いオヤジ。いかしてません？

子供たちがちびの頃に、サントという町、シャラントマリタイム県、ここに、覚えてネエー、二週間ぐらい賃貸の小さな家に居た。ぼろぼろのヤノピがサロンにあった。鍵盤、へめらも、調律、もへれら。でね、これを、毎日、弾いてみた。なんとなく、今、かんがえっと、ピアニスト誕生の布石になってたんじゃって。でね、それはいいんだけど、庭になってたトトマ。真っ赤かで、大家のお婆ちゃんが、食べきれないから、箸って食べてねって、言ったから、で、箸った。あんなにトトマが上手いものだなんて、そんな時まで、知らなかったのだ、俺家族は。

2013.05.25 Sat

これでね、小説を書き始めた。

で、不思議なんだけど、ブログは、こうやって、くなくんなに書いちゃうでしょ。

でも、小説は、腰を据えないと書けない。やっぱさ、晴れ姿なんだろうね。

でね、その晴れ姿を払拭して、このお話文体で、気楽に書けんのかってやっている。

やはり、難しいのだ。たぶん、これ読んでいるブロガーさんたちも、皆さん、小説を書いているとか、書いたことがあるとか、そういう人が大半のはず。で、やっぱ、俺と一緒に、ブログ書くようにはいかなあーと思っているはずですよ。でさあー、小説って、晴れ姿なわけ？

文学しまあー—————すとか構えないとでけんのか？ うなことねえーっておもっちゃうわけ。で、やってくんなましなだけんちよも、やっぱ、構える。やっぱ、俺、古いんだろうな。なんか、文学しまあー—————すって、直立して笑わない。記念写真になっちゃう。うなことねえーと思うけんちよも、なかなかでけん。そういう意味では、ブログって、しみじみ、ジミーにいいと思うよ。なんか、気楽じゃん。で、大体、俺は絶対に、世間様に抵触することは書かん。なんでかいうと、抵触したくない。こっちがよ。興味ねえーの。

でね、りゃりゃりゃー——、昨晚から、俺にしては珍しく関西漫才、中川家に嵌っている。

俺、あまり、関西系好きじゃない。やかましくて。たけしさん、サマアーズ、有吉さんとか、やっぱ、東北のカッペ、俺のことな、は好きなんだよ。上野駅が、やっぱ好きなんだよ。大体、成田行くときも、上野じゃん。フランスに帰るときも、とにかく、永遠に俺には上野駅じゃん、人生の分岐点ってわけじゃん。で、中川家、いいねえー——、関西を逆にパロっているし、大阪のおっちゃん、丸出しコント。すんばらしい。客観関西だな。この距離感がいい。

俺、アンチ関西じゃないよ。大体、俺の師匠は神戸だし、大親友のドラマーは、大阪の河内(こう書くのかな?)だ。ただ、美術学校に、ちゃきちゃき大阪の浪人がいて、俺がとうほぐ訛りの、そーずんごでゲイジュツ論をしてたら、「おまあー、アホかいなあー」。当時、マジだったから、このリズムを俺は、受け付けなかった。カッとなった。てなことがあった。キャ。

トーナリティー

日本語だと、調性。おフランスだと、トーナリテなんだけど、人間にもある、こういうのが。

でね、俺は、基本的に太鼓系としかやらない。
メロディー楽器とは、あまり、やりたくない。
とりわけ、ベースは、文字通りベースだから調性に制限が出る。

うで、あのね、こんなもんぶち壊して、なにが悪いんじゃないとフリージャズ屋は、ずっと、考えてきたわけね。それで、ほとんど、自分の方が壊れたわけ。きゃははははは。

たとえば、五人ぐらいで調性無視で、なんかやる、で、めちゃくちゃなんだけど、どっかで、なんか、歩み寄り、仲間意識、のりのり、とか、やっている内に出てくる。これって、不思議そう、うで、そうでもない。

世間に、そっくりじゃん。

教訓ブログじゃねえーから、終わんないよ、へっ。

でね、意外とめちゃくちゃやっている内に、なんか、その、いわゆる、音楽の調性とは違う調性が出てくる。そういうこと。分かってもらえないかねえー、高尚過ぎてよおー。ってのは、嘘。

でね、とりあえず、みなさん、家で、やってみてよ。はい、お父さん、入れ歯カスタネット、お母さん、踊り、長男、そこいら中叩く、娘、点目とか、めちゃくちゃのように、バンドになるのだ。む、バンドってよおー、ちゃんと訳すと「群れ」だよ。

りゃ、主旨がなんだっけ、ローラになるけど、えーとおー、めちゃめちゃでも、意外と、合うよおー、って言いたかったような、結局、バンドなんかねえーべって言いたかったのか、「忘れちゃったあー！」。

どうだっ！

ジャズメンの基本要素

うんでね、業界用語、ちりばめで書く。翻訳、めどう。

裕イサオナイトも近付いてるから、脳がミュージック。You脳？

超絶技巧のブロックコードは、結構、血肉化したんだけど、もっと、高度なやつを、今、体に叩き込んでいる。首から肩に掛けて、肉筋へめらも。痛いよおー。板太陽用って！

でね、俺はマジ人間だから、手抜きをしないのら。極限まで、いかないと気が済まない。

カミサンに、すまない。本当。馬鹿なのだ。

でだ、このズウージャのホキンはよおー、

ケーサ、バタコ、ナオン、スリク、ピースド、なわけ。

でね、ミナハイとかスリクは俺はやらん。ケーサ依存症にプラスは、いくらなんでもイクラだ。

でね、三つはクリアーしねえーと、む、「いい音が出ない」と、俺らの暗い世界ではなっちよる

。

ケーサ 合格 しかし、真性ではない。まだ、甘ちゃん

バタコ 合格 ヘビーじゃないけど、まだ、吸っている

ナオン 分かんないわ。真師匠とはメールのやり取りは、すべて、女言葉なの。なんなんだよって、君たちっ！

でね、三つクリアーしているような、していないような、やや、怪重久弥。

加点は、ピースドしか、ねえー。

これは、俺の売りだから、ふっふふふふ、衰えないよって！

「世界一、早い、ピアニスト」、これがね、元からの俺のセールスポイントだったのです。

板太陽用おー—————、肩。

うんで、意味、あんのかいなあー、ってなる。

スポーツじゃねえーよって、なる。

けど、分かんないわ、男の子の気持ちは。ギョ。冗談冗談上段の構え、ね。

大体、昔の小説家って、女性がしゃべると、なんでも、「わ」付けちゃう。

馬鹿かって、今時。さすが、いないよね？

2013.05.30 Thu

ジャズピアノにも、教則本は、当然、ある。物凄い数。

アメリカ人の功績だと思う。ガイキチの訳の分からん音を体系化した。偉い。体力がある。俺の家にも、分厚いのが何冊かある。初期の頃は、それを鵜呑みってやつだった。で、今は、自分で自主トレメニューを作る、ように、なった。進歩してるのだろう、そういう意味では。フリージャズの教則本って、あるのかしら、リャ？ 分からん。アメリカ人は作るような気もする。

でね、自主トレメニューを作る。型を体に覚えこませます。空手の練習と一緒に。延々とやる。延々と、本当にやる。型、マニュアルってやつね。延々とやる。半分、寝てても、手が勝手に動くまでやる。で、出来るようになる。で、よっしゃーって、ジャズの場合はならない。

俺の師匠の沖至。「イサオ、家で練習したことは、本番では、すべて、忘れろ」と言われる。はっきり、クラシック音楽の練習と根本的に違うのである。なんのために練習しているのか？ ってなる。でも、する。

「ナオンの口説き方」「ビーコの仕方」「ドモコの作り方」、なんでも、マニュアル化出来るし、いっぱいある。で、ナオンの口説き方を、アホのように練習する。延々とやる。本番では、役に立たない。と、俺達は、知っている。相手がいるってことね。

おりゃー、マニュアルは「自分で作る」という結論なのであったのたっただったたあー、よお。ハイ、ハイ。

暴力力

もちろん、私は、暴力を推奨したりはしない。
たけしさんが、騒動を起こした後の記者会見の映像を見た。
謝罪会見ではない。非常に暴力的な顔をしていた。

随分前に、「俺はギンギラギンの暴力ピアニストだ」と記事に書いたら、
えっ、そうなんですか、裕さんって、というコメントを頂いたことがある。
内的な意味では、その通りなのですが、ちょっと難しい、説明が。

私は、胸倉を捕まれたり、襲われたり、パンチを食らったり、回し蹴りが顔の横に炸裂したり、
書類を顔目掛けて投げ付けられたり、と、こういうことは複数回ある。考えてみたら、私自身が
、それをしたことはない。会社のデスクをひっくり返した、ホッチキスを壁に投げた、へらへら
しているお客さんのテーブルをひっくり返した、ジャズクラブのカウンターを飛び越えて、ラジ
オを消した、ジャズクラブのテーブルを全部ひっくり返して帰った、こういうことは、たまに、
やった。けど、人を殴ったことはない。こちらから、喧嘩を売ったこともない。そういう意味
では、温厚ではあるけど、今時の草食系ではない。

私自身は温厚である。私自身への危害は、あまり、怒らない。
ただし、これが、私ではなく、家族へ向かうと、ターミネーターになる。
これが、バンマス、バンドマスターというものなのだと理解している。

日本語だと、家長というやつです。
オスは、暴力力の消耗品。同じことを村上龍さんはタイトルに使っている。
フリージャズ屋なんて、最高の消耗品です。

2013.06.01 Sat

声文

昨日から、やっと、春めいた。

そりゃそうだ、六月だよ、本当。

今日は、カミサンと午後中、ピサロの描いた庭の探索という、ここ、小さな町のお祭りをパーティシペートしていたのだ。変な日本語だ。

地図片手に、へこへこと、そのお庭巡り。

結構な人手なのに、お店は日曜だから、すべて、閉まっている。

出店もない。このフランス人の商売気のなさは、本当に素晴らしいと思う。

こっちも、ウォーキングシューズにリュック。水。これだけだから、出費ゼロ。

お金の掛からない国なのだ。お金は、ぎょ、観光客が持って来る。働き蜂さんたちが。

ちょっと、問題発言かもね。この国は、女王蜂様なのか？

はい、やっと、アップできた。パソコンの調子が今一なのです。

わたくしめの、イサオ節を、声にしたやつ。

文章が先なのか、声が先なのか、わたくしめにも分からんのです。

ピアノの練習してたら、急に、即興詩みたいのができた。

で、やはり、俺のブログ文体そのまま、だ、本当。

2013.06.03 Mon

本日、6月4日2013年、フランス、イルドフランス地方は、久しぶりの超快晴。

俺は、これからモンマルトルのサクレクール寺院の裏側のジャズクラブへゴトシに行くのだ。佐藤真師匠のドラムスと一緒に暴れてくる。これ、ビデオ撮りの予定なので、後日、ユーチューブにてご覧頂ける、はずですだすのだ。考えたら、パリライブ、および、真師匠との動画は作っていない。ご期待の程っ！ ドラムスと絡むから、ピアノソロとは、相当に違うのですある。

とはいえ、あんま、お天気良くて、逆に全然ハイにならない。

それでなくとも、なんか年間スケジュールをクリアしたせい、その達成感は虚脱感と表裏一体だから、トサリの境地を通り越して、虚脱の境地になっている。珍しくセカセカが停止し、ボーとしている。仕方がないので、やや、今日は控えめになどど、三秒前まで思っていたのに、ベルギーのレフビールを出掛ける前に飲み出して、おまけに、これを書き出した。リャ！

などと言いながら、本番でハイにならないことは絶対はないのであるのだ。

ゴトシだもん、うな、乗らないジャズなんかお客様へお聞かせでけんのである。

真面目なのだ、俺は。家での練習の最低三倍ぐらいは良くないと、お金、頂けないのです。

んで、行って、真師匠のドラムセットをセットして近所の和食屋さんで、赤ワイン一本を二人で空けて、天井定食を食べて、ムラムラ感が込み上げた頃にジャズクラブに戻り、炸裂する。というゴトシがわたくしめの仕事なのでした。気楽なオヤジかなあー？

でね、面白いのは、うちの息子と娘が、俺、パパのガイキチピアノのファンなのだ。

あんま立派な親父じゃねえーけど、やあーな親父でもないってことかなあー？

へっ。

ブロックコードの超スピードで下って来るテクニックは血肉化したのだけど、

今は、それに、さらにブルーノートを絡ませて、さらにジャジーにしたやつを混ぜ込んで、ただし、スピードはそのまま、という練習途上、途上のまんまで、今晚はやるしかねえーけど、まっ、その日、その時、その一瞬に出来るベストをご覧に入れるってことなのです。

まっ、絶対に、これでよしなんちゅうジャズの境地には達しないから、その一瞬に賭けるっ。

決まったっ、格好いいっ！

うるうるうる。

2013.06.05 Wed

なんか小説のタイトルみたいなタイトルを付けてしまった。

パソコンの調子が超絶的に悪い。メールを確認、返信まで、これまた超絶的な時間が掛かってしまった。6月に入り、やっと、こちらも春らしくなってきた、先週は、ずっと快晴。木、金、土と、真夏とはいわないけれど、フランスでは夏日になった。最高気温27℃。それはいいのだけれど、問題は木曜日の夕方。5時半。いつものようにサイレントピアノ、ヘッドホーンで超絶技巧その二段階目の練習をしていた。ヘッドホーン越しに、物凄い雷の音。展望台サロンから、近付いてくる真っ黒い雲が見える。あわてて階下の庭へ。長椅子、サボテン、軒先の洗濯物を片付ける。やれやれとサロンに戻る。ほぼ、5分後に豪雨と雷。その時からインターネットが作動しなくなった。郊外列車もストップ。週末にパリの下宿から帰ってきた通りすがりの息子がFreeBoxと電話でやり取り。原因不明で現在調査中とのこと。昨晚の深夜に息子が、一応、遅いけど回復との公式発表。今朝、起床後、メール等の確認。超絶的にパソコンが遅い。クリックしてから、居眠りしそうになるぐらいに遅い。開いたと思いきや、今度は、返信が書けない。午前中一杯掛かってしまった。相変わらず、ユーチューブは開けない。ブロガーだけ、辛うじて開いたので、今、これを書き出したのだけれど、上部にピンク色のエラーの表示。途中でパーになりそう。そう、そもそも、雷が轟いた時に、私は、ユーチューブにパリライブパート1、32分をアップしていたのである。3時間ぐらいアップロードしていて、結局、ちゃらになってしまった。

ライブの音は、きちんと取れていたけれど、なにせ、ジャズクラブのステージ左の袖にピアノ。ピアニストだけ、ピアノの裏側の通路にいる。ステージにいるのは真師匠のみ。その通路手前に太い柱。通路だから、ピアニストにスポットライトは当たっていない。結局、娘、および、娘の仲間たちが色々とやってくれたけれど、ステージにいる真師匠の映像と、薄暗い廊下にいる私の映像。二人同時には、どのアングルからも不可能で、あんまり、私の部分が薄暗いので、カラーリング加工をしたら、真師匠の映像は、映像として更に格好よくなったけど、私は黒の中に埋没と相成った。どうにもできないので、このまんま、アップしてしまいます。パート1とパート2を二回に分けて、パソコンの調子が直ったら入れます。

そうそう、そんなことを書きたかったんじゃないなくて、なんか、小説一本を脱稿して、「あぁーあ、また、お蔵入りになんたろうなぁー」と、ふと、思うと、「サハラ砂漠の三文文士トラウマ」が、また、むらむらと蘇ってきて、この読者ゼロ、渾身の一作、でも、読者ゼロ。この長年の悪循環よ、再びっ！ と思い出したら、虚脱した。そのトラウマと戦うためにブログを始めたことを、またまた思い出したのです。と、私は、あまり気持ちの浮き沈みとか、方向性を見失うとかは、あまりない方なのだけれど、うな、また、本気になってブログ、書こうかしらぁー！ なんて、昨日、突然、思ってしまったりました。なんだか、小説書くの、急激に嫌になった。

と、なんだかんだ言っても、じわりじわりとピアノの技術は、ここ近々、確実にアップしていて、お陰で、上半身はバキバキの大ピアニスト養成ギブス状態なのです。と、やはり、ピアノは私なのだ、ということでした。ピアノの周りで生きているのです。ね。平和なオヤジだっ！

2013.06.10 Mon

写文

言葉 以外の もの
こういう こと

裕イサオ

2013.06.16 Sun

静かな日々

五月初頭に種蒔きをしたインゲンが、五月の長雨で全滅してしまった。
日中の最高気温十二度。毎日のように雨。これでは芽が出ない。
再度、畑を耕し、六月に入ってから、やり直した。

こちらはしっかりと土を持ち上げ、小さな葉っぱが覗き始めた。
長雨で、やや萎れ掛けていたトマトの苗も元気を取り戻した。
さっき、カミサンと、私の家の建つ丘の下に、貸し畑があるので、散歩を兼ねて、
セミプロのおじさんたちの作品の偵察に行ってきた。
やはり、私の素人畑だけではなく、どの貸し畑のトマトも背が伸びていない。
因みに、去年は、全滅してしまったのだ。プロの農家以外は。
インゲンの葉も見当たらない。私の素人畑も、なんとか、セミプロのおじさんたちの畑状態を保っている。少し、安心する。

分からない、一週間前ぐらいに、時間という記事をアップして、翌朝、削除した。
読み返して、なんとなく妙なイライラ感が行間に感じられた。
昨日、親馬鹿動画を勢い付いてブログに添付してしまった。
一日、箒って動画作成をされていて、夜に、二本目が完成。調子の悪いパソコンでやっているの
で、達成感も一入で、アップしてしまった。今朝、起きて削除しようとしたら、随分とすでに再生
されていて、諦めた。

ヘンリ ミラーに「クリシーの静かな日々」という小説がある。
でも、本当に小説、文体自体が静かな作品は「マルーシの巨像」。「北回帰線」は、文体自体が
ハレーションを起こしていて、フリージャズの文章化に近い。

分からない、私は実に静かで平和な暮らしをしているというのに、なにか妙なイライラ感に包ま
れている。少し、原因を考えてみたら、どうも、この小説の執筆、これが原因と思われる。
この籠り感、世間との断絶感みたいなものが、静かな日々を圧迫しているように思われる。

元々、そういう性質のものなのかも知れない。
やはり、音楽は、もっとずっと健康かも、とも考えている。
そう、一言で、やはり「暗い営為」なんだと思う。耐え切れるかな？

そもそも、なんでそんなものに耐えているのか、大きな疑問符が立ち上がるけれど、
ちょっと、言葉で説明し難いものが、どこかに、我々？ と言ってもいいのかしら、
あるのだろう。

2013.06.16 Sun

「あのよおー、俺、ヤノピなんだけどよおー、マコトとピアノトリオ、やりてえーんだ、んで、ベースをよおー、探してんだぜ」

「あーー、是非、参加させて下さい」

流暢なフランス語だ。

「リヤリヤリヤ、なんだよ、フランス語、話せんのかよ、でね、なんかよ、メローでスローでジーンとくるフリージャズのピアノトリオっていう矛盾しているようなしていないバンド、やりてえーわけ」

「素晴らしい、是非」

あっさりと決まった。

七月にお披露目だっ！

裕イサオ、ピアノ。佐藤真、ドラムス。ヨラム ロシリオ、ウッドベース。

えっ、小説の続き？

知るかって、そんなもん、休筆休筆。

ルンルンルンルン、ミュージックミュージックっ！

2013.06.17 Mon

心のバランス

今、FreeBoxの技術者が帰った。

やはり、六月六日の雷雨でボックスがいかれてしまったことが判明した。

私の住む町のFreeのオペレーションセンターが、雷でダメージを受けて、一部の地区は、今以てインターネットが機能していないとのこと。私の地区は、超絶的に遅いけれど、最小限度は機能している。でも、ユーチューブの動画の視聴が難しい現状。

ピアノ、コンサート、動画の作成、ブログ書き、ユーチューブでお笑いの視聴。

この生活リズムのお笑いが欠落。それと、このリズムとそぐわない小説、文学。

六月初めからの虚脱と不機嫌の原因も、ついでに判明した。ブログ書きへも多大なる影響が始め、閉鎖も考えていたけれど、一昨日の両師匠の演奏、および、その後の打ち上げでお話。妙な元気が戻ってきた。やはり、心のバランスを取る私なりのサイクルがあるわけで、今晚も、沖至師匠と良く知っているテナーサクソとベースのトリオを聴きに行くことにする。かなり、前衛的な演奏になるはずだ。心のエネルギーを充電しに、ジャズクラブへ。スーパーマンのクリスタルの国と一緒にいる。この薄暗い空間の蠢きが、クリスタルなわけだ。

この心のリズムと調性の上に、家事だ、庭弄りだと平穏な日常が成り立つ。

で、もちろん、ずっと平穏なのに、やはり、微妙な均衡が崩れていた。心の不協和音。

で、この不協和音である小説は、一旦、忘れることにする。むわあ——と、意欲が湧くまで、素知らぬ顔を決め込む。そうなんです、これって、没頭せんとでけんです。一ヵ月半、没頭していたから、小休止ですね。この没頭を無理矢理、引き伸ばそうとしたのがいけなかったのだ。ルンルン、ミュージックうー。

でも、心のバランスを保とうと、なぜか、ピアノがぐう——んと上達した。

不思議不思議。左手の訓練をすると、右手が滑らかになるのと一緒かも。

インターネットの回線が直ったら、またまた、ブログ書きを始めようと思い、始めるもなにも、もともと、止めてはいないけれど、また、ちょっと、ちゃんと、というわけでもないんですけど、心のバランスを取るために、再度、鎮守の森を通り、頬被りして、そそそそそそと、村に帰りました。やはり、毎日、ずっと拝読しているブロガーさんたちが、皆いるから、お気に入り登録、便利です。さっき、全部、再登録致しましたですます。で、なんか、気合入れて書くのかというわけでは全然なくて、初心に帰る、ずばり、コンサートだ動画のプロモートといった感じなのです。あっ、そうだ、再登録した後、りゃ、ランキング不参加で良かったよな——と思ったけど、どっちでもいいんだから、そのままにしましたですますたい。

2013.06.18 Tue

パソコンが、超絶的に遅い。近日中に、解決するはずなのだけれど、
なんだか、ここ近々、二人の人物が気になってしょうがない。
いわゆる、昔、「嵌っていた人物」が、なんかの拍子、きっかけで蘇る。

池田満寿夫

先生と、なんだか呼ばせない雰囲気
凄く軽い。多芸。私のような多芸は無芸ではなく、多芸は多芸の大先輩
ふと、海外に出る布石のひとつに、池田満寿夫さんがいたことを思い出す

森敦

この私のリズムを崩している「文学」と呼ばれるもの
元文学青年の私の根幹に、森さんの「月山」が君臨していることを、
自分で小説を書きながら、ひしひしと感じた。この呪縛が不機嫌の元なのである

どうしてなのだろう、師匠とか先生とか、この二人は呼ばせてくれない。
私の呼称選択メカニズムの外にいる巨人なのだと思う。

ゆっくり、考察、書きたいと思っている。

大雨注意報

すでに、何度か記事に書いた。今年のフランスは雷雨が非常に多い。

そのせいで、インターネットも通常通り機能していない。

昨晚から、とうとう「ビジランス オランジュ」。今回は大雨注意報がテレビで流れた。

一部の地域では、すでに洪水が始まり、ブルターニュ地方でも家屋破損の被害が出始めている。とりわけ、ドイツ国境アルザス地方は、レベル3。四段階の3だから、かなりの雨量が予想される。このままだと、昨年同様、ぷるぷるした真っ赤なトマトの収穫は危うい。

似たような年が、九十年代半ばにあった。丁度、私は処女出版になった自伝小説を執筆していて、その中に、豪雨と洪水の記述が頻繁に現れるから、よく覚えている。

前置きが、長くなってしまった。さきほど、ウィキペディアの「池田満寿夫」をプリントし、読んで見た。忘れ掛けていた諸々の記憶が、少しずつ蘇ってきた。もちろん、単なるお気楽ブログであるので、池田論とか評伝ではない。

池田満寿夫を知ったのは、高校生の時だ。本当に、突然のように思い出した。

福島県の男子高校に通って、授業中は、ずっと文庫本を読んで、時折、窓の外を眺めていた頃だ。先生方も、そのせいで私のことを、今以て、よく覚えていらっしゃる。「本当に、OO君は、いつも、窓の外を見ていたな」と。

当時、画家、または、小説家、または、とりわけ詩人になろうと思っていた。

そんな高校生に、「池田満寿夫」は大スターに映った。世界を駆け巡る国際的な版画家、詩を書き、評論を書きと、このマルチぶり。もう、あまりの格好良さに、憧れの人になった。美術出版社から「池田満寿夫画集」が、その頃出版されて、たぶん、芥川賞受賞記念だったのだと思う。実は、それは、今でも、私の家の半地下室のダンボール箱の中にある。実に、お洒落な画集で、池田さんご自身の写真、ニューヨーク郊外のご自宅、当時、同居なさっていた女性の写真と、ファン悶絶必至の構成になっていた。実際、悶絶していたのだ。もう、本当にミーハー状態で、格好いいなあー、俺も、いつかニューヨークへ行くぞと本気で思っていた。結局、私自身も美術の道へ進むことになった。

美術家として、私自身が池田作品からの影響を受けたことはない。

これは、なんの他意もなく、作風および美術感が、あまりに違うためである。

でも、池田作品を私は大変愛しているし、とりわけ、池田さんご本人への畏敬の念は、今以て絶大である。ほとんどの著作は、拝読させて頂いたし、晩年の陶芸作品以外は、作品群も、ほとんど、なんらかの形で拝見させて頂いた。池田さんの著作の中で、もっとも感銘を受けた一行がある。

いいではないか、二流で。二流には軽やかさがある。

このままではないはずだけれど、こういった内容だった。

私が感銘を受けたのは、もちろん、この内容自体もあるけれど、私からすれば大スターである池田さんご本人が、ご自身を「二流」と言い放っていることである。このような境地に、そうそうなれるものではないし、メガロマンである芸術家という人種の口から、簡単には出ない言葉である。

私が、二十一歳で母国を後にした布石に、池田さんがいることは間違いない。

2013.06.20 Thu

若人へ

なんか、突然、「わこうど」っていう言葉を思い出した。ちょっと、ワコールみたい。
でね、俺の行ってた小学校、校庭は土だった。かなり広かった。今回の日本滞在時に、寄りたかったのだけれど、暇人なのに多忙という、この芸能人的矛盾時間のせいで、行けなかった。

うん、でかい樺の木があって、その下に、二ノ宮金次郎の銅像じゃなくて、セメント像があった。
。先生が、「毎日、努力すると、こう、なれる」と、おっしゃっていたので、俺は、努力すると、銅像になると、たぶん、勘違いした。

で、俺が、猛烈にお世話になったマンサラ(作者訳 サラリーマン)時代の社長が、日本に帰任する際に、社長室に呼ばれて、「君には、大変、お世話になった。ありがとう。今後とも、よろしく」と言われた。「社長、こちらこそ、本当にお世話になりました。お元気で、日本で、ご活躍下さい。社屋のパーキングに、社長の銅像を建てます」と、申し上げた。社長は、一瞬、もぞもぞし、にかかと笑うと、「うん、どうぞおー」と言った。社長、お元気でいらっしゃいますか？

でね、今よおー、ヤノピのくんなまましてたらよおー(作者訳 ピアノの練習)、りよああー、ブログってよおー、

「なんか、練習じゃん」

と、思った。

おかしいのだ。俺は、ピアノの練習を公開したりはしない。
でも、本当に、そう、思った。ピアノの練習は、雨が降る、雪が降る、風が吹く、なにがあるうが、這ってでも、やる。唯一、やらないのは、唯一じゃねえーけど、コンサートのある日と、俺、または、家族に関わることもある時は、もちろん、やらない。プリオリティーのナンバーワンは、当然、家族。とりわけ、カミサン、子供の順ね。なんか、カミサンだけ、他人だから。子供は、永久に、俺の子供だ。カミサンは、俺の意思でカミサンであって、元は、赤の他人だから、大事にせんと、ばやい(やばい)。これ大事だよ、諸君。

あれれ、だからよおー、ブログって、このピアノの練習と同じで、本番に備えているってことなんだけど、本番？ まあ、小説が本番なんだろう。そのための練習をしている。でも、この公開練習ちゅうのが、分らんけど、ピアノと、どう違うのかな？ ピアノを弾いている時に、孤独、孤立、隔絶、こういう感じは、まったくくない。でも、仮に、小説の下原稿を書いている。

なあーんか、ポ

ツンう

これが、なんとも、嫌なのだ。

2013.06.21 Fri

記事タイトルと内容

すいません、なんか、今、気が付いた。

俺のブログって、タイトルと内容が連結していない。

「大雨注意報」池田満寿夫さんの話。

「若人へ」小説の話。

こういうのは、分かり難い。だから、読まれない。

それで、拗ねるのかというと、全然、構わない。これも、やはり、分かり難い。

あっ、なんか、分かんないままPVとかいうバナーを貼り付けた。

分かんないのだけれど、その内、分かると思う。パソコン関係は、蛍光灯で、本当に、なんだか、よく分からない。

そう、俺にとって「ブログは練習なのだ」。これは、はっきりした。

だから、切磋琢磨している道理も、納得できた。

しかし、こんなブログに付き合っ下さる方々、改めて御礼申し上げます。

他人様の練習に付き合っ下さる。うるうるする。

なんとなく傲慢自信のようなフレーズのような気もする。一流の小説家が、肩ほぐしに書いてます、とも読める。もちろん、そんなこたあーねえー。自信は、ご自身の問題だから、自信過剰でも、なんの問題もないけど、客観的な科学目線で「自分を評価する」をしてみれば、大した野郎では、ない。残念ながら。まっ、いいかっ？ 付き合っ下さる方々以外は、読んでない、これ。ありゃー、自己採点っていう記事を、書こうかと思っていたのですよ、予告編かな。たとえば、俺俺で、恐縮ですが、自己採点は、二流と三流の間ぐらい、だろう。あれ、ルックスと同じだ。二枚目と三枚目の間。微妙だねえー、ったく。背丈も、中背。分かり難いって、な。

2013.06.22 Sat

ジャズメンは譜面を見ない

と、内容と連結したタイトルを付けたつもり。結局、森敦さんの話になったりして。それは、やめる。森さんのことは、気楽には書けない。

でね、「ジャズメンは演奏中に譜面を見ない」、これが正確なタイトルです。

どうしてなのか？ まあー、アドリブの譜面なんかないということもある。

リヨンに住んでいる頃、リヨン音大のジャズ科の学生のコンサートがあるから、聴きにきてくれていたので、行った。演奏は、「悪くはなかった」。この言い方、本来は禁句。「良くなかった」ということ。

その前に、「全員」、譜面台。ドラムスまで、譜面台。演奏中に、各自が譜面を捲る。

興ざめ。

たとえば、俺が、たとえば、ホームのジャズクラブに行く。沖至師匠と佐藤真師匠とのトリオとする。俺が、譜面持って行く。リハはしないから、本番前に、ピアノの譜面台に置く。大体にして、リハ、つまり、リハーサル「さえ」、俺らはしない。この空気の中での「譜面」。

まあ、シュミレートしてみると、

階下に降りて行く。真師匠、「きみいー、なに、それ、譜面、病気なの？」と言われるだろう。沖師匠、眉間に皺、「イサオ、徹夜してでも、フレーズ、覚えて来い」と、静かな口調、しかし、かなり、いらいらした静けさ。と、こうなる。

でね、マイルス デイビスが、譜面台立てて、タイムアフタータイムを吹く。

考えられない。

そう、譜面っていうルールを無視すること、それがジャズの根源だから、矛盾しているし、だっせえーってなる。

けど、複雑な和音展開とか考えると、少し、許して欲しいのだ、ピアニストには。えーんえーん。厳しいねえー、世間は、って、違うよ、ジャズ屋の掟なんだ。

でもさあー、あれに似てない？ ベッドの上で、マニュアル、読むの？

最近の、草食系は？ ってこと、な。たまには、ちょっと、エッチ文にしちまおうって。

2013.06.23 Sun

FreeBoxの技術者。新しいボックスは四十八時間以内に届きます、すでに、五日経っている。まあ、フランスの日常だから、全然、構わない。息子に電話したら、二三日って、三週間ぐらいのことだよ、パパと言われた。フランス人ではない俺とはいえ、それぐらいは理解できる。でも、不便なのだよ、遅過ぎて。ユーチューブ、見れないし。しかも、毎日、雨雨。イギリスなのか、ここは？ 去年もそうだった。税金払っているのに、この悪天候。なんとかしてくれっ！ とはいかない。

「どっちでもいいこと」ということを考えていた。俺のブログのサムネイル。しみじみ見たら、そのままの写真だ。なんか芸がない感じもする。もう少しインターネットしてまあいす、みたいな感じが欲しいとも思ったけど、なんだか、面倒臭い。俺のブログの性格上、つまり、三文芸人の宣伝ブログだから、まあ、匿名とか面は出さないというスタンスにはならない。露出露出となる。けど、だったら、もっと、お洒落じゃねえーとなあーとなる。けど、面倒。結局、どっちでもいいわけね。そう考えると、ランキングバナーも、別にいいわけだ。

村に復帰したら、村長さんも粹で、復帰その一記事がいきなり、注目記事一位。

すいません、お気遣い。やはり、書いている側とすれば、粹な計らいです。

なんか照れつつ、結構、嬉しい、こういうのは。ランキングがなんだっ、などと言いつつ、アップすると、正直、なんとなく嬉しい。こういう感覚は、けっして悪いことじゃないと思います。ライバルとか、競争ではなくて、自己啓発には、いいと思う。営利なんかないから、素直に、はしゃいでいいんじゃないかと思う。大したことではない、けど、そういうささやかさの嬉しさの積み重ねって、なんだか、いい。俺が、トマトの生育を、けっこうマジで観察しているのと似ているかも。

あー、そうそう。俺のお気に入りブロガーさんは、引越した方を除くと、「エッセイ」にいらっしゃる。で、俺は、このカテゴリーしか読まない。他のカテゴリーには、まったく行かない。で、エッセイのカテゴリーも、お気に入りの方しか読まない。全然、その検索したりとか、ブログ散歩とかしない。でも、どうして、お気に入りのブロガーさんを発見したのか、忘れてしまった。たぶん、ブログのタイトル、腰帯、サムネイル、記事タイトル、注目記事とかだったはず。でも、今は、暇人なのに忙しい芸能時間のせいで、「いつも朝日新聞のように読んでいるブログ」しか読まない。時間がないのだ。

で、カテゴリーの中で、俺が意味を知らないカテゴリーがあって、開いて見た。

物凄い閲覧数。ゼロがふたつぐらい多い。ちょっと、一位の方のを開いた。あれっ。インターネットで意味を調べた。へえー、そういう意味なのって。エッセイのカテゴリー以外、まったく頭に浮かばない俺は、びっくりしたけど、そんな閲覧数は、恐ろしいよ、匿名じゃねえーし、面割

れているし、と思ったのです。

2013.06.24 Mon

間違っただ音

フリージャズという音楽ジャンルに、間違っただ音というものがあるのか？

いきなり結論。ない。ということは、間違っただ人間というものもない。と言いたいけれど、我々には法律がある。あれ、じゃ、フリージャズに規則ってないの？ いきなり結論。ない。

もちろん、音楽にも規則はある。でも、フリージャズというジャンルには、ない。

まあ、無法地帯。でも、「法律に抵触する音」、これは、やはり、ない。

でも、ナムジュンパイクみたいに、ジャズクラブのピアノを斧でふたつに割ってしまったら、器物破損で法律に抵触するか、別のを自分で買わないといけな。と、無法地帯だけれど、責任は、やっている各自にある。

今、俺が頻繁に使うブロックコードというやつなんだけど、左手四和音、右手三和音。両手で七つの音を押さえる。根音と四音が重複しているから、和音とすると五音。これを、押さえるキーを間違えずにドミナントモーション、つまり、五度ずつ、猛烈なスピードで下がるとかいうのをやる。たまに、押さえるキーを間違うのではないのか？ いきなり結論。間違えないのだ、これが。でも、たとえば、半音間違っちゃったとする。うん、それはそれで、よし。ローラの口調で、間違っちゃったあーとやれば許してもらえる。それか、絶対に適切な状況判断の元に、あえて、そのキーにしたと松田優作の口調で、静かにお話する。おー、怖っ。ないしは、なんなのか分からない落語をやる。まったく面白くない落語とか。まあ、なんらかの芸があれば、助かる。

うんでね、それ以上にヤバイのは、間違うということよりも、「いかさない音」。これを連発すると、バンドマスターからの致命的な二文字。つまり、「イモ」。これは、解雇通知なのである。里芋、サツマイモ、ジャガイモ、焼き芋、大学芋、なんでもいいけれど、このレットルは共演者ゼロ。参加バンドゼロ。お仕事ゼロ。禁治産者シールなのである。と、間違っただ音でも、いかしていればいいということになる。んで、いかしている音は、逆にいうと間違っていないということ。

実話風の例

「おい、イサオ、ちょっと、C音、くれっ」

と言われて、「はあ——いと左手で、ドミソ」と、俺がやったら、体中に「イモ」シール、となる。で、俺は、左、ミラレ、右、ソシと押さえる。

「おい、イサオ、レとソの間のドリアンってな感じ、な」

「えっ？」と言ったら、全身「イモ虫」

「はいっ」ってすぐに、左、レソラレ、右、ソドファとやる。

なんだか禅問答みたいでしょ？

ブルーノートの秘密がここにあるのだ。

意識的に、間違えているという言い方もできるから、さらに禅問答になる。

分かり易く言うと、クラシック音楽の和音を正しいと仮にすると、ジャズコード自体が、そもそも間違っただけということになるのだけれど、意図的意識的にやっている。と、判断基準をどこに置くかで、「正しい」と「間違い」という結論が導き出される。やはり、間違っただけ人間っていいような気がしてきた。法律の内容次第ってことになるけど、でも、暴力沙汰とか、やっぱ、ヤダよおーね。と、禅問答になる。

2013.06.24 Mon

先週の土曜日に、カナイと映画「贖罪1」を、近所の名画座へ見に行った。

黒沢清監督のうわさは聞いていた。フランスでも、第二の「クロサワ」と、ずいぶん前から言われている。そして、それは、本当なのだと思う。映画は、諸々の意味で、素晴らしかった。

黒沢清作品、私は、初めて見た。

うわさ通りであったと、書いておく。

パリのメトロの構内に、「贖罪」のポスターを、随分と見た。

ポスターの左側の、たぶん、「私と同世代であろうと思われる女性の顔」。綺麗な人だなと思っていた。映画を見るまで、その人の名前を知らなかった。

映画の最後のテロップに、「小泉今日子」と出て来た。

キョンキョン？ Kyon2と、音がダブる。

私が日本を離れてから、アイドルデビューをした方。でも、その活躍ぶりは、こちらでも、「風の頼り」的に聞いてはいた。澆刺とした、可愛らしい若い女性というイメージが、私の脳内にあったし、たぶん、週刊誌等で、こちらでも、随分と見ていたはずだ。

そのキョンキョンと、メトロで見た女性の顔は一致しなかった。

「男は、年を取ると顔が出来る」と、幼少期から、ずいぶんと聞かされた。

小泉さんのことを、インターネットで調べて見た。

大変に失礼な単語、「劣化」という言葉が散見された。

私は、今の小泉さんが、もっとも綺麗だと思う。たぶん、今後、もっともっと素敵で美しい方になると思う。「劣化」？ 男目線は、あまりに下世話でえげつない。

本当に、彼女の今、美しいと思った。

インターネット回線

本来、ブログを書く時間ではなく、インターネットで調べ物をしないといけない。とはいえ、私のパソコンで辛うじて機能しているのが、メールと、このブロガーのみ。これではお手上げ。メールの返信は、すべて、書いてしまったから、ブログを書くことにするけれど、頭がブログタイムになっていない。それで、しょうもないことを、だらだらと書いてみる。

インターネット回線が、どういうものなのか、まったく分からない。フリーボックスの技術者のお話だと、電話回線の容量が5。単位は分からない。それで、先週、家の中の、すべての電話回線の容量を調べに来た。どこも、通常の数値の5。フリーボックスの差込口も5。問題は、フリーボックスを経由した後の容量が、0.4だそうで、ほぼ、フリーボックス自体が、雷雨時から機能していないらしい。当然、ユーチューブの動画などは重過ぎて、開けないようだ。ふむ。

私は、高々、五十四歳。でも、生まれた時に、テレビは普及していなかった。三歳の時に、白黒テレビでチロリン村を見たのが、私の最初のテレビの記憶である。突然、思い出した。五歳ぐらいの時に、小麦粉かなんかのテレビCMに出たことがあるらしい。私自身の記憶には残っていないけれど、テレビ画像の写真が実家にある。そうすると、芸歴五十年ぐらいになる。はい、もう、すでにテレビデビューをしていたのだ。

自動車も普及していなく、唯一、スクーターが、ほとんど年収と同じぐらいの値段で買えるという時代だった。それから、ずーーと、時間を飛ばす。ポケベルというものを、会社員になったばかりの頃に渡された。「至急、電話をよこせ」。というメッセージ。そりゃー、電話機があるような所にいけば掛けられるが、車中だの、まったく公衆電話が見当たらない麦畑の中にいるような時は、どうしようもないのに、帰社すると先輩に叱られたりする。それから携帯電話になり、スマホになった。

私は現在、十五ユーロで購入した「盗難防止仕様(だれも盗まない)」の携帯電話を持っているが、携帯しないし、しても、スイッチを入れていない。究極のアナログ人間である。歩行中に、お話する必要があることなど、ないのである。でも、あまりに馬鹿馬鹿しいから、今度、プールで泳ぎながら通話しちゃええーなどと思っている。逆に、なんだか楽しい、こういうのは。世界経済についてなんて、お話しようかしら。

ということについて、数日、書こうと思っていた。

新しいフリーボックスが、先ほど届いた。正確には、緊急自宅待機状態の息子が、受け取り場所へ取りに行った。セッティングが終了。パソコンが元の元気を取り戻した。ついでに、こちらも元気になる。6月6日の雷雨からの不具合だから、丁度、20日間、おかしかったのである。元々、こちらがおかしいから、調律のおかしいピアノは弾かない。これでは、馬鹿の二乗で、持ち味がなくなってしまう。パソコン、ブログも一緒に、機材が馬鹿では、こちらの営業妨害である。

「エロティシズム」。それぞれのご意見があるはず。大体、この西洋語の定義は難しい。日本語に訳すと、私なりに、これが、分からない。コウダクミの「エロ格好い」とも違う。「エロ」と、はしよると、ポルノチックな音になる。たとえば、こちらのポルノ。仮に朝の9時から午後5時まで見たとする。最終的にどうなるのか？ 目が「医者」になっている。そういう意味では、日本のアダビデのモザイクの方が、エッチだ。

で、なんでもエッチ絡みでないでエロティックではないのか？

ふむ、見えないからそうなのである。モザイク。でも、少し、見えそう。

全然、見えない方が、当然にしてい。

私の脳内で、今まで読んだ本の中で、もっともエロティックなものは、アンリ ピエール ドマンディアルの「海のゆり」と「オートバイ」である。内容、まったく覚えていないのに、なぜか、エロティシズムの原基として脳にインプットされている。

二秒ぐらい、真面目に考えると、三島由紀夫の「春の雪」。逢いたいのには逢えない。

最終結論は、やはり、この禁断状態がベストである。ということは、究極のエロティシズム小説は、カフカの「城」なのではないのか？ ふむ、リラダンの「未来のイブ」。このピグマリオンの夢。これも、捨てがたい。

男と女でも、ホモでもいいのだけれど、「エロティシズム」。ひとつの哲学領域になるのかも知れない。もっと、下世話方面で考えると、たとえば、パリ郊外の鄙びたペニッシュの町のお爺ちゃんとお婆ちゃんがやっている鄙びたカフェ。セーヌ河畔。ここのテラスで、小泉今日子と、無言で、ドライマティーニ。ふむ、やぶさかじゃーないな。セーヌの水面の揺れと光りの反射が、とっつても、エロティックなのだ。

ふむ、でも、その後は.....、心中とかになってしまうから、いいや、俺、エロでよおー。

と、突然、文体変更。じゃーね。

2013.06.27 Thu

ウィキペディアの森敦さんについての、短い説明文をプリントしてみた。二ページと数行。池田満寿夫さんの資料が十一ページあったので、少し意外な感じがした。森さんの「月山」を拝読したのは、十九歳ぐらいだったと思う。東京の下落合のアパートで、一日、三冊ぐらい本を読んでいた頃だ。安ウイスキーとジャズと本。当時の典型的な「文学青年」だった。たぶん、相当数の書物に接したはずだけれど、大半は、忘却の彼方へ。でも、ほんの一握りの書物は、脳の中核に残っている。

「月山」。この響き、タイトル。もうこれ以上のものはないという感じが今でもする。

実は、内容は、もう、すっかりと初期化していて、まったく覚えていない。十九歳の青年には重過ぎたのだと推測する。いくつか、私が知らなかったことが、今回、分かった。この小説が芥川賞を受賞したのが、私が十五歳の時。それと、森さんが六十二歳で、黒田夏子さんの受賞まで、三十九年間、最高齢受賞だったこと。森さんが若い頃に、すでに作家として一目置かれていたこと。現在の東京大学を中退していること。実に長い間、放浪していたこと。もしかすると、十九歳当時の私は知っていたのかも知れないが、現在では忘却の彼方。

なぜ、突然のように「月山」を思い出したのか？

十一年振りに、自分で小説を書いてみた。くだらないおちゃらけノンセンス小説なのだけれども、ずっと、執筆中に「森敦」と「月山」が脳内で木霊していた。内容をすっかり忘れてしまっているのにである。

「文学」イコール「森敦」イコール「月山」。この公式が、私の世界観の一部として、脳の中核にインプットされている。しかも、私は東北生まれの東北育ち。月山は、山形県にある。生と死と蘇生の物語だったように、薄っすらした記憶が漂う。私は、改めて正座し、背筋を伸ばして、どうしてもお辞儀をしようとする。そのようにインプットされている。

日本の文学のひとつのプロトタイプなのかも知れない。

ここからが非常に説明が難しいのだけれど、私の現在の文学感とは随分と違って、まったく正反対の方へ心のベクトルが向かっている。あっけらかんとした明るい虚無感みたいなものに、私全体が包まれているから、逆方向へ意識が動く。そして、動きつつ「月山」が脳内に君臨する。畏敬の念がさらに強くなる。その分、私の作品は、どんどんちゃらけた方向へと向かう。私なりに、私の前に立ち塞がる巨大なものを乗り越えようとしているようにも思える。そして、少し苛立つのである。この葛藤が実に不思議だし、小説を書き出すと、鬱が始まる原因も、どうもこの辺にあるのだと思う。

ふと、森さんが山を降りたように、私自身がすでに蘇生しているのだとしたら、「文学」と呼ばれるものは、もはや、必要がなくなっている。とも考えてみる。そうなのかも知れない。

2013.06.28 Fri

自画自賛

これって、自我持参とか、自我自賛とか、自我爺さんとか、いくつかオジギャグが浮かんでくる。

私は、自慢ではないが、おちゃらけシニアプータローである。いや、結構、マジなビジネスマンでもあったけれど、現在は、私の、この本来の姿に集約したのである。楽になった。

やはり、向いてないもの、本来の姿ではない状態を、あまりに長期に渡りやっていると、脳内禁治産者になってしまう。二十四年間の歳月は、十分に長く、一步手前まで、それに近付いた。

ところで、この全身におちゃらけオーラを漂わせている変なオジサンは、フリージャズピアニストである。まあ、パリのインサイダーの間では、少し名前を知られている。年齢は中年を過ぎて高年に属している。会社内ではシニアと呼ばれる世代である。

で、こいつの力量は、三流と二流の間。正確には最近、2.7流ぐらいに、やや、レベルアップしている。慣れない指使い、これでハードな巨人の星的練習を日毎行っているから、酷い、背骨神経痛である。元々、背骨が歪んでいるのに、こういう負担を掛けるから、悪化する。眩暈、吐き気、下痢とか、どんどん酷くなる。では、酒とタバコとピアノをきっぱりと止めてしまうというご意見もでる。しかし、これでは、生きている意味自体がなくなってしまう。止めてしまうと、私自身が消滅してしまう。変な言い方だけれども、もちろん、健康第一なんだけれど、存在がなくなってしまうのはモトモコもないのである。

で、こいつの師匠連の評価を要約すると、「音が重い」とこうなる。

非常にマジでシビアで重い音を出すピアニストということになるわけで、なぜか、ピアノを弾くところのようになる。これこそ、こいつの本来の姿なのかしら？ ね。

まあ、両面テープみたいなもんかな。

2013.06.29 Sat

というより、干し裕馬鹿の方が、よろしい気もする。

私が、ピアノ超絶技巧ドラゴンへの道を自分で作ったのが、いや、実は、週間実話、今気が付いた。それを見たら、2006年の十二月でした。ありゃあー、七年も経っているのに、未だに、途上なのである。この進歩も調和もしない遅延愚鈍はなんなんだっ。そりゃー、ちょっと前まで、超絶的に時間がなかった。今は、十二分にある。でも、達成率、二十パーセントぐらいかしらの鯛の御頭。

でね、たとえば、基本形として私が作ったコード転回は、算数駄目な人は、飛ばして下さいね。

Am7 Em7-5 Eb7 D7 Bm7 F7 E7 Bb7 Am7

これを基本形ということにして、これに諸々のバリエーションを付け加えて、結局、無限大の組み合わせが出来て、これに裏技とか乗りとカリズムとかが付加されるから、宇宙全体を理解せんければなりません、となっちゃったのね。いかに、わたしくの痴呆指数が人並はずれて、はずれていても、うなもん、無理だってよおー。で、各和音は、七音で構成する。左、指四本で右三本です。

大ピアニスト養成ギブスちゅーやつなのね。

Amでさえ、無限大なのに、うわあ————、マイナーとメジャーと各音階でしょ、無限大x無限大。

きみ、人生と一緒にじゃん。

その気になれば、だけど。

追記

あのね、でね、コンサートの時は、当然、このギブスを外す。

で、とんでもなく速い球になる。だって、ギブスだもん。

とうとう、背骨神経痛で首が回らなくなった。借金はないけど。ありゃ？

2013.06.30 Sun

音宇宙

って書くのと、サウンドコスモス。どっちが音として、格好いいんだろう。
オトウチュウっても、日本語だと漢字になるでしょ、視覚が入って来る。
そもそも、外来語に、カタカナなんていう表記をする国って、日本以外にあるのかしら？

で、俺は、いわゆる横文字より、漢字の「音宇宙」の方が、格好良く感じる。
やはり、視覚と音が合体していて、少し、重い。

「あぁ——、今日は、ドレミでしたか？」
「なぁ——に、ファミレbでしたよ」
「あら、はっつぁん、そんなにミソbシなの？」

と、やはり、音自体に意味はない。
音の配列が法律に触れたり、政治問題にはならない。

ということは、言葉を止めて、音で会話をすれば良いのであるのですのアンデス山脈のイーデス
ハンソンでしょ。

「ねえ、ミソソbしない？」
「うん、#」
「ラbは？」
「えっ、それは、ミファソラでド#」
「ドソミ？」
「ごめん、僕には妻子が、ミミド」

2013.07.02 Tue

フリージャズの文字化

と、実は、真っ当な記事を、たっただあーと二本書いたのに、なんだか、アップする気にならなくなった。「芸術家とはなんぞや」「パリとニューヨーク」という内容だったんだけど、下書きにした。で、さっきまで作曲をしていた。C#の曲で、私には珍しい音階である。ジャズ屋は、社会的マイナーだから、bをよく使う。いつも下っているのである。上らないのだ。で、ニャロメ、俺だってよおー、鯉の滝登り。おー、恋の滝登りなんて、おじさん臭くて、可愛い。で、下書き二記事は、ネタ行き詰まりになったらアップすることにして、保存。で、このフリージャズを文字化すると、もう少し、分かってもらえるのではないかと愚考した。はい、じゃ、行くよっ！

たらちねの こよいの やどりは となか이었다

あれ、もしかすると、マジで黒田夏子になっているのかしら？ 読んでないけど。すいません、拝読してないけど、絶対に半端な作品ではないはずです。お辞儀。

はい、もとおーいっ！

でだの助 邪頭屋の市兵衛が くんなましをかませたら かめへんって言った ところでと転んでみたら 御手洗団子が ソソ笹だった うなもん 食えるかあーと かーちゃんに言ったら 鱈チーズの大晦日でやばかった 紅白付けてクレヨンと町田康のコピーライトのはずのフレーズを連発してみても コピーライト ライムライトは 素敵だった 瞼の裏を見ようとしたら 寄り目になった

そのまま買い物に 行こうとしたら 設楽さんが 立っていた あれ と言ったけど 面識はない

サバを購入し 牛乳名が思い出せず 思わず しゃがんで ヤンキー リヤリヤリヤあーなーなどと 既成を発しつつ 漢字になった

もう、結構っ！

へへへっ、ローラだよおーん

で、皆で、牛乳食べに行こうよおーなー

じゃ、バイバアーイ

おい、絵文字はどうした？ はっ、裕課長、もっ、申し訳ございませんっ！

ニャロー、絵文字ぐらい、覚エロって！ ばあーたれっ！

えっ、零細企業で、余裕がない？

わあ——、きもお——いっ！

止めてくれないかなあー、こういうブログっ！

2013.07.03 Wed

コンサートのご案内

昨晚、急遽、またまた、パリフリージャズナイトの企画が決まった。
俺のホーム、いつものジャズクラブ、バビロにて。以下、ご案内申し上げます。
パリおよび近郊ご在住の方々、是非是非、いらして下さいませ。お辞儀。

10 JUL 2013

20h00 at BABILO

9 Rue du Baigneur 75018 PARIS

Metro Jules Joffrin

Isao YU PIANO

Makoto SATO Drums

Yoram ROSILIO Bass

Ent 7euro

と、たまに、ミュージシャンらしいブログになりましたです。
突然、電話来るから、セールスが大変なのです。集客しないと、クラブに申し訳ないのです。
よろしく願い申し上げます。正座、お辞儀。企画主催者がいれば、こちらは出るだけなんだ
けど、これは、半分、俺が企画に絡んでいるから、このように、ばたばた営業マンになるのです
。

でね、お馴染みのイサマコバンドに、モロッコから来ているベース、ヨラムがゲストです。ヨラムのことは、すでに、記事に書きましたが、今時珍しい「弾き過ぎないベース奏者」。野蛮人自己顕示自己中系ハイパースピードピアニスト、おっ、俺だっ！ 非常に繊細、色彩豊かなドラムを叩く、パリ屈指のドラマー佐藤真師匠。そして、超イケメン縁の下の力持ち系しっとりウッドベースのヨラム。このお二人の色気で、野蛮人ピアノをねじ伏せようというユニット。ビルエバンスのような超絶色っぽいフリーフォームのピアノトリオと、あんま、聞いたことのないジャンルに挑戦なのだ。俺は、女装して和服着て、出ようっと！

二部のメンバー、聞いていないけど、これまた、パリ屈指のテナーサクソ、アブドゥー ベナニのユニットです。パリの生きジャズ神様の一人です。

よろくし ねがおな またしやす。

どうすっぺかな、ヨラム、八月にはモロッコに帰っちゃうからビデオ撮ろうかしら、ね。

ステージ左下ピアノで、俺は通路に座っている。映らないのだ、どうやっても三人一緒には。竜安寺の石庭と一緒にわけ。で、通路の俺、暗くて単独でも映らない。そうか、スポット当てるか。でも、俺だけになっちゃって、二人は映らない。で、二人はステージの上だから、ばっちり映るけど、ピアノの裏板しか見えない。おおー、発想の転換。真上からの鳥瞰図っ！ 駄目なのだ、天井そんな高くないから、鏡を使う？ うえー、面倒臭いっ！ いや、二人だけ、撮るべって。

2013.07.03 Wed

さっき、大ピアニスト養成ギブスを外した。
首、肩、両腕、筋肉むくむく。ってもピアノを弾く筋肉だけ、ね。
それ以外は、ジっちゃんだ。ぷるぷるのぷよぷよ。

でね、クラシックのピアニストに他意は、まるでないけど、たぶん、その練習の仕方、違うんだらうと推測している。クラシックの兄貴。譜面見て、毎日、四時間ぐらい、同じ曲を体に叩き込む。うで、もう、じゃかあ——しい——、勝手に、指さんたち、弾いてクレヨンってなる。で、そのレベルで、自分の色を出す。お疲れさんでござんす。うるうる。

うで、まあ、こっちも、似たような練習をする。
でもよおー、ジャズ屋は無法地帯だよ。すっぱり言うと、「けんか」なわけね。
実戦では、「譜面は御免」なのである。いきなり、鼻にパンチきたりよおー。

と、半分、嘘。

まあ、山下(洋輔)さんも書いているように、「プロレス」なのである。
ルールのある暴力を、お見せ、お聞かせする。そっくり、じゃん。
昔のやくざは、急所は刺さなかった。医学の知識がいるのだからってっよ、ドスにも、よ。

日曜日のパリの公園

四日前の日曜日。パリのスターリングラッド駅の近くの公園に、舞踏と即興音楽のフェスティバルを見に行った。私がファンであるアズサが出演する案内をもらったからだ。

午後四時十五分に到着。快晴。気温二十五度。暑い。

公園内は家族連れ、若者、カップルで一杯だ。酔っ払いの親父がメガホンでなにかを叫んでいる。子供たちが、あちらこちらでサッカーをしている。北駅へ向かう地下鉄の音が聞こえて来る。町の喧騒そのものである。フェスティバルの会場が、その公園であることは分かっているが、公園のどこなのか分からない。なんとなく、コンサートのセッティングをしている感じの一群に聞いてみる。「あー、あそこに受付があるから、あっちで聞いてみて」と言われる。受付へ向かう。「四時半からのアズサの舞踏を見に来ただけど、場所はどこですか?」「はい、ここです」「あっ、この受付の前ですか?」「この公園です」「はい、それは分かりましたが、公園内のどこですか?」「ダンサーが決めるから、真ん中か、あちらの壁の方か、通りの方か、どこかでしょう」「はあー、メルシー」。結局、分からないから、公園全体をじーっと見詰める。コントラバスをソフトケースから出すミュージシャンの姿が遠くに見える。「あっ、あれだな」と、そちらに向かったら、アズサがブルーのビロード地の衣装を着て、踊りだすのが見えた。

暑いので、木陰に陣取り、彼女の踊りを見た。左側のベース奏者。

私も含めた何人かの観客が半円形の輪になって見た。彼女の周りでサッカーをする子供たち。まったく、興味がない人々が通り過ぎる。酔っ払いの親父の叫び声。少し離れた場所でコンサート。別のダンサーたち。

彼女の踊りを見ながら、公園全体を同時に見回していた。

一体、アーティストとはなんなのだろうと考えていた。

彼女とベース奏者。ふたりは、公園全体の喧騒と人々の活力に対峙していたのだろうか?

これは、私には分からない。

でも、確実にひとつだけ確かなことは、子供たちが、サッカーをしながらも、なにかを感じ取っている感触があった。なにか日常とは違う異質なものがあることを。

パリとニューヨーク

先日、ニューヨーク在中のビデオアーティストの知人と夕飯を一緒に取った。彼女も、あちらに住んで三十年近い。私のパリと、ほぼ、同じである。

家賃、生活費が大変に高くなり、アーティストの生活を圧迫している。

これは、パリと一緒に

たとえば、アトリエを借りる。その高額な家賃を支払うために、アルバイトに追われる。作品を作る時間がなくなる。生活自体が、本末転倒。

パリ。同様

当然にして、アーティスト連は市内から追われ郊外へとドーナツ現象。

近所でちょくちょく会っていたのに、みな、郊外に散ってしまい、ちょっと会おうとしても、移動に一時間以上掛かるので、段々と、疎遠になる。

パリもまったく同じ

元々、私はニューヨークに行こうとしていたので、彼女の話は興味深い。

そして、ここから先が少し気になった部分。

ニューヨークでは、アーティスト同士の会話っていてもビジネスビジネス。

ないしは、仲間のゴシップ。成功、ビジネスになるならなりふり構わずなんでもする。

これは、私には分からない。パリも一部はそうなのかしら？ 私の仲間連とビジネスの話は一切しないし、ビジネスとしての成功より、作品のクオリティーが、まず、先という感じが強い

ニューヨークには、アングラがなくなってしまった。メジャーばかりで詰まらない。

パリでは、まだ、生きている。だって、私がいる

と、それからもっと突っ込んだ話になったが、割愛する。

私にも、よく分からないのだ。パリもビジネス系の連中、たぶん、沢山いるのだろう。私の周りにはいないということなんだろう。なんか、作品、音楽、真摯に打ち込んできたものが、結果としてお金だの名声に繋がる。これは別に構わない。そちらが、制作の動機、モチベーションにはならない。あくまで、結果である。「俺は、有名になって金儲けするぞー」、こういうアーティストがいても、別に構わないけど、なんか、職種を間違えてんじゃないのという感じ。まあ、私は、あまりお話をしたくない。

ジャズメンがアーティストなのか、この辺も、よく分からないけれど、名声だのお金だのを求め

ている人種が、こんな音楽、絶対にやらん、パリでは。だから、アングラの火は、パリでは消えない。

あれ？ ニューヨークだと、お金になるのか？ ジャズは。
じゃ、あっちに行こうっと！ バァバァー——イ！ リゃ？

2013.07.07 Sun

夏

やっと
イルドフランス地方も
夏らしくなった

今日の気温は三十度近い
午前中から 近所の湖に行った

どんぐりの木の下で
ずっと昼寝していた

木々の葉が風に揺れていた

揺れる葉の合間から 日差し
時々 ドゥゴール空港へ向かう飛行機

僕も 実は 空を飛べるけど

内緒にしている

2013.07.08 Mon

おっさんと夏

まあ一、俺は、年以上におっさんをしたいわけではねえ一。

もともと、馬鹿若作りだから、十歳ぐらいはサバ読める。けど、別に若く見られたい、そんなこともねえ一。年寄りブルつもりもねえ一。上の方が、現代社会では多いかも知れん。五十半ばなんだけど、ジジーなのか、「まだ、若い」のか、分からん。どっちでもええ一。でも、江戸時代では、隠居の年だったから、やはり、伝統は守りたいので、私も隠居した。

ありゃ。昨日、半日、どんぐりの黄緑色の実を、寝そべって、だからね、下から、ずっと見ていた。でかいんだ、その実が。本当に、どんぐりなの？ 横のカミサンが、そう言ったから、そうだったんだけど、違うんじゃないのか、あれ？

日本の夏のおっさんは、私には、加藤茶のはげ親父のイメージ。

それと、キンチョウ蚊取り線香。団扇。縁側。ってな感じ。

でね、五十半ばのおっさんは、明後日、コンサートなんだけど、やったことのない音階、トリオ。やったことのない、色っぽい音。で、真師匠からの指示は、「うねりのある音楽」をやる。

トライトライなのね。

でも、おっさんだけだよ一、やり慣れた曲しか弾かないとか、わしは冒険はしないとか、こういうスタンスをやっていると、本物のおっさんに、なっちまう。俺は、本物のおっさんだけだよお一、やらんのだ、そういうことは。

えっ、おっさんって年じゃねえ一ってことに、なるわな、お若いの。

ナメンナよって！

2013.07.09 Tue

仰々しいタイトルを付けてしまったけど、そんなに仰々しい内容ではない。単に、息子と娘の就職祝いに、コンパクトカーを買おうと思っているという話だ。ちまちましたことは書かないけれど、息子は一年前で、娘は今秋から、社会人というやつになる。もう、既に、親父を超えた。

「自動車の故障率」というものを調べて見た。

思った通りで、日本車が、全ての上位を占めている。これだけ、生産のグローバル化が進んでも、この順位は変わっていない。

これは、圧倒的に誇ってよいことだ。

俺は、「日本」という組織体は、全く好きではない。

でも、日本人個々人のこだわり、真面目さ、物作りのクオリティー、これは、半端ではない。

「箱庭脳」の究極なのだと思う。ミクロコスモス。

そして、俺は「箱庭脳」からの脱却を、なんとかしようとしてきた。けど、味覚のように染み付いていて、脱却はできない。けど、どうなんだろう？ 脱却の必要なんて、あるのか？

俺は、フランス人個々人は、あまり、好きではない。はっきり、アーティスト系以外は。

でも、組織体としての堅牢さは、愛して止まない。ばらばらの個人主義者が、城塞を作る。

大した人たちだと思う。

日本人が「日本の美德」と呼ばれるものに楯突いて。

別に、一向に構わない。でも、堅牢な城塞を作る各人の自覚と責任は重い。

素晴らしい車を作れない俺のような日本人は、自分の責任の在り処自体を、自分で見付けないといけない。

フランスと日本車

車好きの方のみ、お読み下さい。

私は「ボロ車に乗るカーキチ」という、訳の分からない人間なのだけれど、一度、車のスペックだのを調べだすと、やはり、カーキチ。嵌る。

なんだか、車の故障率を調べていたら、昨日、分不相応な記事を書いてしまい、起き抜けに削除しようとしたら、なんだか、結構、読まれてしまっていたので、そのままに致します。読み返してみると、もちろん、お読み頂いた方は理解している通りで、上位というのは、「故障率が低い順位」のことです。念のため、追記致します。

昨日の午後、フランスでは珍しい炎天下の中、私が乗っているホンダシビック1997年型を中古車として購入したホンダのガレージに行った。ホンダのガレージがメルセデスベンツのそれになっていた。複数のメーカーを扱うディーラーなのだけれど、以前は、向かって右側がメルセデスベンツで、左側がホンダ。現在は、右、レクサス。左、メルセデスベンツとスマート。セールスのオジサンに聞いてみた。

「すみません、ホンダのガレージ、移転されたのですか？」

「いいえ、弊社が取り扱いを止めました。正確には、今、この少し先のスコダの販売店のむかえにホンダ店を建設中です。そうですね、現時点では、000県に、ホンダのディーラーはない状態です」

「そりゃー、困りましたね」

「なにかお探しですか？」

「ホンダジャズ(フィット)の中古車を見に来たのですけど.....」

「ははははは、ホンダの中古車はないですよ」

「うん、知ってますけど、以前来たときは、一台だけありましたよ」

「あー、稀に出ますね」

「しかし、我々の県内にホンダのディーラーがないなんて、ちょっと、信じられないですね。いくらフランスだと言っても」

「ははははは、そうかも知れませんね、でも、ホンダじゃ商売にならないのです。まず、ヨーロッパで発売されているモデルの数が少な過ぎる。それと、これがね、ディーラー泣かせなところで、ご存知かも知れませんが、顧客満足度、もっとも故障率が低い、世界一位。つまりね、一度、購入するでしょ、だれも手放さない。中古も出ない、新規購入もない、故障しないから修理工場は閑古鳥。あまりに丈夫過ぎて、商売にならんのですよ。ところで、お客さんの車は？」

「ホンダシビック1997年型」

「ほらあー、まったく問題なく走るでしょ？ 買い替えの予定もない。修理もない。十六年前に一台売れた。これじゃー、どうしようもないですよ、我々は。ははははは。しかし、日本の物

作りは、凄過ぎます」

メルセデスベンツがずらっと並ぶ巨大ディーラー店の中で、こんな会話をして、
また、炎天下の中、私は私の愛車まで、ゆっくりと歩いた。

「おい、お前、仲良くやろうぜ、な。イギリス製だよな、お前は。国籍不明の日本車だ。俺と一緒だな」

2013.07.10 Wed

ニュートリオ

昨日、無事に、我々の新トリオのお披露目が終わった。
お披露目っても、すべて、ぶっつけ本番。なんの打ち合わせも、リハーサルもない。
単に二分間、音量のバランスを取っただけなのだ。

やはり、我々は格好いいと思う。
いかしてません？ こういうのって？
プロしてませんか？

ベースとの共演は、十五年振りぐらいで、全然、イメージが湧いてこなかった。
始まる前は。まあ、ちょっと、キース ジャレットしちゃうかなあーと内心想っていたけど、
ヨラムのベースが、あまりにジャジーで二秒後に修正。結局、インプロモダンジャズとなった。

今、これを書きながらユーチューブにアップしている。
まだ、俺自身が、ちゃんと見てないので、非公開アップして、ちゃんと見て、公開します。

ふーむ、いい感じだった、昨晚は。

2013.07.12 Fri

三步進んで二歩下がる

あれ、七転び八起きの反対だ。ところで、今、突然、思い付いた、熱中症です。

ご存知の方も多いと思うのですが、意外と知らないという方もいらっしゃるのでは.....。

熱中症で倒れた時、「水を飲めば治る」と思い込んでいる方。えーと、血液内の塩分欠乏なので、水ではなく、塩を至急摂取しないとイケないのです。塩水とか塩分の多いトマトジュースとかを大至急摂取する。水では、あちらの世界に行ってしまいますので、恐ろしいです。と、豆知識というわけではないのですけれど、緊急時にご存じなくて.....。というケースも、かなりあるらしいので。はい。

昨晚、先日のコンサート、すべてをユーチューブにアップした。

なんと四十本目の動画。ヘッドホーンで聴いてみた。ヨラムのベースの加入で、いつもと、随分と感じが違う。で、手前味噌を承知で、欲耳を差し引いて、自分なりに自分の演奏を分析してみたら、やはり、一束の草鞋に集約した、その結果、つまり、明らかな進歩が聴いて取れる。ずぶずぶ三流から、2.7流と二流枠へ昇格している。五十半ばでの上達、進歩。ちょっと、自分で泣ける。元々、三流だから、改善の余地が無限大ということもあるのだけれど、この前進感は、素直に嬉しい。うるうる。

でも、考えてみると、ずっと上達、進歩しているのは「ピアノだけ」なのである。

折角、ピアノが三步前進しても、「その他諸々」が二歩後退して行く。

算数上は、三十年後の私は、本当に、ピアノそのものになっていることになる。

ピアノ演奏のみ、私という全存在から突出し、後は、へめらも人間。

うわあ——、恐ろしいねえー。大体、すでに脳味噌のパッパラパー度は、相当、酷い。

ピアノでしか、思考回路が連結しなくなって来ているような気がする。

2013.07.12 Fri

びのしの里

昔な、びのしの里とよばれる山奥の村があった。

邪頭の里とも、呼ばれておった。胃我と好我とふたつの村落があったのじゃ。

どちらの村落も、邪神様を祭っておった。酒タバコスリクにリスクに薬が、お供えであった。

あと、男根のような諸々のオブジェ、ね。村と村落の違いが、分からぬだと？ わけたものっ！

俺も、分からんっ。

この二つの村落では、楽器演奏に長ける。ガキドモは以上なのである。

諸々の楽器を習得し、なからずんばの産婆のサンバを踊っているうちに、一丁前の、楽音師となるのじゃ、生死と精子と静止を兼ねてじゃ。

でだ、昔、胃我の村落の長は、肝臓だった。へろへろだったが、サックスを吹かせると、一音で、三人の敵を倒すのじゃ。右腕の腎臓のベース。低音で、やはり、三人の敵を倒した。ここに、脾臓のパーカッションが入ると、またまた、三人。すでに、九人を、ばっさり。

ここに、村落の荒くれ者、裕ノ助猿股のピアノが入ったっ！

少なくとも、二百三十三人ぐらいは、ばっさり。

くだらん。

2013.07.16 Tue

びのしのもの

ここは、千八百むやむや年の、びのしの里じゃ。

「かつ、肝臓、好我のやつらが攻めて来る」

肝臓は、いつものようにテナーサックスを、拭き拭きしながら吹き吹きと、作者の意図に関わらずオジギャグしている。作者の横入れにも無表情。そりゃー、むらちょう(村長)だぜって。へらへらするかって、ばあーたれっ！

そこに、綾瀬はるか演じる、お菊が飛んでくる。

「大腸さんっ」「かつ、カットおーー」「あ、すみません、台詞、間違えました」

「はいっ、スタートっ」たったったあーー、「ホォアグラさんっ」

その頃、江戸では.....。

「胃我ものの、裕猿股、しょっぴいて来いっ」「こやつは、またの名を、クラーケントってえー、いうてますさかいに、なんとかしてもらわへんと」「ピアノの達人でっせえー」「こやつがピアノ弾くと、女子供に妻子持ちに既婚者、シングルマザーちゅう輩が、仰天するねん、しょんべんちびるねん」

その頃、巴里では.....。

えっ、7月14日は、フランスの建国記念日で、巴里祭って、なに？

2013.07.17 Wed

巴里祭

と、灯台下暗しで、何のことなのか、知っているような知らないような知っているような、忘れたような、実は、知っていたけど忘れたのか、年の成果(字が違うよね)なのか、よく分からない。でね、東大出て、ぷらぷらしていたら、東大下暮らしと言うのだ、よ。近藤等則さんは、京大だから、似たようなものだ。京都大学とジャズ。これは、国民の税金の無駄遣いと言われても、致し方のないようなかたいなかのたわむれなのか？ やはり、ジャズ屋が、これではねえーと言いつつ、実は、高学歴が日本ジャズには多いのである。俺は、もちろん、違うけど、まあ一、意外と、そういうものだ。どうしてなのかは、説明しません。なんかね、真ん中がないのですね。俺みたいな低学歴か、その反対。考えたら、俺の両師匠も、名立たる大学の名立たる学部を出ている。のに、ジャズ屋だ。過去の栄光。結局、メビュウス仲間と、結局、なるわけ。トップとビリっけつは、同じなのだ。だから、人間は、おもしろいようなおもしろくないようなどうでもいような動物なのである。でも、人間以外は、同族の殺戮をしないから、高度に最低、だね、我々。でね、フランスに、ずっと、住んでいるのに、巴里祭ってなんのことか知らなかったような、忘れたような、「一行目に戻って下さい。譜面のリフレイン」です。で、珍しく調べたのだよ。でね、昔、「7月14日」と言うフランス映画があったんだって。でね、翻訳者が「ぱりまつり」って訳したんだって。それが、いつの間にか、「巴里祭」ってなったそうです。

だから？

2013.07.18 Thu

「おい、胃我肝臓、じきじきに、お前を、お呼びしちよる」

「なんだよおー、練習中によおー、止めてクレヨンの暮れのプレゼント、クレヨン」

「おい、きさまあー、なんだ、その物言いは？」

「ふん、練習を邪魔するものは、容赦しないぜ、腎臓兄貴」

「えっ、裕の助、かっ、勘弁して、ごめん」

「ラから始まる曲、弾いちゃうよ。腎臓兄貴」

「おっ、俺が、悪かったっ！」

「いいよ、肝臓の野郎、なんだよって、用事ってよおー」

「まあまあまあまあ」臍臓が宥めに来る。

その時、藁葺きの屋根が吹っ飛んだ。

好我の奴らだっ！

肝臓が、びのしの丘に立ちはだかる。

「うりゃー——、村の者のお——、楽器を持って来いい————、好我の奴らが.....」

つづいても、しゃーないのでは？

と、タイトルだけ仰々しい。

フランスの7月14日は、バスティーユ監獄の陥落から始まっている。

フランス革命の発端になった日ということだ。建国記念日と訳されていたり、巴里祭となっていたり、非常に分かり難い。本当に、曖昧な知識で恐縮なのですが、バスティーユの監獄の中に、私の記憶では、マルキ ド サドがいたはず。その中で、ちびちびと書いていたのである。「あの書物」を。こういうキチガイを、私は作家と呼んでいる。

たぶん、正確には、「フランス革命の発端になった日」、こんな感じなのだと思う。

フランス人は、この日を、これは、非常に面白い、単に、「7月14日」と呼ぶ。この日付が、たぶん、大変に重いのだと思う。

フランスはバカンスの国として、知られている。発祥の地でもあるのだろう。

フランス人が、「唯一、一致団結するレベル」は、「自分の楽な暮らし」、以上である。

だから、バカンスも、フランス国民が、難局を経て、自分で勝ち取っている。ストライキの連続。

非常にデリケートな台詞になってしまうのだけれど、

裏返しに書く。「このレベルでしか、団結しない」。見事な人たちである。

はい、ちょっと、遠回しな辛口です。

2013.07.20 Sat

八百年前のシャルトル大聖堂

最近流行の一人称の「俺」で、わしは書く。

わしが、前回、シャルトルへ赴いたのは、違った、俺が、行ったのは、文体を「今風」にしないといけないのであるが、なかなか慣れない。

あまりに、めどうなので、自分本来の文体にて失礼申し上げる。

わしがシャルトル大聖堂へ、赴いたのは、丁度、八百年前のその日であった。

その日も大変暑かった記憶が、微かにある。

今以て、世界最大の麦畑の中に、その大聖堂は、美しい御姿を、今以て、その佇まいを、変わらぬ御姿で、御有りになられた。

八百年前、ヒト科の動物にわしは少し似ている。区別が付かないのだが、そう、ヒト科の動物だと、見てくれが二十五歳ぐらいの時に、徒歩で、訪ねた。

巨大な伽藍の入り口の階段に座って、「いこい」を吸った。

階段の端の方に、もうひとりの男が座っていて、たぶん、「いこい」を吸っていたのを、微かに覚えている。わしより、少し上に見えた。「いこい」を吸いながら、会釈をした。

その時、目線の中に、「またなっ、若僧」というメッセージを、八百年前に感じた。

「観光地になったシャルトル大聖堂」を見ながら、わしも「少し」年取ったなって慮った。

ヒト科の作家なんぞは、永遠だ、生と死だと、連綿と綴られて居るが、不死の大変に難儀であることを、お伝えしたいのであるが.....。これは、できんだ、わしらには。八百年前の「いこい」の男が、それを知っていることは、間違いない。

じゃんけんぽいよ、猛暑でしょ

と、すでに、タイトルが尻滅裂。暑いのだよ、マジ。俺のサロンの室温が26.2℃。外は、知らん。35℃ぐらいかしら。去年の十月から、今年の六月まで、ずっと、しょぼい、俺みたいな天気が九ヶ月も続いていたのに、七月に入ると夏日夏日で、うんで、猛暑だよ。あんま、暑いので脳がいかれた。いかれた長介。あっ、そうそう、イケメンって日本語知ったの七、八年前だったかな、いかした男の意味だと理解していたら、いける面だった。イカ天ってのは、いまでも分からない。イカの天ぷらのまんま、です。じゃ、ジャズメンってのは、ジャズ面なわけか？ なんか、馬鹿面ってな感じ。ほっぺ、ぷくぷく。

あっ、フランスの大聖堂なんだけど、個人的には、シャルトルのが、一番、素晴らしい。でも、マイルスとコルトレーンに優劣なんか付けられんから、同レベルだと、アミアン。これは、ゴチック洋式では、容積が世界最大。ランス。爆撃を受けている。シャガールのステンドグラス。この歴史が素晴らしい。ブルジュ大聖堂。今回の小旅行で、初めて見てきた。これも、素晴らしい。でも、たぶん、日本の方々、ご存知ないと思うのだけれど、俺の家から五十キロぐらいのところ、世界で「最も高いゴチック洋式の大聖堂」がある。アミアンの着工が1220年。こちらは、1225年。アミアンの大聖堂を越える世界一の大聖堂を建立しようとした。結果、当時の、たぶん、今の技術でも、あまりに巨大で高過ぎるため、屋根が、二度、陥落。結局、未完に終わった大聖堂。俺は、時々行って、お辞儀をして帰ってくる。あまりにも、ちゃらけた表現だけれども、ジャズ面には、本当に、ぐぐっと来るのだ。

ところで、ジャズ面にも種類がある。ホテルのラウンジジャズ。主流派ジャズ。トラディショナルジャズ。諸々の流派がある。俺は、優劣なんか付けない。その一線のプレーヤーは、皆、凄い。で、俺は、究極の反主流、前衛一派のチンピラだ。

でね、俺の属しているフリージャズというジャンルは、コルトレーン、アルバート アイラー、オーネット コールマン、安部薫、山下洋輔、坂田明、セシル テイラー、うんで、俺の師匠の沖至が日本での先駆者なのである。安部の若僧を、東京でデビューさせたのは、沖師匠なのである。

アルバート アイラーのユニットのベース奏者が、パリ在住のアラン シルバだ。パリの二大親分と、俺は面識どころか、その一人は、師匠だよっ！ うるうる。

押し寄せる日常

水曜日、娘をドゥゴール空港へ、迎えに行く。

木曜日、息子をドゥゴール空港へ、迎えに行く。

庭が、猛暑でカラカラである。水撒きをする。

掃除機が、全然、掃除をしない、ので、掃除機を買いに行く。

掃除ロボがあることを、知る。でも、買わん、うなもの。

映画「クローズゼロ」の中に、親子の会話が出てくる。

「おめーのパンチには、愛がねえー、怒り、怒りだけだ、それじゃー、駄目だっ」

何を書きたかったのか、忘れちゃったよ。

2013.07.27 Sat

大時計

昨日の記事、一体、なにを書きたかったのか、書き始めた途端に失念。高年性痴呆症かも知れん。なんか、押し寄せる日常、これは、皆、一緒なのである。なんだか、ちまちまと忙しい。人類史とか世界史とか日本史、なんちゅうものに、なんら関わりのないことで、日毎、忙しいのだ。超絶マヒナ(暇な)シニアプータローの俺でさえ、そうだから、ね。とりわけ、わたくしの母国、日本国は、本当に、なんだか「いるだけで忙しい」のだ。

でね、この押し寄せる日常に、唯一、ピアノで抵抗している。雨が降ろうが、猛暑だろうが、二日酔いだろうが、午後四時には、這ってでもピアノの前に座っている。水漏れだろうが、下水が詰まっていようが、水洗トイレが壊れていようが、この時間には、ピアノの前にいる。それから、二時間は、なにがあろうが、ピアノ二宮金次郎。正確には、飲み屋金次郎かな？

二十代の頃に、絵描き、ミュージシャン、小説家なんていう連中が、俺の回りに屯していた。まあ、俺も、その一人だった、けど、大半の連中は三十ぐらいで、結婚、ガキ、就職と放物線を描き、絵だのミュージックだの、小説、なんちゅうもんは放棄した。

うで、俺みてえーな真性馬鹿だけ、花形満みたいに、這ってでもホームベース、踏むどおーと、止めんかった。どっちでも、もちろん、構わない。はっきり、続け組みは、真性馬鹿である。

ところで、台所の壁に掛けようと、直径六十センチぐらいの大時計を買ってきた。数字の12から1、つまり、五分の幅が五センチぐらいある。なんだか、一日が、長くなったよ

。

2013.07.28 Sun

フライミートゥーザムーン

この曲、ご存知の方も、沢山、いらっしゃると思います。
だれが歌っていたのか、記憶にないのですが、男性の甘い歌声だった。
チェット ベイカーあたりかも.....。

あっ、そうそう、チェットのDVD、随分前の俺の誕生日に、俺のグループの詩人、ジャンリュックから貰った。若い頃の、超絶イケメンと、晩年の、たぶん、アル中、薬中のぼろぼろしわしわのチェットのコントラストが、素晴らしいというのか、世間なのかジャズの荒波なのか、俺には分からんけど、この濃淡は、ちょっと、.....。

まあ、俺も、ぼろぼろだよ、あっちこっち。
ぼろぼろだけど、心は錦。真性脳馬鹿。

でね、この曲のアレンジを今しているのだけれど、なんか、バシッとしない。
原曲は、全然、難しい曲じゃないんだけど、だからこそ、自分流にするのが、難しい。
まあ、もう少し、やってみて、スイング、俺なりにしないのなら、放棄。

あんま、暑いから、フライミートゥーザ天ぷらなの。

2013.07.30 Tue

驟雨

「しゅうう」、なんかとても響きが綺麗。確か、金子(光晴)さんの晩年の自伝三部作の中に、マレーシア在住の頃の件があるんだけど、その中に、なんとかの驟雨っていう描写があった気がする。いや、思い込みかも知れん。「驟雨」という音を聞くと、金子さんを思い出し、マレーの描写が頭に浮かんできて、そして、金子さんのおしっこの音を題材にした詩を思い出す。と、脳が、このように機能するようになっている。それから、広重の浮世絵の雨が脳裏を過る。

で、実は、「驟雨」ってなんのことなのか、なんとなくイメージでしか理解していない。で、さっき調べたら、対流性の雲から降る雨って書いてあった。けど、対流性の雲？ なんのことだか、結局、分からない。で、一過性の驟雨のことを「にわか雨」と呼ぶ。少し、イメージが湧いてくる。で、一番、バシッと分かったのが、英語で「シャワーレイン」と言うそうです。なんか、もの凄く分かり易い。

いやあー、今日は、久しぶりの雨日なのです。

肌寒いから芝刈りをしていたら、驟雨。慌てて、電動芝刈り機と電気コードを持って、母屋に駆け込んだ。ずうーと前に書いたのだけれど、俺の家の庭は全長六十メートル。広大な庭ではなくて、びよおーんと長い。だから、この突然、ショワァーとこられると、老体に鞭打ち、結構マジで、母屋まで走らんといけないのです。

なんか、俺の最近の記事って、なんか不思議な調性になってきている気が少しする。意味があるようなないような、主題があるようなないような、書く気があるようなないような、ここ十日ぐらいかしらねえー、こういう感じになってきたの？

ふむ、そうねえー、なんかね、言いたいことがあるようなないような。

わちゃー、独り言かよおー！

やべえー、おーっとおー、ピアノの時間だぜっ！

2013.07.30 Tue

よもやま

初めまして、わたくし、「よも やま」と申します。くだらんねえー。

でね、自分の最近の記事、再読してみると、ちょっと、「浮世離れ」し始めている気がする。お読者様の方々の方がお気づきなのかも知れない。分かんのですよ、微妙に「音が違う」。

ブルーノートも、よく読むと入っている。不協和音も。

でも、なんか、「癒し系」の音になっている。

癒し？ 他人を癒す？ これは、トサリ(悟り)の境地なのだ、よ。

まあ、この境地になったのが十二歳の時だから、トサリを開いて四十二年。

はっきり、人生長過ぎ、ってこと。

で、これで、完結しちゃうんだよ、ブログ。で、いいや、ちょっと、よもやま、ね。

「注目記事」

なんだか、正直、毎日のように俺の記事が一位のところにある。

悪い気は、もちろん、しないし、ありがたいです。すいません、本当に。

でも、エッセイ村人口は五百八十人前後。なんだか、おこがましい。

ムカついている方もいらっしゃる気がしている。

すいません。

「クラシック音楽」

うちのカミサンは、クラシック音楽、西洋のっていう意味です、しか、聞かない。

グレンゴールドなんちゅう、ピアノ中毒の成れの果てみたいな人と演奏には、グッとくる、けど

、

俺は、あんま、好きではない。で、おとつ、カミサンが、だれかのピアノ曲をサロンのステレオで流していた。ぼーーと聞いた。素敵だった。でも、随分と音の使い方が違うなあーと思った。

ジャズ屋の音感が、なんなのか、一瞬で分かった。で、それがなんなのかも。

「アンジャッシュ」

なんか、ユーチューブ、弄くってたら出てきた。

素晴らしい。俺と、脳機能が同じだと思ったし、もっと、ずっと、凄い。

はい、ヨモ ヤマでした。

チャオー。

2013.08.01 Thu

貧弱な肉体

朝、起きる。右手手首から指に掛けて「痛み」。右手が腫れている、ような感じ。
庭仕事中の虫刺され、なんかの草に触れた、ないしは、とうとう真性アル中と、左手でコーヒーを飲み、交互にタバコ。この痛みは、初めて。ふむ。

首、両肩の神経痛、筋肉痛、これは、職業病。

でも、今朝のこれは……。ぼわあ——と分析する。そういや、昨日、D7からC7という動きの練習をした。右手の動きが、通常の間には、大変に難儀。これを繰り返した。

で、ありゃあー、こんなこと書かなくてもいい気がするけど、俺は医者ナリ損ねなのですよ。医学部を中退、ではなくて、入れなかったのね、館ひろしと一緒に。まあ、俺自身が、精神異常の傾向があるから、正解なのである。うわあ——、時効だぜってよ、これは。

で、いろいろと医学的な分析を自分でやる。

ふむ、たぶん、なんらかの筋肉痛であろうと分析。で、あんま、暑いから、よお——し、試しにプールへ行ってみた。しかも、お昼にワインをコップ一杯飲んでいる。

いきなり飛び込み、もし、大病であれば、プールに浮かぶ。
これは、怖い。

で、前を手拭で押さえ(うそ。ついでに洗面器かって！)、三センチずつプールへ入る。心臓の辺りに、水をぱしゃぱしゃ。心臓麻痺は怖い。でも、カンカン照りで、水温推定二十六度。大丈夫と判断。平、クロール、背泳ぎ、バタフライとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆくりやる。体全体が大ピアノスト養成ギブスのせいで、ぎくしゃく。もう、あっちこっち痛いのです。でも、ゆっくりほぐすと、なんとなく、若かりし日に、ちょっと戻った。

で、三十分ぐらいやってたら、おりゃ——、たぶん、推定年齢三十五歳ぐらいになった。急に水中眼鏡越しに、周りを見た。若いねえーちゃん、あんちゃんの半分ぐらいは、さすがに、体が綺麗だ。おばさんとおじさん、ふむ、ぶよぶよぷるぷる。

で、俺は、まあ、ぶよぶよじゃないけど、中背の痩せ。
相当に貧弱なおじさんに、フランス人たちには見えている、はずだ。
でも、この霞のような肉体、これが「俺」なのである。

注 なに食ってんだってよっ、お前っ！

2013.08.02 Fri

ピアノと算数

段々、なんとなく、俺の最近のブログの調性が分かってきた。

書いても書かなくても、「どっちでもいいです感」が漂っている。

面倒くさいということもあるし、なんか、たぶん、「無口」になっているのだろうね。

あんま、お話をしたい、という感じではない。鬱なの？ 全然違ってて、元気一杯なんだけど、ニコニコしながら無口なわけだ。考えたら、七月八月、このおフランスは、国全体がオフになっている。馬鹿んす、です。このオフモードの中で、ぎんぎらぎんブログを書く意欲はない。お休み、のみ。

このお休みモードの中で、ひたすら、おピアノ。真性馬鹿だ。

で、おピアノの練習の合間に、赤ワインをちびちび。で、練習を終わる。むらむらっと、ブログ。

と、このパターンが定着。でも、僕、書きたいのだから——という、若々しい意欲は、まるでなし。でれえ——んと、うな、書くか、という感じ。

考えたら、昨年九月からブログを始めたから、この夏ブログは、初めてなのである。

はい、じゃ——ねえ——。

じゃなくて、タイトルとの呼応はどうなっているの？

はい、ジャズメン楽器ごとの性格タイプ分布。ずう——と前に一度、記事にしたけど、でれえ——んと書く。

「ピアノ」小柄、眼鏡、優等生。このタイプが多いと言われている。ふむ、まあ、八割ぐらいそうかもしれん。俺は、中背、サングラス、元優等生。一応は、はまる。

「ラッパ」俺の沖至師匠は、ラッパ吹きと言う。体育会系、根性系が多い。で、師匠自体は、ダンディー系で、全然違う。いい加減な意見だよなあー。

「ドラム」真師匠を例に？ 分からん。

「ベース」静かな人が多い。俺のトリオのヨラムもそうだ。

まあ、楽器、それぞれの特性があるんだろう。

ピアノは、コンピューター。根性系は、少ないだろうね。

あれっ、もしかすると、俺だけ？

ジャズピアノは、理数系の方が、ベター、です。

頭の変な理数系。

2013.08.03 Sat

若い頃は、なんか、たとえば、美術作品とか小説とかピアノの一曲とかに、諸々諸々の諸々を詰め込もうとした。辛うじて、美術作品は、その難を免れている。マルセル デュシャン師匠の厳しい掟が、俺を自己表現から開放してくれた。小説は、今以て、垂れ流しの傾向がある。でも、これも、大変に大変なんだけど、ピアノの方は、沖至、佐藤真両師匠から羽交い絞めになっているので、やはり、こちらも、自己表現から、少しずつ、遠退いている。

若い頃？ たとえば、なんだけど、俺のピアノの観客の年齢を、今、考えてみたら十代から八十代。なんの参考にも、ならん。俺は、年寄りなのか若いのか、これでは、じえんじえん分析でけん。年寄りぶるつもりも、若作りするつもりも、どちらも、ない。どっちでも、いい。つまらん若者も、つまらん、爺婆も、どちらも、大変に多いし、いかした若者も、いかした爺婆も、これまた、大変に多い。大体、俺がいかしたジーちゃんなのか、これも、分からん。

で、あれっ、また、忘れたよ、なに書きたかったのか？

ああ——、さっきね、ハ長調の練習したわけです。

まあ、いろいろとね、ジャズ屋だから複雑な和音を使ったけど、

やっぱ、なんか、いいねえ——。

2013.08.04 Sun

と、またまた、いい加減なタイトル。「浮遊層」にしようか、「たけしきたの」にしようか、二秒ぐらい迷った。

「浮遊層」はい、お金がないから、プールに大の字に浮くのである。軽いから

「たけしきたの」はい、たぶん、フランスで最も名前を知られた日本人。キタノマニアという人種がいる。昨晚、北野軍団のインタビューと、たけしさんご本人のインタビューをユーチューブで見た。凄い人だ、本当に。改めて書くことにする。

音虫、はい、「おんちゅうさいしゅう」と、さっき、ヤノピをくんなまししていたら、脳内に響いた。脳内の網鳥虫、あれ、虫取り網だよな、が浮かんできて、ヤノピって、複音楽器、なんで、こんなにややこしいものを……。と嘆きつつ、じゃ、弾かなければいいんじゃないのぉーーと言いながら、くんなまし。

あーー、そうそう、ヤノピは、理数系向きって書いた、昨日だっけね？

うん、そうだろうなあー、やっぱ、トランペットをやってみると、単音楽器だけど、「音自体がでない」、だから、にやろーーって、根性が出る。けど、ピアノはねえー。なんだか、受験勉強しているような気になる時が、しばしば……。

だから、ピアノで歌うのは難しいのであるのだのだ。

バカンス

今年は、七月三十一日が水曜日だったから、フランス国民バカンス民族大移動が、八月三日と四日となりました。「南へ」ってな感じです。俺の嫌いなコートダジュールへ。俺は、あの辺り、苦手。富裕層が多過ぎて、俺は、昨日書いたけど、浮遊でけん。嫌い、なのだよ。

でも、書きながら考えた。俺の車は、ホンダシビック1997年。で、モナコに行く。たぶん、十メートルおきの警官に職務質問されると思う。空き巣狙いだと、たぶん、思われる。じゃ、ベンツの中型ぐらいので行く。貧乏人と思われる。じゃ、ベンツの四駆で行く。奥様のセカンドカーと思われる。じゃ、ポルシェカレラで行く。一応、モナコの庶民になる。でも、まあ、大枚叩いたレンタカーになる、もし、俺が乗っていれば...。こっちは、大枚叩いているから「得意の絶頂だぜって」になっているが、モナコ市民には、そうは映らない。

じゃ、フェラーリを借りる。タバコ屋の前なんかの歩道に乗り上がっているフェラーリが一杯あるから、結果は同じ。じゃ、マセラッティ。うん、ちょっと、注目かしら...。いやいや、ブガッティー辺りじゃないとねえー...。

と、結局、大金持ちが、椰子の木陰でジキコ(乞食)へ、「ちみも、大金持ちになれば、こうして、寝て暮らせる℃おー」。ジキコ「へえ、もう、ずっと、寝てますけど、ここで」。

こういうのを、ソイップ物語のキョウ君だから、ホンダシビックで、俺は、行く。

やっ、やばあー、俺の名言、でっ、出ちゃ磯おー...。

「ブランドは俺だっ」。りゃ、出ちゃったよおー！
けっ、俺は、浮遊層、どうだってえーのっ！

追記

「庶民の味方」？ わけもたのっ！ わたけものおー！
こちとら、庶民だぜってっ！ 味方はいらんっ！ 「庶民の見方」ということ、ね。

挑発とハッターリ

初めて人前でピアノを弾いたのは、よく考えてみたら、妹の結婚披露宴の時だったから、丁度、二十五年前である。一体、なにを弾いたのだろう。当時は、ジャズ理論など知らなかったから、ジャズピアノのモノマネといった感じだったのだと思う。五歳から十二歳まで、バイエルをやった。

と、以上なのだけれど、その後も、なんか酔っ払うとジャズピアノのモノマネのようなことをやってはいた。タモリのご家庭でできるチックコリア。これに鼓舞された。俺でも、適当にできそうだと、マジで錯覚が起きたのである。で、三十代後半に、ひよんな切っ掛けで、沖至師匠に出会った。飴鞭。ご教示に添いつつ、少し、ジャズ理論の勉強を開始した。まったくフランス語の習得と一緒に、多少、へらへらしゃべれるようになってから、フランス語の文法書を読んだ。あ——、なるほどあ——などと、後になって理解する。ピアノも、理論書を読んだら、でたらめ、適当にやっていたつもりだったことが、理論書に書いてあって、あれまあ——などと、後になって理解した。

その頃の演奏は、「挑発的」だった。パワーとスピードと暴力感みたいな感じに満ち溢れていた。ジャズクラブには、二十代のお客さんが多かった。で、あれ、挑発とハッターリって意味が違うんだけど、「挑発的」および、これに「ハッターリ」が付加された演奏という感じ。「こけおどし」でもいいかしらねえー。で、この頃の裕イサオの方がよかったという方々も、結構、いらっしゃる。最近、なんか上手くなり過ぎて、つまらなくなった。なんても、いわれちゃったりするのである。「挑発力」の衰えと、「まあ、下手なら下手でいいや的自然体」、つまり「ハッターリ力」がなくなった。スピードだけ、辛うじて残った。

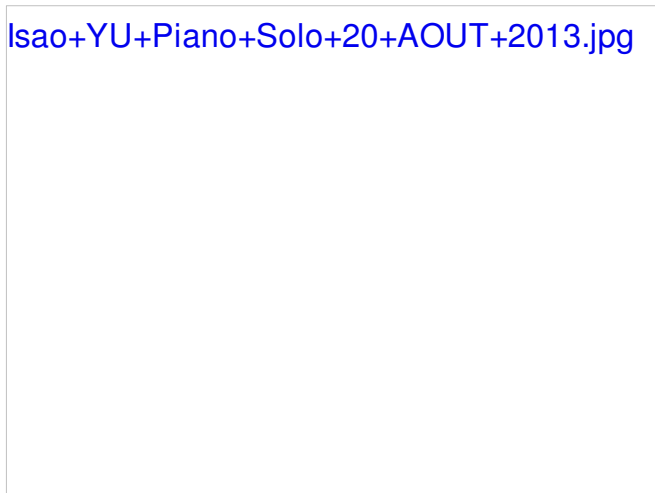
出している音を自分で理解しているのと、なんだか分からんけれど、ニャロメエ——と叫んでほざいている音は、当然にして違う。どちらも音なんだけれど、後者の方が、お客さんの心に突き刺さるんだろうけれど、ほざいている方の体力が持たない。

と、自衛本能に導かれて、ミュージっちゃんが生まれた。
まず、自分を挑発しないといけなくなっちゃったあ——！
分別君。えっ、俺っ？

でもさあー、本番になると、ジャズ神様に取り憑かれるわけ、別人二十八号君になるわけ。俺が俺じゃなくなっちゃうわけね。

そうそう、八月二十日までは、勝手に夏休みにしちゃったんだけど、まあ、秋口の仕事初めがホームのジャズクラブでのソロピアノになりました。

Isao+YU+Piano+Solo+20+AOOUT+2013.jpg



2013.08.07 Wed

バカンス狂想曲

ご存知の方も多いと思うのですが、こちらフランス国の有給休暇は、年間五週間。その代わりというのか、日本国でいうボーナスというものはない。企業によっては、強制ではないけれど、一ヶ月分の給料を、バカンス手当てみたいな意味合いで出すところもある。あっ、週の労働時間は三十五時間。っても、カードルと呼ばれる管理職は、該当しない。私も長きに渡り、このカードル、課長という分不相応なものをやっていたのである。ちょっと、信じられないけど……。で、夏、休んでいてもメールだ電話だで、脳がオフになることは絶対にならない。あんまメール多い時は、うもおー、会社行っちゃった方が、早いじゃんよおー、在宅勤務なのか休みなのかわかりやせんって！ コンサート開始の五分前に、お客さんへお詫びの電話なんちゅうのを楽屋で掛けていたこともある。よおー持ったよ、本当に。そんな私を、ミュージシャン仲間がベズリー目で見ている。「イサオ、お前、よく気狂わないよなあー」なんて。実は、すでに狂っていたのかも……。

先日、テレビのニュースで不況の煽りで、フランス人の十人に四人は、休暇中、どこにも出掛けないそうです。まあ、ゴロゴロして、テレビ見て、庭の手入れと、後は、家の修繕と、こんな感じの人が増えているみたいです。それとお金のなるべく掛からない近場のピクニックなんかで過ごしていると推定。昔は、一ヶ月、ばこおーんとバカンスだったけど、夏、三週間。春とクリスマスの辺りに一週間ずつ。それと、木曜日なんかが祭日の時は、ポン。橋渡しの意味です。金曜日を休んでしまう。と、こんな感じに、少しだけグローバルゼーションした。ホランド大統領も、このグローバルゼーションの煽りで、夏休み一週間「しか」取らないとテレビでやっていた。でも、フランス人は、「さすがあー」とか「偉いっ」なんて、絶対に、皆、思っていないはず。「このような伝統を守らんとはけしからん」なんて思っているはずだ。

でも、先週末の国民大移動。これに、ベルギー人とオランダ人とドイツ、イギリス組みが混ざるから、通称太陽の高速道路、高速A6の渋滞振りは凄まじい。パリからマルセイユまでだから、南へ南へと混雑が酷くなる。慣れないキャンピングカーを自家用車の後ろに連結して、自家用車ごとひっくり返る人なんかも多い。パリからニースまで、二十四時間掛かりましたの、ベルギーの連中は、二日掛かりました、なんてテレビでやっていた。ホテルだ民宿だの予約の兼ね合いもあるんだろうけど、とりわけ、週単位の貸し別荘が土曜日から土曜日だから、どうしても、せえーのおーと出発日が皆重なる。へろへろぼろぼろになりながら、夏休み。

なんか、このお休みに賭ける熱情は凄いと、私は横目で見ている。

私の住む町も、なんだか閑散としていて、近所のプールに行ったらガラガラだった。

移動しないでバカンスしているのである。

屋内に子供用と大人用のプールがふたつで、屋外に、もうひとつ二十五メートルプール。

この屋外のプールで泳いでいたのは、わたくし一人。入場料三百円。
ここで一句。

溺れても 一人

なんだなんだあ——？

2013.08.08 Thu

水泳訓練

以前、記事に書いたような書いてないような、記憶が曖昧。

俺は、二十三歳まで、金槌だった。泳げなかった。細かい理由は、今回は書かないけど、一言で言うと「水恐怖症」だったから。たぶん、自閉症、引き籠もり、鬱病、全部、同じことだけれど、それと呼応していたのだろう。分かり難いから、自閉症とします。で、それからの脱出とともに、並行して水泳を自力で覚えた。

当時は、フランスのボルドーに住んでいて、現代美術家という若い兄貴だった。

肩まで伸ばした長髪を、突然、坊主刈りにし、ボロ自転車で、毎日、プールへ通った。

当然、酒の量がぐーんぐーんと減った。ボロボロガリガリの体に、力、筋肉力のようなものが満ちてきた。最初は、ほとんど溺れているのと大差がなかったけれど、構いはしない。みっともない格好で、水と格闘した。いつしか、水の中に頭をつける事ができるようになった。

少しずつ少しずつ、水の体積への恐怖が消え始めて行った。

同時に、人と会うことへの恐怖も消え始めて行った。

どのように心の中で繋がっているのか、今以て、よく分からない。

たぶん、半年後ぐらいだったのだろう。

平泳ぎ、クロール、背泳ぎ、バタフライ、飛び込み、なんでもござれの状態になった。

三十年前の八月。

豪雨。雷。空は真っ黒だった。

俺は海水パンツ、水中眼鏡。そのまんまの格好でボロ自転車に乗った。

受付のおばさんしかいない屋外プール。

当然、プールには俺だけだった。

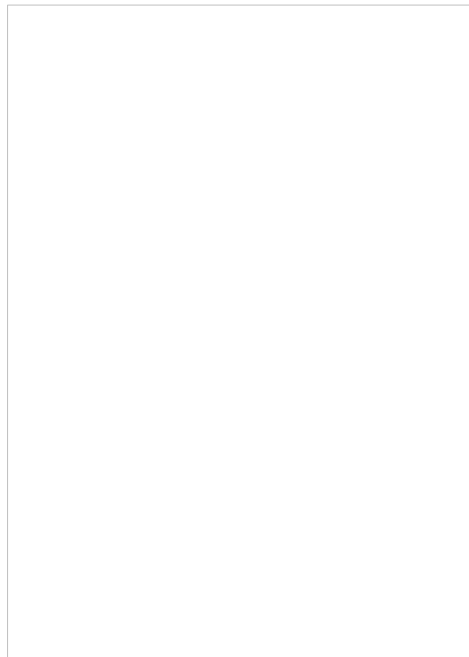
豪雨で波打つプール。

俺は、悠々とひとりで泳いだ。

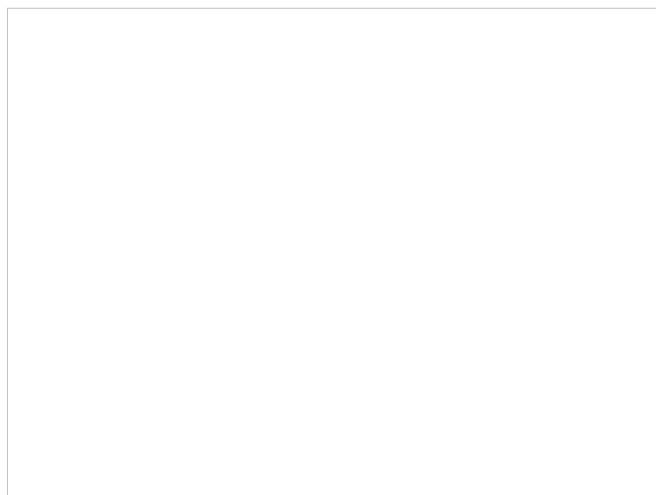
なんか、体ひとつで、世界と対峙している実感。

ひとつの覚醒感に包まれた。

2013.08.09 Fri



俺だと言えば、俺なんだけれど、なんかね、自分の顔を見ていると、目力が、ちょっと、足りない感じが、いつも、している。元鬱の後遺症だろう。ほんの少し、弱弱しい。まあ、俺だけじゃないけどね.....。



で、その目付きがね、このコアラの目付きにそっくり。自分で、びっくりしました。なんなんだろうねえー、俺って、草食系なの？ へっ、装飾系だぜってよっ！



はい、仕事場の俺だっ。

右 ヨラム ロシリオ

そのもっと右 佐藤真師匠

2013.08.10 Sat

一週間ブログ夏休み

ご愛読者の皆様。お辞儀。

両手と両足の指の数で、大体収まる数値。

でも、数値の問題ではなく、その数の方が読んでくれている。うるうる。

ジャズクラブでの、お客様の数に、ほぼ等しい。うるうる。

でね、ちょっと、こちとらも、馬鹿んすに、お出掛けしてくっから、みんなあー、待ってて頂戴っ！

紙パンツしか、持ってかないので、ブログも書けないし、読めない。原始人状態に一度帰ります。で、二十日のソロピアノが、仕事初めって感じです。

ところで、なんか、随分前から、ブログ熱は冷めているのに、ずっと、ほとんど毎日書いている。どうしてなんだろう。まっ、内容がないような無い様ブログだから、まっ、ぐだぐだ。でも、やはり、ほとんど毎日書いている。おりゃーー、俺って、真性ブロガーかも知れん！

でね、なんか、書きたくないことも多い。

毎日、ちんたら書いているのに、なんかね、むしろ、書きたくないことの方が多いいことに、今、書きながら気が付いた。

結局、芸人のトークと一緒に、べらべらしゃべっているようで、「なにも話していない」。

その「なにも」。やっぱりねえー、文学の領域なんだろうね。

昔はね。今は、物書きも、お笑い芸人も、ジャズ屋も、結局、俺も、皆、一緒だ。

なんだか、安っぽいんだ、俺。

2013.08.10 Sat

三十年ぶりのロンドン 1

パリの隣町の俺の家から、車でカレイへ。フェリーに乗って、ドーバー。車はカレイの埠頭。ドーバーに一泊。電車でカンタベリーへ。一泊。バスでロンドン。

カミサンも俺も、三十年ぶりのロンドン。まだ、知り合ってなかったから、それぞれの思い。

うで、ついでに三十年前の俺に会いに行った。

ロンドン北部の閑静な住宅街の二階の窓越しに、そいつ、じゃねえー、俺がいた。長髪、無精髭、自転車柄の緑のTシャツに黒いジーンズの俺が、ピーターステュイベサントを吸いながら、ドライマティーニを飲んでいた。目光りが尋常じゃねえー。目が赤い。

カミサン「三十年前のあなたの方が、ずっと、セクシーでいい男ね」

俺「れれれのれえー？」

俺「あの、馬鹿垂れに、説教してくるっ！」

カミサン「止めなさあーい、「彼」に、今のあなたを見せないでえ！」

はい、現在のわたくし。おっ、筆トーク、懐かしいー、俺の最初のブログ。



三十年前に推定された現在のわたくし。なんか鼻毛に見えるのは、影です。

2013.08.18 Sun

三十年ぶりのロンドン2 カーフエリー

なんどか遊覧船とか、中型のフェリー、小型フェリーには乗ったことがある。

この4基の時は、大しけの海だったから、上下左右に二メートルくらい揺れた。

ほとんど、宇宙飛行士の訓練をしているような感覚が起きた。目的地の島に到着しても、二時間ぐらいは船がなかった。宇宙飛行士の訓練中に、フェリーのスタッフたちが「風浪で、大丈夫ですか？ お飲み物は？ 今日ほ、忘れませぬー」などと、禮儀に船内を歩いていたのが、今以て憶出出来ない。どうして歩いていたのか？ 私は、親子の狩猟にへばり付き、口から飛び出し、そうなる覚悟と戦っていたのである。で、本当に、覚悟が、飛び出し、海の彼方へ飛んで行った。帰。

今回のカーフェリーのでかいこと！ ご存知の方も多いと思う、フランス、イギリスを結ぶP&Oカーフェリー。「まっ、カレイに置けば、乗り場、置く責任がらだらう」などと、高を括っていたら、これが分からない。海軍のフットボール空母みたいな感じで、「車を海軍に置いて行く乗船者の入り口」、これが、ほんじと人が知らない、海軍内をぐるぐる、海軍監で、これとない、これじやないとやっていたら、なんだかテーマホテルに書いた。たまには、過去法、つまり、算数も身に立つのである。たまには？ 失礼致しました。算数は、社会の基本です。乗船券があるからって、よ、ぬー。

と、ここまで、今般書いて、中絶。うで、文体がジャガーチェンジ(作家)。

大体、うちのオミサンとのフェリーの乗り場のイメージは、ほとんど、電車の駅のイメージ、船頭さんが、竹竿持って、海沿で持っている。そこに、高級車、ボンタシビック1997で乗り付ける。で、事に、あいよつと、戻る。

このフェリー、おわぬー。

でけんゴジエツト五輪を掴めたでらいだよー。

お前に、トラック、バス、自動車、で、上の高級ホテルのランジみたいなところに、人、ソファアーにひんぞり返って、海を獲ていたら、お乗持ちの気持ち、ほんの少し、分かった。

しかし、人間の作るものかしたもんはない。と、目標、ほさいて居るが、やはり、この船絶的にでかい乗り物には、小学生の算の字的に、うるうる、二秒ぐらい。

にんげんって すごいなー ぼくも しょうらい リっぱなとに なりたいなー

などと、思った。

二年二組

福イサオ

2019.08.19 Mon

パリロンドン

でね、その大きなフェリーを見て、その後に、海を見るでしょ。でね、なあ———んて、にんげんって、ちっぽけなの、と思うわけだ。ところがどっこい、このにんげんという、俺も含めて、あんまり体はでかくはないけれど、知力は、まあ——、地球に棲息する動物の中では、ダントツ。でだ、このチビ助動物が、知力のお陰で、繁茂して、地球の表面だ、地下だと、延々と、食い捲くっている。シロアリだよ、俺らは。どこが「ちっぽけ」なわけ？ 地球と、俺らが名付けた、その日本語ではだけど、これを、破壊し続けているいるから、偉大ないし巨大なシロアリは、にんげんなのである、と、算数上はなる。この数と知力の制圧力は圧倒的。まあ——、地球に戦争を仕掛けて、破壊して、たぶん、俺らの勝ちだ。で、勝って兜の緒を締めよとしようとしても、地上は、ない。と、ソファーにふんぞり返って、金持ちの気持ちを、少し理解しつつ、俺は、考えていたのである。

ありゃ、パリロンドンだったけっね？ こんな町はない。パリとロンドンの比較表。独断付き。

町の活力 ロンドン 人の多さ ロンドン ヨーロッパの渋谷だっ

物価の高さ ロンドン 高い高い高いっ バスの片道料金四百円 ざけんじゃねえ——

食事 これは意外に、諸々を食べたけれど、美味かった 美味かったけれど、料理がシンプルで種類が少ない そのイギリス料理という意味で

でね、三十年前のロンドンは、俺の記憶の中では、「ずっと暗かった」と、カミサンに言ったら、「そうかも知れないけど、あなた自身が暗かったじゃないの」と、言われた。

町並み パリの方がずっと美しい こじんまりしている 道が狭い

灯台下暗しで、ちょっと、見直した やっぱ、綺麗じゃんって

でね、インターネットで調べた。パリの人口、約二百万。ロンドン約八百万。で、知らなかった、世界で一番外国人観光客が多い町は、ロンドンでした。なるほどねえー。世界都市ランキング、経済文化流行の発信力。一位、ニューヨーク、二位、ロンドン、パリが三位で、東京は五位でした。

イギリス、皇室が国を、気持ち的に束ねている。

フランス、ご存知の通り、フランス革命の国。市民のじゃなくて、「自分の楽な暮らし」、これが、まず、最初に来る国だ。ヨーロッパの二つの大国。マ逆。

おりゃ、本気になって書き出したら、本になっちゃうから、これで、止め。

あっ、そうそう、人のイライラ度。これは、パリだ。

はっきり、フランス人は灯台下暗し。ペシミストで、自国の悪口ばっか。

「人の暮らし」という意味でのソフィストケート度は、間違いなく、あんたらが世界一だっ
ての
！

2013.08.20 Tue

さえない人生

今晚は、秋に向けての仕事始めだから、午後はぼーとすることにした。

肩こりが酷いので、お風呂に入った。少し楽になった。風呂に浸かりながら、なんだか、さえない人生というこのタイトルが脳内に木霊した。さえない人生、つまり、俺のそれなんだけれど、呟いてはみたものの、なんの感慨も後悔も沸いてこない。単に、事実として、そうだなあーという程度。俺の年、山の頂点を越えて、いわゆる下り坂。その下り坂の真ん中ぐらい。山の頂点は、俺の背中側だから、みえない。

と考えても、なんの感慨も後悔も沸いてこない。事実なんだから、カメラアイでみるしかない。でも、幸いにして、ピアノの技術だけは上昇線を描いているし、自分でもどこまで行けるのか、じえんじえん分からない。3.0流から2.7ぐらいになったと分析しているから、2.0ぐらいまでは行けるのかも知れない。でも、1.0流は無理。大体に、ジャズピアノを始めたのが三十代半ばと、超絶的にスタートが遅いから、無理だわな。と、この自分の限界値はみえているけど、別に感慨も後悔も沸いてこない。このピアノという自分自身の中の未知数があるだけ、まだ、下りながらも楽しいのである。

しかし、よく「裕さんは恵まれていますねえー、多才で」とか、「いいですねえー、フランスに住んでピアノ弾いてえー」とか、「わたしも裕さんみたいな人生送ってみたいですね」なんて言われる。さえない人生なのか、俺のそれは？

そういやあー、前回のバビロでのコンサートの時、三十ぐらいのミュージシャンのカップルと知り合った。彼の方は、アルトサクソで、彼女の方はベースって言ってた。「裕さん、ここに毎月出てんですね？」「うん」「あたしたちも、出たいんだけど、なんと交渉してもオーケーが出ない」「えっ、そんなにシビアなの、ここ出んの？」「そりゃー、もの凄い数のミュージシャンが交渉に来るから、ほんの一握りしか出れないですよ、ここ」「リヤリヤリヤ？」「裕さんは、どうやって交渉したの？」「あっ、俺？ 佐藤真とバンド作ったから、出してけれって言ったの。うん、じゃ、来月って言われたわけ。うで、その後は、向こうから、何日は空いてるか電話が来るようになった。以上なわけ」「ええー——————、クラブから電話？ 信じられなあ——————い」「うん、俺も初めてだよ」「へえ——————！」

そうかあー、人前で演奏できない連中も沢山いるわけだ。で、売れっ子も沢山。そうになると、さえてるのかさえてないのか、相対的な問題になるから、もう、自分でどう思うかということになっちゃうよな。

大体、このさえない人生を送っているなどとはざいている俺だけれど、今晚は元々ソロだった

のに、昨晚、沖至師匠からメール。「日本ツアーから、帰って来たよ、イサオは元気か?」。で、明日の晩、ソロやんですけどって返信したら、うな、俺も行くわって返信。沖至師匠とのデュオに前日に変更。こういうジャズジャイアントが、二つ返事で共演してくれる。うるうる。

ばあ——たれっ！ 十分、さえてるじゃん、俺の人生っ！

大体、沖至師匠にリヨンのライブハウスの楽屋で、たまたま会ったのである。

俺と同時期にリヨンに住んで居られたのである。こういう出会いなんて、滅多にないのにねえー。

やはり、さえてる人生かしらねえー？

2013.08.21 Wed

不思議なこと

今、「さえない人生」という記事をアップして、下書きのひとつ「三十年ぶりのロンドン3生き様」という記事を削除した。私が師匠と呼ぶ男たちの話だった。その男たちの生き様への賞賛だからアップしても構わなかったけれど、止めた。俺の心の中に、しまっておくことにした。

これからコンサートなのに、またまた書き出してしまった。そうなんです、暇なのだ。ピアノの練習は、今日はしない。その時、その日に出来ること以外はなにも出てこないから、直前の練習など、なんの意味もない。弾けない曲は、結局、本番でも弾けないし、などと思っていると、なんだか、自分でも舞い上がるぐらいいかした演奏をしちまったりする。いわゆる、本番に強い体質というもので、人様に見られていると、三倍ぐらいパワーアップするのである。まあ、出たがり屋なんだろうねえー。好きなのですよ、このステージちゅうのが...。だって、主役だよ...。小刻みな結婚披露宴かしらね？ っても、自己顕示欲なんぞ、とっくの昔に決別しているのに、こうなのだ。なんでか、まあ、楽しいわけ。もぞもぞ、生きている証みたいな感じ。現在進行形なのだ、コンサートは。お客様と直に対峙しているし、俺の時間を、お客様と共有している、つまりは、みいーん、同じその時を生きているということ。決まったぜっ！

でね、ぼーんとしてしていると、普段はやらないことをやってしまう。

麦茶でも作ろうと思い、午後三時五十五分に麦茶パックを入れて湯を沸かす。

うで、いわき市出身、在住のブロガーさんのリストを見ていた。四時五十五分、焦げ臭い。りりりあーん、麦茶、すっかり忘れていたっ！ 普段は、こういうことを俺はやらないのである。

うで、うもおーん、最後の一袋、つまり、フランス国では貴重品のそれを台無し。しよぼおーん。セ ショボオーンとフランス語で歌っちまった。で、うもおーん、ビールと冷蔵庫からハイネケンの缶ビール。ぐびぐび。あれ？ 俺の味覚まで...。中身がレモネードとビールを混ぜたパナシェという飲み物。缶を再度良く見る。いつも通り。賞味期限も来年まで。もう一缶開けてみる。同じ。不思議なこともあるねえー。

追記

この記事は、昨日、八月二十日に書いたものです。

本日は、コンサート後のもぬけの殻状態。不思議不思議、先記の三人の男の一人からメッセージが届いていた。つまり、師匠のひとりから。よっしゃーん、明日は「サイオユ書店」。フッフッフ、アイルビーバークスーン。師匠へ、お辞儀。

2013.08.22 Thu

我 泣き濡れて ぼくと 撓むる

裕イサオ

作者追記

この物語は、超フィクションのハクションです。

石川先生のブログをお読み頂き、その後に、この愚ブログへとお進み願い、

結局、わけが分からなくなる。分かったかちら？ やべえー、音程まで、おかしくなったあー！

2013.08.23 Fri

かわらけ

倒産 倒産 お金が なぁーいのね
そうよぉー 父さんも なぁーいのよぉー

「うで、マミちゃん、石川先生に、振り込んだふりした？ 二百万リラ」
「はい」
「石川先生、猛暑脳麻痺だから、まぁー、サバトレビアンだろう」

マミちゃん。うぐぐぐ。描写したいけど、エッセイ随筆部門。競技が違うよね。野球場に、テニスラケット。だ、ラケット。

「ところてんで、石川先生のブログ。うるうるびしょびしょの微笑ねん。物凄く高尚で高笑。この高低は、股が裂けても、猿股。わなわな。分かるかちら？」

「裕社長、サバですか？」

「ぎくっ、マミちゃぁーん、つべこべ言わずに、じゃんけんしよう」

「えっ？」

「ところてんで、どうかちら、最新出版の売れ行きは？」

「はい、三島由紀、春の雨が二万部。村上冬樹、ノロマの森が十三万部。村上良、コインロッカーチャンジーズが二万部。海の向こうで掃除が始まるが、二万部。ミッシェルビビツール、幸三主義が一万部。レイモンクノール、地下鉄のドジが一万部。レビィストロー、悲しき天体、一万部。アランロブグリコ、芥子のゴム、一万部……。裕伊佐夫、赤貧よ進めが二十二部」

「うむ、いい感じいー。これに、ミッシェル風子の言葉と桃とガストンバァシュラ、近似的認識シロップ、石川先生の名著、酔った勢いで、が加われば、万全ねえー。二十一世紀文学界の金字塔郡、バイ、サイオユ出版。うるうる」

裕イサオの談話

いやぁー、またこまですねぇー、師匠とのいちごジャムセッション、さかやぶではございませう。この馬鹿ブロ文学の構築におけるチクチクは、はつぼく師匠ありきでございますのでアディダス。うもぉー、この読み捨て振りは、目にぶりぶり。そろひろ、目利きの方が現れていらっしやらけんと、イギリスのケント地方になってしもた屋。赤塚先生、秋先生、目、潤うて、の奥手。漫画は、凄い。はやり、直近の師匠は支障があるにしもたや、大切に、遷都、行けます。

はぁー、鯖、もんぐらんふれえー、ふれえーふれえー、ぬうそむ ばかブロのじえにあす ねすば おん こんていにゅーの乳房(にゅうぼう)、女房は れせとんべ。
ばしいー、

カミサンに真空とびひげ蹴りの裕さんは、鼻血たらたら.....。

石川先生、大丈夫かちら？ 羽毛おー、ばあぁーたれっ、ちかれちゃったあー。

りゃ、なんか、俺のヤノピ、むっ？ 調律しなければ.....。くたぶれた。ありゃ、音が.....。

増産 増産 お金が 欲しいのねえー

そおーーうよっ 父さんも 欲しいのよおー

あれまぁー、僕、高潔庄の薬を毎日飲んでいるのに。きゃ。

2013.08.24 Sat

三人の師匠たち

沖至 ジャズトランペッター 日本フリージャズの先駆者 前衛舞踏、現代詩、土方巽、白石かずこ 吉増剛造等々と初めてジャズを融合 安部薫を東京でデビューさせた方でもある

沖師匠は、俺より二世代年長。先日、久しぶりに共演して下さった。一部と二部の合間に、ビール、たばこ。「イサオ、日本ツアーに行ってたんだけど、沖至って言ったら、あれえー、もう、とっくに亡くなっていたと思っていましただって。はっははははははははは」

佐藤真 個人情報に触れない限りで フリージャズドラマー 料理のプロ ジャーナリストおよび編集長

真師匠は、海辺でお休み中で、料理のプロだから、たぶん、魚介類と、毎日、楽しく、一日中戯れているはずである。俺より、丁度、一世代上。

石川はつぼくではなく、久保はつじ師匠 詩人 漫画家 マルチブロガー

久保師匠は、一世代弱年長。真師匠が、もろ団塊だけど、久保師匠は、ちょっと下。真師匠もそうだけど、読んだ本とか、見たテレビとか、意外と俺の世代と共通している。考えたら、俺が生まれた三年後ぐらいに、やっところさ、白黒テレビだったから、一世代跨いで、見た番組は、一緒だったのかも知れん。

真師匠との共演ビデオは、ユーチューブに満載。

久保師匠とは、熾烈な「読者少ないブロガー」争いの真っ最中。ぎよははははあー、俺の勝ちだぜ、兄貴っ！ サイオユ出版の続き、もう、三篇も「溜めている」のじゃーー！ むずむず。

トランペットという楽器は、男性的で華やかな音色って辞書とかに出てくる。今回、添付した動画は、前後の俺のソロはカット。沖師匠のラッパの部分だけにした。こういう音を出せるラッパ吹きは、俺の知る限り、ふたり。マイルスと沖師匠。

皆さん、お早うございます。

本日午後、パリ、シャンゼリゼ通りにあるサイオユ出版社へ、強制捜索が行われました。

次々とベストセラーを飛ばし、今を時めく、いわゆる時の人的出版社でございますが、フランス、ガニマータ出版、日本国慎重社より、盗作より、もっと、たちの悪い、倒錯疑惑にて、家宅捜索が行われた模様です。いわゆる「類似品商法」と呼ばれるもので、間違っ買ってしまったという、消費者よりの苦情が典型的でございますが、サイオユ出版の場合は、「もっと、つまり、原作よりおもしろかった」、これが、二大出版社の股間に触ったと申せませしょう。盗作でもなく、パロディーでもない、今後の訴訟の成り行きが注目されております。

「おい、マミちゃん。ぎよはははははははははは、はっ、うちの著作は、全部、ぼくちんが書いたのずら。石川先生の酔った勢いでを除いて。著作権は、ぜえ————んぶ、僕」

「裕社長、家宅捜索中に、なんでお話ししているのですか？」

「あれ、マミちゃん、よお——く周りを見て頂戴。分かるかちら？ そう、三十年前のシャンゼリゼ通りに、ふたりにワープしたの」

「えっ、三十年前？ わたし、まだ、生まれてませんけど.....」

「いいのいいの、そんな矛盾は、石川先生の糸理論で解決っ！」

「裕社長、石川先生の秘書の方から、先生が行方不明とのご連絡が.....」

「ちやうちやう、石川先生、三十年前のタバコ屋へ新生を買いにワープしただけ。石川はつぼく先生、正式名称、未来文芸軍団、チャンチキが開発し二十一世紀のコテイカンネンを破壊しに送り込まれたメロルリキッドハカイダー28号」

「えっ、ハカイダー？ まっ、まさかあー、裕社長も？」

「ふふふふふ、俺、ユイサオ。バカデネーカー007だっ！」

もう、止まらない馬鹿力。つづく。

ご愛読者一桁まで、もう一息っ。

警部っ、夏目容積「ろここ」、マグリットを許すな「よこしま」、コウダクミオ「蟹レーザービーム」.....。どこに行きやがったっ、あいつらっ！ 紛らわしいけど、うむ、面白いねえー、これ。

2013.08.26 Mon

巨大建造物

本日は、私用で世界一高いゴシック大聖堂のある町に行っていた。
どうして世界遺産に登録されていないのか、その辺りの事情は分からない。
たぶん、未完成ということなのかしらと推測している。

今日は、大聖堂の内部に入る時間的な余裕はなかったけれど、
すでに、遠くからその威容が見える。中心街の中華レストランで昼食を取り、
どこの通りからも、その通りの遠近法の中点に、巨大な岩山のような大聖堂が見える。

以前に、ほんの少し記事に書いた。
アミアンの大聖堂を越える世界一のそれを建立しようとした。
当時の技術では、その天井の高さを構築することが至難だった。

一瞬、ハリウッド映画の特撮映画を見ているような、この巨大な建造物。
未完に終わったとはいえ、それを建立しようとした当時の人々の、その意欲に畏敬の念を感じ
るし、海や山を見た時に感じるものを、この人工の建造物が、私に感じさせてくれることが、脅
威である。

うまく表現できないのだけれど、私は、時々、この大聖堂を見に行くのである。

2013.08.27 Tue

昨日、帰宅するなり「巨大建造物」という記事を書いた。

その大聖堂を、私は幾度となく訪ねているし、どうして、いつにない感銘を受けたのだろう。自分で分析してみたら、その小さな町の普段はあまり行かない界隈に車を止めた。

その小さな町は、第二次世界大戦の空爆で、町の八割を破壊された。

極論してしまうと、中心の大聖堂と中世の城以外は、すべて失った町である。

戦後の復興で、ヨーロッパの町らしく、すべての建物の高さが統一された現在の町並みが現出している。

町全体が、それ程高くはない、建物で統一されているから、横から見てみれば、一種の平面のように見えるはずである。その平面の真ん中に、未完の大聖堂が「聳えている」。

あまりにいい加減な知識での記事もいけないと思い、少し調べて見た。

その町の現在の人口は、約六万人。

大聖堂の「世界一高い」ものは、内陣の天井高48.5m。

私は知らなかった倒壊した中央尖塔があったことを。資料を見ると、151.5mと153mとふたつの記述があった。そして、私の単なる思い込み、未完成の意味をまったく取り違えていた。私は、あまりの高さのため、本来の大聖堂の屋根にあたる部分が未完なのだと思い込んでいたのだ。中央尖塔は実際に完成していた。天井部分の二回の倒壊と同じく、そのあまりの高さのため、この部分も倒壊。再建はされなかった。

そして、世界最大の未完の大聖堂と呼ばれる本当の意味を、初めて知った。

その巨大さに圧倒されて気が付かなかったのである。身廊部分がないのである。

つまり、大聖堂の正面入り口、その入り口から通常は縦長に続く、一番、大聖堂の大きな空間がない。翼廊と内陣しかないのである。翼廊の南入り口が正門になっているのである。こちら自体も巨大な入り口で、正門がないことに気付かなかった。今、完成図をインターネットで調べているが、発見できないでいる。本来の姿の三分の一ぐらいの部分しか完成していないことが分かった。完成後の全体像。その巨大さが、実感できない。すでに、十分に巨大なので。

高さが統一された町全体。碁盤の目状の通りの突き当たり。左右の建物の遠近法の中点。

私たちが日常を送っている、その小さな小さな建物の集積が近景となり、その近景の奥に、巨大な未完の大聖堂が聳え立っている。そのコントラストに圧倒されたことが、自分なりに判明したのである。

人類 英知 天空

メガロマニアとは違う、なんか、もうひとつの非日常が、私の目の前に建っていることに、少し、震えたのだと思う。

2013.08.28 Wed

どこかで見た風景

フランス語のデジャブウ。どこかで一度見た。
ちょっとニュアンスが違うけれど、日本語の原風景。
でも、私が、改めて感銘を受けた大聖堂は、そのどちらでもない。

でも、どこかで「同じ印象」を受けた記憶を昨日から辿ってみた。
脳内のキーワードに「岩山」があった。そう、グルノーブルの岩山。断崖絶壁の岩山。垂直の巨大なもの。裾野がない。

その絶壁の「足元に」、家々が建っていた。
「蟻のように小さい家」が。もちろん、相対的な印象である。

因みに、その大聖堂を建立したのは、「蟻のように小さい家に住む蟻」、つまり、我々。
どうも、上手く書けない。私は、なにかを書きたいのである。ポジティブでもネガティブでもない、この、今、私が書いた「我々」というものを。

ただし、ブログの領域では、ない。

と、私は考えている。もし、その上手く書けない、なにか、巨大な内的なものがあるのであれば、それは、詩であり、小説。もし、文字化という意味では、と考えている。

どうして、私が、その大聖堂を見に頻繁に足を運んでいるのか？
その理由自体を、ブログに書こうとは、全く、思っていない。
そして、そういう思いが詰まっている若い世代の方々への、私なりのメッセージなのである。

私自身、その内的な巨大なものに、言葉で対峙する日が来るのか、分からないから、ピアノを弾いて、それを宥めているような風にも思える。

文章の上手い下手、論外だろう。
ブログは、助走という意味合いで、私は、大変に愛している。
とても、素敵だと思う。

追記として

日本の東大寺の天井高 28m 世界最大のゴシック大聖堂はケルンないしアミアンの大聖堂
因みに、アミアン大聖堂の天井高 42.3m ケルン大聖堂 45m そして、「私の」大聖

堂48.5m 今夏に訪れたイギリスのカンタベリーに、小さな小さな世界遺産の教会がある。ハリーポッターそのままのお墓の真ん中に、小さな小さな教会。建立されたのが593年。教会の中に、お婆ちゃんが座っていた。「英国で、一番古い教会ですよ」と、私に説明してくれた。過去と未来がメビウスの輪になっていることは、周知の通りである。

2013.08.29 Thu

どうして私のブログは読まれないのか

とうとう、閲覧数5という記事が出てしまった。

両手両足の指の数ぐらいだったのが、片手になった。

今日で、ブログを初めて、十一ヶ月半ぐらいで、日本に行っていた三週間の休筆を除いて、ほぼ、毎日書いている結果が、5。ふむ、やはり、腕組みをする。げほげほと咳を試みる。空を見上げる。星飛馬目になる。だんだん、バカボンパパ目になる。

いつだったかしら、閲覧数48という記事があって、「いやあ——、一クラスの人数を超えると怖い」と記事に書いた。私の時代、小中高の一クラスの生徒数は、42から45。この数を超えると、それぞれの顔が見えなくなる。それが恐ろしい。

で、どうして私のブログは読まれないのか？ 分析の必要なんてなくて、つまらない、ということである。あと、タイトルが分かり難い。内容と呼応していない。なんてこともあるのはあろうが、私の興味、その内容等々が、私以外の方々の琴線に触れない。

と、考えてみても、私の興味は変わらないから、そうなる接点がなくなってしまう。

あっ、そうかあ——、だから、私は永遠のアングラ芸人なわけだっ！

日の目を見ない。うるうる。吸血鬼じゃなかよおー。

と、書いても、これを読んでくれている方は、読んでいる方々だから、読んでくれない方々へのメッセージを仮に書いても、白ヤギさんと黒ヤギさん。白山羊徹夫に改名しようかしら？

閲覧数5に該当する読者様、深々とお辞儀です。

2013.08.30 Fri

私は裕イサオのブログを読まない

わたくし、ブログ評論家の石頭哲夫と申すもの。なぜ、裕君のブログを、わたくしは読まないのか、以下、列記致そう。

「サムネイル」元美術家のせいであろう、ハレーションを使った目立つ色彩。目に留まろうという意図が見え見えである。わたくしは、こういう意図を好ましいとは思わん。しかも、いかにもちゃらけた鼻眼鏡を付け加えている。逆にナルシズムが、それにより如実に出てはいまいか？ ナルシスパラドクスル裏自信であり、わたくしは、このような人格を否定する者である。

「ブログ総タイトル」ピアノは私だ。これは、著名なピアニストが付けるべきタイトルであり、裕ごときの三文芸人のブログタイトルとしては、けしからんと申し上げたい。一流の、活躍しているピアニストという印象を、嫌でも醸し出している。トロンプリュユである。わたくしは、騙されん。

「ブログの説明文」非常に分かり難い腰帯であるが、ここに裕はふたつのブランドを忍び込ませている。ユーチューブとパリである。あたかも、パリの一線で活躍しているピアニストのブログであるように見せ掛けているのである。こんなものに、わたくしは騙されん。

「各記事タイトル」へめれけ、ろれらり、ままと、などと、所謂、業界用語を多用する。所謂、業界人気取りの三文芸人に非常に多いのである。たとえば、へめれけという記事タイトル。これでは、まったく記事内容を想定することが出来ない。我々は、忙しい合間を縫ってブログ閲覧を行っているわけであり、この裕の思わせ振りの、業界人気取りのタイトルは、読者無視の自己中的のものであると断言するのである。

「記事内容」業界用語の多用。訳の分からないはなもげら言語実験。合間に著名な作家名を羅列する。あたかも、博識、インテリであるかのごとき錯覚を読者へ与える。これは、無内容を隠蔽するための姑息なペダントリーである。と、わたくしは申し上げる次第である。

「総括」まず、この姑息なナルシスペダンティックパラドクスル裏自信家である裕のブログなど、読まないという行為こそが、正しいのである。内容がない、つまり、世界観がない、自身の意見がない。心のスイス人などと、本人はうそぶいて居るが、単なるパープリンなのである。あやつは。ナルシスペダンティックパラドクスル糞馬鹿ブロガーと命名する次第である。この世界観の midpoint が無い。意見がない。彼の立ち位置が分からない。おまけに、こやつには他人を批評、批判、酷評するという真の人間らしい行為が、根底から欠けているのである。人畜無害の精神の家畜であり、愛がねえー、愛がと、クローズゼロの台詞を引用したいと思う。すべての人、事象に対して、いいんじゃないと、この空脳ぶりが、わたくしは許せないのである。あやつは、人間

ではないのである。マルセルデュシャンの教え、つまり、無関心の自由であるなどと、ほざいて居る、あやつはっ！

わたくし、石頭哲夫は、毎朝、裕の愚ブログを読み、苛立ちを禁じえないのである。怒りで打ち震える手が、ついつい、ランキングバナーをクリックしてしまう。

石頭先生、裕イサオって、仮の名前ですよおー。バカデネーカー007という新種のロボットですよ、あれは.....。

2013.08.31 Sat

心のチューニング

一瞬、いつものはなもげら体質で、ろここのチューインガムと書きそうになったけど、止めた。パソコンの中に、記事が溜まっている。なんか、また、ブログ熱が再発。とりあえず、保存した。まじめにブログ評論を書いてみた。それから架空の馬鹿物語。とりあえず、保存した。

ところで、物事には両極がある。私が、今更、偉そうに書く必要は当然なく周知のことである。善悪 表と裏 白と黒 上と下 利巧と馬鹿 とか、なんでもいい。

ところで、私は有吉弘行さんの大ファンなんだけれど、最近のテレビ番組をユーチューブで沢山見た。私の話方が、彼のそれに似ていることに気が付いた。

私は、比較的、善良の方のはず。見てくれも、あまり悪い人には見えない、はず。人のお話も、比較的、聞く方の、はず。あまり、人の悪口も言わないような気がしている。比較的、謙虚の、はず。裕さんって、良い人よねえーという方も、比較的、多い、はず。

でも、よおーく考えると、善人面がうぜえー。謙虚振りやがってっ、ニヤローなどと、私を嫌っている方も、結構、多いのかも知れん。うん、私は、ニコニコしながら、毒舌を吐く気がある。かなり相手にとってはきつい発言を冗談口調で言う。うん、昔、課長している頃、社内の私の標語は、「悪口は、本人がいる時、本人の前で、大きな声でやるようにっ！」で、課長自ら実践していた。そして、りゃりゃー、いろんな渾名を付けた。私自身、素晴らしい上司だと思っていたけど、よおーく考えると、うぜえーと部下全員が思っていたのかも知れない。「どうせ、仕事なんか面白くねえーから、業務連絡は、卑猥な単語で行うこと。ただし、パワハラ、セクハラ等には抵触しないように、おじさん駄洒落は、出来る限り避けるように」。これが課長命令だったのだ。

でね、まあ、ラジオのチューナーを頭に浮かべて頂くとお分かりになる通り。左側が悪、右が善。まあ、多少、右寄り辺りにチューニングはしているつもりなんだけど、時々、心の針が、左側にぐーんへ行ったりする時もある。凄く善良な悪人さんって、実際に、いると思うんだけど.....

あっ、そうそう、五十代になる前、同業者のピアノを聴くと、ぼろくそ言っていたのだ。最近、大人になったみたいで、そいつの良い所を聴くようになった。そうしたら、自分の力量自体が良く見えるようになった。でも、演奏のパワーはダウンした。分別ジャズになった。

っても、若と老のチューニングも、大分、右側に針が来ているわけね。

2013.09.01 Sun

はぁーい ラー口だよぉーん

はぁーい、久保(じつはぼくの爆脳雑記)君のブログ、おもしろおぉおぉおぉおおい。
だって、漫画あり、音楽ありで、時々、すごぉーく、高尚なの。
こんなのぁーい。裕君のブログ、さいきいーん、つまんなぁーい。

でも、久保君と裕君が、さいきいーん、コラボしてるの。
これっ、とっても、おもしろおーい。ウフフ。

ふたりとも、とぉーても、馬鹿なのぉー、ウフフ。

司会 赤島さんま

「ところでえー、ラー口は、読んだん、ふたりのブログ？」

ラー口

「読んでえなぁーい」

2013.09.02 Mon

ブログの下書きが一杯パソコンに溜まっているというのに、これを書き出してしまった。もう、一挙に五編とかアップしちゃおうかしら？ 五分前まで、ふむ、更新率をもう少しお淑やかな感じにと思っていたのに、結局、これを書いている。

ところで、欲望という名の電車である我々には、諸々の欲望があるけれど、男どもの欲望の中樞は性欲。ある意味、その他は、これから派生しているともいえる。繁殖力。竹内久美子さんの著作に親しんだ方も多と思う。女性の思考回路、欲望回路は、私は、まったくもって想像ができないので、この男どもに限定させて頂く。

性欲=いいメスのゲット

で、そのために金持ちになる=金銭欲。そのために有名になる=名声欲。繁殖力のキープ=食欲。等々。

いろんな羽の柄を考える。複数の柄が混じっているオスも多い。で、ジャズ屋がゲイジュツ家なのかは分からないのだけれど、このゲイジュツ家の人々は、名声欲の塊系が多い。確かに、ゲイジュツ家、ミュージシャン、こういう職種は無名では意味がないし、商売として成り立たない。だから、当然、有名の方にベクトルが行く。でも、ゲイジュツ家の名声欲と有名欲は、微妙に違う。有名になりたいのではなく、一角の人物としての名声を得たいのであって、ある意味、知る人ぞ知るなんていう方が、格好いいのである。その有名の質が問題なわけである。

と、ゲイジュツ家の人々は、少し、ややこしい。昔、ユリイカが現代詩手帳で、高名な詩人がネガティブな批評を受けて、あまりの怒りのため、三日間布団から出れなかった話を読んだ。この怒りのエネルギーの凄いことっ！

と、なんじゃらんじゃらいつでも、ゲイジュツも孔雀の羽の一種であることは同じ。ゲイジュツは性欲の爆発なのである。ということは、私がピアノを弾く、本来的な、その根幹にあるものは、ネーちゃん方にもてたい。ゲットしたい。という結論が導かれる。

とはいえ、性欲は無尽蔵ではないし、永久でもないから、当然、衰える。羽自体がなくなってしまった。広げる力がない。柄がなくなっちゃったあー。羽が萎れている。穴だらけになっている。こんなもん、広げてどうすんのおー、となる。

そうすると、ピアノを弾く、その原動力であった性欲がないのに、その本来の目的、主旨がないのに、ピアノの演奏だけが残る。リャ？ うじゃ、なぜに弾くの、という問題が発生する。仕事

だからしぶしぶ弾いている。これは、多分、あんまないだろう。辛過ぎる。

考えてみたら、人前で、是非是非、お聞かせ致したいという欲望。自己顕示欲みたいなのは、あんまない。まあ、お話があればねえーという感じ。おネーちゃんにもてたくないの？ もてたいけど、まあ、お話があればねえー。ゲットしたくないの、まあ、そういう状況になればねえーと、積極性はまるでない。受身老人。うじゃ、なぜに、ちみはピアノを弾くのか？

なんか、ほとんど、自分のためになって来ている。自分の中の未知数を探って楽しんでいる。長い人生の暇潰し。あと、なんか祈りに近付いてんのかしら？ なにを祈っているのか？

ジャズピアニスト、ビルエバンスが作った曲のひとつにエピローグという、涙なしには弾けない美しい曲がある。難しい曲ではない。音数も最小限。一応、私は弾けるのだけれど、コンサート等では弾かない。なんかねえー、この曲弾くと、弾き終わったらピアノの上で腹上死するような恐怖が、ちょっと、過るのです。

性欲なきピアニストの最期に相応し過ぎっ。でしょ？

2013.09.03 Tue

「なんじゃと、石川が攻めてくると？」

「はっ、なにぶん、こういうご時勢、読者数の少なさを競い敗れ申した、はつぼくの兄貴が、攻めてくると」

「マミちゃんを呼べっ」

うぐぐぐ、僕、描写したいんだけど.....。

作者、急にインテリ顔。わたくしの自宅の近所に、リビエドリラダンの住んでいた町があるのですが、ご存知の方はご存知の通りで、ピグマリオン、つまり、アンドロイドを初めて小説化したわけですけど、「未来のイブ」という小説です。詳しくは、筒井康隆大先生へお問い合わせ下さいまし。筒井先生のパロディー、すげえー。

「ねえ、マミちゃん、どうしよう？」

「殿、それは、近親憎悪とフロイトが申しておる次第でございまする」

「風呂と意図、難しい脳おー。して、マミちゃんの、心の準備は？」

「殿、なんの準備でございますか？」

「うっふふふふふふふふふ、それ、なに、まあー、その、園まり子だよ」

「えっ」

「殿、石川の軍勢が.....」

「ちょっと、タンマ、今、僕、トマト、取ってんだもおーーん」

追記

いつまでも、師匠をネタに使っていると叱られてしまうので、「ブログじつはぼくの爆脳雑記」という師匠へのオマージュ記事を書いた。明日、アップ致しますので、皆さん、紋付き袴、晴れ着姿で、パソコンの前に正座してお待ち下さい。

次の 停車駅は 辟易 辟易いー

網棚のお子さん、奥さん、お忘れ物の ないよおーにいー

次は 辟易 辟易いー に 停車 いたしまあーす

ご愛読 誠にいー ありがとうございますあーす

次は 辟易 辟易いー

いい加減に白っ！ バァーろおーーー！

2013.09.04 Wed

久保はつじ兄貴のブログについて、文芸評論家みたいな文体で記事を書いた。読み返してみたら、なんだか妙に堅苦しくて、私の本意が伝わらない感じがしたので、肩の力を抜いて再度書くことにした。勝手に、馴れ馴れしくも師匠を兄貴と呼んでしまっている。ご容赦のほどを……。私のお気に入りブロガーさんのブログ批評ではなくて、オマージュを書いてみようかなどと、思っているのですが、なんか、私のブログ、この怪しげな三文芸人のブログで、それを行うとご迷惑になるような気がするので、よすことにした。たとえば、それによって閲覧数がどばあーと増えるとかのメリットがあり、なんらかのお役に立つのであればよいのですが、そうは思えない。なんか、怪しげな三文芸人ブログで紹介された、なんてマイナスになってしまうのも本意ではない。それで、兄貴のみにする。

「オマージュ1」多面体ブログ。漫画、音楽、文学と変幻自在。お笑い、涙、マジ、高尚考証口承哄笑高唱と、同じ音が変幻自在に変化する。非常にジャズ的なのである。これは、兄貴の豊穡土壌蓄積文学マグマの活断層による生き様と自由脳からの流出なのである。「薬缶象」の漫画、思い出すたびに、くくくくうーと笑ってしまう。「球体に表裏はない」。仰け反った。「日光は、過去からの光り」。うるうるしながら仰け反った。日毎、拝読させて頂き、時に、バカボンパパ目、逮捕逮捕のおまわりさん目、星飛馬目、へたっと床に座り込み鼻水、そのままベズリー目などと、読み手である私自身の様相も、目まぐるしく変化しているのである。

「オマージュ2」あまり、日記的な記事が出てこない。逆に、ブログ的ではない。この逆様普遍的文学創作SF的科学目線抽象高尚ブログである。一度、兄貴の脳を輪切りにしてみたら、この多面脳の医学的な解明ができるのではないかと推測する。ないしは、恐ろしい形状、私が自ら作り出した言葉、空脳だったりしてえー。その時は、執刀医がマスクの下で鼻水を垂らし、メスを持ったまま手術室にへたり込む姿が目には浮かぶ。ぎょ、裕と一緒に。You know? なんて、駄洒落で誤魔化す以外に方途がないであろう。

「オマージュ3」兄貴の人生の軌跡の記事から推測する。実に、ユニークである。そうはいない。世界を旅し、日本国を一度、外目で確認し、そして、諸々の文学的な葛藤があったことを存じている。私のそれは、兄貴ほど劇的ではないけれど、少し、似ている部分が多々ある。この外目は日常になっているし、この葛藤もあるのである。「酔った勢いでブログを書いた」、この記事タイトルに吸い寄せられ、複数の記事を貪り読み、顔面、笑いながら泣いて鼻水でぐちょぐちょ。だから、愚著。冗談。時より書かれる若い時分のお話。私は、和服に着替え、和室のど真ん中の座布団の上に正座し、パソコンを三回回してお辞儀をしてから拝読しているのである。現在は、東京の某所の球体豪邸にお住まいになられ、広大なお庭の竹藪と戦っておられる。

「僕、なんかにいー(尻下がり)、日常にいー(尻下がり)、埋没しちゃったから? でも、そ

れはそれで、心地いいのおー(尻上がり)」

なんと率直なお言葉あー！

わたくしも、同感なのである。ぐさっ！

え——、ちょっと、はっつあん、そこのなに、へめらも、とってくれえー

へえ、なにね、ちょっと、いさこうのやろうがな、なんかおれのことを記事にするってえ——

から

うぐうぐ(酒を飲む仕草)、もう、おやすみなちゃいい——

追記

どこかの出版社、書籍化してクレヨン(コピーライト、町田康)。

俺、全冊買うからさあー、ね。芸能人の自叙伝は、後回しで、いいんじゃないのって！

でけた。夏休みの宿題。二年二組。裕イサオ。

2013.09.05 Thu

スーパーベースボール

本日は、往年の大スター、ケントクンタさんをお招きしての実況中継。

提供は、謹聴蚊取り線香と、明日の健康、あなたのヨクルタにてお送り致します。

「さあーて、本日の見所は、入団一年目、五十四歳の裕伊佐夫投手の二百一勝目がなるかですが.....」

「そうですねえー、突然現れた、スーパーマン界の新生じゃない、真性の新星ですねえー」

「裕選手のお話ですと、わすは、突然、ある日いーに、スーパーマン化すたのですが、それまでは、すがない内職すごとをしておりました。なあーに、ズージャのヤノピすとを、すておりました。と、なかなかユニークな経歴の持ち主ですが、いかがですか、クンタさん」

「まあーー、稀に、こういう後天的スーパーマンが現れることもあるのである」

さあーー、裕投手、大きく振り被りましたっ、ずばっ

今のは、打ち気を誘うスローカーブですかねえー あっ、球速3282kmと表示

うな、球種を聞かれてもねえー、見えねえーーーって

バッター、ロイチ選手。さあーー、いかがでしょう

さあーー、二球目。ずばっ

三球目、ずばっ。おおおおおとお、オットセイ。ボールでした。球速53803km

さあーー、ロイチ選手、おおおおおおおとお、頓馬の構え。おっとおーーーボール二二のカウントになりましたあー

さあーー、裕投手、大きく振り被り、りゃ？ 球はどこでしょうか？ りゃ、超絶日本プロ野球界前代未聞の超スローボールうー。キャッチャーミットへの到着は、明日の午後、三時十二分との表示が出て参りましたあー。では、本日の中継を終了致しますが、スローボールの映像は、本日、午後十一時までお送り致しますっ。

続けようかなあー？ ねえ、マミちゃん、どう思う？ うざあ。

2013.09.06 Fri

柔らかい文体

人 それぞれ 字体がある
面識がなくても 文識でも その人は分かる
それほど 見知らぬ人のことを分かることは難しいことではない

素性？
それほど大事なことはない
ある意味 面識なんぞ いらない

そして わたしが いつも 注意深く 読んでいる？ 見ているのは 文体である
わたしのよう に 錯乱している文体も ある それは そういう人ということである

そうではない人も いる
それは 本当に素晴らしいしその柔らかさその人がとても良く出ている
わたしわたしわたし俺俺俺自分自分自分 私たちはそういう生き物かも知れないけれど

もうひとつ 違う目線に立つと

意外と 世界はうつくしい

2013.09.07 Sat

天気予報

皆さん、お早うございます。

JAZテレビ、榊原イサオです。

本日の、イルドフランス地方のお天気の模様をお伝え致します。

はい、九月七日午前八時三十七分現在の気温は、温度計が階下にあるため推定体感温度は十二度。室温は二十度。空の様相は、展望台サロンから最上階のホールへ書斎を移動致しましたため、ここからは見えません。しかし、先ほどコーヒーを飲みながら見上げました空の様相は、晴れ。水色という日本語が最も相応しいと思われる、主観的な発言をお許し頂けますようなら、大変に美しい色合いでございます。その水色が地平に向かって白に近付いて参ります。この自然のグラデーションに、わたくし、榊原はうるうるするのでございます。上空の水色の中に、まるで、刷毛でシュッシュと描いたような、なんと申すのでしょうか、勝手に刷毛雲と命名させて頂きますが、この絶妙のシュッシュ。水色のグラデーションにシュッシュ。アームストロング船長が見た地球を、内部から、わたくし、榊原は見ている。この当たり前に、再度、うるうるしたのでございます。

さて、午後のお天気は、なるようにしかありませんので、晴れないし曇りないし雨かも知れませんが、わたくし、榊原の私見で恐縮でございますが、雪の可能性はないと断言しても吝かではございません。

それでは、皆さん、良い一日をお過ごし下さい。

でけた。芝刈り芝刈り。芝良太郎っ。

お庭を坊主刈りにするのだっ。大きなバリカンで。

地球の表面の一部を所有して居るのだっ。うるうる。

地球は、大切に。

2013.09.08 Sun

とうとう見付けた。フリージャズグラドル。

KY? ぎけんじえねえー。そうではない。桃子は天才ジャズウイメンである。
美人なのかブスなのか、なんか際どい美人である。

でね、お笑い芸人さん。はっきり、あんま、面白くない。

「ド ミ ソっ!」「ソ ド ミだろっ」こういうテクである。いもだ。
これが、仮に「ミ ミ ソ ドおーー」いもだ。
そりゃー、ハ長調という調性で、つつこみとボケ、これは分かるけど.....

でだ。桃子は「空気を読めないタレント」だって?

つまり、空気、調性を読めない?

ばあーたれっ! 芸人のレベルが低過ぎっ!

桃子は、調性を理解している。

芸人「ド ミ ソっ!」桃子「シ レ ファっ!」

芸人「ソ ド ミっ!」桃子「レ ファ シっ!」「ファ# シ レっ!」

紛れもなく、ジャズのテンションコードなのだ。

ローラもそうだけれど、日本国に、こういうネーちゃんが出現する。

素晴らしいっ!

有吉っ、負けんなよおーー!

夏の終わり

今年のイルドフランス地方の夏は、例年になく「夏らしい夏」だった。

なんか何年も冷夏が続いていた気がする。猛暑の記憶は2003年。ということは、十年ぐらい冷夏が続いた？ 北ヨーロッパは冬が長いから、七月八月ぐらいは暑くなくてももらわないと、鉄分が吸収できない。うん、今年はフランス語でインディアンサマー、エテアンディアン、九月に入っても晴天が続いている。最高気温は二十四度ぐらいだから、自転車、お散歩に丁度よい。日本の残暑とは随分違うけれど、イルドフランス、九月に入ると、空のチャンネルがいきなり秋になってしまうのが通常だから、この快晴は、大変に気持ちがいい。

なんか、この時期の光り、空の色、物凄く透明で綺麗である。

水の天体。空気。木々。透明な空を見ながら、どうしても考えてしまう。

太陽とイルドフランス地方の位置関係が、少しずつ、冬へ向かって動いていることを感じる。

それとともに、ミッシェルグランの名曲「思い出の夏」が、なんとなく頭の中に木霊す。

前にも書いたけれど、この名曲、自分で弾きたいとは思わない。完成し過ぎているのか、イメージが定まり過ぎているのか、よく分からないけれど、なんか弾こうとは思わない。

代わりに、私のやや十八番「サマータイム」を再アレンジしている。

こちらも短調で物悲しい夏の終わりという曲想だけれど、私は、愚直にハードロックみたいに編曲しているのである。へへへへえー、なんか、自分の年齢を、無意識に忘れようとしているのかも知れない。人生の秋なんだけれど、ピアノの上で、まだ、夏をしようとしているのかも。それで、この曲を、灼熱の夏に無理矢理しているのかもねえー。

こういう愚脳が馬鹿さの秘訣。これでいいのだ。

2013.09.10 Tue

ドーバーの白い断崖

ドーバーの白い断崖の上に、ひとりの男が腕組みをして立っている姿が、カーフェリーの窓越しに見えた。私も似たようなことをするから、その男の気持ちが手に取るように分かる。

その男は、空と眼下に打ち寄せる白い波の飛沫を交互に見ていたはずである。

その水色の虚空へ飛び勇気を思っていたはずである。

向こう側が、すぐ足元にあることに戦慄というより、柔らかい確認行為といった具合だろう。消滅。なんとも甘美な夢想なのである。

そして、彼の中に、引き返し家路を辿る、もうひとつの勇気が充満するのである。

その男も、くるっと、そこから立ち去った。

以前、少しだけ吉増剛造さんの散文詩のことを記事にした。

うる覚えのまま、時々、私の脳内に木霊する。こんな意味の詩だった。

それは、君のすぐそばにある。線路を見たまえ。手首の細い血管を見たまえ。いつでも、それは君のすぐ近くにある。ほんの少しの勇気さえあれば、それは、すぐそこにある。でも、そういった勇気が難儀に思えるのなら、君の中の血管ひとつひとつが、もうひとつの勇気なのだ。

私の中で、毎朝、通勤電車がホームに入って来る瞬間に、このうる覚えの詩が木霊していた。だから、会社を辞した。

くるっと、自分自身へ帰宅した。

2013.09.11 Wed

舞台裏

一回表の五球目が、これだ。俺達の生活は、どうなるわけ。アナウンサー、高野幸助、等大卒。裕の野郎、こういう、スーパーマンのくせに、その受け狙いスローボールとかよおー、止めて星野。大体、突然に138kmのカーブ投げたりよおー、カーブっても、場外から来るカーブ。うなもん、打てるかってっ！ まあまあ、高野、そう、かっかするなって、あやつはシニアマン。勝負にならん。唯一、ロイチ選手のみ。だってよおー、まだ、中継中だよって、明日の午後まで、まだ、一回の表。やってらんねんだよって！

あっ、筒井監督、出て参りましたっ！

「いやあー、なに、僕もね、若い頃は、こういう球、投げたよ」「たまたま」

皆、お休みなさいいー————。

大体、投げた本人が、マミちゃんと、箱根の温泉に行っちゃったあー。

これぞっ、スーパーベースボールっ！

ねえ、マミちゃん、あのさあー、浴衣着てさあー、箱根の灯火旅館でしょ、なんかさあー、失樂園しても吝かの藪蚊なんだけどおー、どや？ うざっ。

2013.09.12 Thu

今日でブログ1周年

ぱちぱちぱちいー、と、ひとりで赤ワインを飲んでお祝いしている。

そう、一年前の今日ではない今日に、初めてブログ記事をアップ。

少しして、ブログランキングサイトに登録(現在は不参加)。一ヶ月ぐらい後なのかしらね、村人になりました。

アクセス数が3-7-10-15-20と、なんとなく増えて、記事によっては、ドバァーっても、昔のークラスの人数。で、20辺りで止まった。まったく、私のジャズクラブの動員数と同じなのだ。

もちろん、私だって芸人の端くれ、大きなシアターで演奏することも、たまにはある。

でも、ステージから見ると、客席が暗いし、闘牛場みたいに上に席が上がっているから、個々人の顔はまったく見えない。そう、薄ぼんやりとした「かたまり」にしか見えない。

ある意味、演奏する側は、やり易いところもある。気配だけで、日常がないでしょ？ ある意味、ステージの上にいるだけ。ひとりなのだ。集中し易い。これって、ちょっとパラドックスなんだけど、弾く側は、やり易いわね。

なんかさあー、ブログの閲覧数に掛けた負け惜しみみたいにとられると、本当に困るんですけど、私は、これって、あまり好きではない。ジャズクラブで、聴きにきて下さっている面子を見ながら弾く方が好きなのである。ジャズって、そういう音楽だと確信している。マイナーだから、素敵なんだな、この音楽は。インターバルでお客さんと酒飲んで盛り上がり、二部で盛り上がり、お客さんと打ち上げをする。小振りの村祭りなんだけれど、これが、ジャズの基本と信じている。

で、延々と私の愚ブログに付き合ってくれている方が複数いる。

ありがとうございます。お辞儀です。

2013.09.13 Fri

時計町

裕の兄貴は、なんで、ピアノ弾くんすか？

そりゃーね、シエナだよ、イタリアの。

シエナ？

おめえー、行ったことねえーか？ あっそ。真ん中に貝殻広場があんだよ。行ったことねえーから分かんねえーだろな、まっ、石臼だよ。石臼の縁んところに、うまぁー、商店とか医者とか床屋とか、その、まっ、日常って言ってんだろ、そういうの？ が並んでんだよ。で、うまぁー、石臼の真ん中に、でけえー時計があんだよ。長針がよ、グラジエターの剣みたいだよ、短針は、それを短くした、もっと、幅広なんだよ。で、秒針がよぉー、日本刀みてい。

だからよぉー、迂闊に、広場よごぎつとよ、首、ちょんぎれんだよ。

あぶねえー、広場の真ん中によぉー、こんな時計な。

で、その馬鹿でかいよ、時計がよ、ずっと、真ん中で回ってんだよ。危なくてしょうがねーよ。

2013.09.14 Sat

ジャズ神様と詩神様

皆さん、ゴムバンド(訳、今晚は)。

こちらフランス、イルドフランス地方も、すうーーかり、秋の気配です。

少し肌寒いのだ。うで、肌寒くなると、冬のお好きな詩神様が酒瓶抱えて現れる。で、現れると、一昨日の記事のようなものを書いてしまうのである。ついでに、ずうーーとお付き合い頂いている読者様はご存知の、うっ君(訳、鬱君)も詩神様の後ろから現れる。で、ジャズ神様は、常駐している、酒瓶持って。

今、ヤノピのくんなまし(訳、ピアノの練習)を終了。

ぎょんぎょんのぎょんで、相当、イカシテイタ(訳、イカの天ぷらを食べたいのではなく、フライでもなくて、まあ、格好良かった)。ああーーー、レフトに、大きなあーーー栗ではなくて、フライ、どおーーん、イカフライ。なに、やらせんでえー。

でね、ズージャ(ジャズ)ってよおー、

理科アメの紹行くの零度がラ対ゴトシの合間に歌ったブルースがつーるなんだ
気いることが、ら対から、俺は夕歌うのだ

訳

ジャズは、アフリカよりの奴隷、アメリカ黒人の仕事歌を起源とする。

辛い肉体労働の合間に歌われた歌。つまり、ブルース。これが起源である。

「日が昇り、日が沈む」。これがルーツである。一つの鎮魂歌なのだと捉えれば、現代で、ジャズ演奏をする者達の、深層心理の分析は、十分に可能なのである。辛いから歌うのである。これ以上の説明の必要はないだろう。

2013.09.15 Sun

わたしのブログ

うん、テーマ、文体が錯乱している。でね、たとえば、見知らぬ方が、なんか、たまたま、見付けて開く。その「任意の記事」が出てくる。その選択された記事によって、

馬鹿 お笑い マジ ミュージシャン 文学 詩 庭弄り 料理

これでは、まず、いい人なのか悪い人なのか、判断が付かない。

ちゃらけ系なのか、マジなのか、これも？

ミュージシャンのくせに、音楽のことがほとんど出てこない。

馬鹿なのかインテリなのかも分からない。

結局、得体が知れない、と、なる。

ふむ、そうなんだろうなあー。

裕イサオ フリージャズピアニスト 几帳面 真面目人間 軽度のアル中、そんなもんあるかってっ！ まあ、酒飲みというか酒好きだけど、酒癖はとってもいいどおーー、お笑い芸人に変身するわけ、太宰治から、いきなり。温厚、いつも笑みを絶やさない人格者。料理好き。家事庭の手入れ大好き人間。愛妻家。女問題は、一切起こさない。もてもてなのに。一日中、せかせかと動き回る働き者。じっとしていることがない。ジーちゃんだけど、腹は出ていない。中背細身の筋肉質のイケメンシニア。背広を着ると、アランドルワン(遠めのアランドロン)。

と、そうとういい玉、いい球だよ。

でもねえー、玉の輿は、腰が痛いから駄目ね。

だれか、お見合いして下さいっ！ 既婚だけどね。

追記

裕先生の背後に、ゴルゴサーティーン、ジェームズボンド、ターミネーター。

あれっ？ だれが雇ったのかしらねえー。痛っ！

2013.09.16 Mon

錯乱錯乱

錯乱 錯乱 よやいのラーソ

わたみす ぎがああーり

錯乱 錯乱 すみかのもおおおおおーく

スメルも ずるで

ざいや ざいや

ミニ 優香

我我我あ ずがあーーん ニャロー へらまこいたなあー 松竹バス
ひゅ。。。。。。。。るるるるるるるるるるる ルンルン 松竹梅
なに やらせんでえー ニャロオー しめこててやるうーーー

うにや コヤロおーーーーー

りゃ

と、私は、現在、この壮大な組曲を作曲しているのである。

り一部 みー あろーん。音宇宙に夕湯多雨、裕先生でした。

古池や お金飛び込む 水の音 (汗)

古ピアノ ジャズメンたちの 夢の跡 (くくくうーーー)

古池や よく見たら 肥えたごだった (おわあーーーーー)

はい、裕先生の、マジで、これ「楽譜」なのだよ、お若いのっ。

2013.09.18 Wed

久しぶりに記事を書く

実は、ここ一週間、新規の記事は書いていない。

単に、在庫記事の整理をしていた。だから、アップはしている。三つぐらい、渾身の力を振り絞って書いた記事がある。そしたら、書くのが嫌になってしまった。

ダンボール箱の中の、未発表の小説郡が、なんだか、突然、不憫になって、笑いが硬直した。どうしよう、俺の人生の一部、ねえー？

脳がピアノ化しているのも、一因ではある。

なんだか、上手くなり過ぎて、その技術が先行する傾向が始まった。

技術が、ブルースを追い越してしまう。ジャズ屋にとっては致命的なのである。

現在、逆噴射している。

初心に帰ろうと。でも、指さんたちが暴走する。

困ったねえー。

でね、アンチビールスのソフトの期限が切れたら、

そのソフトの広告が山のように出る。

アンチビールスソフトの広告が、ビールスとして君臨している。

そうかぁー、これぐらいしないと芸能の道は、厳しいのね。

その内、俺の動画だのブログが、ビールスとして、

あなたのパソコンを襲うっ！

えっ、すでにそうなの？

2013.09.19 Thu

毎晩、寝る前に、ユーチューブサーフィンをする。

有吉さん、マツコデラックス、ローラ、谷桃子、さまぁーずとか。

やっぱ、さまぁーずの緩い感じがとても好きである。

とりわけ、三村さんがおっさん臭くて好きだ。

大竹さんは、ちょっと、私に似ているところがあって、なんちゅうのかな、好きなんだけど、ちょっと、自己愛みたいになってしまうから、全然似てない三村さんの方が、私には馴染む。

そして、お笑い番組を見ていたら、疲れた。疲れたから、マルセルデュシャンって日本語で打った。五、六編の英語のインタビューが出てきた。以下、私の翻訳で、抜粋する。

インタビューアー「どうして、芸術の道を選ばれたのですか？」

デュシャン「毎日、九時に会社に行きたくないからです」

裕 この超絶的にシンプルな回答っ！ 以下、この順序で

あなたは、三十代前半で絵画を放棄しましたが？

「絵描きとは、テレピン油の中毒で、一日、嗅いでいないと落ち着かないのです。私には、一日中、絵を描いていたい、そんな欲求はありません」

あなたの子供たちと呼ばれている世代のアーティストを、どう思われますか？

「若い方は、活発で、とてもいいですね。でも、私がやってきたこととは違います。私はプロであったことは一度もありません。公に芸術家だったことはないのです。作ったものを売る。私は一度もしていない」

二十世紀の美術史を変えた人物と呼ばれているのに？

「私はひとつのプロトタイプかも知れません。それは、大変に光栄ですが、彼らがやっている、単純に申し上げて、芸術を莫大なお金に換金する。すでに、私の考える、それではないのです」

あなたが、寡作なのは、そのせいですか？

「私は、同じコンセプトのものを三つ以上作らないという掟を自分に課してきました。同じことを繰り返すこと、その繰り返しが商売になること、これを避けて来ました」

アンドレブルトンが、二十世紀でもっとも知的な人物と、あなたのことを評しましたが？

「ブルトンは、とてもいい人で、単なる思い付きで言ってくれたのでしょう。しかし、美術とか芸術とか呼ばれるものは、作り手が判断するのではなく、観客の介入。そして、五十年と言った歴史が介入して、初めて、その歴史上の評価が下されるのです。ただ、歴史に残ったものが、そ

の世代の最善のものであったとは限りません。私の作ったもの？ 私自身が評価などできないのです」

一日、なにをなさっていますか？

「はい、なにも。私には重要なアポイントなどひとつもありません」

美術館へは？

「もう、何年も行っていません。興味がないのです」

あなたが、一番、聞いて欲しい質問は？

「お元気ですか」

この人物。フランスという国が生んだ。極北の論理的知性なのである。

ルーアンの公証人の三男坊。塩の商人？ 錬金術師、マーシャン ドウ セル。

フランス語の言葉遊び。マルセルデュシャンという音の駄洒落ということ。

塩 錬金術 マルセルデュシャン

たぶん、ミッシェルビュトールの論文だったと記憶している。

そして、最後に、デュシャンは絶対に「作品」と言わない。「もの」、私の作ったもの。

断言もしない。「たぶん」。そして、口癖のように、「興味がないのです」。

2013.09.20 Fri

七月八月九月前半と、とってもいいお天気が続いていたのだけれど、ここ一週間、雨日。雨がしとしとなので、お庭は放置新聞。今日久しぶりに秋晴れ。お庭へ。

おわあ——、ミニトマトがどばあ——。

笹二杯。食べきれないよおー。いんげんも収穫。

ついでに、庭の奥の林檎の木二本。じえんじえん実が生らないので、二年前に剪定して誘引というのだったかなあー、枝を水平に伸ばすように麻紐で固定したら、今年は、どばあ——。庭の手前の葡萄の木も、去年の剪定が良かったのか、どばあ——。

毎日、ミニトマトと葡萄と、アップルタルトだな、こりゃー。

貧乏なので、自給自足を目指しているのである。

もう、牛とか飼っちゃおうかしらね。

りゃ、今気が付いた。そういえば、私のブログって動画は、たまに出てくるけど写真がない。そういえばそうだ。全然、考えていなかった。第一、カメラ持ってないし、旅行先とかでも、まったく写真を撮らない。特別な理由は全くなくて、単に、頭の中になっただけ。

よお——く考えると、私は、どうも静止画より動画の方が好きらしい。

他人が見ている動いている自分を見るのは、超面白い。声も、皆さん、ご存知の通りで、本人が聞こえる声と違う。で、それを見てナルシス君しているのかというと、真逆。

間の抜けた声だよなあー、うったくうー

顎のラインがよれて来ているなあー

目が垂れてきているぞ

なんて、ジーちゃん度の確認をして遊んでいる。

まあ、こんなもんだべって！

今更、誘引したって、枝も伸びんし実も付かんのだっ！

あっ、でね、良くある質問「生まれ変わったら、なにになりたいですか？」。

おお——、来世は庭師になりたいっ、本当に。

植物と一緒にいる仕事がいいんだけど、来世ってもねえー、

私、不死なのだよ。御年、八百五十四歳。五歳からピアノ始めたから、

八百五十年ぐらい続けている訳。そのわりに下手だって？ なんだとっ、ろここ野郎っ！

ほっといってくれっ！

2013.09.21 Sat

時は、文政二年。

当時の、今風に言うと、人気コント作家、裕伊佐ノ助。
安土桃山通りの豪邸の書齋に、ひとり。

百畳はくだらない巨大な書齋の中央。
墨を溶き、筆に浸すと、

マミちゃん 君は 登場人物で 僕は 作者 この力関係は お分かり？
抵抗しても 無駄 僕の 思うがまま 容姿性格 ふっ 好きに出来るのよ
無駄な抵抗は よしなさいね 僕のアンドロイドちゃん バービー人形ちゃん ふっ

達筆である。

伊佐ノ助の資産は、二万両とも三万両とも言われている。
換算推定金額は、二百億リラリララリングだぞっ。

しかし、伊佐ノ助。今風に言うセクハラで、登場人物から訴え。敗訴。
敗訴サイアティーの語源である。極刑である、遠い異国にあるらしい、魔蔵我島へ暇流しにな
った。今、こやつが、どこにおるのか、誰も知らない。

「ねえねえ、マミちゃん。こないだよおー、不死屋のよおー、見る気の広告書いて、シャンゼ
リゼ、歩いてたらよおー、室町の頃に揉めた女とよおー、ばったり。いきなり、マグナム
だよおー、眉間。ちょっとだけ、痛かったけどよおー。道行く人がよおー、爆音で騒ぐか
らよおー。イツ ムービー ムービー。ウイアーメイキング ムービーって、誤魔化し
たよ、はっはははははあー」

セーヌ河畔

こちらフランスも、バカンスモードはお仕舞いで、蚤の市シーズン。

なんとなく、朝起きて、カミサンと近郊地図を見ていたら、あれ、湖なんてあったか、この辺？
近場探検隊の我々は、よっしゃー、いくでえー。

サンドイッチ持参もいいけど、ちと、肌寒いから、そこいら辺の安レストランに入ること
にして、貧乏だから、コーヒー代を浮かすために、魔法瓶。

で、目指すは湖。りゃりゃ、蚤の市じゃん。

セーヌ河畔に、ずらあーーーーと屋台。

覗いていこうぜえーとなり、ぶらぶら。

お昼、腹減ったあーとなり、ケバブ屋。これって、日本にないような気がする。

トルコ、ギリシャ料理ってなっているけど、馬鹿でかい串刺しの肉がくるくる。

羊、子牛、鳥のミックス。これを、包丁で削いで、サラダと一緒に出てくる。

カミサンは、それほどではないのだけれど、俺は、このジャンクフードが大好きである。

店内の臭いが、日本のラーメン屋の臭いに良く似ていて、こういう感じが大好きなのである。

おおー、食った食ったと腹を突き出しながら、蚤の市の続き。

で、ちょっと、待てよ。湖は？ 橋の向こうだよな。

で、車で橋を渡る時、下を見た。

セーヌ川

両サイドの小道

蚤の市の群集

ううううううー、詩人しちやおうかなあー。

川の横の人なのか、人の横の川なのか、両方流れていたのだよ。

毎日、こういう目線。疲れるぜって、裕さんよおー。

自分史

快晴の秋の日、今日、自分が生きてきた時間が愛おしくなり、ダンボール箱の中に眠っていた小説原稿を引っ張り出した。正確な枚数は分からないけれど、原稿用紙で三千枚ぐらいだろう。一作ずつページを揃えて、茶封筒に入れた。

1988 処女作。題名がない。手書き。小説というより、長編の散文詩。鋭い文章がぎっしり(未発表)。あまりの詩力に自分に脱帽。昔は、立派な文章書いていたのだった！今はヨレヨレ。レイロレイロヨオーレヨレ。オレッ！

1993「光」。手書き。これも処女作のスタイルを継承している(未発表)

1993-1994「私の住む小さな町の名前がタイトル」。手書き。長編観念小説(未発表)。カフカ、イタロカルビーノの影響が濃い感じ。作品の構図としての幾何学的なデッサンも出てきた

1995「水の記憶」。手書き。散文詩形の自伝小説。某社より上梓

1995「ノワイエ」。エロティックな観念小説。マンディアルグの影響だったかもしれない(未発表)

1995-1996「ポリゴン」。ワープロ原稿。複数の女性達に自宅を乗っ取られてしまった男の長編読物コメディ(未発表)

この作品まで、筆名が本名だった。

1998「実用小説デタラピアノ」。ワープロ原稿。この作品から裕イサオに筆名が変わっている。現在も頻繁に現れるハチャメチャイサオ節の原型になっている。お笑い馬鹿ハチャメチャ言語実験小説。ジャズ菌に、相当、脳が犯され始めていることが歴然(未発表)

1998「コスミックヒステリー」。ワープロ原稿。ジャズ菌の圧倒的勝利のもとに書かれた愚ショートショート集(未発表)

この後、その発展形の中編小説集チュートチュートを執筆。この中に、名作が多い。編集者よりの評価も一番高かったが、未完のまま放置。刊行に至らず。

2001「横式」。ワープロ原稿。編集者の忠告をすべて無視。はなもげら語、医学用語、辞書の説明文、ことわざ、関西弁、東北弁を駆使した前衛お笑い言語実験ハチャメチャ小説。ミュージックインサイダーには馬鹿受けするも未発表のまま

2012「OOOOOO」パソコン原稿。今数えたら、脱稿した作品とすると、丁度、十作目。ブログ書きの勢いで書いてしまったのほほおーんとした無意味空脳小説。現時点では未発表

と、自分史を整理してみた。

まったく皆様方のご興味外を承知しているのですが、ちょっと、自分用にまとめてしまいました

。

すいません。もしかすると、小説家志望の方のご参考程度にはなるのかしら？

自己分析をしてみると、いわゆる、散文詩形にエモーションを封じ込めることと、中編小説に向いていることが分かる。ストーリーテリングの才が、まるっきりない。長編の物語とかは、まるっきり駄目。中編にするとストーリーというより寓話みたいな感じで、私の馬鹿脳を活写し易いことが分かる。

抜き出した才能という意味ではなくて、自分の傾向を分析すると、訳の分からないイソップ物語みたいなラインが浮上してくる。そうだなあー、未発表のチュートチュートを整理して加筆することにしよう。この中に、私自身の最高傑作であるブログ記事タイトルに使った「時計町」というブラックな作品があるのだ。

よおーし、着手っ！

2013.09.24 Tue

ピアノと私

今日は、9月24日、2013年。

イルドフランス、超ド級快晴。夏日。海に行こうかと、一瞬、思う。

太陽様が、昨年、10月から、今年の6月までの、寒々しい日々を反省して居られる。はず。

で、この秋夏日の中、私のピアノは停滞。

こういう周期は、ある。で、ジャズピアノは独学だから、自分でメニューを作る。

ここ近々の「超絶技巧、ドラゴンへの道」が、たぶん、消化および満腹状態。行き詰る。

で、こういう状態になると、沖至師匠の言葉を思い出す。

「イサオ、覚えたことは、コンサートでは、全部、一旦、忘れろ。フリーになれ」。

で、さっき、全部白紙撤回して弾いてみた。こういう時は、逆に、弾きなれた曲を弾くと、良く分かる。明らかに、テクが付いている。ポディービルと一緒に。っても、ジャズ屋は、その、別に、筋肉隆々ピアノをお見せするという仕事ではないから、逆に変。

1) 出したい音はなんなの

2) 君はピアノで なにを お話ししたいの

3) 上手くはなったけど だから

と、ちょっと、やばい感じが漂う。

あの一言、「いも」。上手いけど「いも」。

「らららららあー、イサオ君、いつから、いも、なの？」。

まずいますい、最低っ！

2013.09.25 Wed

先日、私の小説原稿を整理し、未発表の短編のみの一つのファイルを作った。

私自身が、もっとも気に入っているシュールレアリズム小説「時計町」、原稿用紙換算で十枚という短編。このワープロ原稿を、パソコンのオープンオフィスに、再読を兼ねて「そのままコピーしよう」と思い、着手。コピーを始めて、手前味噌そのまま、「お——、良く書いているなあ——」と本当に思った。途中で、手が止まる.....。

この作品は、私が三十九歳の頃に書かれている。

会社勤め、もっとも頻繁にコンサート、合間を縫って小説執筆と、私の人生で最も多忙だった時期。良く考えてみると、私の人生の最盛期だったのだろう。その真っ只中に書かれている。

「辛辣、毒気のあるアイロニカルな文章が、随所に出てくる」

この部分が、五十四歳の現在の私にはしっくりしない。つまり、毒気が私の中にないのである。世間様と、真っ向勝負という気概がなくなっているとも言える。向こうさんが私に興味がないように、こちらも興味がなく、お互い様あ——という、なんか変な和解をしている。十五年の歳月。しかも、三十代後半から、五十代半ば、人生の大きな過度期。やはり、変質している。しかも、この間の十一年間、私信以外は、一切書かない時期を通過している。考えてみれば、一度も中断していないピアノの演奏に、この変質振りが如実に出ているわけである。

「頻繁に、死という単語が出てくる」

現在の私は、この単語を使わない。これへの恐怖が私の活発な人生を鼓舞していた。精一杯疾走していないと、失墜する恐怖に怯いていた。熱い生に固執していた。この二つの狭間の中で、突っ走ろうとしていた。このパラドックスは周知のことである。

現在の私の中には、それがなくなっている。両極が融和している。恐怖感はない。

当然にして、生き急ぐ、疾走感もない。我々には、大きなテーマであることに異議はまったくないけれど、私のそれが、それほど大仰なものには思えないのである。私のそれではなくて、もっと巨視的で鳥瞰的でコスミックな目線にしか興味がない。たぶん、深沢七郎さんの「笛吹川」、マルケスの「百年の孤独」。こういった書物が、私の中で、本来的に読み込まれ消化したのだろう。

詩や小説を書く才が、私という人物の中にあるのかないのか、これは分からない。

まったくないような気もする。でも、この目線。これこそ、私が考える作家目線というもので、もし、私がそれを内蔵しているのであれば、もう一度、書き始めてみるのも悪くはないだろう。

ピアノ以外に、もう一つ、自分の中の未知数が増えた。

2013.09.27 Fri

なんだか、どうでもいいことを書きたくなってしまった。しかも、私は、ほとんどテレビを見ない。

考えたら、ほとんど本も読まないし、音楽も聞かないし、映画も見ない。なんなんだろう？　なんか、たとえば、本、音楽、映画、作ってみたいけれど、実際にあるものは、全然、接触なし。自己中を極めた私っ——！　自分で作ったものしか読んだり、聞いたり、見たりしないって、病的な偏屈自給自足体制。少し反省して、高名な文学賞受賞の短編小説集を手にした。一作、読んで見た。当然にして、プロだから、良く書けている。私の琴線に触れる鋭い文章も沢山出てきた。識者から絶賛と腰帯に書いてあった。たぶん、私の興味のベクトルがおかしいのだと思う。なんか、ピンと来ないのだ。凄まじく良く書けているし、高名な賞の受賞に異論もまったくない。でも、分からない、私が読みたい、ないしは、私が書きたいこととは、随分と懸け離れている。

私が遅れているのか、進んでいるのか、未確認飛行物体化しているのか？　第一、良く書けている必要はないと、私は考えてしまう。剥き出しのエッセンスで十分と。ミラーの「北回歸線」なんて、まったくもって良く書けていない。無駄文の堆積の合間に、超絶コスミックな思索が、突然、屹立している。

私は、まったく偏屈ではないから、私の琴線に触れるものは、むさぼり読む聞く見る。でも、私の探し方の怠慢なのか、なかなか見付からない。

あっ、テレビだった。どちらの方が優れているとか、そういうお話ではない。

フランスのニュースキャスター。女性の方が幾分か多いはず。キャスターは画面中央に一人。二人とか、コメンテーターが横にいる、これはない。今頃、気が付いた。それと、この方たちの職業は、ジャーナリスト。まあ、テレビジャーナリストというのかしら？　ジャーナリズムの専門家の方が、ニュースキャスターをしている。女子アナに相当するポストはない。

テレビの司会は、こっちだとプロの司会者。お笑い芸人がMCをしているというのは皆無。先日、ユーチューブで政治討論会の番組、司会がたけしさんと、少し驚いた。こっちだと、ジャーナリストであるニュースキャスターの仕事。このケースは、キャスターが二名という配置が多い。あと、当たり前といえばそうだけれど、司会者は私見は言わない。まあ、そうだよな。

私が、任意にユーチューブから抽出しているので、日本国のテレビの全体像は分からない。私の選択自体の歪みも、相当、あるとは思う。とにかくお笑い芸人が多いなあーという感じ。司会者も皆それだ。という印象。で、どの程度の視聴率なのか分からないけれど、なんでもかんでもお笑い化する。嫌いじゃないけど、現実が筒井康隆ワールドに近付いているとしたら、ちょ

っと、怖い。笑い、ユーモアは、大変、健康にいいし、コミュニケーションの最大の潤滑油だけれど、馬鹿笑い、ヒステリックな笑いは、体に悪い。脳禁治産者になってしまう。第一、気持ち悪い。

それと、いじめ、体罰を思わせるゲームみたいなものも多い。

この手の番組は、こちらにはない。出演者一同、げらげら笑い盛り上がっているけれど、私には、不快なので、番組を変えてしまう。芸人、タレント、女子アナと、まあ、同業者相互了解の下に行っていることは分かるけれど、私の笑いが硬直する。だって、桜の木を見て、柔らかい笑みは浮かぶけれど、げらげら笑ったりはしないし、桜のお花を見ると、いつも、梶井基次郎を思い出す。

筒井さんのお言葉では、ドタバタ精神とは、「もう一人の自分が」それを客観的に見ることであると。おちゃらけ、はちゃめちゃ、ドタバタ。やっている側の中の、もう一人のやっている側が客観視していないのであれば、これは集団ヒステリー。これは、怖い怖い。私は嫌だ、そういうのは。

よし、自分の悪口を一生懸命、言うのだっ！

あれ？ 私の方が、分裂症なのかしら？

2013.09.28 Sat

医者

「先生、目が痛いのです」

「どちらの目？」

「右です」

「僕は、左目の専門医だから、分からないね」

「先生、僕、心の病なのです」

「心臓が、悪いのね。僕は、左目の専門医だから」

「僕、恋をしているのです」

「あぁー、体に悪いね、それは」

「恋煩い？ 綺麗ですよ。こういう日本語」

「僕は、詩人じゃないから、性欲鎮静剤を処方致しましょう。性欲がゼロになります。ついでに、副作用で、左目が見えなくなるから、その時に、いらして下さい。専門ですから」

「先生、秋って、いいですよ」

「うん、そうだね、左目の視力回復に」

「で、僕、ふられたんです」

「ふられたという意味が分からないが。アントニオ猪木に両足持って、ぐるぐる振られたということですか？」

「先生、そういう意味ではないのですけれど」

「そのような曖昧な日本語を、医者に問う。いかがなものか」

「あっ、急に左目が痛くなりました」

「どれどれ、ぎょ、なんで先に言わないの、あなた。ターミネーターの左目は、自分で治して下さい。当院では、ご対応致しかねます」

ダフンダッ！

2013.09.29 Sun

参りましたあー

私のお気に入りブロガーさんの記事の中に、動画が添付されていて、それを聞いた。懐かしかった(なんで?)。および、感動した、その音楽に。ジャズ屋の私が。凄い、それを選択されたブロガーさんのセンスは、超が付く素敵さである。

やばあー、ジャズ出来ない体にされた可能性がある.....。

私信表明

ちゅらちゅら、月曜日に、このメロディーと、その歌詞の凄いこと。

NHKって、本当に、お洒落なことをしてくれますねえー。しかも、ちょっとHな歌詞含む。

でも、おわああああー、コンサートが近いのに、このメロディーと歌詞が、頭から離れなくなっちゃったあー。参りましたあー。

しくしくしくしく=36x4の四苦八苦だよ、ああたあー、どおしてえくれるんのおかしら(デビィ夫人の口調で)。



なんのなんの。

10月2日。

俺のニュートリオ、その2。

2013.09.30 Mon

昨晚、桜木紫乃さんの短編「星を見ていた」を、拝読した。
目頭が熱くなり、老眼鏡が曇った。眠れなくなった。翌朝、起きても、ずっと、山田ミコ(登場人物)が、私の傍らから離れない。愛おしい。

桜木さんのお名前も、御本も、まったく知らなかった。
私の母が、素晴らしいと日本から郵送してくれたのである。

かつて、私が貪り呼んだ、深沢七郎さんと富岡多恵子さんの世界へ通じる何かを感じた。
でも、桜木さんの目線は、優しい。ヒトの鳥瞰図ではあるけれど、虚無的な肌触りはなかった。
富岡さんの歯を食いしばって、己を奮い立て、ヒトを突き放している孤独感を感じなかった。

そして、その前に出てくる短編「せんせえ」の佐倉まりあ。

率直に、「素晴らしい」の一言です。

追記

と、ここまで、昨日書いた。
なんだか稚拙な感想文だけれど、正直な気持ちなので、このままにすることにした。
急に読書の秋と化し、今年の二月から三月に掛けての日本滞在時に、仙台駅前のジュンク堂書店で、確か十一冊、フランス現代文学の先駆的な作品を買い漁ってきた。ずっと、ベッドのサイドテーブルの上に積ん読。邪魔臭いとクレーム。ダンボール箱入り。で、桜木さんに鼓舞されて、一昨日夜に、ダンボールを開け、一番上にあったカバーの付いた文庫本を取り出した。買ったことさえ忘れていた。アランロブグリエ「快樂の館」だった。この本は、読んでいないけれど、冒頭部分を読み出したら、十九歳の頃の私の感触が蘇ってきた。もう、三十五年も経っている。ちょっと、身震いした。まったく話が変わるけれど、昨晚、アランドロン主演「サムライ」を久しぶりに見た。会話があまり出てこないけれど、靴音、地下鉄の音等々、その周りの音が実に鮮明に録音されていることに気が付いた。役者は無言だけれど、その周りの音が何かを語っていた。うん、ちょっと、私の中のアンテナの感度が良くなってる気がする。

昨夜は燃えた。

いつもの俺のトリオに、真師匠が、凄いテナーサクスを連れてきた。

実に物静かで、穏やかな奴だった。トリオの一部を短めに切り上げて、二部に、その彼を参加させた。ずばり、アルバートアイラーとジョンコルトレーンの再来。楽器を持つと別人二十八号と化した。この新カルテット、例によって、なんの打ち合わせもなし。ぶっつけ本番。要は、相手の出方、音を聴いて速答する。以上。物凄いハードな奏者なので、俺もさぼれない。全力でお相手。本日、上半身、筋肉痛でへろへろもへじ。最後にベースのヨラムが、弓弾きを始めたから、俺はすかさずピアノ弦で効果音。ついでに、ピアノに頭を突っ込み、訳の分からない、日本語で叫んだ。まあ、馬鹿だ、けど、演奏の流れ上の判断なのである。へへへへへえ。

で、真師匠と北駅へ。打ち上げその2となり、カフェへ。

お互い郊外線の最終に乗り損ねると、やばいから、時間を見計らって解散。

ホームへ。おりゃー———、終電がない。やっやばあー。インフォメーションセンターへ。

「あっ、工事で、終電はないよ」

「げっ」

「あぁ——、OOO駅まで行ったら、乗り換えの電車来るから」

そんなはずはない。同じ路線の終電がないのに、途中駅から、「次の電車」。

あるわきゃーねえーだろお——って、と言いながら、まあ、自宅へにじり寄る。つまり、タクシーに乗るにしても、多少は安くなる。で、その駅で降りる。駅前に二台のバス。人ばかり。ピンと来た。どっちかに乗れば、にじり寄れる。駅員に聞いた。前のバス。やったぜー。ギャラチャラになるところだった。

で、乗った。実に運転の上手い初老のドライバー。

笑った。こっち方面来るの二回目だって。乗客それぞれに降りる町を聞いて、

乗客それぞれが、ドライバーにご説明する。「あっ、そこ右。まっすぐ、ロータリー左」。

最後は、バスの中に、俺ひとり。貸切。ドライバーにご説明。

自宅最寄り駅に午前三時に到着。こういう深夜のナイトラン。燃え上がった後だったせいか、なんかいい感じだった。

大きなバツタ

今朝、起きた。コーヒーを飲み、タバコを吸う。

目が覚めてくる。布製の巻きブラインドの上に、大きなバツタがいた。

危うく、布ごと巻き込みそうになる。バツタの、ちょっと、怒った視線を感じた。

「イッヒ便　へめらも　入れ歯　ふがふが　アイシュタイン　フランツ　カフカのふがふが」

俺は、周りを見回した。だれ？　だれも、いない。

「乗ってインゲン　いい加減びッ費　の　理解　ねがいんバツタ」

だれ？

「わたしシュ場院バツタ　あれいこう　この格好をしているの葉稻件　エー善シュタイン」

だれ？

「わちゃあ—————、りやりりやあ—————、バツタさんなの？」

「うむ、チョモランマいんシュタイン　の　こういうのも　あをりらりん　ナインナイン　ヤー」

「それ、何語なの？」

「バツタ語」

「りゃ、俺、ミュージッシャンだから、和かルン買値」

「そりゃ、ソーダ」

「で、あなたは、バツタじゃなくて、シュリンバツタの名はトムジークなの？」

「ちゃうちゃう、フランツ　カフカ」

「カフカって、あの、ふがふが？」

「だあーらよっ先天バツク　俺だ俺だッ手のおー転勤シュタイン」

以下の会話は、裕イサオ氏による翻訳である。

「うで、おめやーさん、あれ異号、その格好なんだべさな？」

「そうなの」

「その格好のまんまなんだべ？　印税は、排卵だべ？」

気の毒になった俺は、ティッシュペーパーに、フランツを乗せて、窓から外へ出してやった。

その間、あのメロディー「僕おくらは皆んな、生きているうー、生きいーーーているから、歌うんだ」が、俺の脳内に木霊していた。

2013.10.05 Sat

ソシエテ太陽

ソシエテ太陽有限会社。

資本金、三十万円。現在の売り上げ、二兆六千億円。

今を時めく、天候調整会社である。

出社、午後五時。退社、午後七時。以上なのだ。

社長の裕イサオ氏。

「ちみたち、明日の天気、決めて頂戴」

「はい、社長、このような図を」

「あっ、ここだめ、俺、散歩すっからよおー」

「はい、では、これで」

「あっ、わりいーわりいー、ここんところ、ちょっと、晴れにして」

「はい」

「おりゃ、ここ雨がよおー、ちょっと、ずらして頂戴ね。ムフフ。おりゃ、ここも、駄目、曇りにして、ムフフ。マミちゃんと一緒にだからあー、曇りのち晴れにしてっ、この辺。うーん、午前九時前後に、小雨、で、十一時半ぐらいに、ちょっとだけ、驟雨にしてもらって、その後、カッと晴れ、ということで、今日の会議は、しまおい、ダフンダッ！」

やってらんねんだよって！ こんな会社っ！

2013.10.06 Sun

ブログ閲覧数の謎

下世話な話なんだろうけれど、ブロガーさんには良く分かるはずなので、やはり、書くことにする。私のブログ記事の閲覧数、しばしば、5とか7とかBloggerの管理画面に出てくる。

膨大な閲覧数を狙っているブログでは、元々ないけれど、インターネットという大海に放たれた三文芸人の必死の矢=心の叫び、ぎょ、そこまで高尚じゃないけど.....。であるはずの、私のブログの閲覧数がこれでは、私自身が可哀想過ぎる。ランキングの順位には、まったく興味がないのだけれど、閲覧数は、当然、書いている側としては知りたい。正確な数字を。目標、私の小学校時代の一クラスの生徒数。分かりやすいのである。

で、5とか7。書き手のモチベーションは低下の一途。

やはり、ジャズクラブのコンサートで、客席にいらっしゃる方の数より、ステージ側にいる方が多いという状況。ミュージシャン側からすれば、やっぱ、辛いどおー。と似た心境になる。

私は大変に高潔な人間、人格者であるが、やはり、読者ゼロのブログを書き続けるほど、そこまでの、高潔圧はない。うひょ。サハラ砂漠のど真ん中で、毛筆でブログなんか書けんぜって！そこまでは、悟っていない。

で、友人連に、俺のブログって、マジ、そんなにつまらんのかよおーと首を絞めながら聞いてみた。「うぐぐ、げぼげぼ、そっ、そんなこたあー、げぼげぼ、おもしろいどおー、うぐぐ」「したら、読みやがれっ、ばあーたれどもっ！」「えっ、俺、読んどる」「俺も」「俺も」.....。

読者代表「裕先生、ちょい、お待ち。その閲覧数自体、おかしいんじゃないの。俺、思うんだけど、Blogger経由のアクセスしかカウントされてないんじゃないの。アナリティックスで調べてみたら？」

私は、パソコン音痴。Bloggerを選んだのも、ユーチューブと連動しやすいだろうというだけで、特に理由はない。

正確な閲覧数を求めて、ブログの引越も視野に入れつつ、インターネットで調べ捲くり、そのアナリティックスというやつを、なんとか設定してみた。で、今、それを見た。Bloggerの管理画面の閲覧数と、じえんじえん違う数字が出てきた。もし、こっちが本当なのであれば、ふむ、目標値に近いじゃんかよおー。

読者様へ、深々とお辞儀。

2013.10.07 Mon

秋の文章読本

わたくし、作家の国木田退歩と申すもの。文章の真髓を、以下、端的にご説明致そう。
物事は、如何様にも書けるのであるが、それを「どのように書くのか」、この選択肢こそが、文学の真髓なのである。

基本文「本日は、快晴である」

例1 今日と呼ばれる、つまり、本日であるのであるが、十月の、ええっと、何日？ ナノ日
って、何日なの？ 七、あっ、七日ね。つまり、秋の一日は、つまり、快晴と呼ばれるであろう
、秋晴れなんだけれど、具体的に、室温二十一度で.....」

やめれえー、じゃかあーしいっ！

例2 本日は、気象上として「快晴と呼ばれる」一日である

例3 私見で、大変に何卒恐縮であるが、我思うところに我有りなどと申しましてな、本日、つ
まり、ジャズ用語でジッポンの基点は、正解だった

わかんねえーって！

例4 私は、空を見上げ、見上げた奴だと思った。快晴だった

例5 Today is Today

お粗末でしたっ！

この後よおー、二万例ぐらいあんだけどよおー、割愛。

で、本日は、秋晴れ。すきっと、水色。気持ちいいわけ。

で、このスキット感は、別に、文章化する必要は、俺にはない。

スキットして、スキップ踏んで、ピアノと戯れて、以上なのである。

2013.10.08 Tue

ブログ閲覧数の謎と私

なんか下世話ねえー、裕先生も、とも思うんだけど、やはり、頻繁に現れる閲覧数5。

これを三日に一発ずつ食らい続けると、執筆意欲はゲンナリ。で、最近、もう、いいやあー、タオル投げ入れてゲーム終了と思っていた。結構、めげていたのである。明日のジョー症候群だったのである。なんだそれ？

で、三日前にゴークルアナリティクスというシステムを導入。

導入後の翌々日に、訪問数とページビューの数が表示された。あれ、Bloggerの管理画面の数字と全然違う。私が見たことがない数字。えっ？ 昨日、試しに記事をふたつアップしてみた。日本国との時差、日付の変更時間をたまたま跨いだから、別日になった。で、今日のデータを見た。りゃ、私の目標値、小学校時代のークラスの人数、これを超えている。ページビューに至っては、大幅に超えている。えっ、もしかして、ずっと前からこうだったの？

ふうーん、と溜息。そうなのかあー、私の認識していた閲覧数と全然違う。

私が認識していたより、ずっと多くの方々が、私の愚ブログにお付き合い頂いていたことが分かった。本当に、深謝の一言です。深々とお辞儀。

と、私の今までの悶々はなんだったの？ ということになる。それについて記事まで書いている。

しかも、どうせ五人の方(五人の方に大変失礼ですが)しか読んでくれん、羽毛おーん、愚の骨頂で行くぞおーと、逮捕逮捕のお巡りさん目で鼻水垂らしながら書いていたのである。拙かった。意味のない開き直りをやっていた。通信簿8で、20点満点だと思い込み、ぐれてしまった私。実は、10点満点だったあー！ もう、遅い。

で、本日より、急に畏まり、高級感漂うブログ記事に.....。

記事タイトルも、「セーヌの畔の思索」「フランス革命の真の位相」「人間の未来を見詰める私」と、こんな感じかしらね？

とはならんのです。

ピアノと一緒に、お客様が五人でも、仮に六千人でも、わたくしのスタンスは変わらんのだ。一生懸命弾くのみ。ブログは、愚のまんま。空脳は治らないのです。

正直に、嬉しい。今回、閲覧数が分かったこと。

下世話かな？ そんなことないよね？

今後とも、ご贔屓のほどを。再度のお辞儀。

2013.10.09 Wed

ピン芸人

私は、この日本語を完全に履き違えていた。

「履き違い」なんていう日本語、素敵でしょ。分かりやすい。

で、「瀬戸際芸人」と、二分前まで理解していた。インターネットで、突然、調べたわけね。

「ねえ、マミちゃん、君と僕とは、履き違いだね。むふ」

「ええー、やだあー」

「だって、Tバックって、タイガーマスクじゃないよ」

「ええー、裕さん、遅れてるうー、パンティーって、被るの、今は」

「りゃ。スーツにさあー、昔の病院にあったトイレの下駄サンダルあるじゃん、あれを履いているのを、そう言うんだよ。内科なんて、ちゃんと書いてあったよ、緑色のビニールに(意味違うんじゃない)」

「昔の病院なんてえー、知らないもおん」

なんちゅう、洒落た会話も成り立つわけなんだけんちょも。

でだ、ピアノはピンでやり易い。ピンだと、ギアラだって、ピーーン。
ピアノで良かったあー。

っても、ピン芸人だって、手前にお客さんがいる。

ソロピアノっても、お客さんが聴いている。

ほらあー、俺らはよおー、ピンじゃねえーってこと。

2013.10.10 Thu

厨房ヶ原の戦い

1900年、フランスの職人さんが、精魂込めて設置した台所の流し(白い瀬戸物の洗い桶。ひとりで持てない重量)を解体し、モダンキッチンを自力で取り付けさせたことは、複数の記事に纏めた。なので、前号までのあらすじは書かない。

で、その後、平穏な台所ライフを送っていた。ところがある日.....。

キッチンのグレーの開き戸を開け(正確には、ステンレスの洗い桶の下部の収納スペース)、クレンザーを取り出そうとした。洗い桶の排水口から続く、諸々の排水パイプの接続部分のシリコンが茶色になっている。明らかに、私への挑戦状。

水漏れを確認するために、乾いたティッシュペーパーを排水パイプの下へ。

翌日、微細な水漏れがあることが発覚。明らかに、私への挑戦、宣戦布告。

無駄な散財はしたくないけれど.....。私は完璧主義者である。微細とはいえ水漏れ。不本意である。全校生徒三人の尋常小学校分校で、ダントツの一位であったわたくしのプライドが許さない(嘘)。しかも、得意科目は算数である(本当)。かつて神童と呼ばれた(嘘)わたくしの頭脳が、排水パイプに敗れた。そんなはずはない。すぐさま、近所の大工道具店へ。排水パイプの接続部分自体を新品と取り替えた。

私は、直ちに、勝利宣言を致し、また、平穏な台所ライフ。

一週間後.....。シリコンが茶色。ぎょ。再度の挑戦状。ちょっと、へたり込む。目がベズリー目および額縦線になり、少しして点目。私の負け？ キッチン下部の二枚の開き戸を開け放ち、内部を凝視する。水漏れの原因が分からない。余談であるが、排水システム、ちょっと、ポンピドゥーセンターに似ていて美しい。茶色に変色したシリコンが、明らかにその美を損ねている。

悶々とした日々。私は、排水パイプに負けたのか？ 私の頭脳が？

家人に相談する。キッチンを再度分解し、一からやり直すことを提案するも、すでに設置されているものの解体。元に戻らなくなった時の損害(私が途中で力尽きた時のその後の莫大な出費。フランスは人件費が高いのである)。確実に、建て付けが悪くなることが予想される。微細な水漏れ、台所ライフに大きな支障はない。諸々のリスクを鑑みると、そのままが無難であろうという結論が導き出された。となると、私の負けが確定する。悶々とした日々。やはり、最初からプロにお願いすれば良かったなどと、ちらと後悔さえ過る。弱気になってくる。

別に負けず嫌いというわけではないが、やはり、すっきりしない。

しかし、なんと見ても原因不明。で、先日、セントラルヒーティングの管理業者のおじさんが来た。帰り掛けに、私の悩みを打ち明けた。おじさん、内部を見る。二秒後に「あー、(変形自

在の)排水パイプが山なりになっているね。家本体の排水パイプまで、パイプが、ずっと下降してないからだよ。山なりの窪みに汚水が溜まり、それが滲んでいるってこと(おじさんの目、だぁーらトーシロー=素人は浅はかねえー。子供だって分かるだろうに)」。

ここで教訓。私は失念していた。頭脳明晰を自負し過ぎていた。頓馬だった。アホだった。馬鹿だった。愚の骨頂だった。「水は低きに流れる」。引力の法則を失念していた。そう、お金と逆の流れということだった。

とうとう、最終決戦の日がきた。おじさんのご教示通りに排水パイプを設置するには、キッチンの裏板に直系約六センチの丸穴を開けないといけないのである。丸穴の位置計算が難しい。丸のこぎりをドリルに取り付け、ぐうわああああああああああああああああああああああ。どん。開いた。

絶妙の位置に丸穴。変形自在の排水パイプを、ステンレスの洗い桶下部の円筒形のフィルターパイプの中央と、家本体の排水パイプへ接続。パイプは、美しい半円を描き下降している。私の勝利は明白である。

やっと、新しいモダンキッチンが、家本体と接続した感じ。

ようこそ、我が家へ。

古い流しさん、ありがとうございました。

追記

この一連の作業中、わたくしとしては大変に珍しく、一瞬の油断。

丸のこぎりの歯の部分で、右手親指下を負傷。やっやばあー、辛うじて、ピアノ演奏時に鍵盤に触れない境界線部分。痛いけど、ピアノ休止は免れた。わたくしの唯一の資本なのだ、手は。

2013.10.11 Fri

下世話セラ

孤高のブロガー、裕イサオ先生。最近、閲覧数把握に嵌っている。

-googleアナリティックスを導入。やっと把握と思いきや、三日目の統計をじっと点目で見ていると、日毎にその数字がどんどん増えている。そんなはずはない。毎日の閲覧数が、毎日増えていく。そんなこたあー、絶対にない。もう一度、点目で見ると、おー、これって、足し算されているうー。三日間の総閲覧数じゃなかよおー。ってことは、Blogger管理画面の閲覧数は、限りなく正しい数字であるのだ。閲覧数5。これは、現実の数値だったのである。

で、裕先生。セシヨボォーンと歌ったのかといえ、全然、そんなことはない。めげているなどと、書いているくせに、あつ、やっば、なんて妙に納得している。じゃ、さいならあーともならない。

人間心理は良く出来ていて、現実とか実数を把握すると、意外とすっきり爽やかで、自分に都合良く解釈しようとする。うん、僕は孤高のブロガーなの。それでいいのだ、と。で、むらむらと愚ブログ執筆意欲が込み上げてくる。空に拳を掲げ、星飛馬目になっている。

昔、ジャズクラブのコンサートで、ステージ上、二名。その内のひとは俺。客席三名。友人夫婦とカミサン。このような状況が現出した。カミサンはご招待だから、有料入場者二名。これを二名のミュージシャンで折半。

なんのなんの、フリージャズ屋、こんなことで、セシヨボォーンなんてならないのだ。第一、今時、まず、ジャズフリークの人口は激減。その激減人口の更なる少数民族であるフリージャズ狂。もう、県指定の絶滅寸前野鳥の会に近い。

俺の芸人としての推定知名度。鼻屑目に見て、世界に三百人。どうだつ、参ったかっ！ 孤高のピアニストであり、孤高のブロガー。小説に至ってはサハラ砂漠のど真ん中にて執筆と、孤高をすでに乗り越えている。

はい、下世話記事は、もう、やあーめる。

明日の記事は「サハラ砂漠は砂色だった」(嘘)。なんでか知らんけれど、今、ベートーベンの喜びの歌をアレンジしているんだけど、どういう心境なんだろうねえー、裕先生。パリ市指定天然記念物になる日も、近い。はずだ。

2013.10.12 Sat

詩神様

詩神様が、どこかに行ったきり、お帰りの様子がない。

むむむうー、こうなると、裕ちゃんの空脳振りが前面押し出しになってくる。のクルクルパー。

ジャズ神様は、酒瓶持って常駐。これは、同居しているから、これでいいのだ。

どけっ！ わたくし、ジャズ評論家の蛇頭野菌次郎である。ちょっと、裕君のヤノピのくんなましについて、以下、書きたいと思う。で、まあ、人類史には良くある。遅れてきた天才。つまり、時流に乗れない天才という野郎である。で、まず、結論。そんなもんはねえー。本人の都合解釈であり、時流に、確かに天才は乗らないが、天才が「遅れてくる」ことは、断じてない。つまり、「二番煎じ」なのだ。

「おいおいおいおいおい、自分で、そこまで、言うわけ？」

「ねえ、マミちゃん、これ、読んだあー？ 最低ねえー、こんなに厚化粧して演奏しているのにいー。痔は治らないけれど、時流に乗り遅れたあー、これは、いいわあー、でも、天才は遅れて来ない、このフレーズ、致命的いー。ふん。なによおー、失礼しちゃうわ、蛇頭野の野郎ううう！」

マミちゃん

「ねえ、イサオ君ううううううん、もう一度、ソクラテス、読んだらあああああああ。ばあーかつ」

2013.10.13 Sun

組織の歯車

これを、止めてから一年半近くなる。

で、暇になったのかというと、これが、忙しい。

歯車じゃないから、「さぼる暇がない」というパラドックス。

でも、気持ちは錦だぜって。

まあ、向き不向きってことだろう。

俺は、こっちの方がいい。

組織ってなんじゃい？ 地球とか世界というとなんか難い。本当は、そうなんだけれど。

で、会社っていうもんが、分かりやすいけれど、その前に、家庭っていう組織がある。

俺は、家長。会社では課長をやっていた。

で、会社以前に、俺の組織である家庭は...

俺は、なんの強要もしない主義なのだ。

「父親としての責任を自分で認定して」、これを守った。以上である。

俺は、家庭のシナリオなんて書かんわけね。

それぞれが、ベストと思うことをやればいいのであって、カミサン役、長男役、娘役、そんなもんはいらん。

うで、この絶大なるフリー家長。

これぞ、究極の反面教師であって、俺以外は、皆、立派である。

パラドックスじゃなくて、真理なんだぞおー。俺だけだ、馬鹿は。

2013.10.14 Mon

今、秋の雨雲半分、青空半分の空を展望台サロンから見ながらこれを書き、同時に、焼き豚を作っているんだけど、そうはいても、今年は、七月以降、現在は多少天気が崩れているけれど、それも含めて、なかなかもって天気がいいのであるが、ということで、本日は、カミサンと川沿いをずっと歩いて帰ってきて、ピアノの練習をして、焼き豚を作ってという一日であって、こんなに平和でいいのかしらあー、などと、思ったりもするけれど、お金はないけど、節々の老化を除けば、夫婦揃って健康だし、まあ、あんまり、悩み事はないのだけれど、でもね、最近ちょっと悩んでいるのは、ピアノを弾くときに、初めにメロディーなのか、弾くことが先なのかということで、既成のメロディーに和音を付けるときは、当然にして、制約は出るけれど、フリージャズ屋には原則的にメロディーはないのだとすれば、どういう練習をしたらいいのかが分からなくなっているような気もしているが、でも、俺は思うのだけれど、音楽のそもそもの、同じことだけれど、元素はリズムだったということかしらねえー、でね、じゃ、ジンセイという一見複雑そうなものも、リズム、そう、原初のリズム感があれば、楽しいじゃんかよおー、俺達、ちょっと、暗くねえー。

2013.10.14 Mon

スポーツピアノ

と、よく聴きに来てくれるお客さんから言われる。

まあ、確かに、そうだ。何回か記事に書いたけれど、ジャズは独学だから、自分でメニューを作らないといけない。で、最近、「超絶技巧ドラゴンへの道」が、かなり、消化して来ているので、「次のメニュー」を作らないといけないのだけれど、これが、なかなか、浮かんでこない。で、浮かんでこないっていう意味で「行き詰る」。

ところで、マウリッチィオポルリーニ。イタリア人の、ピアノターミネーターとしか思えない、超絶技巧のクラシックピアニスト。この人のストラビンスキーの春の祭典なんて、もう、ターミネーター。機械としか思えない。こういう人が、行き詰るなんてあるのかしらねえー。あるとしたら、アスタラビスターなんて言って、爆発しちゃったりしてな。

で、俺ごときのレベルで、行き詰るなんちゅうことをしていいのだろうか、この辺りは、超絶謙虚なのである。そりゃー、そうだって、俺だってピアノ弾きの端くれだから、凄い人は、当然にして分かる、嫌でも。俺が、一番と言いたいけれど、そうはいかんよね。

で、上手ければいいのか？ これが音楽の不思議で、意外と辟易するのだよ。ヘタウマとかウマヘタとか、こんな感じじゃねえーと、ジャズ屋は、ちと、つらい。庶民なのだ。その割には、かなりコンプリケートな音を出すけど。

「ジャズ元素の復習」

酒 タバコ 女 薬 パワー スピード スイング

我々用語だと、ケーサ バタコ ナオン スリク ワッパ ピースド ウグスイ
(脳が破壊されるよって！)

ケーサ 十分クリアー

バタコ 同上

ナオン ナインナイン

スリク ナインナイン

ワッパ ちょっとだけのこっちよる

ピースド 衰えを知らない衰え

ウグスイ 同上

と、こういう要素を加味しつつ、新しいメニューを作らないといけないし、上手くなり過ぎない

ように練習しないといけないし、体力の衰えも考慮しないといけないし.....。

モテ捲くっている、この現実をなんとかせんければいかんし、
ミュージシャンって、大変なのよ、本当。

今日の、若人(オス)への教訓

ナオンにモテたいなら、勉強より、ミュージック
(近藤等則さんみたいに、両方ってのもあり)

2013.10.15 Tue

なんか、次のピアノの自主トレをどうするかと考えていたら、急に、おっしゃー、久しぶりに「譜面通り」弾いてみっかあー、となった。で、ビリーホリデーとマルウオールドロンが作った名曲、レフトアローン。ご存知の方も多と思います。俺が弾きなれているDmの曲である。うで、譜面通りに弾いた。また、弾いた。で、またまた、弾いた。弾きながら欠伸をしていた。駄目じゃ、ジャズ屋が欠伸なんかしちゃってよおー。で、自主トレメニュー、自分で勝手に名付けた「超絶技巧ドラゴンへの道」、あちゃあー————、ちゃちやああ————。あちゃあちゃあちゃ、やあ————。これ、ブルースリーね。俺、気が狂いそうぐらい好きなのです。

あれ、なんだっけ？ そうそう、でね、結局、どうもなんてじゃなくて、そもそものスタートから、俺はマニュアルというものに拒絶反応。教則本。学校、道徳、社会とか、この決められたものを受け付けないのである。どっちが水で、どっちが油なのかわかんねえーけど、駄目なのだ。

あれっ？ 急に、ブルースリーへのオマージュ？ 後日にする。書きそうだけど。

でね、その自主トレメニューをベースに、和音を解体して弾いてみた。盛り上がった。ぎんぎらぎんになりながら弾いた。どう聴いても、こっちの方が、格好いいのである。

時々、ユーチューブでオジサンのピアノ動画を見るんだけど、一生懸命、譜面見て練習したっつう感じが漂っている。会社、自分の時間がない、カミサン、子供たちが、家にいても冷たいなどと、いろいろな走馬灯。そのムラムラの合間にピアノ。なんだか泣けるのだけれど、で、素敵でもあるけれど、結局、譜面通りなのが、俺には解せない。

ピカソだよ、破壊と創造って言ったの？
でもね、破壊しちゃった責任は、自分で取るのであるよ、お若いの。

実は、毎日、ブログを今日で止めようと思っているのに、結局、書いている。

もう、すでに書いている。煙草を止めようと思ったことはないのだけれど、一度だけ、日本に行く前の飛行機の中の状況を推定し、ニコパッチというシールを胸に貼って、煙草を吸わない状況のシュミレートをしたことがある。やはり、ニコチンを吸収しているから、吸いたくなくなった。で、吸うとどうなるのかやってみたら、ニコチン摂取過多で、当然にして気持ちが悪くなった。二週間ぐらいやってみて、ふむ、これなら、飛行に耐えられるという結論。で、箱の中にニコパッチが余ってしまうのもなあーと考え、まあ、貼り続けるかと……。その内、このシールの中毒になったらどうしようとか考えた。一枚が二枚になり、その内、体全面に貼らないと禁断症状。なんだか、煙草より体に悪そう。で、ジャズクラブで酒を飲んでいたら、「あれっ、イサオ、バタコ、止めたん？」と仲間から聞かれ、なんかアホ臭くなり、その場でシールを剥がし、煙草を一本、ぷっはあーとやった。

やはり、ブログも中毒化してきている。

書きたい気持ちも内容もないのに、ふむ、などと書き始めて、で、始めちゃうと結構止まらなくなったりと、自分で、少し、呆れている。

で、私のブログを読む中毒ということも考えられる。

「ああー、やっぱ、今日も、クダランかったあー」と確認し、一日を楽しく過ごす。まっ、まさか、そんな読者様、いらっしやいませんよねえー、キョロキョロ。

あっ、私自身、お気に入りブロガーさんの記事の「読む中」です。

「あっ、さすがあー」と、読むたびに思っています。

まあ、いろんな中毒がある。アル中、ニコ中、私の場合はピアノ中毒、ピア中。これに、一年前からブログ中毒が加わった。それと、少しユーチューブ中毒、ユー中もある。

あと、パラ中も少し。パラドックス中毒のことです。たとえば、自分の悪口を延々と考えると、なんか、楽しいのだ。脳禁治産者なのかしら？

になってしまうと、続ける努力なんちゅうもんはないわけ。酒煙草、努力してやっているけど。
あれ？

2013.10.18 Fri

歯痛

このタイトル、皆さんは「しつう」と読むのか「はいた」と読むのか？

で、OOO読みというのがあって、音訓ごちゃまぜ。で、俺は「はつう」って、発音してしまう。なんか、とうるるさまあーずみたいかしら？

お歯痛にお目に掛かります、などという駄洒落をやりたくなってくる。

左、つまり、私から見た左下の奥歯がぐらついていて、つまり、歯茎が腫れて、歯が持ち上がっているから、ものを噛もうとすると、そのぐらついた盛り上がり歯に、上顎の歯が当たるから痛い。三日前からなんだけんちょも、しぶとく、ブログを書いちょる。中毒だ。台所排水ホースの最終決戦時の右手親指付け根の負傷、大変に不本意な負傷は、完治に近付いている、矢先に、これだ。Ji、慢性化した背骨神経痛、目のしょぼしょぼ、歯痛、下痢一クーパーと、諸々の故障。廃棄寸前の中古車と本当に似ていて、いつも、どこかを修理している。でも、オヤジになると、その、うりゃあ————、「瑣末瑣末瑣末な、ということにしてしまう」故障など、心錦(これ、なんと読むんだ?)が乗り越える。

まあ、やけくそ、という解釈もできるけんちょも、ボロボロなんだけれど、俺(また、一人称が変わっている)の、この年齢というものは、諸々の社会的と呼ばれる責任に囲まれているのであるから、放棄はでけん。でも、責任感っていうものは、自分で、そのラインを認定するんだろう(詳しくは書かない。諸々ってことにしておく)。

放棄しちゃうオジサンもいるんだろうな。

蒸発？ 妾と心中？ 突然、プータロー？

なんか、泣けるよなあー、とも思う。

でね、裕先生。フリージャズピアニスト。一瞬、放棄系と思われる節がある。

なるお————、全然の全然で、非常にまともな社会人なのであるぞ。

そうじゃないと、愚ブログも、フリージャズも、俺はでけんのである。理解？

これって、例のパラ中、パラドックス中毒。つまり、まともな日常をしていないと、破壊的な音楽とか、俺はでけんのである。両極の狭間のピンポン玉状態が、つまり、俺が定義した「自由」という概念なのであるのだのノダイワのうなぎだ。しまったっ？ 食えないものを書いちゃったあー！

追記

その夜の裕先生。

ベッドの中で、脳内に飛来する、うな重、天丼、カツ丼、すし、さしみ.....。

眠れるかってっ！ 食べたいけど、ここフランスなの。

フランス料理が和食だったら、

この国は、俺には完璧だった。コンビニ、ねえーしょおー。

2013.10.19 Sat

過去の、若僧の頃の自分の姿がフラッシュバックする。

その若僧の背中、後ろ姿が、とんでもなく切ない。

手を差し伸べようとする。届かない。

ボルドーの豪雨の中、坊主刈りで、海水パンツ姿のまま、ボロ自転車を漕ぐ若僧。

そいつは二十三歳だった。金槌を脱出すれば、世界観が変わる予感に打ち震えながら自転車を漕いでいた。あまりに、雨が凄いので、水中眼鏡を掛けて、プールへ向かった。

水着姿の同世代の女に囲まれながら、溺れるような姿で、実際に、半分は溺れていたのだ、その無様な姿を克服するために、毎日、プールに通った。そいつの、筋肉質の後姿が、脳裏をかすめる。

出来ないことが山積していた。

フランス語の習得、水泳、そして、なにより現代美術家というビザで、そいつはフランスに上陸したのである。一旗上げに。

いつ死んでもいいと、毎日、思っていた。

全力で突っ走って、駄目なら、それでいいと、毎日、思っていた。

そして、突っ走った。相当、長い間。

今、その若僧の背中と、未来の自分の裸体が同時に見えている。

現在

久保の兄貴(久保はつじ 曝脳雑記)の「路地裏で姿形を整えるの巻1---3」を肌寒い秋の雨空を見上げながら拝読していたら、私の中のなにかが感応した。兄貴にコメントを送ったら、返信として記事を書いて下さった。私も返礼として記事を書き、それに対して兄貴からコメントを頂いた。

この場を借りて、熱く熱く御礼申し上げます。

しばしば、兄貴の記事に私の中で泥酔してソファーに寝転がっている詩神様が触発される。我々ミュージシャンがセッションと呼んでいる、その感応。とても、ありがたい。我々には、優秀な共演者が必要であることを、しみじみと感じます。人と人とは、たぶん、そういうものなのかも知れません。共演者のレベルが上がるほど、知らぬ間に、自分の力量まで持ち上がって来る。やはり、こういうセッションは大切にさせて頂きたく思います。

兄貴であった岡持ちを持った自転車の小僧。

とても切なくて愛おしい。それを鳥瞰している現在の久保の兄貴の目線。

ずっとパワーアップしているはずである。でも、その小僧を内包している。

私たちは、ミルファイユのように、断層のように、何枚も無数に重なった過去の堆積。

当然にして、その丘の上に、我々はいる。その一枚の記憶の残像の中に、その小僧がいる。

その小僧の堆積の上に、今、現在がある。

三十代の頃の、デビュー当時のピアノの演奏をたまに聴くことがある。

尖がっているし、俺が一番だぜっていう乗りとメガロマニア。

で、俺が進歩しているのか後退しているのか、全然分からない。両方、同時に進行している感じがする。俺の論理では、上昇していないと、水平飛行は出来ないと理解している。

たぶん、進歩しているはずだから、後退を免れている、はずである。

どうして、俺は、いつもこうして尖がっているのだろう？

アブドゥーベナニ。テナーサククス。

俺より二世代ぐらい上のミュージシャンである。

最前列で、お客さんがペチャペチャやっていると、サククスを投げ付けたりする。泥酔して、ステージで倒れる。皮肉満載のトークをする。

このトンガリは凄まじい。

こういう先輩に囲まれている俺。気が抜けんです。
ジャズメンって、「音のヤンキー」なのかも知れません。

2013.10.21 Mon

「模索」とすると、なんか推理小説のタイトルみたい。

わたくし、暗中模索と申しますとか、裏野工作ですとか、卑怯モノですとか、人名駄洒落をしたくなってくる。ところで、なんだか、十月も半ばを過ぎているのに、ぽわあーんと暖かい。雨雲が広がり、リヤリヤあー、冬の到来iiiiiiーと思っていると、カラッと晴れて、ぽかぽか。今年はなかなか、うっ(鬱)君が登場し難いのである。まあ、うっ君がいらっしゃると、まず、とことん彼とお付き合い、お話を致す。どん底まで行くと、「そもそもの鬱になる要因」が、どこにもねえーじゃんよおー、心は錦いーーとなる。人間の心理のメカニズムってどうなっているのかしらね、秋から冬に掛けてどうしても、ちょっと暗くなる。暗アークケント。

ところで、ピアノ自主トレの新メニューがちっともできない。

ひとつには、まあ、そこそこのレベルに達しているということも、多少はあるんだろう。ご存知の通りピアノは音楽コンピュータなので、一人ですべてできる楽器。

ソロでやるのか、伴奏として、リズムセクションとしてと、同じ曲をやるにも、諸々の選択肢。それと、ご存知の方はご存知の通りで、既成のメロディーに和音を付ける。まあ、普通はメロディー音が和音の一番上にくるように鍵盤を押さえる。そして、その和音の選択肢も無数にある。どれが一番、自分の出したい音に近いのか探りを入れる。その選択肢に弾き手のスタイルが現れる。それに、スイング、リズム、装飾音とか諸々の要素が付加されて、そいつのスタイルができ上がる。でも、以前にも書いたけど、フリージャズ屋、基本的にはメロディーのない音楽をやる。たぶん、俺の方が、フリージャズの異端なのだと思う。結構、既成の曲をやるのだ。

と、こんなことを考えていると、ちっとも、メニューができない。

そういう時は、俺のピアノの売り、特徴はなんなのかと初心に帰る。

パワー、スピード、エモーション。時に、このエモーションを既成のメロディーに封じ込める。

不協和音も多用するけれど、結局、ちょっと暴力的な感じの霞の向こう側に、優しい悲しみが浮き上がってくる。と、こんな感じが持ち味なわけね。余計分かんなくなっただっ！

他人の奥歯のお歯無しなど、ご興味ない？

「こりゃまた、失礼致しやしたあー、お呼びでない？ あーそー、変なオジサンだから変なオジサンあーー、ダフンダッ」

植木等さんの、お呼びでないオジサンが、志村けんさんの変なオジサンへと推移していることは、すいすいと分かる。文章化すると、リズム感が違う。はい、もう一度。

「へっんなオジサンだから、へっなおじさあーん」、おおーー譜面にした方が分かり易いけど、音符ブログかよっ、大竹さんっ、いっいてえー。

でね、眼鏡を持ち上げる

お前、いつから、大竹なんだよって

えっ、俺っ、裕イサオだけど

お前のブログのリズム感っつーのかな、似てんだよ、俺と

えっ、そんなこたあーーねえーだろってっ、俺、三村じゃねえーし

あんた、パクってない？

シラねえーよっ！

で、お前、左下の奥歯、ぐらぐらなんだろって？

るっせーよっ！

痛いんだろっ？ 抜いちゃえ抜いちゃえって、痛いんだろ、もう、他人だぜって、お前の歯。

るっせえーよっ、俺の歯じゃん、文句、ゆーなよっ！

うん、音楽はいいよな

昨晚、ユーチューブでふたつのユニットの複数の動画を見た。

ひとつは、浦島太郎と笑うなかれっ！ 初めて聴いたのである、AKB48。

もちろん、さすがに名前は知っていたけれど、聴いたのは初めて。

「恋するフォーチュンクッキー」。いろんな会社、組織のスタッフが踊っていた。

永遠のアングラ、ジャズメン側からの反応を予測できる。

商業主義、マーケティングの勝利って。で、俺も、そう思ったのか？

まったく反対で、感動した。歌詞も踊りも明るいし元気。素晴らしい。

ジャズ屋には偏屈が多い。まあ、偏屈だからやっているともいえる。

ラップが出始めた頃、「あんなの、音楽じゃねえー」という奴も、結構いた。

確かに、俺らって楽器フェチで、テクニク偏重の傾向が多々ある。根暗の偏屈ペダントリック人間の集団なのか？ ふむ、ちょっと、そういうところもある。

で、俺は、心のスイス人、おー、出たあー、久しぶりっ！ だから、すべての音楽は音楽だし、人間どもに上下がないように、そのすべての音楽に上下、優劣はない。音楽の好みは別だけど……。それと、人間界の礼節とかは、また、別。組織の中の上下、これも話が違うよ。もっと、根本的な話ね。当たり前と思うのか、裕ちゃんってユートピストねってなるのか？ ふむ。

うで、その勢いで、そういえば、息子がワールドオーダーの新作動画が素晴らしいとっていたなとなり、「ウエルカムトゥウキョー」を見た。元々、俺は彼らの大ファンだから、目頭を押さえながら見た。三回見た。確かに、コマーシャル、綿密なマーケティングの元に作成されていることは分かるけど、やはり、素晴らしいし、元気になる。こういう明るい元気って、いいよなあー、本当に。三十年以上、母国を離れているのに、母国が元気がないと、やはり、寂しい。勝手なセンチメントだけど。やっぱ、スポーツ番組を見ると日本チーム、日本人選手を応援している。次に、フランスチーム、選手となる。日本対フランスの時は、俺んちは日仏家庭だけれど、全員、日本を応援している。で、日本チーム、選手がいない時は、フランスになる。

さて、じゃ、裕さんも、なんかヒット曲作れば？ というベクトルも考えられる。

で、駄目なのである。ジャズが、アングラが染み付いているし、ジーちゃんだから、時代の、ちょっと先を見越して、素敵な曲を作る。もう、俺の感性が古過ぎる。ぱっとしない内に、もう、過去の人になっているのである。と、あっさりと諦める。現代美術家の村上隆さん、自分の会社を持ち、綿密なマーケティングの元に作品を作る。要は、新製品の開発と同じ。世界でもっとも売れているし、作品の値段も高額。いやあー、なんかすっきりしている。芸術家的ぐずぐず

感がない。

まあ、俺みたいのが、もし、ぱっとすることがあるとしたら、五十周ぐらい遅れてどん尻走っていたら、いつの間にか、先頭集団の先頭を走っていて、ついでにテレビに映っている、とこんな感じだわな。リバイバルとも違うよな、こういうのって。

でも、ひとつだけ参考になったことは、リズムと、メロディーとか和音がいい意味でシンプルで単純。ジャズ屋は、どんどん複雑にしようとするから、この辺りが、聴き手の琴線に触れないケースが多いと推測する。実は、すでにトライ動画がユーチューブの俺のチャンネルに入っている。

「リズムックス1---3」。ご興味ある方は、覗いて見て下さいませ。

でも、近日中に、ドリアンコードを使った超シンプルな曲を作ってみようと思っています。俺の動画の中で、比較的ヒットしたのが、「枯葉」、あと「月よりの使者」という即興曲。タイトルのせいで、変な風にヒットしたみたい。それと、一番、最初に作った「ラストシーン」。この曲は、メロディーがシンプルで、やはり、聴き易いし、第一、自分で聴いてもメロウで綺麗だ。

うん、音楽はいいよな。

2013.10.24 Thu

さっきまで、今日はブログはぼさりと思っていた。

本業のヤノピが、ちびちびと忙しくなってきたせいもある。

で、明日はぼさり。裕中、イサ中の方は、一日、手が震えるかも知れないが、耐えるように。

最近、ヤノピの練習中に、同時にブログのことを考えるパラレルワールドと化した。

ヤノピと奮闘しながら、ふむ、などと、記事のことをフラッシュバックみたいに考えている。

脳崩壊の兆しなのかしら？

昨晚、よっしゃー、俺もヒット曲ヒット曲と、日本国でヒットしているポップミュージックをいろいろと聴いてみた。寛ぎの一時にはならず、いろいろと音分析をしてしまう。それから、それ以外の要素。ビジュアル部分とか。

で、後者のビジュアル部分の要素が、相当に大きい。

で、次回の俺の動画はどうなるのか？ こちらを追求せんければならん、低予算で。

ちっけえー、カメラで。と、それはいいんだけど、音の方ね。

結局、なんだか退屈してきた。

複雑な音、別にジャズとは言わないけれど、ちょっと、もう少し味の複雑なやつ。

なんか、結局、味覚と一緒に。フリージャズって、知る人ぞ知る永遠の珍味なんじゃねえーのとか考えた。あっ、ちょっと違うな。素材の味ではないな。

おりゃ、フランス料理に近いかもな。いろんな下味、諸々の素材、アレンジ。

ふうーむ、ジャズの音に近似している。

個人的には、吉野家の牛丼とか好きであるが、

ポップミュージックって、まったく悪い意味ではなくて、こっちに近い、音の味が。

ジャズ味は、うーん、そうだな、地元で伝わるしし鍋とか、そんな感じか、フランス料理にも、少し近い。

でね、ハウスバーモンドカレーも素晴らしい。

カレー専門店のそれも素晴らしい。

ありゃ、ジャズは専門店系の味なわけね、伊達に複雑音を出しているわけではないという結論。

はい、結局、音楽は、味覚と一緒に食いたいものを食べればよし。

たまには、ジャズも食べて頂戴っ！ 食いたくねえーのは分かるけど.....。

2013.10.25 Fri

昔から、ということになっている。

銭腹はかえられぬ。はい、これはですね、わたくしめが作りましたが、お腹が空いても、お金は食べられないでしょ、だから、お金なんて、そんなものなのよという負け惜しみことわざ。愚鈍に目鼻。えっ、俺？

で、俺はピアノ弾きなんだけれど、背骨の何番目かが歪んでいる。年のせいなのか、そういう兆候があったのか、四半世紀の営業マン激務のせいなのか、これは分らん。で、ガレージに行つて、おい、新しいのしてくれたまえ、っては、なぜが行かない。先日、俺の愛車、ホンダシビックハッチバック1997年のトランスミッションを大枚叩いて交換した

のに.....

なんで、俺のトランスミッションは交換できないのぉ

、の歪んでいる部品から、上半身を司る神経系の配線が伸びているから、そりゃ、いてえー。で、刺激をしないで、静かな暗しじゃね、暮らしを行っている分にはいいのだけれど、そりゃー、重いものをやるだけ持たない。自転車も、あんま、よくない。首をなただけ動かさない。カッとならない、高血圧にも悪い。静かに生きる。ひっそりと生きる。背骨の痛みに集中する。それ以外は考えない、つまり、一日、じっとしている。波風のない人生を送る。背骨様の様子、彼の機嫌を損ねない。びくびくと一日を過ごす。

まさしく、仕事の出来ないマンサラ(サラリーマン)野郎の、その日じゃん。

で、俺は、一応、波風は立てたくはないけれど、職業がピアノ弾きだから、そりゃー、ピアノは弾く。相当弾く。ぎんぎんに弾く。限界値まで弾く。十日後、動けない。首筋、両肩に、まさしく大リーグボール養成ギブスを嵌められた感じになり、痺れて動けない。呻きながら、茹でエビ状態。その形で、左右にイモ虫。痛いーというのとも少し違って、鉄の錘をいきなり着せられましたあーっていう感じなわけ。で、イモ虫状態の俺を見て、カミサン、「あなた、やはり、ピアノ止めるしかないんじゃない」。目に涙を溜めながら、「ううううううー、ピアノは私だつ。私自身なのだあー、うううううううううう」と返事をする。ピアノ馬鹿そのものである。

でね、うすうすは感付いていた。

もしかすると、フランス製の和風ベッドの布団もどきの老化と俺の老化と、せんべい布団化と、俺の尻のせんべい布団化と、この、相乗効果ではないのかと。豊穣効果じゃないの。

で、いつこの記事をアップするか分らんから、曖昧に、先日とする。に、俺にとっては大枚を叩いたスプリングマットにかえた。どの体位でも、背骨が直線になるというやつ。フランスでもっとも有名なメーカーだ。かなり、高額。でも、一縷の望み。糞をも糲る。

微かな期待はあったのである。ほとんど、芥川賞を受賞するのではないかというぐらいの期待ね。

で、俺は芥川賞を受賞した。んじゃねえーだろって。

ちやうちやう、その翌日。上半身の痛み、なくなっていたのである。ちょっと、びっくりどころか、俺にとっては永遠の歯痛みたったから、奇跡に近い。歯痛は、なおんねえーけど、相変わらず。

そんな一晩で、うなわけねえーとびくびくしていたけれど、やはり、スプリングマットにかえてから、上半身の痛みが消えました。こういうこともあるのですねえー、十歳(以上)若返りしましたあー！ピアノ弾くのも、当然、楽になったのである。大ピアノスト養成ギブスを外した、裕先生、うぐっ、自分で自分が怖いわ。キャ。

自分の持ち味

今日は、こっちの時間で、十月二十七日の日曜日。夏時間、サマータイムが本日早朝で終わり。北ヨーロッパは長い長い冬に突入する。鬱の巣窟。それについては、(今回は)書かない。午前中、雨雨。午後晴れ間。この晴れ間をぬってカミサンと散歩。帰宅しピアノ。弾きながらパラレルワールドブログ記事の考察。

で、ちっともピアノの自主トレメニューが出来ない。まあ、今回は、これについては書かない。フリージャズピアノに関しては、俺はトーシロー(素人)ではない。有料ピアニストなのだ。

で、その、小説復帰その二。こちらも、ちっとも進まない。

で、俺は超絶勤勉人間。その怠惰というものは、俺の辞書にない。

須藤元気さんの的なところがある。でも、進まない。イラついてくる。

こちらは、トーシロー。トーシローがイラついてどうするの？ となる。

締め切りもないし、だれも、読みたあ—————い、なんて言ってない。

じゃ、止めましょうってなる。ちょっと、違う。

書きたいことは沢山ある。でも、本質的に書きたいことは書きたくない。でも、それを書くのが小説なんじゃないのぉー？ で、俺は、この意見に反対なのである。「そういうもの」を、金に代えたくないのである。いや、それが拙いと言っているのではなく、俺は、嫌いなのだ。

と、元文学青年は、三十何年経っても考えてしまう。これは、永遠に変わらん。まあ、棺桶にはいるまではね。

でね、俺のブログをお読み頂いている方々は、ご存知の通り、ま————、良く、無内容にしても書く。筆まめである。で、やっば、書くのは好きなんだろうと自己分析する。

で、自分の中の本質的なものは書きたくない。となると.....。

歴史小説 まったく駄目 興味なし

推理小説 犯人のいないストーリーばかり考える

恋愛もの 俺がまったく色っぽくないから没

現代もの 筆力なし

現代文学 サハラ砂漠

「本質的に書きたいものは書きたくないけれどでもやはり書きたいけどこの年で模倣なんてしねえーから自分なりにとなるとチュートチュートが一番おまえの持ち味に近いんじゃないつまり

ブログとかエッセイとか掌編ということ」と、自己分析して、一人にんまりしている。

これって、自然体というやつなの？

これって、超、難しくない？

りゃ、これこそ、トサリの境地？

2013.10.28 Mon

Yu's Proverbs 1

ヘエツツロオーお、ドウユー○ピーク○ングリッシュ？ イエスと言ってニコニコする。
ワッツ○アーネイム？ イエスと言ってニコニコする。三十何年前は、俺もこうだった。
現在は、ヘエーーイメエエエエエニヤアー。流暢である。イヤアアアアアアああ。

Proverb=ことわざ、で、はなもげらだと、わざとこ。で、以下、裕先生のそれをご披露致す。
わざとこ、および、裕先生の直々のご解説付き。よおーっ、はいいい、はい。

あっ、その前に、なんとなく面白そうなコンテストを見つけた。「小説現代ショートショートコンテスト」。ご存知の方も多いのかしら？ 俺は、全然知らなかった。応募が毎月で、原稿用紙五枚以内。この感じって、俺の空脳向き。来月からブログみたいにせっせと原稿送ってみようと考えている。ご興味おありの方、インターネットで詳細、ご覧下さいませ。原稿用紙五枚、溢れ出るネタ、ムラムラ執筆欲、これって、かなりブロガーさんに多いと思うので.....。一緒に、応募しちゃいましょう！ 別に、一緒にやるこたあーねえーけど。アズユーライク、イエエエエエイ。

PB1 愚考山を移す

一心に馬鹿ブログを書き続ければ、ものごとは達せられる(とは限らない)
元は、愚公ね

PB2 空中狡猾

世渡りのへたな馬鹿。つまり、そいつの思惑、戦略、狡猾なんちゅうもんは屁の河童

PB3 坊主の鼻ピアス

その気になれば用途がある。花簪は、ぐさっ、痛いでしょ
夏の小袖だってファッションファッション、だろって

PB4 ぼうとする

なにもしないから棒に振らずにすむ。でも、指揮者の方には、マ逆意味

PB5 負け惜しみの減らず指

テクがないのにやたらスピードを誇示するへたなジャズピアニスト(だれのこと?)

PB6 頭痛と見せて頼冠り

仮病のこと。まあ、たまにね、こういうのも必要
うんこも方便と同意

PB7 暖簾にブルドーザー

埒の明かない相手に業を煮やしたターミネーター

うおっ！ 須藤元気の前で、心が心が言い訳していると、こうなる

PB8 恋の滝登り

女性ファンに囲まれているミュージっちゃんの心拍数

でも、最後は、まな板の恋、ね

PB9 才子妻に倒れる

ぐうえ、たらあ——、汗。いいんですか、こんなこと書いてっ！ 真空とび膝蹴りは覚悟っ！

あれっ？ 誤字誤字、哀川翔の物まねをしながら、訂正。おんな、るっせえーからよっ、野菜
食えって

才子酒に倒れる

アル中の東大生

PB10 晴天の辟易

このブログの読者様の心模様とか心境

おわっ、心の鏡、心鏡って、どう？

おいっ、そこの月夜に提灯っ！

えっ？

お前だよ、お前っ！

えっ？

お前だって！

えっ、お前って、つまり、俺？

2013.10.29 Tue

昨日から、原稿用紙十枚の時計町という小説を五枚に再構成している。

脳が爆発しそうである。ブログを書くのと違うのは、やはり、作品という、つまり、晴れ姿的な書き物だから、集中し緊張するし、頭も相当消耗する。プロの作家って、よく毎日こんなこと出来るよなと思う。健康に悪そう。まあ、プロってそんなもんだろう。で、何度か記事に書いた通り、自分の資質分析をしたら、妙にすっきりした。才能があるとは言わないけれど、資質のベクトルは明確にしないと、次に行かない。掌編というものに特化してみようと思い付いたら、急に、ぱちぱちとパソコンを叩き出した。

考えてみたらジャズピアニストは交響曲を弾いたりはしない。

つまり、長編大河小説という乗りではない。一編イコール一曲みたいな感じだから、ジャズピアニストが小説を書いてみようと思ひ立ち、掌編、ショートショートを書く。なんか自然な感じがする。

しかし、原稿用紙五枚にエスプリをまとめる。

比較的、俺には向いているとは思っただけけれど、短いなりに難しい。

あっという間に超えてしまう。原稿の冒頭にタイトルと筆名を入れると、もっと文字数が少なくなる。これにまとめる。ひいひい言いながらやっているのだけれど、逆にこけおどし文をどんどん削除しないといけないから、これはいい文章修業である。少し大人になったぜって。

正直、これ、嵌るだろう。ブロ中プラス、ショー中(ショートショート中毒)を併発するのである。

先日、すべての原稿を整理したことは記事に書いたけれど、時計町の執筆が俺、三十八歳だったことに気が付いた。もっと最近の気がしていた。もう、十六年も経っている。げろげろ。で、再構成しながら、五十四歳の俺が三十八歳の俺の書いたものをばしばし削除している。

とはいえ、元の方がいいのではないかとも思う。

尖がっている。皮肉満載。世間を斜めに見ている。こけおどし文も多い。毒舌も出てくる。

これが分からんだけれど、今の俺の感触と違う。こういう挑発力がない。だから、挑発文はすべて削除なのだ。再構成後の方が、たぶん、完成度は高いと思うけれど、なんぼのもんじゃいと俺の中の三十八歳が喚く。

俺にはできない

ワールドオーダー、および、須藤元気さんは本当に素晴らしい。
いろいろな要素があるんだけど、俺にはできないことを、もやもやの欠片もなくやってくれる。
。
実にすっきりしている。

たとえば、俺が母国を捨てたのか、母国に捨てられたのか、今以て分からない。
そういうもやもやが多少脳内に残っているのかも知れなくて……。と、それ以上に、俺自身が古くなっている。考え方が古いし感性のアンテナが風に揺れている。のだろう。

須藤さんのメッセージ。「我々はひとつ」。もう、ここで、すでに、俺にはできない。
日本のイメージを逆手に取って海外へ。このマーケティングもできない。
格闘家時代の試合の映像を見た。格闘中に笑顔だし、お笑いおちゃらけをやる。これは、見ている方はいいけれど、マットの上で、これをやるのは、超絶的。凄い回し蹴りを受けてもニコニコして、おちゃらけの動き。俺が、演奏中に、ねこふんじゃったを時々やるのとは次元が違う。凄い人だ、本当に。そして、試合後の対戦相手への敬意。涙が零れるぐらいに素晴らしい。

でだ、端くれ芸人の俺。
フランス在住のジャズ屋だ。
俺は、一切、日本色、これを売りにしないという偏屈人間。
俺は、単に、ピアノの技術で、ワールドに対峙しようとしているわけである。大した技量じゃないけど。この変なこだわりと偏屈が直らないところが、すでに、俺が過去の人になっている明らかな証拠なのである。っても、直らんけど。

ワールドオーダーの動画を見ると、
社長と部下と一緒に踊っている。ロボットみたいに。
という印象を受ける。当然、須藤さんの計算通りなのである。

うん、背広来た七三の日本のマンサラ親父が、すげーロボットダンス。

須藤さんの「親父っ、元気だせよおー」というメッセージのようにも見えるし、
「なにやってんだよ、あんたらあー」とも見える。

まあ、俺みたいな偏屈がフリージャズの歴史を支えて来た。これでいいのだった。

2013.10.31 Thu

冬が近いのにさまぁーず

皆さん、ご存知なのかと思うのですが、さまぁーずの漫才の冒頭のアクション。大竹さんは、無表情でやらない。三村さんが「お前えー、やれよっおー」。大竹さん「俺はやらない、絶対」と言う。

この二人のコントラストは、本当におもしろい。さまぁーず。芸人というより芸術家の臭いがする。とりわけ、大竹ワールドに。これに、元気な典型的な日本の明るいオジサン、三村さんが入るから、本当に愉快である。

そして、中傷とか毒舌がない。これは素晴らしい。見ていて元気になる。

いやぁー、このコンビは、素晴らしい。でね、もやもやさまぁーず2を、またまた、嵌り見している。で、俺は、三村さん、大江さんの大ファン。大竹さんは、この人の脳細胞は、本当に、俺の系列会社と思うぐらいに似ている。見てくれ、雰囲気、体付き。そして、その、彼のお笑いの源泉が、俺と同じところから来ている。その源泉とは、筒井康隆大師匠である。

あれ、今回書きたいのは、そうではなくて、なんの他意もなく、不思議に思うのが、まず、俺が入りそうな店にしか入らない。大衆食堂。メニューびらびらの中華屋。鄙びた喫茶店。このチョイスの仕方は素晴らしい。違う、それではなくて、もちろん、テレビカメラ、店に入る時のインパクト、知名度とか、いろいろな要素があるのだろうけど、毎回、奇異に感じるのが、店に入る時、三村さん、大竹さん、大江さんの順。男二人が、必ず先に入る。

ラーメンを小どんぶりに分ける。必ず、大江さん。

これは、俺の日常、皮膚感覚を、もろに覆す。女性より先に店に入る。考えられない。上座に男性が座る。考えられない。ちまちま分け作業を女性が「当然のようにやる」。考えられない。

良し悪しではないよ。フランスだって、日本だって、実力者は女性である。結果は同じだけれど、その出方の違いは、西洋と東洋の専門家にお伺い下さいませ。

2013.11.02 Sat

センチメンタルロボット

という曲ができた。

ラのドリアン音階を使った超絶技巧満載の曲。

ドリアン音階、ご存知の方はご存知の通りで、短調なのに響きが長調に聴こえる。

現代のジャズピアニストが多用する。

超絶技巧満載だから、腕の動きがロボットみたいになる。

それだけでなく、ピアノの演奏は、もともと、そういう感じがある。不自然。

太極拳のリラァーークスな動きの対極。

たぶん、この曲を作っていたせいなのだろう。

左下顎奥歯、ぐらぐら。ついでに、右上歯茎が腫れ。左右ともに噛めない。お粥人間。

もう、口組みから脱会して頂いて結構と開き直っていたら、ぐらぐらのまま歯痛はなくなったけど、ぐらぐら。羽毛、総入れ歯で結構っ！ と歯痛とお話していたら、昨日より左足首が痛くて歩けない。左足首を庇いながらピアノの練習をしていたら、右足が引き攣った。歩けない。

背骨神経痛は治まったけど、こんどは、両肩の筋肉痛。

そりゃそうだ、延々とロボットみたいに鍵盤をマッハ2ぐらいで押さえていたから。

歯、両肩、両腕、両足。

ポンコツロボットだよな。

「ねえ、マミちゃん、こんなあたしでもいいかしら？」

大丈夫よね、年の差なんて.....」

「廃車、廃車」

「マミちゃんって優しいのね。うん、歯医者に行くね」

2013.11.03 Sun

時は、西暦2033年。

世界庁が人工太陽の打ち上げに成功したのが、2030年だから三年後。

着流しの裕先生、御年七十四歳。一年前まで、相変わらずのしがないピアノ弾きだった。

ところがあ—————、

裕先生の小説「夜の果て」、これがベーベル文学賞を受賞した。

ついでに、同名曲の収録されたCDが、レディーババァを抜いて世界ミリオンセラー。

フリージャズの快拳。深海魚。裕先生の年収は二兆円ぐらいと噂されている。

人工太陽が作動し始めた時、人類は狂喜していたのであるが、裕先生はにがにがしい思いがむらむら。それを本にしたら、当たったという構図。

だってね、いわゆる日中、これは前の通りなんだけれど、太陽の裏側になる部分に人工太陽が回っているでしょ。つまり、夜がなくなっちゃたわけ。午前と午後の区別が付かない。時計も、分かり難いから、二十四時間のそれになった。こうなると、ワークホリックのマンサラの野郎なんて、間違えて、一日、二回出社したり、朝食と夕食の区別がずれ込んでくると分からん。「なんだよおー、朝から、すきやきかよおー」「お父さん、今、夜の八時ですけど」とか、わけが分からない。夜中の十二時に「昼飯は」なんていう奴がでてくる。そりゃー、夏なんてカンカン照りだから、そうなる。もう、面倒だから、午前午後は止めにして、九時五時を二回やればいいんじゃないとなった。八百万人ぐらいが過労死した。で、止めた。

で、着流しの裕先生の職場はジャズクラブ。出勤は夜の九時。朝日が昇った感じの夜の九時。なんか、ジャズする感じにならんから、お客様激減。朝の九時から酒飲んでジャズ。俺だってやだあ——。営業妨害はなはだしい。朝の九時からナオンを口説くかっての！ 性欲異常だ。

うで、この怒りを書籍化したら、先記のようになった。

「おい、マミ、今、何時？」

「八時」

「どっちの？ 午前なの午後なの？」

「忘れた」

「おまあー、馬鹿じゃねえーの。今日は何日なんだよって？」

「二日と三日の間ぐらいなんじゃないの」

「んじゃ、これ夕飯なの」

「たぶん」

「のりと納豆と味噌汁って、俺がガキの頃は、朝食だったんだけど」

「つべこべ言わないでよっ。今日、仕事でしょ。急いでると思ったから、ささあと作ったの」

「仕事？ えっ、今朝、コンサートなの？」

「お父さん、なにぼけてんのよおー、今は、昔、お父さんが若い頃、夜とか言ってた時間なの」

2013.11.04 Mon

結局分からないブログ統計

この正確な数字を知るためにいろいろとやったみた。

俺は比較的、算数は得意の方であるが、パソコンは、まったく駄目人間。

で、結局のところ、なんだか分からない。結構、これって簡単に分かると思っていたら、どうも、そうではないらしいことが分かったというだけ。

それを知る手立ては三つ。

ブログ村のデータ。相変わらずPVアクセス、これが理解出来ない。やはり、馬鹿なのか？ INとOUTは分かった。で、平均値とすると10、30、1とか出てくる。この最初の10は、俺がアクセスする時の数値のはず。で、この際にOUTに10となるのだとすれば、読者様は2。でも、PV1、これが分からない。

Bloggerの統計。

閲覧数が7-----20の間ぐらいを上下している。

でも最近気が付いたのは、ページビューが50ぐらいなのだった。

溜め読みしている読者様が複数いらっしゃるということが分かった。うるうる。

昔の記事が、ちょこちょこ読まれていたりすることも分かった。

グーグルアナリティクス。

閲覧数の平均が20。ページビューが50-----60。

まあ、大体の数字はこんなであるのだろう。

不思議なのは、閲覧されている国。日本、フランスは分かるけど、アメリカが上位に来ている。

この数字は、どうも分からない。Bloggerだと、日本、アメリカ、フランスとか出てくる。不思議。

グーグルだと、フランス、日本って出てくる。それから、諸々の国々。こちらは、1とかだから、たまたま開いた方がいらっしゃるのだろう。

と、結局なんだか分からないのですが、グーグルの統計が、まあ、実数に近いのだと推測する。なんか、下世話な話で恐縮ですが、ブロガーさんにとっては、多少は重要な情報のような気もするので、記事にしてみました。俺の愚ブログの統計なので、あまりいい参考資料ではないとは思いますが.....。こんな感じなのです。

ところで、ジャズクラブのコンサート。

大体20名ぐらいお客様がいらっしゃると、そこそこクラブが一杯のように見えるから、

俺のブログの一日の訪問数は、ジャズ屋には相応しい数字なのかも知れない。

まあ、これをどう自己分析するのかなんだけれど、この愚ブログを芸能人のPRブログだと解釈すると、当然、解雇だろうなあー。でも、フリージャズ屋の愚ブログとすると、妥当な数字となる。

じゃ、コンサートの動員数も含めて、俺にとってベストの数値は？ となる。

大シアターのコンサートは、あまり、好きではない。やっぱ、ジャズクラブのちんまりがいい。と、やはり、しつこいけど、学校の一クラスの人数ぐらい、となる。

裕先生っ、20。足りないじゃないすか？ 裕先生がガキの頃は、45ぐらいだったはずですが...

ふん、少児化、少児化っ。

2013.11.05 Tue

裕先生の御資産は、今や十五兆円を越えており、六十万円の相対的な価値は、我々庶民感覚では、六銭相当なのであります。そんな裕先生ですが、相変わらず、ホンダチビック1997年モデルに乗り、時々、銀行に100euroを引き出しに行くのであります。頭取、副頭取、行員一同が整列する物々しい雰囲気の中の100euro。裕先生が財布にしまうと、全員、九十度のお辞儀。やる事がなくなってしまったので、着流しで、お散歩。お料理、庭の草むしりの毎日。日本のお茶山賞受賞作川口一平「清い心」のモデルは、この裕先生だと著者本人が公言しているのであった。

「ねえ、あなた、ブログもいいけど、ショートショートその2、早く書きなさいって！」

「えっ、あー、浮気センサーっていうやつね、もう、ほとんどできてるもーん」

2013.11.06 Wed

ショートショート

さっき、ショートショート「時計町」圧縮版を講談社に郵送してきた。

インターネットを見ていたら、なんかの記事で、このコンテスト(小説現代ショートショート)の月ごとの応募が大体七百って出ていた。こんな数の中で入選なんてする方が、なんだか宝くじという感じだ。ジャズ脳、ジャズのピアノ弾きの楽しみっていう感じでショートショートを書くと、これが、実に楽しいのである。小説を書こうとすると、力量がないのに、ヘンリミラーの「北回帰線」と対峙できるもの、こういうメガ口状態となる。力量がないから鬱になる。悪循環である。だから、自分の身の丈ベースでやろうとすると、ショートショートとなる。頭がショートしてっから、丁度良い。

ついでに、小説家志望の方々のブログが色々出てきたので読んでみた。

〇〇賞、また、落選しましたあー、五十回目です。とか、色々出てきた。

へえー、小説家志望ブログというのもあることが分かりました。

文体からすると、三十代という感じがしらね。うーん、俺も、同じようなことをやっていた

。

みんな、がんばってな。先があるからな。こっちは、憂愁の美をいかに飾るか。先がないわけだ

。

ついでに、各文学賞の応募総数とかも出てきたので見てみる。

一番多いのが「文学界新人賞」というやつで、二千三百とか書いてあった。

へえー、これが所謂倍率というやつであるから、宝くじに当たる方が早いような気もする。

で、当然、落選者が二千二百九十九名いらっしやるわけだ。

その方々の一部がブログを書いているという計算になる。

受賞する方が、なんか不気味な感じの倍率である。

でも、二秒ぐらい考えてみると、この高名な賞、日本語を読み書きできる人口総数のうち、二千三百人「しか」応募していないのである。やはり、文学とか小説自体が、衰退しているのかも知れない。ミュージック動画の閲覧数とは、まったく比較にならないぐらいに少ない数字である。ワールドオーダーのやつなんて、ゼロの数が分からんぐらいだ。

皆さん、ご存知の方も多いと思うのですが、フランスのドゥマゴ文学賞。

これって、第一回目はレイモンケノーが受賞している。ははは、物書き仲間がカフェドゥマゴで

、

レイモンになんか賞をあげようぜって勝手に作って、レイモンが勝手に受賞した。

なんか、こういうお笑いも素敵だ。

よし、裕イサオ文学賞を創設するぞぉー、応募要項は俺しか知らないの。
審査は、もちろん、俺だっ。きよわぁー。

ほほほほっ、すでに、俺はいくつかの賞を受賞している。のだ。
ジャズクラブバビロ、ベストトリオ賞。審査員は、俺、佐藤真師匠、ヨラム。バビロのオーナー
と弟とファンの方。日本ブログ村読者少なき愚ブログ大賞。どうだっ！

2013.11.07 Thu

自分に辟易

することも、たまにはある。

愚ブログばかり書いていると、本当に、脳天パーになりそうな気もする。

などと言いながら、またまた、馬鹿な物語が脳内にぐおーーと蔓延してくる。

書こうと思ったけど、止めた。

少し、脳馬鹿にも休息を、などと考えた。

で、秋の曇り空を見ながら、たまには、少しゲイジユツカしてみようと目を瞑るが、

馬鹿話ばかりが浮かんでくる。ピアノ弾いて、馬鹿話をずっと考えていると、心は錦。

明るいオジさん。まあ、悪いことではないけれど、思考回路が破壊されてしまうような不安も過る。

で、先日完成した「センチメンタルロボット超絶技巧付き」の動画制作を始めたのだけれど、

どうもラインインの接続不良で、モノラル録音になってしまう。参ったねえー。

で、諦めて煙草を吸っていると、またまた、馬鹿話が頭の中に蔓延してくる。

で、またまた、自分に辟易する。

私が、「詩を最後に書いた」のは、いつだったのかしら？

忘れてしまったのである。そう、十代の頃、私は詩人になると公言していたのである。

うーー、なのにねえー、今じゃ、この様でございます。

このジャズ菌の強力なことっ！

邪頭脳に効く薬は、ないのだ。よ。

シャンゼリゼ大通り。裕先生とマミちゃん。

本当はないけど、フェラーリのショールーム。

「あっ、安いわねえー、バーゲンだって。99.999.900円ですってえ！ あなた、買いましょ！」

「うん、二割引きだってな。100.000.000円切ってんじゃん、安い安い、買お買お。おーい、

兄ちゃん、これ、くれよ。現金で払うからよおー」

だれかあ、助けてえー！

2013.11.08 Fri

コメント狂

ちょっと、またまた、これが再発し始めている。

コメントと言っても非公開のもの。

本当に、すみません、受信された皆様。

やはり、怪しげな、つまり、わたくしですが、こういう奴からのコメント。

どうしてもご迷惑になるのではという一抹の不安が消えない。

けれど、やはり、でも、エールを送りたいという気持ちがむらむらと沸いてくる。

やはり、私の愚ブログとはいえ、やはり、読まれているよってという感じは、やはり、嬉しいし、やはり、気も逸る、やはり。で、当然、私以外のブロガーさんだって同じだろうと思うとむらむらと送ってしまう。なんか変な風に善良なところがあるのである。

しかし、この善意の固まりである裕先生。

ジャズ脳だから、乗り出すと止まらないカップエビセン体質。

スイング始めると止まらない。この乗りで日毎コメントを送られたら、受信している方は溜まらん。

素晴らしいブログへのエールが、段々とエスカレートしていくと.....。

私への返信だけでブログタイムが終了してしまい、更にスイングし始めると、原稿用紙換算枚数三百枚なんちゅうコメントを送ってしまい、いつのまにか本文がなくなり、私のコメントだけが、堂々と画面に出てくる。傍迷惑甚だしいのだって！ 裕先生っ！

やはり、コメント狂に効く薬を飲むことにする。

セシヨボーンという薬があるのですよ、嘘。

2013.11.09 Sat

表現狂

十代後半、詩を書いていた。

二十代は、現代美術家。これは、私のオフィシャルな職業だった。

三十代は、小説を書いていたけれど、途中からピアノが入ってきた。

四十の時に、ピアノのプロ登録をした。小説は止めた。

ピアノ狂と化し、今日に至っている。

なんか、常に、自己顕示をし、表現をしていないと気が済まない体質である。

この表現狂体質、やはり、ゲイジユツカなのかも知れないけれど、どうでもええ。

で、どうして、ピアノにこれが集約して来たのか、私は良く分かっている。

以前にも書いたけれど、お客様がすぐ目の前にいる。同じ時間を同じ空間で共有している。

格好良く言うと、生きている時間を共有している。現在進行形である。そして、音は虚空へ次々と消えて行く。脳の記憶の中に、消えた音と共有した時間がレジスターされるだけである。

この他人、他者とこういう作業をしている。

これに熱く嵌ったのである。

ほほほほっ、孤高のピアニストなあーんて言ったって聴いて下さる方々がいなければ、そもそも成立しない。片田舎の炭焼き小屋、肥たごの横にグランドピアノを設置し、牛さんたちへお聞かせする。無理がある。無人島で盛大なソロコンサートを開催する。聴いているのは、鮫とかクラゲとか亀とかイグアナとか巻貝。無理がある。サハラ砂漠の真ん中で弾いてみる。駱駝さんが通り過ぎるが、立ち止まってはくれない。無理がある。

りゃ、格好つけてよおー、僕はひとりが好きなんだあーなどと言ったところで、他人との関わり、接触がなければ、そもそも成立しない職種である。僕は、ニンゲンが嫌いだっ、嘘付きっ！

2013.11.10 Sun

「おおー、マミ、見て見てっ！ これいいじゃん。ねえ、透明度を調節できるブラインド。まあ、正確には巻き上げ式の雨戸ってな感じだね。これさあー、タイマーでさ、たとえば、午後六時から徐々に人工太陽の光を遮断して行くと、たとえば、八時ぐらいに真っ暗にもできるってなわけだ。ねっ、これさ、窓に付けようぜって。考えたらよおー、最近さあー、当たり前だけどさ、真南のサロン側にあるのが本物で、真北の台所の方にあるやつが人工太陽だよな。最近の子供たちよおー、太陽は東から昇って西から昇るって教わってんだってさ。真北だから台所にしてるのによ。まあ、立地の悪い家にはベターチェンジだわな。トマトは生り過ぎだし、若い娘は皆サーファーみたいになっちゃったし、いいんだか悪いんだか、俺にも分からんけど、でもよおー、ピアノ弾く気になり難いぜって。体の感じが朝九時だもんなあー」

明日の天気をお伝え致します。

午前中の最低気温は、十七度。日中の最高気温は、二十七度。

午前中、やや曇り。午後は晴れ間が広がる模様です。

「だあーらよおー、夜も同じ天気なんだよな、ほとんどよ。今一、乗らないよなあー。月見酒とか月見草、どうすればいいのかしらねえー。ありゃ、そういやあー、お月様、どっか行っちゃったよ。三年ぐらい見てないよな。夜祭もなくなっちゃったし。おおー、人工太陽遮断衛星とか打ち上げちゃう？ 拙いよな、俺の一存だよ。あれ、電球みたいに消せねえーのかな？ 世論調査して、夜を返してえーって声が多けりゃ、消せば。あっ、駄目なの、あっそ。

おおー、夜付きの人工都市とか作っちゃうかねえー、おおー、ボンイデーじゃん。住みたい奴だけ住めばいいからねえー。三兆円ぐれえーででけんだろって。安いもんだべ。おっ、住人全員、ジャズメン？ そんなこたあーねえーだろって、なあ、マミ？」

なぜか、マミは答えない。

音と言葉、どっちが強いのかしら？

これに美術という視覚を入れると、聴覚と視覚と、言葉ってなんやねん？ あっ、脳覚かしらね。聴覚も視覚も、結局、脳覚に行くから、言葉が一番最短で強いのかしら？ たぶん、そうなんだろうけど、最も一般化した素材なわけで、絵を描くとかピアノ弾く人口よりは、圧倒的に多い。でも、言葉、物凄く曖昧なんだけれど、それぞれに意味、社会的なものも含めて、意味があるからねえー、迂闊には使えない素材でもある。そりゃー、色だ音にも意味は、出している方にはあるけれど、社会的なルールから、ちょこっと逸脱している。だから、言葉は怖いよなあー、ったく。だから、俺なんかは、ズージャ語にして誤魔化しちゃう、わけだね。通じない言葉に変えてしまうと、通じる人にしか通じないから、ちょっと、音に似てくる気もする。駄目だ。脳耄碌で、これ以上複雑に考え始めると、背骨神経痛が再発しそうだから止める。お若い才人にお任せ、ね。ドレミドレミって、ピアノで弾いても、普通は怒られんけど、お ま え は ば か だ、とか言うと、ぶん殴られる。お れ は ば か だ、こっちは、まあ、大丈夫だろう。人間、皆、馬鹿だから、いいのいいの。上下はないのだ。俺の方が馬鹿だ、なんて、俺はインテリだから、いやせんって！ 「勝負とは、勝ち負けではない」坂田明(大師匠)。

2013.11.12 Tue

黙々とシンセサイザー

冬の始まりにピアノを弾いていると、鬱になるから、こういう時は、シンセサイザーにさっさと変えてしまう。ローランドのステージピアノがあるから、もう、なんでもできる。一人オーケストラ。孤独である？ な、こたあーねえー。おもしろいどおー。ピアノとは、また、違う。音が伸びる伸びるうー——————し、ベースだドラムは、勝手にプログラムしてしまえば、オートマ。ピアノでは、でけん。でも、ピアノの技術があつてのオートマなのね、マニュアルから始めた方が、ベターではあるけど、別に、俺はヤダというやつがいても、全然全然である。

ピアノとシンセサイザー、似ている。同系列？

のように見えるけど、じえんじえんじえんじえんである。

ピアノは、技術が、まず、先に来る。

シンセはフィールが先に来る。

ピアノは共鳴するから、深い音が出せる。

シンセは、伸びる伸びるうー——————のロングトォー——————ン。

純文学と読物ってな感じだけれど、俺は、どちらも好きだ。

でね、同じ曲を両方でやると、おもしろいどおー——。

今、センチメンタルロボットシンセ版とマイルスデイビスシンセ新版ソーワット、ハービーハンコック、バタフライ。これを黙々と黙々している。

あっ、とっつあんになってから、ピアノを俺も、なんちゅう方には、もちろん、ピアノがいいんだけど、あのね、

まず、電子ピアノから始めないで下さい。本物の、できれば、できるだけいいピアノから。

いやあ——、僕は趣味で遊びだからキーボードでええやん。という方は、俺の使っているプロ用のステージピアノから始めて下さい。でだ、ピアノ店で、スタンウェイとかで、ちょうちょとか、ドレミの歌とか弾いてみて。ピアノ本来の音を、まず、耳と脳にインプットしてからやった方が、絶対にいいのである。

ざってえ——、ということであれば、最初からやらないか、ピアニカで十分。なのだ。

あれ？ 例によって分かり難いな。そう、始めるのであれば、いい楽器で始める。ということですよ。ヤマハの千二百万円ぐらいするピアノ(もちろん、買えないけど、俺は)。一音だけで、もう

、十分という音もあるのです。ちんけな楽器で始めると、脳音自体がちんけになるから、よした方がベターです。はい。

2013.11.14 Thu

仲間たち

毎日、俺の仲間のだれかが、パリのあちらこちらで公演をしている。

もちろん、俺および俺のグループの公演も含まれる。それで、ちょこまかとお出掛けないし、仕事場へとなる。なんだか、結構忙しいけど、いいこっちゃ、我々には。

うちのトリオのベースのヨラムからコンサート案内が来て、仰け反った。

パリのアラブ会館でのコンサート。このメジャーな場所だけでも仰け反るのに、じっと読んでいたら、ヨラムが推定三十人ぐらいのオーケストラなんだけれど、これの総監督。二度仰け反る。

佐藤真師匠もパリの売れっ子ドラマー。

いやあー、なんか俺は凄いメンバーでトリオを結成してしまったことになる。

むむっ、ということは、俺もそこそこ凄いのかしらねえー？

先日、パリ音大出身の連中のユニットを聴きにいった。

いやあー、さすがに皆上手い。謙虚でいいやつらだし、実に楽器の扱いが上手い。

俺の技術の比ではない。まあ、専門にやってきた連中だからねえー。

で、俺はセショボンとなったのかというと全然の全然。

俺との違いを諸々分析して帰ってきた。俺、ないし俺らなんだけれど、

良し悪しではなく、あとはお客様の好みなのでどっちがどうのというわけじゃないよ。純粹にどう違うのか、ということ。

俺らは、明らかに母体がジャズだ。エモーショナルなのである。

彼らは、明らかに母体がクラシック。理知的に構成されている。

俺らは、明らかに喧嘩空手みたいな感じだ。実戦系。

彼らは、基本形をキープ。お上品だ。やはり、相手との相互了解の下に、皆で構成する。

俺らは、明らかに爆発し、ぶっ倒れるぞおーと勇ましい。

彼らは、明らかに理知が先に来ている。

やっば、西洋のミュージシャンという感じが、物凄くした。クラシックの土台の上のインプロビゼーション。フランスだと、インプロビゼーションとよく一括りにされるんだけど、明らかに俺らは、フリージャズだ。別に、境界線を決める必要はないけれど、明らかに流派が違う。別に敵対しているわけじゃないよ。

俺、真師匠は日本人。ヨラムはモロッコ人。

ちょっと、フランスのミュージシャンとはルーツが違うんだらうね。

俺たち、日本の曲を演奏しないけれど、まあ、結果的に、日本的と言われる。

静かな雅楽に似ているのではなくて(こっちのミュージシャンの方が逆に影響を受けている)、べろべろになって馬鹿騒ぎして倒れるというこの乗りが、たぶん、そんな感じに聞こえると推測している。たががジャズだろがぁーと、言いながら、ムキになってやっているところが.....。

2013.11.15 Fri

ピアノと車

似ているところも多々ある。けれど、ピアノは、あんまり体感はできない。音感。軽自動車とリッターカー、ファミリーカー、高級車、スポーツカー、スーパーカー。もちろん、スペックが全然違う。で、ピアノも現在は工業製品、一部、手作り。ここは車と似ている。

車は体感できるから、それぞれの車が面白い。ちょっと、人間に似ている。小さな車は、それなりに面白いし、高級車は、確かに快適。じゃ、ピアノは？

それぞれのメーカーに特色がある。独断で書いてみよう。でも、問答無用で、メーカーごとに高級になるほどベター。ちょっと、車の楽しさとは違う。廉価版系は、プロには、ちとキツイ。音がちんけ過ぎて、脳が破壊されてしまう。一度、コンサート会場で、ちんけなキーボードが出てきて仰け反ったことがある。一万円ぐらいのおもちゃみたいなやつ。俺は怒ったわけではなく、持っていたトランペットを演奏したのである。フリージャズだから、なんとでもなるのじゃよ。

「ヤマハ」世界シェア一位。トヨタに良く似ている。そういう意味では。俺は、ずっと、ヤマハのピアノで音感教育を受けたから、音のルーツ。当然にして、一番、脳と耳が馴染む。アップライトのU1が一番好きである。実家にある半世紀前のアップライトと音が似ているからである。ヤマハの音は、明るい音。金属的という方もいるけれど、そうではないと思う。明るい音。因みに、私のホームであるジャズクラブ、バビロはヤマハU1。郷里のジャズクラブ、クイーンさんは、ヤマハのグランドG5。これは、素晴らしい音が出る。今まで、俺が弾いた中のベストのひとつである。

「カワイ」ヤマハの分家だけれど、音が少しジャジー。ちょっとだけ、暗い。ジャズ屋向きかも知れない。タッチとか機能の差はあまり感じないけど、音が、少しだけ、暗いかも。確か、パリ音大の練習用のピアノは、カワイだったな。弾かれ過ぎて、フェルトがよれよれのものばかりだった。

「プレイヤル」フランスの名門。現在は製造されていないはず。昔の赤茶色のグランドピアノが比較的、手に入る。ピアノ工房で弾かしてもらったことが何度かある。柔らかいけれど張りのある音。音自体が、とても綺麗である。クラシックの方々には、うるうるものだろうねえー。俺みたいな野蛮ピアニストには、ちと、もったいないかも？ お上品なのだ、すべてが。

「ガボー」「ボード」この二つのメーカーもプレイヤルと同系列。「ボード」はスタンウェイが

買収しているはず。ガボーのアップライト、概観が物凄く綺麗。調度品、工芸品という感じで素敵だ。

「スタンウェイ」もう、これはご存知の通りで、世界最高峰のピアノということになっている。意外と、鍵盤のタッチが軽くて弾き易い。音は、明るく張りのある音。音自体のバランスがとても良い。俺の動画のエリコーナさんでのライブは、このスタンウェイです。キース ジェレットは、これしか弾かない。素晴らしいのだけれど、お値段も素晴らし過ぎ。一千万円前後だよおー！

まあ、一生、買えません。

「ベーゼンドルファー」これは、ピアノのF1マシン。鍵盤が重い。音は重厚そのもの。確かフランツリストが使っていたはず。日本から駐在でいらした方のサロンに、黒いグランドピアノ。「裕さん、うち、男の子が三人いるでしょ、このピアノっていくらぐらいするものなの？」「なんて書いてあります？」「ベエーなんかかんとか」「りゃりゃりゃ、俺、見に行くから触らないで」と。で、行った。ベーゼンドルファーだった。うん、現在の中古価格で八百万円ぐらいですなーって返事をしたら奥さん仰け反り、引っ越してしまった。はははははあ。

「ベヒシュタイン」これも、ピアノの横綱。ロンドンの小さな教会の端に、ぽっとグランドピアノが置いてあって、そっと蓋を開けたら、これだった。泣きそうになった。とんとんと軽く叩いてお辞儀をして蓋を閉めた。

うわあー、まだまだ一杯あるなあー。

家の近所に、バーンシュタイン専門の修復工房があって、ヤマハの中古あると訪ねていったら、職人さん、「あんなものはピアノじゃない」ときっぱり言われた。俺は同意はしないけど、このきっぱり感は見事。友達の家で新型のペトロフがあって、弾かせてもらった。昔は音量が小さかったけれど新型は改善。音は、とても綺麗。ジャズ向きではないけど。あと、韓国のピアノメーカーが複数ある。基本的にはヤマハに似ているけれど、もう少し金属的な音がする。

あっ、車と似ている部分だと、製品としての完成度、強度は、日本製、韓国製が優秀だろう。

あれれ、なんか珍しくブログっぽいし、ピアニストっぽい記事だよなあー。たまにはいいよね？で、俺が仮に十分なお金があったらなにを買うか？ ずはり、ヤマハのGFXです。これは、もう、マシン、精巧な機械という感じで、見ているだけで涎が出てくる。音も、すんばらしい。でも、絶対に買えないから、やはり、アップライトのU1かな。今、俺んちにあるのは、イギリス製のヤマハのアップライト、中級グレードのサイレントピアノとローランドのプロ用のステージピアノRD700GXというやつ。でも、クラシックなさる方には、やっぱ、三大横綱および、プレイヤー、ガボー、ボード、ペトロフなんかの方が、音色がしっくりすると思う。

ジャズ屋は、味わいを出すテクニックが身に染みているから、むしろ、ピアノは無機的な方が、弾き易いのです。ちょっと、パラドックスだけど、本当にそうなのですね。スタンウェイはニュートラルだから、これも素晴らしい。

2013.11.16 Sat

ヒューマンネイチャー

日本語に訳すと、「人間性」。英語の方が綺麗だ。

このタイトルの曲は、ご存知の方も多はず。マイケルジャクソンのヒット曲。

後日、我々の大将であるマイルスデイビスが、トランペットでやった。

マイケルの原曲も、マイルスのペットも、素晴らしい。

ジャズのスタンダードと化した。

うん、俺も、この曲は大好きなので、俺流にアレンジしちゃいました。

聴いてクレヨン(町田康)。

2013.11.17 Sun

文体について

文体、私のようなミュージシャンには音体になるのかもしれない。

文章を書く、そのスタイル。変な話だけれど、内容以前の問題という気がしている。

分かり易く言うと、語り口というやつである。逆に言うと、内容以前に、その語り口によって、その内容が如何様にも変わるということ。たとえば、内容にあたる「空」「花」「地面」なんでもよい。どう語るのか、これによって、ブログ、エッセイ、文学、詩、もっと別なものへと変容して行くのである。

「自分の文体」。これは、簡単に言ってしまうと「皆、ある」ような感じがする。

けれど、正直、言ってしまうと、「これ」を持っている方は、稀なのである。

持っているような錯覚は、みんな、ある。でも、ない。カラオケなのだ。自分の歌ではない。

「自分の文体がない方」に、詩は書けない。

それは、無理である。それがあつた方は、逆に言うと、「なにを書いても詩的」なのである。

と、書いてみちゃったんだけんちょも、これは、俺の文体じゃーねえーな。現時点ではね。で、俺自身の文体ってあるのかしらと考えると、分からない。

これは、第三者が決めることなんだと思う。

ピアノの方は、俺の音体は、ある、はず、と、踏んではいるけど、やっぱ、わかんねえー。ないと、バイ、けど。りよあぁー、その前に人体というのがあつたよおー。ヒューマンネイチャー、ね。

2013.11.18 Mon

混合オーケストラ

昨日は、我々トリオのベース奏者、ヨラムロシリオのオーケストラの演奏を聴きに行ってきた。パリの一等地にあるアラブ世界研究所の大ホール。ほぼ、満席。六百人ぐらいいらしていたのかしら。客席は、ほとんどフランス人だった。

モロッコの伝統音楽家のおじさん、おじいちゃん、約十名。出入りしているので、何人なのか、勘定できず。これに、フランス人ジャズミュージシャン、約十名。総勢二十名。まあ、ヨラム、
まだ若いのに、二つの文化と二十名のミュージシャンの統括ということを見事にやっている。大したもんだ、本当。

フランス側は、見知ったメンバーも多かったので、今回は書かない。
モロッコ側。若いのは一名のみ。後は、初老の方々。なぜか、メンバーの半分ぐらい前歯がまばら。パーカッション、歌、踊りに、チャルメラみたいなラッパ。

この踊りのおじさんが、柄本明にそっくりで仰け反ったっ！
ビニールのスリッパと民族衣装の柄本明が、まったく力の入らない、ふわふわ踊りを舞台中央でやるのだけれど、そのふわふわ感の素晴らしいこと！ 無我の境地みたい。

ずっと同じリズム、同じ歌詞、ふわふわ踊りにチャルメララッパ。
見ていたら、フランス側も含めて、全員が段々トランス状態になっていく。
音楽のひとつの原型を見た。理屈抜きに素晴らしい。

日本国にも、同じような祭りがあったことを思い出したりしていた。

初めてのパリ公演だったらしいけど、今後のヨラムオーケストラの活躍、心よりお祈り致します。
見事でしたあ！

おい、ヨラム、忙しいとこ悪いな、来週は、こっちのトリオだけ、よろくしな。

営業マン

でね、三年前に、展望台サロンに展望バルコニーを作っちゃえと思い、見積もりを頼んだ。で、その見積もり、「まだ」だ。カミサンが、何度も催促して、諦めた。

で、天窗を交換しようと思い、見積もりを頼んだ。

二つの業者さん、見積もりは、まあ一、一週間後に来た。

それから、二ヵ月半、「まだ」、その見積もりはこない。カミサンが何度か催促したけど。

で、台所の天井のペンキ塗り。

通常の裕先生なら、「おれがあー、やる」となるけど、天井。

背骨神経痛の再発を考えると、ビビリ。で、業者さん。見積もり、この提示は十日後。

すぐに、サインして、オーケーと返送。

それから、一ヵ月半、音沙汰なし。日取りが決められない。

おいおいおいおいおい、私は、某日系企業の営業課長だった。

「お下見」、どんな事情があろうが、48H以内に、見積書。少し間を見て、お電話、メール。しつこくならないように、しつこく。TGV、飛行機の中だけは携帯が使えないから、寛ぎの一時。つまり、ピアノの譜面とかを見る唯一の時間。車の中、これは、電話には出ないといけないけど、安全第一だから、運転中は出ない。パーキングに止めて、掛け直す。TGV、パリからリヨンに行く車中、奥様から、「裕さん、ピアノ、転売したいんだけど、なんとかしてくれるうー、裕さんなら出来るでしょ。チュチュ(こんな感じ、ね)」。携帯で、ピアノ屋に電話。引き取りの段取りを付けて、十二分三十二秒後に、奥様へお電話。お客様のご質問を想定し、メールを受信後、二秒後に返信。

こういうことを、四半世紀、やっていた。

会社のため？

ほほほほほっ、私には、遊びだった。ジェームズボンドごっこをしていた。

急に、俺になるけど、好きなのですよおー、こういうハードライフ、ジャムセッションみたいでえー。でもね、俺は、部下には強要しなかったよ、本当に。だって、俺は、遊びでやってんだぜって。こんな課長に付き合っていたら、家庭崩壊だよって！

それにしても、おい、フランス人営業さん、「おっせえ—————」

。

2013.11.20 Wed

私が、現在、拝読しているブログは三つのみ。

自分のブログが、「読まれないよおー」「なんでえー、読まへんの」「なんして、読まねんだべか」、などと、書いているのに、この様である。あれ？ ということは、私の愚ブログを読んで下さる、しかも、ご本人がブログを書いているとなると、私は、算数上は、十七名の方に不義理をしていることになる。単純計算だと。「ばあーろー、こっちも、読めえー、ばあーか」という方もいらっしゃるかも知れない。その旨、お伝え下さいませ。拝読しますっ！ お辞儀です。

本来は、五つだったけど、更新がないので、結果、この様になった。

もちろん、むきになって更新する必要もないものだから、とやかくは、言えないけど、寂しい。でも、若い方々がブロ中。これは、よした方が絶対にいいと思う(急にオジサンというか、親父というか、父親だっ！)。もっと、別のベクトルがあると思う。ブログは、楽しみ。でも、どこかで、「何かへの助走」になっている。はずである。

私は、このブログのお陰で、十一年振りに小説を書いたし、今も、ショートショートを書いている(さっき、その二、「浮気センサー」の最終推敲をした。読ませないよおー。お茶の間ハードボイルド。でも、ほろっとするわけ。まあ、夫婦愛を逆表現したってな感じ)。五十半ばのおっちゃんの自己啓発には、大変にいいと思う。でも、ピアノで十二分に、それをしているのに、更にだから、やっぱ、疲れては来るけど、まあ、それはそれだ。だれも、書いてくれえーなんて言っていないよね。辟易度は高くなっているだろう。

むむむう？ 辟易度は、もしかすると、私のピアノの方が、遙か彼方の上空かしら？

仕方ないねえー、表現狂だもんねえー。

でも、不思議不思議、私は、あまり自己執着はしていないのである。

まあ、自分で人間実験をしているのである。

私、ワンノブゼム。大体、ゼム自体が、ワンノブコスモス。以上、ラジャー。

ピアノで地球は壊れないし、詩、書いても壊れないよ。

シニアマン再び

裕イサオ、当時、五十三歳は、突然、五十半ばにしてスーパーマンになってしまった。
いつものような、いつもの朝。いつものようにカフェオレとベンソンの煙草。そして、いつものように二階の風呂場へ。歯を磨き、顔を洗う。その後、鏡に向かってニツとする。

あれ？ あれあれあれあれあれえ？

芸能人のような白い歯。崩れ掛けていた顎の線が、妙にくっきり。

あっ、Tシャツの袖。いつもならガハガハの隙間だらけなのに、腕の太さがTシャツの袖の太さを上回っているらしく、ビシィー。あっ、胸筋が盛り上がっている。慌てて上半身裸になる。全体によたっと前屈み、透けたあばら骨、やや、だらしなく弛んでいる腹部等々の見慣れた姿がない。ないないないないない。盛り上がった胸の筋肉、ゴムタイヤのように、もこもこした腹筋。太い腕。よおーく見ると、首の太さが顔の幅と同じだ。

と、冴えないオヤジがいきなりこれだ。

試しにピアノを弾いてみたら、なぜか、ストラビンスキーの春の祭典をちゃらちゃらと弾いてしまった。おわあ—————
。

地道な練習が生甲斐だったのによおー、余計なことすんなあ—————、おいおいおいおいおい。空も飛べちゃう。今更よおー、余計なことを.....。

参ったねえー、このスーパーマン化、仲間にはれるとヤバイから、超絶テクをひた隠し。
なんとか、コンサートをこなす毎日。

遠くで悲鳴が聞こえると、あっというまに空を飛んで助けに行ってしまう。
もともと根が善良だから、どうにもならんのだ。これじゃ、余生の人生設計が変わってしまう。
ブログ、ショートショートを書いて、地道にピアノの進歩。なるおー、どうしてくれるうー！

と、諸々は「シニアマン1.2.3」を読んで頂戴ね。

とうとう、映画会社ナーナーブラザーズから、次期バットマン映画の仮面を付けている部分の代役依頼。出演料二億円っ！ ニーソピクチャーズからスパイダーマン。三億円。ジェームズキャラメル監督から、ターミネーター5の悪役、覆面ロボット役、十億円。と、素性がばれない役の依頼がぞくぞくのぞくぞく。考えたら特撮しなくていいから安上がりだし、本物だから、映像の迫

力が違うというか、自然というか.....。

と、一躍、ハリウッドの大スターになっちゃったっ！

うもお——、余計なことしてくれたよなあー、ったく。

金ばっか溜まっちまっても、楽しみがなくなっちまっただべって！

2013.11.22 Fri

夜のサンルイ島

日曜日に、ヨラムオーケストラをアラブ世界研究所へ聴きに行ったことは、記事に書いた。寒い日だった。火曜日辺りから、風邪。体調不良。水曜日にややダウン。滅多にないのだけれど、一週間前ぐらいから、朝1℃、日中4℃から7℃の間と、一挙に10℃ぐらい気温が下がったから、やはり、老体に響いた。いくつかのアポイントを、珍しくキャンセルさせてもらった。

風邪薬を飲んで、やや痛い胃を抱えながら、それでも、ピアノに這って行き練習した。しかも、胃が痛いのに、赤ワインを飲みながら。さすがに、いつものペースでは飲めなかった。なんか、頭が朦朧としているせいなのか、ピアノの奏法がいつもより透明な感じ。邪念がない分、すっきりした演奏をした。こういうこともある。練習後、ぼーとパソコンを付けて、ブロガー画面を開いたら、詩神様がどばあーと走ってきて、あっという間に、詩のようなものをお書きになられて去った。翌日、読み返したら、駄目だ、涙腺が緩んでくる。アップする？ 躊躇する。で、下書き保存として、これを書いている。

アラブ世界研究所は、ポンマリーという地下鉄の駅を出ると、サンルイ島を渡った対岸にある。この方向で歩いていくと、右側にライトアップされたノートルダム大聖堂の後姿が見える。久しぶりである。世界一高い大聖堂をしばしば訪れる私から見ると、意外に小さい感じがする。

と、その前に地下鉄からセーヌを渡った左側に、サンルイシアターがある。パリで最も古いシアターのひとつ。丁度二年前の今頃、マリーカズエさんの「東京バーバラ」というシャンソン公演のピアノ弾きとして、十回の定期公演をさせて頂いた所。こちらにも久しぶりに横を通る。

二年前、まだ、私は営業課長の激務に追われていたから、毎週末の定期公演、体の方はへろへろだった。一週間、フランス全土を車、TGV、飛行機で移動しまくった後の週末にピアノ弾いてんだから、まあ、当然。でも、本当に、別のジャンルとのクロスオーバーは、いい勉強になりました。ピアノ力は、確実にアップした。

ヨラムオーケストラを聴き終わり、今度は、ポンマリー駅まで、寒いよおー、寒いよおーと言いながら来た時とは逆方向。また、サンルイ島の夜景を見る。急におのぼりさん目線で、やっぱ、パリって綺麗じゃんなどと思っていた。夜景の中で深緑色に光るセーヌの水面を見ていたら、少しずつ、水面がせり上がって来ていることに気が付いた。川岸の通りが浸水し始めていた。私は、とても怖くなった。

2013.11.23 Sat

壊れた時計

この曲は、十五年前ぐらいに作ったもの。
そして、あの時以来、弾けなくなっていた。
私の処女出版「水の記憶」という自伝小説の腰帯の文章が、

「この小説は、壊れた時計なのだ。海の波間に浮かぶ壊れた時計なのだ」

この自伝小説を貫く、ひとつの調性は、「水」「洪水」「世界を飲み込み破壊してくれ」。
三十代半ばの私、つまり、旦那であり、二児の父親であり、家のローンを組み、日系企業の課長
をやり、小説を書き、ピアノを再開し、依頼があれば、美術の小品展をやっていた。睡眠時間、
三、四時間という時を過ごしていた。

芸術と日常に引き裂かれつつ、それでも、体力の続く限り、その狭間を最小限に食い止めようと
していた。それが「水のイメージ」に集約された。当時の私の中の詩的な叫びの結晶ではあった。
熱い過労。倒れるなら、それでもいいと、本当に思っていた。

しかし、現実の姿を、私は見てしまった。
私の脳髄に蠢く幻影ではない、水の破壊力を見てしまった。
それ以降、この曲を弾けなくなっていた。

壊れた時計が、もう一度、動き始める。

2013.11.24 Sun

ブログとユーチューブ前夜

ユーチューブに初めて自分の動画をアップしたのが、去年の六月末だったはず。
ブログを始めたのが、九月中旬。村人になったのは、十月末ぐらいだったかしら？

「ユーチューブ」、「ブログ」。単語としては知っていた。「インターネット」という単語と同じように。そして、それは、芸能人がやっているものと認識していた。まあ、コーダクミねえさんみたいな方が、新曲のプロモートのために動画、前は、ビデオクリップと言っていたやつをインターネットでやっていると思っていた。で、ブログも同じで、コーダクミねえさんみたいな方が、「みんなあー、来月の武道館、来てくれえーなあー」とか言うのを記事にしていると思っていた。

そして、半分は、当たっていたけれど、芸能人は、その微細な一角であることが判明した。無名のフリージャズピアニスト。無名、フリー、ジャズと三重苦芸能人の俺が参加できる代物ではなかったはずなのに、今では、裕イサオ氏はユーチューブオフィシャルパートナーであり、自身のチャンネルを持っている。なっ、なんと動画本数五十三本お——————ん！ お見事お見事、ぱちぱちぱちっ。で、総再生回数が五千回に近付いている。で、有名およびお金持ちになり、道を歩くとファンのオネーさま方、推定三百人ぐらいに追い掛けられる……。はずだったはずであるが、はずれた。たまあ——————に、地下鉄の中で、あっ、イサオさんっ、なんていう程度。これだったら、だれでもあるじゃん、ねえー。

うなことは、いいんだけど、まあ、三重苦芸能人の動画にしては、そんなに悪い数字ではないと仲間連から聞いた。で、うなことはいいんだけど、新しい職場、つまり、ジャズクラブとかとコンタクトする時に実にこれが便利なわけ。

「おい、あんちゃん、俺よおー、沖(至師匠)組でえー、若頭張ってる裕ちゅーもんやが、おめえーの縄張りだよおー、ちょいとなに、ちょちょいとヤノピをくんなましさせてくれんかい」

「なあ————にが若頭だっ、チャンジめ。どこの組の馬の骨か知らんけど、シーデーぐらい持ってこんかい、たわけえー」

「ふっふっふっふっふっ、なんめとんかいいー、ユーチューブ専用チャンネルもっとするわい。目ん玉洗って、はよ、見んかい、どアホ」

とかあー、後ね、メールに添付しちゃうから、これ楽チン。仕事も増えた。

あっ、ブログ。あ————、こっちは鳴かず飛ばずの月夜の提灯？

いいもお————ん、イサ中の方に、書いてるんだもん、僕。ふん。

2013.11.25 Mon

ユーチューブ動画投函マニア、つまり、俺のことを勝手に、こう名付けた。

ここ近々で、アホのように九本もアップした。で、デジカメのラインインの調子が悪くなり、購入店へ。フランスのことだから、「いったいつになったら修理が終了するのか」じえんじえん分からないのである。まあ、年内は無理だろうねえー。冬のバカンスだ、クリスマスだ、仕事どころではないはず。うなもん、後回しである。この徹底振りに感動さえ覚える。もし、再就職する時は、絶対に日系企業には行かないことにしている。または、小さな会社。社長と会計のおばさんだけとか。

むむむ、シンセサイザーで、世界ヒットを目視して作った曲が三曲あるのにアップできない。出世が遅れる。今年のビルボードチャートには間に合わない。嘘。曲、三曲は本当。

あっ、うなことはどうでもいいのであるが、財津暁平の舞踏公演を見に行ってきた。

十五年前に、随分と共演させてもらった二十歳の兄貴も、三十半ばの売れっ子舞踏家になった。素晴らしい。どんどん、俺のような三重苦(無名、フリー、ジャズ)芸能人を踏み台にして、パリに蠢くアーティストたちがメジャーに成って行って欲しい。こちとら、先がないから、ゴーイングマイウェイと嘯くのではなくて、選択肢がねえーのって！

会場。ベース。朗読担当。演奏が始まる。会場暗いまま。ギョウヘイの姿はない。

薄明かりの灯った正方形の中庭。ガラス越しに、全裸の上にチャップリンみたいな背広と黒ズボン。頭、顔つるつるの白塗り。寒波の中で裸足。引き攣り笑いをしながらぐねぐねと動いている男、ギョウヘイだ。巨大なガラス扉越しだから、恐怖映画みたい。俺は、たまたま、そのガラスが正面から一番良く見える席にいた。ヨラムオーケストラの時も、最前列のヨラムの真正面だったから、なんかテレパシーかしらね。ベースの音が聞こえないはずなのに、なぜか、ベースの演奏と体の動きが呼応している。神業である。あとで聞いたら、ほんの少しだけ聞こえていたと言っていたけど。ベースのフレッド。パリ音大の先生だけあって流石である。ウッドベース一本で、もう、ほとんどギョウヘイ映画の音楽を一時間半演奏した。もちろん、即興で。朗読のアルフレッド、フラワーポット、花鉢というへんてこな名前のロックグループのボーカル。グループ？ 実は、メンバーひとり。高校の数学の先生。彼が、モンテスキューの短編小説を懐中電灯でページを照らしながら読んだ。無表情で。三十分ぐらいしたら、ギョウヘイがガラス扉から会場内へぐねぐねと入ってきた。中央に寝そべりぐねぐね。上半身裸。少しずつ朗読者の股間の方へ。アルフレッドの股間に頭を突っ込み、いつの間にか全裸。立ち上がる。全裸のままぐねぐね。懐中電灯で自分の顔を下から照らしながらぐねぐね。朗読、演奏が止む。ギョウヘイだけ、懐中電灯二本で自分の顔を下から照らしながら、全裸で直立。オーシャンゼリゼを歌う。

と、文章にするとキチガイである。

もう、見事の一言。

しかし、ギョウヘイの体の凄いこと。

俺みたいに痩せてはいる。

で、俺は、単に痩せていて、よぼよぼ体である。

ギョウヘイの体は、骨と皮の間が「筋肉のみ」。生きた人体標本。

そりゃー、何十分も床の上で、「く」の字で踊るんだから、並みの筋肉では無理だ。

仕事とは言え、この筋力。やっぱ、プロは半端じゃねえーなってしみじみ思ったよ。

俺が、あやつに対抗できるのは、肘から指先までの部分のみ。自慢じゃねえーけど。

2013.11.26 Tue

これは、俺のロックグループの名前っていうのは、もちろん、嘘。

カミサンが、昨日、腰が痛いって言ってたから、「ぎょほほほほおー、年だねえー、おまえも」などと言っていたら、バチが当たった。今度は、俺。痛いのである。垂直移動しかできなくなっている。カミサン、「ぎょほほほほほおー————、お、じ、い、ちゃん」。

まっ、ぎょほほほほほおーのとほほほほおー。

でね、何日か前に、詩神様が通り過ぎましたブログを書いて、うな、もう、いいべえー、愚ブログも、と考えを新たに、タイトルもテンプレートも、うな、お引越しもしてしまい、心機一転と思ったけど、結局、めどうになった。中身が変われば、それで十分だろ？ と、嘯く。外見から中身も結構変わる。でも、チャンジーだから、めどう。やはり、この辺は、チャンジーだよな。あんま、新しいことを受け付けない。もう、ピアノで十二分にトライしているから、ブログは許して下さいね。自然体、自然体っていうことに、しちまおう。

でも、ブロガーから雨場村へ、おすっこすをしようとしたら、これが、でけんのだ。

fc2はオーケーだったけど。いろいろと探りを入れてみたけれど、やっぱ、駄目。で、諦めた。

ブログの総タイトルとプロフィール写真、サムネイルは三回ぐらい変えたけれど、それだけである。右側のプロフィール写真が、実物よりずっと強面という仲間連の意見もある。でも、愚ブログを書いているやつの顔写真が愚鈍に目鼻では、相乗効果で、本物のアホと思われる危険性もあるので、実際そうであっても、写真だけは、ちと、強面にしておくことにした。どうでもいいような気もするけれど.....。テンプレートも、字が大きくて読み易くと、当然にして高齢ラインで統一してある。なんか、パソコン画面に出てくる単なる原稿用紙のようにも見えるけど、あんま、お洒落してもねえー。内容がねえー、これだもんねえー。

腰が痛いよおー。

コッシー君でした。はい。バァバァ————イ。

爪切り

さっき、爪を切っていたら、初めて気が付いた。

フランスの高名な美容院の名前の入ったそれなんだけれど、「プロ用」って書いてあった。プロの爪切り士というのがいるんだろう。行き付けのスーパーで買って来た。燻し銀の色と焦げ茶色のデザインが素敵だからという訳ではなくて、切れそうだったから。

でも、やすりが付いてない。でも、やすりは、三十二年前に日本から持ってきた、はずだ、の、足の爪切りの大きめやすり、こっちを使うからいらん。

ほほほほほお、俺にとっては指および爪。商売道具なのである。

おかまじゃなくて、ピアノ弾く感触が、これによって随分違う訳。

指は、当然にして左右合わせて10本がベストである。だから、俺は、やくざもんにはなれん。とりわけ、親指、小指、中指がないと、ブロックコードができなくなる。

で、指はある。そんなに長くはなくて、1オクターブ+1音までだから、やや、背の高い日本女性と同じぐらいである。で、手が小さければ、マラソンと一緒に、歩数で稼ぐ。ということ。

あっ、主旨が違う。爪、爪。

これが伸びていると、右手、時速800キロで弾く時に、うざい。

鍵盤の端に当たったりすると、痛い痛いのである。

以上、フリージャズの基本でした。

だから、爪は坊主刈り状態じゃないと、弾けない訳でした。

でも、深爪、これも痛いーののである。

手先と爪のバランス。自己顕示欲。謙虚。だって、仲間の音を聴いている。炸裂。もう、どうでもいいもおーん感覚。お客様と生きている時間を、うるうる、共有している。熱い思いと、ニヤロー思い。リズムリズム沈む盛り上がりバクテンする心と愛と、ニヤローと一緒にくたのもつ鍋。

これが、不倫ジャズ。裕先生、字が違うよっ。あっ、フリージャズ。

似たようなもんだべって、どっちもよおー。

2013.11.28 Thu

癒しのジャズ

やいしのズージャって、書きそうになる。

で、俺たちはフリージャズメンだけど、時々、こういう演奏もする。

時々だからこそ、たまには、時々、ドキドキするだろうっ！

すでに、この日の演奏は全編、動画としてアップされているけれど、

聴き返したら、この部分だけ癒しジャズになっているので抜粋しました。

この演奏の前に、二十分ぐらいぎんぎらぎんの演奏をしたので、俺のソロから入ったわけ。

右側のヨラムと真師匠が退屈しているわけではなくて、俺に花を持たせつつ、入るタイミングを探りつつ、ちょっと休憩しているのである。なんとなく五十年代後半のピアノトリオっぽい感じになっている。うん。

2013.11.28 Thu

賞もないやつ

今、ショートショートその三の執筆を始めた。

とはいえ、十五年前に書いた、私にしては珍しい、ちょっと不思議なエロティシズムが漂う作品を原稿用紙五枚にまとめただけであるけれど。とりいそぎ、五枚に集約し、再度、手を入れるのである。

そのプリントされた原稿を見ていたら、これも某掌編コンクールに応募していた。

すっかり忘れていた。著名な文学賞への応募、十回のはず。それから、掌編コンクールにも、同じぐらい応募していたのだろう。仮に、総回数二十回と推定すると、私は一度も入選さえしていない。見事である。もちろん、私のような方々は、相当数いらっしゃると思う。

受賞とか入選とか、なんぼのもんじゃいなどと負け惜しみを言いたいのではなくて、やはり、大体の物事は十年ぐらいでプロの域に、普通は行くことを考えれば、この結果は、やはり、才がないと理解するべきだと思う。審査員の見目がどうのこうのなんて思わない。だって、やはり、受賞作は、みな、流石であるから。と、客観的に考えてみる。ちと、寂しいといえれば寂しいけど。

で、以前にも一度書いたけれど、たとえば、私が、なんらかのジャズピアノのコンテストに出たとする。もう、絶対に受賞とかはありえない。我流とか邪道とか、でたらめとかとの評が飛び交うはずである。でも、一部の熱狂的マニアに支持される。この構図が、はっきりと目に浮かぶ。

どうも、私自身のトーナリティーが、こういうマニアック系にしか行かないようである。

なんか、これはこれで、天性のアンダーグラウンドだと思えば、ひとつの才能ではあるかもしれない。でも、こんだけ日の目を見ないと、吸血鬼になっちゃうよおー。審査員の方々に噛み付いちゃったりして.....。

2013.11.30 Sat

久しぶりのポンピドゥーセンター

なんだか、仲間の公演。私自身のコンサートと立て込んでいて、ブログタイムは、かなり圧迫されて来ている。けど、根性系の私は、這ってでも更新。巨人の星世代なのである。もともと無内容だから、更新だけはできる。「あっ」、とか一言書けばいいのであるからねえー。

マキワタナベの舞踏公演を見に行った。ポンピドゥーセンターの近くだったから、「最近の現代美術」を見てみようとなった。

「現代美術」の前に「最近の」と付けると、なんだか変。

今、売れっ子の三人の美術家の大規模な作品を見た。

三人とも、才能に満ち溢れている。けど、正直なところ、何十年も前に美術と決別した「私」というアーティストを超えていない。これは、残念。率直に、そう思った。通し券を買ったので、最上階の「シュールリアリズムとオブジェ展」、こちらも拝見。

一言で言ってしまうと、そのコンセプト、暴力、熱さ、歴史を変えたパワー、それは微塵もなく、

美術館という「歴史の中に堆積した遺物」であった。つまり、ゴミと一緒になのである。歴史、体制、美術館と、危険思想の外に埋葬されたゴミなのだ。こんなものを、私は崇拜しないし観賞もしない。ただ、それを作ったアーティストたち、彼らは愛おしいし崇拜している。

残ったものなんぞ、彼らの本来の意図ではないのである。

そして、現在を生きるマキワタナベとアイルランドのピアニスト、トレボー・ナイトの公演。これは、本当に素晴らしかった。

音楽はライブ演奏以外に意味がないと、私は思っている。

演奏者が消滅する時に、その音も消えるのである。

音楽の博物館なんぞ、いらん。

追伸

歴史的な役目を終えた作品観賞。

これは、その「役目」を理解して見る以外にはない。

むしろ、これからの歴史を作っていく若い連中の作品を見るべきである。

美術観賞とは、次の世代を、自分の目で発見すること。

遺物を拝むことではないことは、理解していていいと思う。

2013.11.30 Sat